市民意識調査　結果報告書

令和７年３月

稲　　城　　市

はじめに

稲城市では、現在、第五次長期総合計画に基づき、２０３０年代を見据え「緑につつまれた友愛に満ちた市民のまち稲城　～みんなでつくる笑顔と未来～」と定めた将来像の実現に向けて、福祉、教育、環境、都市基盤整理など、様々な分野の施策に取り組んでおります。

また、日頃より、市政運営においては、市政への提案をはじめ、タウンミーティング、各種団体や小中学生との意見交換会、各地区自治会総会への出席などを通して、市民の皆さんからいただいたご意見やご要望をお聞きし、施策に反映しているところです。

この市民意識調査は、こうした市民の皆さんの声をお伺いする取り組みの一つとしておおむね５年ごとに実施し、まちづくりに対するニーズや満足度、その経年変化を把握することを目的としています。

本報告書は、今回の調査結果をとりまとめたものであり、新しい長期総合計画策定や今後の市政運営の基礎資料として活用させていただきます。

市民の皆さんの行政に対する理解や関心を深めていただくため、ここに報告書として公表いたします。

結びに、今回の調査実施にあたりまして、ご回答のご協力いただきました市民の皆さんに心からお礼を申し上げます。

令和７年３月

稲城市長　髙橋　勝浩

目　次

❖第１章　調査の概要❖

１　調査の目的 1
２　調査の方法 1
３　回収結果 1
４　調査の内容 1
５　調査項目 2
６　報告書の見方 3
７　他調査との比較について 3
８　本調査の標本誤差 4

❖第２章　調査結果の概要❖

Ⅰ　回答者の属性 5
Ⅱ　調査結果の概要 8

❖第３章　調査結果❖

１　稲城市の暮らしやすさについて 13
問１　稲城市の住みやすさ 13
問２　今後の居住意向 15
問 2-1　住み続けたい理由 17
問 2-2　転出したい理由 21
問３　保健・医療・福祉の満足度 23
問４　教育・文化の満足度 26
問５　商工業・観光・農林業の満足度 29
問６　都市基盤・生活環境・防災防犯の満足度 32
問７　市政運営の満足度 37
２　稲城市のまちづくりの方向について 40
問８　市の将来像のイメージ 40
問９　進めるべきまちづくり 44
３　今後の施策等について 48
問 10　健康・医療・福祉について力を入れるべき施策 48
問 11　心身ともに健康であるかの評価 52
問 12　高齢者福祉について力を入れるべき施策やサービス 55
問 13　障害者に暮らしやすいまちであるかの評価 59
問 14　成年後見制度の認知度 62

問 15　福祉くらしの総合窓口の認知度 64
問 16　子育て支援について力を入れるべき施策やサービス 66
問 17　学校教育について力を入れるべき施策 70
問 18　生涯学習について力を入れるべき施策やサービス 74
問 19　週に１回以上の運動（スポーツ）の実施について 78
問 19-1　運動（スポーツ）を行っていない理由 80
問 20　商工業・観光・農業について力を入れるべき施策 84
問 21　都市基盤について力を入れるべき施策 88
問 22　生活環境について力を入れるべき施策 92
問 23　防災や防犯について力を入れるべき施策 96
問 24　近所づきあいの程度 100
問 25　地域の団体や組織への参加意向 102
問 26　行政施策への関心度 104
問 27　市民と行政との協働によるまちづくり 107
問 28　市の行政情報を伝える広報メディアの利用状況 110
問 29　「広報いなぎ」の精読度 113
問 29-1　「広報いなぎ」の関心のある記事 115
問 29-2　「広報いなぎ」の紙面に期待すること 118
問 29-3　「広報いなぎ」を見ない理由 121
問 30　市の公式ホームページの閲覧状況 123
問 30-1　市の公式ホームページをみる媒体 125
問 31　行政活動への参加方法 127
問 31-1　参加したくない・できない理由 131
問 32　市役所の手続きに期待すること 134
問 33　行政のデジタル活用への期待度 138
４　自由意見 140

❖資料編❖

調査票 143

❖第１章　調査の概要❖

１　調査の目的

この調査は、市民の生活形態の現状、施策に対する満足度等を把握し、今後の市政の基礎資料とするため、「男女共同参画に関する実態調査」とともに実施しました。

２　調査の方法

・調査地域：稲城市全域
・調査対象：市内在住の 16 歳以上の男女
・対象者数：2,000 人
・抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
・調査方法：郵送法（郵送配布・郵送またはインターネット回答サイトでの回収）
・調査期間：令和６年７月 16 日～８月６日

３　回収結果

		票数	回収率
配布数		2,000	－
回収数		664	33.2%
	うち郵送での回収	455	22.8%
	うちインターネットでの回収	209	10.5%
有効回収数		658	32.9%

【参考】過去実施調査での回収状況

実施年度	配布数	有効回収数	有効回収率
令和元年度	2,000	934	46.7%
平成 26 年度	2,000	736	36.8%

※令和元年度は男女共同参画に関する実態調査を行わず、本調査を単独で実施。

４　調査の内容

（１）基本属性（Ｆ１～Ｆ8-1）
（２）稲城市の暮らしやすさについて（問１～問７）
（３）稲城市のまちづくりの方向について（問８～問９）
（４）今後の施策等について（問 10～問 33）

５　調査項目

テーマ	設問番号	設問内容
基本属性	F1	性別
	F2	年齢
	F3	居住地区
	F4	市内在住年数
	F5	世帯構成
	F6	高齢者、子ども、障害者との同居状況
	F7	子どもの年齢
	F8	職業
	F8-1	職場の場所
稲城市の暮らしやすさについて	1	稲城市の住みやすさ
	2	今後の居住意向
	2-1	住み続けたい理由
	2-2	転出したい理由
	3	保健・医療・福祉の満足度
	4	教育・文化の満足度
	5	商工業・観光・農林業の満足度
	6	都市基盤・生活環境・防災防犯の満足度
	7	市政運営の満足度
稲城市のまちづくりの方向について	8	市の将来像のイメージ
	9	進めるべきまちづくり
今後の施策等について	10	健康・医療・福祉について力を入れるべき施策
	11	心身ともに健康であるかの評価
	12	高齢者福祉について力を入れるべき施策やサービス
	13	障害者に暮らしやすいまちであるかの評価
	14	成年後見制度の認知度
	15	福祉くらしの総合窓口の認知度
	16	子育て支援について力を入れるべき施策やサービス
	17	学校教育について力を入れるべき施策
	18	生涯学習について力を入れるべき施策やサービス
	19	週に１回以上の運動（スポーツ）の実施について
	19-1	運動（スポーツ）を行っていない理由
	20	商工業・観光・農業について力を入れるべき施策
	21	都市基盤について力を入れるべき施策
	22	生活環境について力を入れるべき施策
	23	防災や防犯について力を入れるべき施策
	24	近所づきあいの程度
	25	地域の団体や組織への参加意向
	26	行政施策への関心度
	27	市民と行政との協働によるまちづくり

テーマ	設問番号	設問内容
今後の施策等について	28	市の行政情報を伝える広報メディアの利用状況
	29	「広報いなぎ」の精読度
	29-1	「広報いなぎ」の関心のある記事
	29-2	「広報いなぎ」の紙面に期待すること
	29-3	「広報いなぎ」を見ない理由
	30	市の公式ホームページの閲覧状況
	30-1	市の公式ホームページをみる媒体
	31	行政活動への参加方法
	31-1	参加したくない・できない理由
	32	市役所の手続きに期待すること
	33	行政のデジタル活用への期待度
	―	自由意見

６　報告書の見方

・調査結果の数値は、原則として回答率（%）で表記しています。
・表では、対象者の人数は実数、回答は割合（%）（小数第一位まで）として表記しており、各項目で第１位及び第２位の回答には下記の要領で網掛けをつけています。表中に「－」と表示してあるのは、回答者がいなかった場合です。

　　属性内での１位：（例）99.1　　属性内での２位：（例）85.2

・回答率（%）は、小数第二位を四捨五入により端数処理しています。そのため、単数回答の設問で属性ごとの回答比率をすべて合算した場合に 100.0%とならず、99.9%や 100.1%などとなることがあります。
・回答率（%）は、その設問の回答者数を基数として算出しています。そのため、複数回答の場合、選択肢ごとの割合を合計すると 100.0%を超えることがあります。
・各設問において、性別や年代など基本属性に「無回答」があるため、全体の数値と各項目の数値の合計が一致しないことがあります。
・アンケート調査票の選択肢の文章が長い場合、図・表の中では要約して短く表現している場合があります。
・回答者数が極端に少ないものについては、分析対象から外している場合があります。ただし、その場合でも調査結果には参考値として掲載しています。

７　他調査との比較について

この報告書では、本文中で以下の調査結果との比較を行っています。

- 稲城市「市民意識調査」【前回調査】（令和元年度実施）

８　本調査の標本誤差

今回の無作為抽出法による場合、調査結果の数値（%）をそのまま全調査対象者の回答として単純に置き換えると、多少の誤差が生じます。

統計学的には、以下の数式によって標本誤差率を計算して、全調査対象者の回答を推測します。

〈標本誤差算出式〉

標本誤差率＝ $\pm 2 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$

N＝母集団数
n＝回収数
p＝回答の比率

N＝母集団数（令和６年６月１日時点の住民基本台帳人口（16 歳以上）：80,158 人）
n＝有効回収数（658 人）
p＝回答の比率

この調査の標本誤差は、下表のとおりです。

基数（n）	回答の比率（p）				
	10%または90%	20%または80%	30%または70%	40%または60%	50%
658 人	±2.3%	±3.1%	±3.6%	±3.8%	±3.9%
500 人	±2.7%	±3.6%	±4.1%	±4.4%	±4.5%
100 人	±6.0%	±8.0%	±9.2%	±9.8%	±10.0%

※表の見方の例

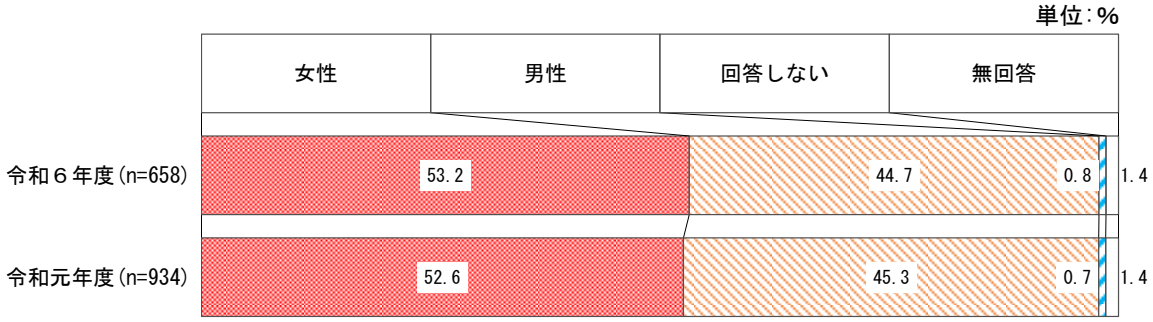
問１「あなたは稲城市を住みやすいところだと思いますか」の設問に、「１（住みやすい）」と回答した人が全体（n＝658）の 40%であったとします。

この場合、標本誤差は±3.8%であるため、稲城市民で「住みやすい」と考えている人の割合が 36.2%～43.8%の間にあることが、95%の信頼度で言えることになります。

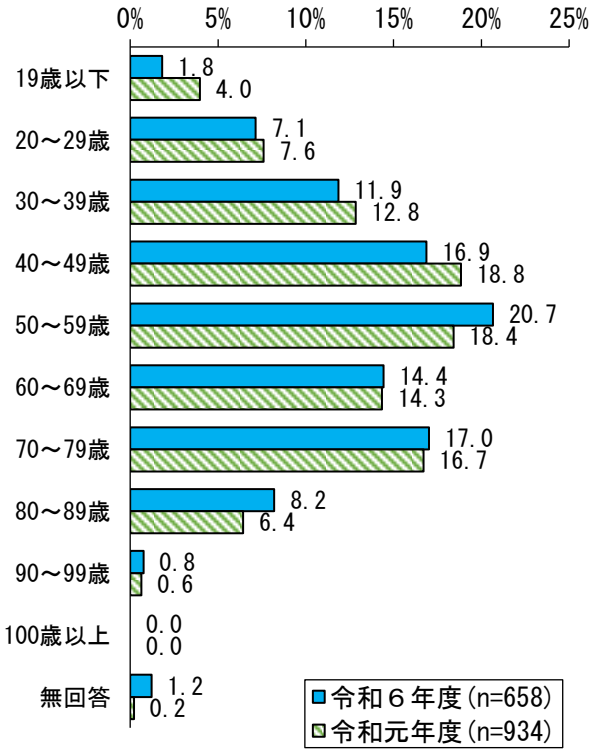
❖第２章　調査結果の概要❖

Ⅰ　回答者の属性

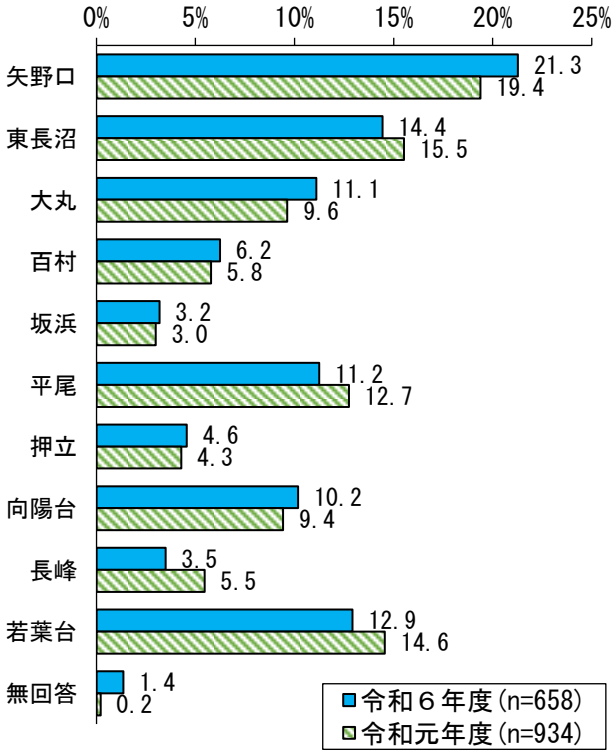
（１）性別



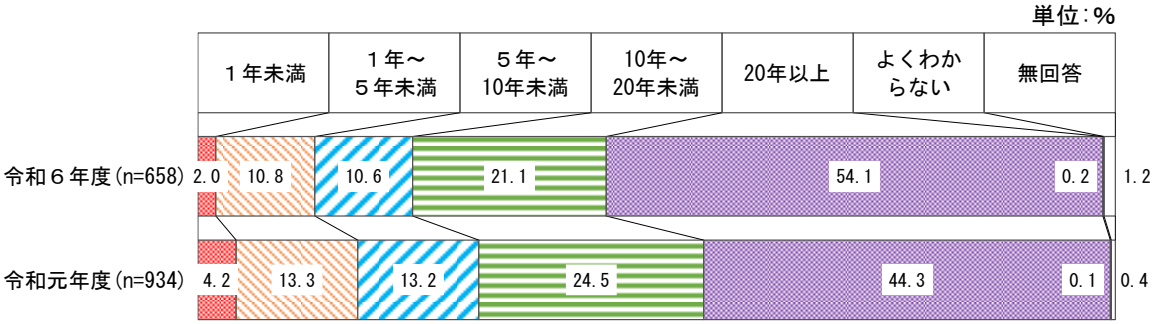
（２）年齢



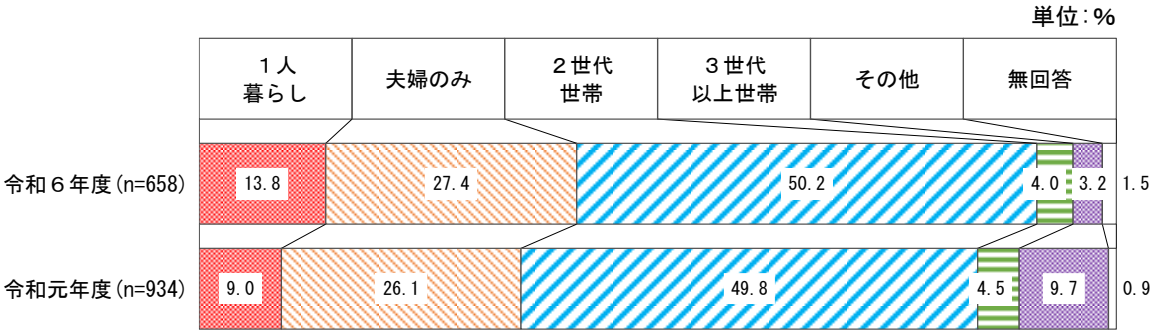
（３）居住地区



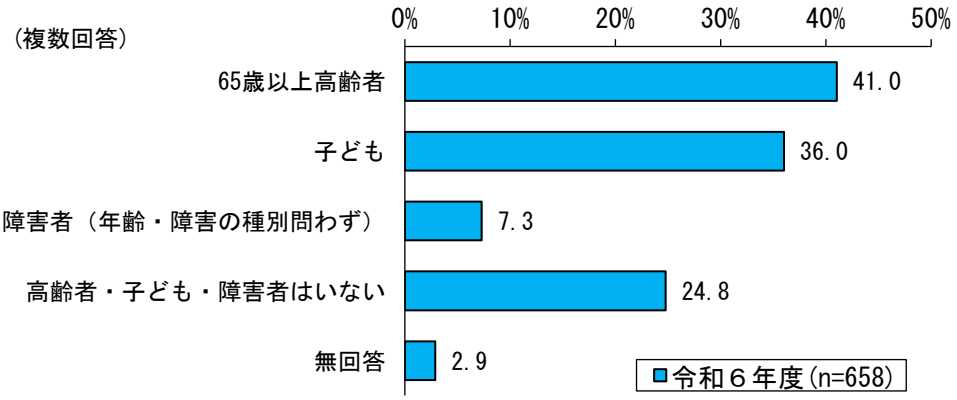
（４）市内在住年数



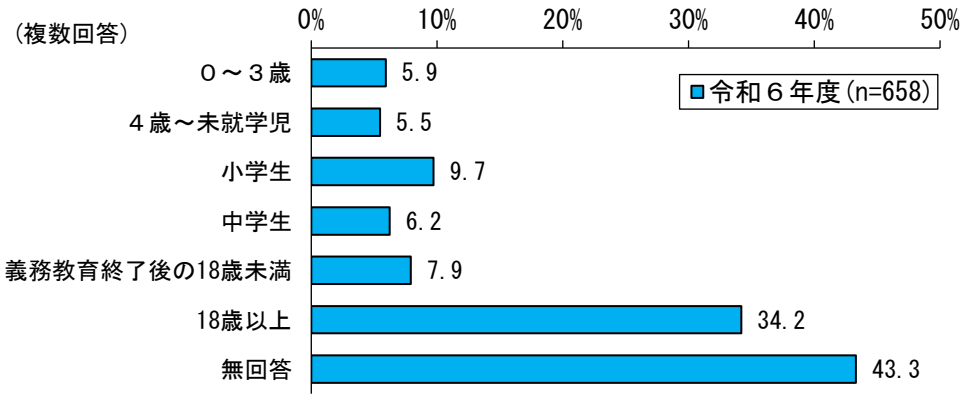
（５）世帯構成



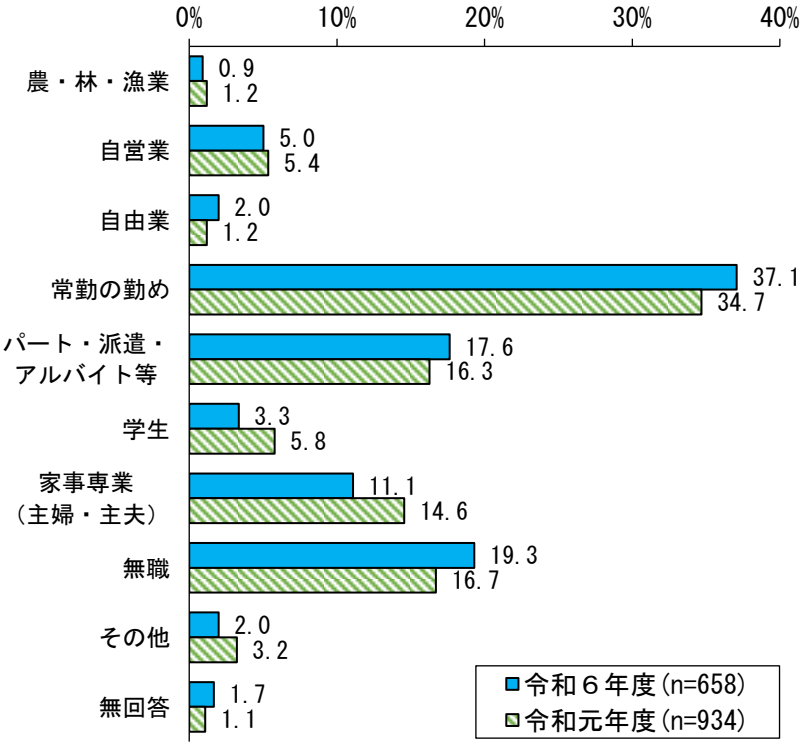
（６）高齢者、子ども、障害者との同居状況



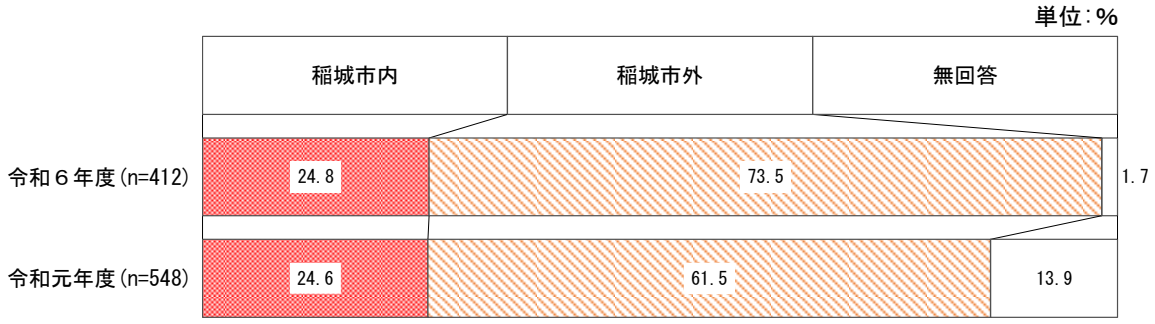
（７）子どもの年齢



（８）職業


0%
10%
20%
30%
40%
農・林・漁業
0.9
1.2
自営業
5.0
5.4
自由業
2.0
1.2
常勤の勤め
37.1
34.7
パート・派遣・
アルバイト等
17.6
16.3
学生
3.3
5.8
家事専業
（主婦・主夫）
11.1
14.6
無職
19.3
16.7
その他
2.0
3.2
無回答
1.7
1.1
令和６年度(n=658)
令和元年度(n=934)

(8-1) 職場の場所


単位：%
稲城市内
稲城市外
無回答
令和６年度(n=412)
24.8
73.5
1.7
令和元年度(n=548)
24.6
61.5
13.9

Ⅱ　調査結果の概要

１　稲城市の暮らしやすさについて

○稲城市の住みやすさについては、「住みやすい」が 44.5%、「どちらかといえば住みやすい」が 49.1%であり、住みやすさを感じている回答者が９割強と大多数を占めています**【問１】**。

○今後の居住意向については、「ずっと住み続けたい」が 40.0%、「当分は住み続けたい」が 46.8%であり、居住意向を持つ回答者が９割弱と大多数を占めています**【問２】**。その理由として、「自然環境が良い（緑や用水・農地など）」(77.1%)、「道路やまちなみなど生活環境が整っている」(40.1%)、「買い物など生活が便利」(37.5%)、「通勤や通学が便利」(34.2%)などが挙げられており、転出したい理由としては「まちに魅力やにぎわいがない」(56.3%)、「買い物など生活が不便」(50.0%)、「通勤や通学が不便」(31.3%)、「道路やまちなみなど生活環境が整っていない」(21.9%) などが挙げられています**【問 2-1、2-2】**。

○保健・医療・福祉の満足度については、満足しているという回答が不満という回答を上回っており、特に、《母子保健サービス》《成人保健サービス》《医療サービス》では、その差が大きくなっています**【問３】**。

○教育・文化の満足度については、満足しているという回答が不満という回答を上回っています。特に、《生涯学習事業》《芸術文化事業》では、その差が大きくなっています**【問４】**。

○商工業・観光・農林業の満足度については、《日常の買い物の便利さ》を除く各項目で不満という回答が満足しているという回答を上回っています。特に、《駅周辺や地域の商店などにぎわいや活気》では、その差が大きくなっています**【問５】**。

○都市基盤・生活環境・防災防犯の満足度については、満足しているという回答が不満という回答を上回っています。特に、《自然の豊かさ》《ごみの収集状況》《ごみの減量・リサイクルの推進などの取り組み》では、その差が大きくなっています。《駅周辺の利便性・快適性》《鉄道・バスの運行本数などの利便性》では、満足しているという回答と不満という回答が拮抗しています**【問６】**。

○市政運営の満足度については、満足しているという回答が不満という回答を上回っています。特に、《行政情報の提供》では、その差が大きくなっています**【問７】**。

２　稲城市のまちづくりの方向について

○市の将来像のイメージとして、「水と緑の豊かな田園都市」（61.1%）、「道路や公園など生活環境が充実した都市」（53.5%）、「健康・福祉に力を入れた都市」（45.1%）、「教育・文化に力を入れた都市」（30.7%）が多く挙げられています【問８】。

○今後進めるべきまちづくりとして、「安全でだれもが安心して快適に暮らせるまち」（76.4%）、「だれもが地域で健やかに暮らせるまち」（57.6%）、「水と緑につつまれ活力あふれる賑わいのまち」（56.7%）、「育ち・学びを通じてだれもが輝けるまち」（31.2%）が多く挙げられています【問９】。

３　今後の施策等について

○健康・医療・福祉について力を入れるべき施策として、「救急医療も含めた医療サービスの充実」（55.2%）、「介護など高齢者福祉の充実」（54.6%）、「健康づくりや疾病予防など保健活動の充実」（46.4%）、「子育て支援など児童福祉の充実」（42.7%）が多く挙げられています【問 10】。

○心身ともに健康だと思う回答者が８割強、健康だとは思わない回答者が２割弱です【問 11】。

○高齢者福祉について力を入れるべき施策やサービスとして、「介護保険で受けられる在宅サービスの充実」（59.6%）、「介護する家族への支援活動の充実」（45.9%）、「生きがいづくりや社会参加活動の充実」（32.8%）、「介護施設や認知症グループホーム等の充実」（28.6%）が多く挙げられています【問 12】。

○本市が障害者にとって暮らしやすいまちであるかの評価については、暮らしやすいと思わないという回答者が過半数であり、暮らしやすいと思う回答者は４割台半ばにとどまります【問 13】。

○成年後見制度の内容を知っている回答者が５割弱、内容を知らない回答者が５割強です【問 14】。福祉くらしの総合窓口については、内容を知っている回答者が２割強、内容を知らない回答者が８割弱となっています【問 15】。

○子育て支援について力を入れるべき施策やサービスとして、「子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化」（45.1%）、「子どもを遊ばせる場所や機会の提供」（38.9%）、「子育ての悩みや児童虐待防止のための相談窓口の充実」「学童保育や子育てサークルなど地域における子育て支援策の充実」（それぞれ 37.2%）が多く挙げられています【問 16】。

○学校教育について力を入れるべき施策として、「いじめ、不登校対策の充実」（46.4%）、「子どもの学力向上」（33.4%）、「国際理解教育の充実」（27.4%）、「学校施設、設備の充実」（25.4%）が多く挙げられています【問 17】。

○生涯学習について力を入れるべき施策やサービスとして、「図書館事業の充実」（32.2%）、「文化・体育施設での利用機会（日数、時間など）の充実」（26.6%）、「文化・スポーツ事業の情報提供の充実」（21.4%）、「i プラザ事業の充実」（21.1%）が多く挙げられています【問 18】。

○週に１回以上運動（スポーツ）をしている回答者が６割弱、していない回答者が４割強です【問 19】。運動（スポーツ）をしていない理由としては、「運動する時間がない」（50.2%）が多く挙げられています【問 19-1】。

○商工業・観光・農業について力を入れるべき施策として、「企業誘致や商店街の活性化など商業の振興」（57.4%）、「農地の保全や活用など農業の振興」（36.5%）、「雇用の安定と就業の確保など勤労者施策の推進」（29.2%）が多く挙げられています【問 20】。

○都市基盤について力を入れるべき施策として、「バスなど公共交通の整備」（44.8%）、「きれいなまちなみの整備」（38.3%）、「狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備」（36.2%）、「身近な公園や緑地の整備」（28.7%）が多く挙げられています【問 21】。

○生活環境について力を入れるべき施策として、「環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進」（46.8%）、「不法投棄やポイ捨て防止など環境美化の充実」（44.7%）、「ごみの減量やリサイクルの推進」（33.0%）が多く挙げられています【問 22】。

○防災や防犯について力を入れるべき施策として、「大規模地震対策など防災の強化」（59.6%）、「地域の防犯体制の強化」（42.2%）、「風水害対策の警戒避難体制の整備」（35.0%）が多く挙げられています【問 23】。

○近所づきあいをしている回答者が４割強、近所づきあいが少ない回答者が６割弱です【問 24】。地域の団体や組織に参加意向がある回答者は５割弱、参加意向がない回答者は５割強となっています【問 25】。

○市の行政施策に関心がある回答者が７割弱、関心がない回答者がほぼ３割です【問 26】。市民と行政との協働（パートナーシップ）によりまちづくりを進めることについては、「市民も行政に意見を言うだけではなく、まちづくりを進める主体として自覚を持つ関係が望ましい」（44.1%）、「行政に任せる部分と市民参加で進める部分とを分けて対応することが望ましい」（39.7%）が多くなっています【問 27】。

○市の行政情報を伝える広報メディアとして、「広報いなぎ」（86.2%）、「市公式ウェブサイト（ホームページ）」（29.9%）が利用されています【問 28】。広報いなぎについては、「よく読んでいる」が 31.8%、「必要なところだけ読む」が 26.4%、「ざっと目を通す」が 29.9%となっており、「ほとんど読まない」は 6.8%、「読んだことがない」は 4.4%です【問 29】。広報いなぎで関心がある記事としては、「イベントなどのお知らせ」（59.8%）、「健康・医療」（47.0%）、「まちづくり」（25.8%）、「子育て・教育」（22.9%）が多く挙げられています【問 29-1】。

○広報いなぎの紙面に期待することとして、「市や行政機関からのお知らせの充実」（35.5%）、「地域の行事などを紹介する記事の充実」（21.4%）が挙げられていますが、「現在のままでよい」（24.0%）という意見もあります【問 29-2】。広報いなぎを見ない理由としては、「興味がない」（51.4%）、「自分以外の家族が見ている」「必要な情報は市のホームページなどで調べる」（それぞれ 20.3%）が多く挙げられています【問 29-3】。

○市の公式ホームページを見たことがある回答者が６割台半ば、見たことがない回答者が３割強です【問 30】。公式ホームページを見る際の主な媒体は、「スマートフォン」（60.1%）、「パソコン」（35.8%）が多くなっています【問 30-1】。

○行政活動への参加について、「インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提案を行うことにより参加」（23.3%）、「NPO（民間非営利団体）やボランティアなどの幅広い活動によって参加」（13.1%）といった回答がみられますが、「参加したくない・できない」が６割弱を占めています【問 31】。その理由として、「時間がない」（55.1%）、「興味がない」（25.8%）が多く挙げられています【問 31-1】。

○市役所の手続きに期待することとして、「市役所に行かなくてもオンラインで手続きができるようにしてほしい」（60.8%）、「複数の窓口に行かなくても一つの窓口で手続きできるようにしてほしい」（46.7%）が多く挙げられています【問 32】。

○行政のデジタル活用について、期待を抱いている回答者が７割弱、期待を抱いていない回答者が３割強となっています【問 33】。

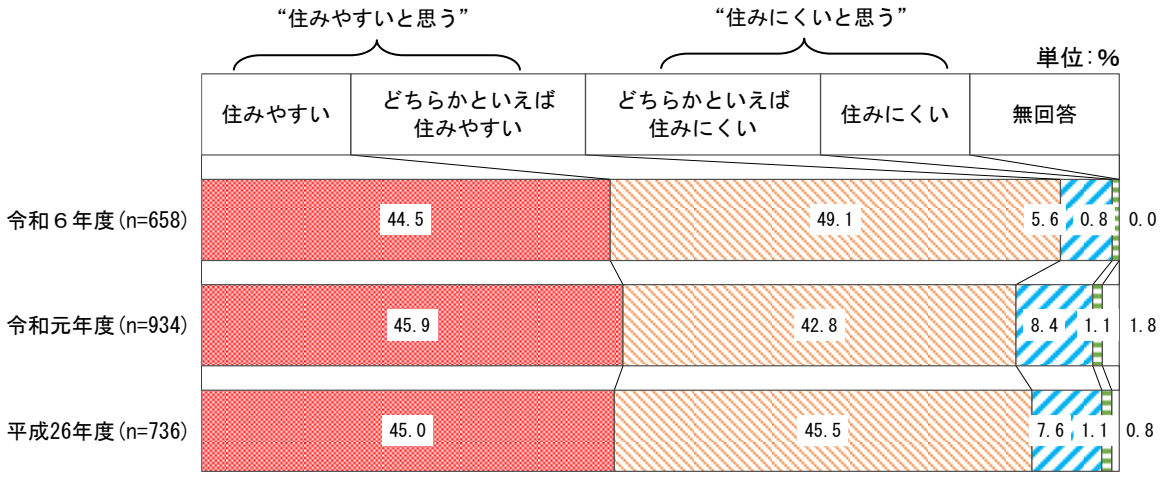
❖第３章　調査結果❖

１　稲城市の暮らしやすさについて

問1　稲城市の住みやすさ

あなたは稲城市を住みやすいところだと思いますか。（○は１つ）

図表１　稲城市の住みやすさ【全体、経年比較】



○全体の傾向

「住みやすい」が 44.5%、「どちらかといえば住みやすい」が 49.1%となっており、両者を合わせた“住みやすいと思う”が 93.6%と大多数を占めています。

「どちらかといえば住みにくい」は 5.6%、「住みにくい」は 0.8%となっています。

○経年比較

令和元年度調査では“住みやすいと思う”が 88.7%となっています。令和元年度調査から今回調査にかけて、「どちらかと言えば住みやすい」が６ポイント増加しています。

○男女別の傾向

男女とも“住みやすいと思う”が９割強を占めています。女性の「住みやすい」は 41.4%であり、男性の割合を５ポイント下回っています。

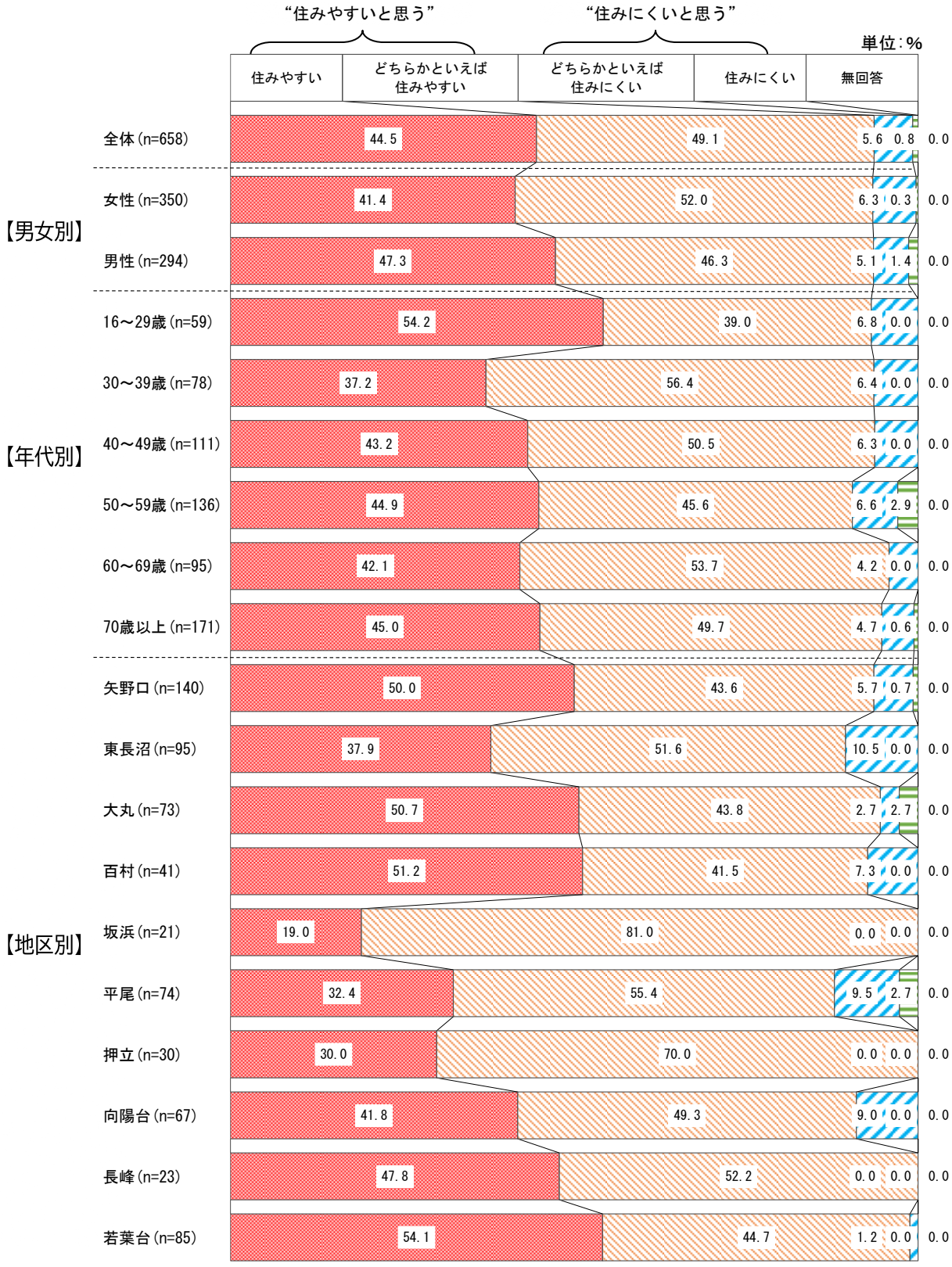
○年代別の傾向

各年代とも“住みやすいと思う”が９割台となっています。29 歳以下では「住みやすい」が 54.2%であり、他の年代を９ポイント以上上回っています。

○地区別の傾向

東長沼と平尾を除く各地区で“住みやすいと思う”が９割以上となっており、特に坂浜、押立、長峰では100％となっています。矢野口、大丸、百村、若葉台では「住みやすい」が５割から５割強となっています。

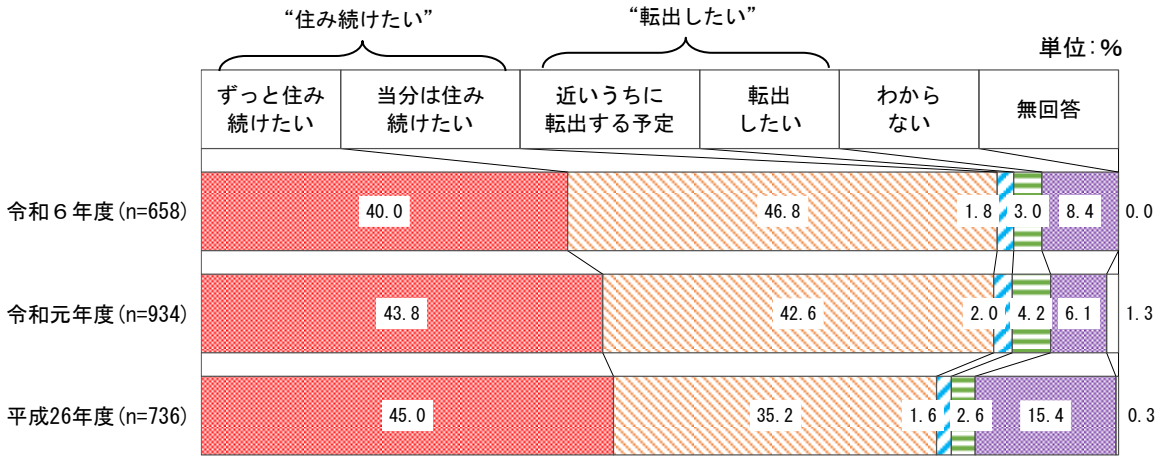
図表２　稲城市の住みやすさ【全体、男女別、年代別、地区別】



問2　今後の居住意向

あなたは稲城市に住み続けたいと思いますか。（○は１つ）

図表３　今後の居住意向【全体、経年比較】



○全体の傾向

「ずっと住み続けたい」が 40.0%、「当分は住み続けたい」が 46.8%となっており、両者を合わせた“住み続けたい”は 86.8%です。

「近いうちに転出する予定」は 1.8%、「転出したい」は 3.0%となっています。

○経年比較

令和元年度調査では“住み続けたい”が 86.4%となっており、令和元年度調査結果と比較して傾向に大きな違いはありません。

○男女別の傾向

男女とも“住み続けたい”が８割台となっています。

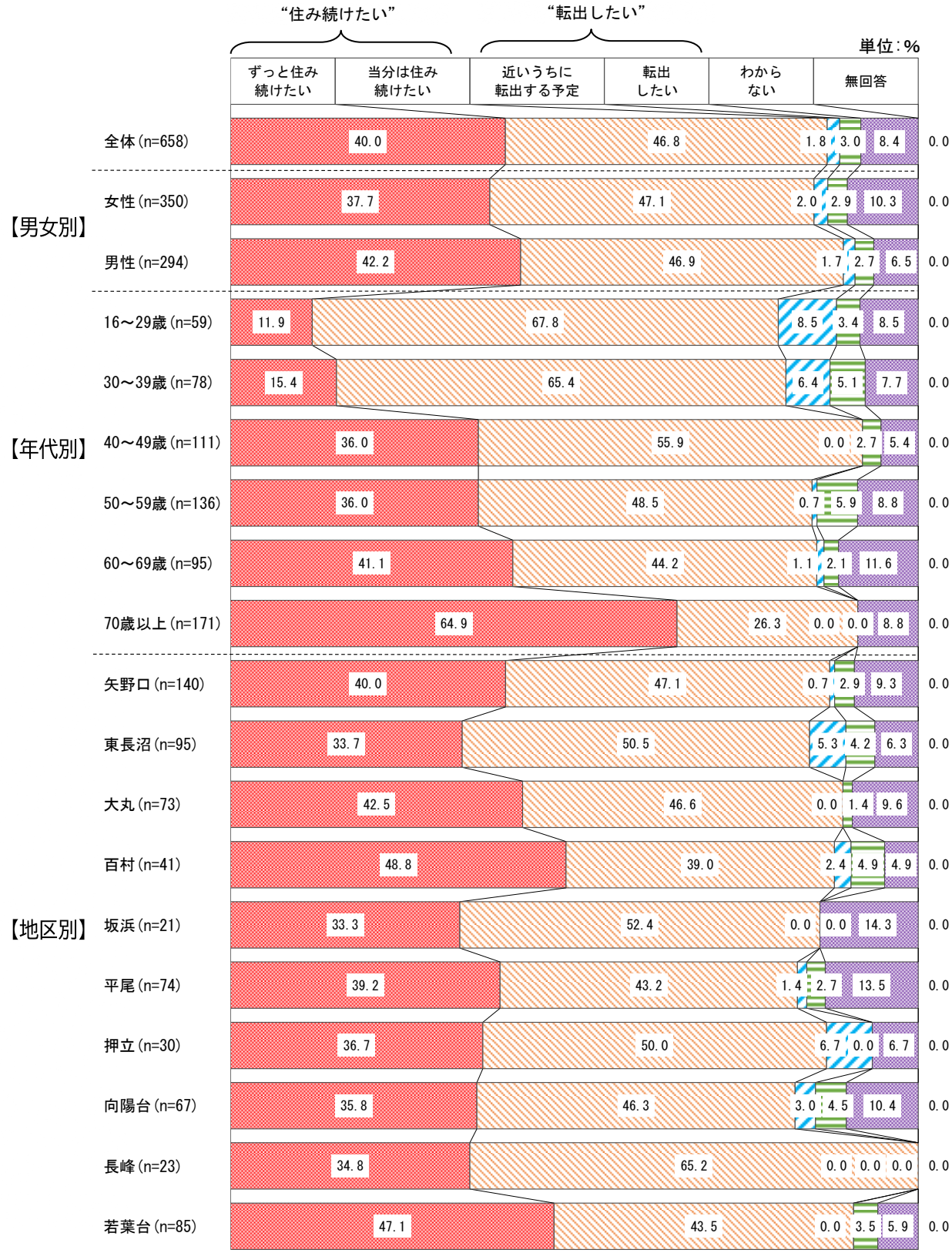
○年代別の傾向

40 歳代と 70 歳以上では“住み続けたい”が９割強となっています。「ずっと住み続けたい」の割合は年代とともに増加しており、70 歳以上では 64.9%となっています。

○地区別の傾向

各地区とも“住み続けたい”が８割以上となっており、特に長峰では 100%となっています。

図表４　今後の居住意向【全体、男女別、年代別、地区別】

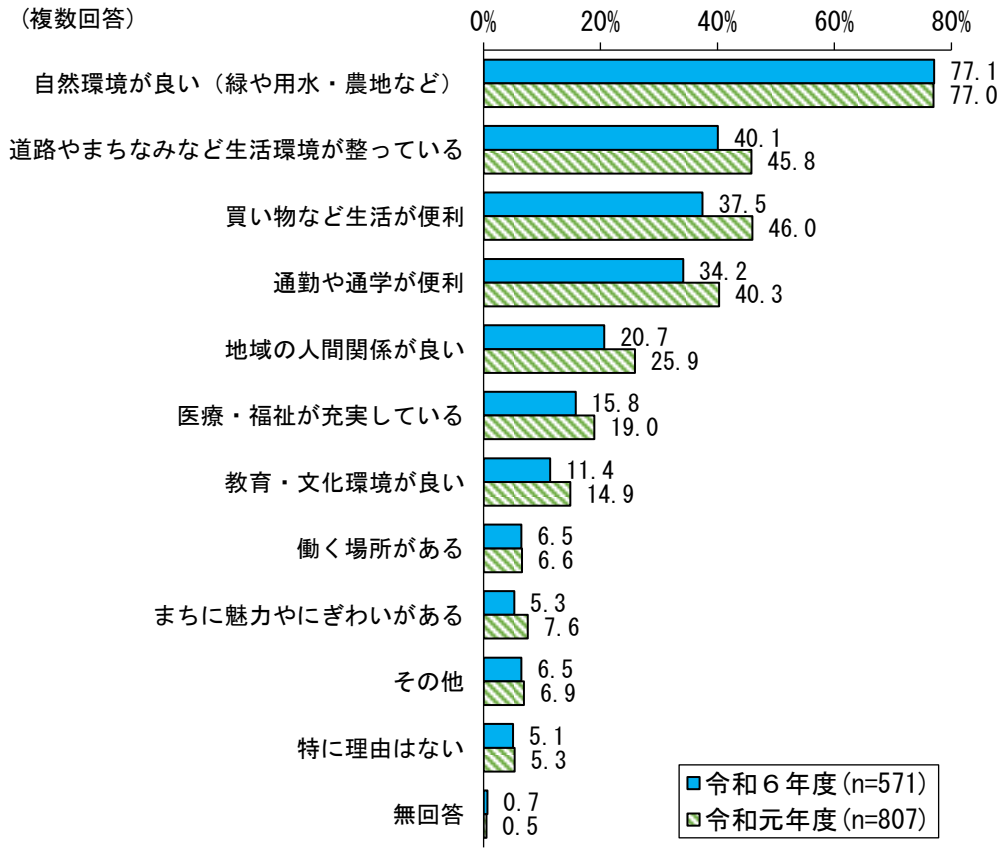


問 2-1　住み続けたい理由

問２で「ずっと住み続けたい」「当分は住み続けたい」を選択した回答者に対する設問

住み続けたい理由について、当てはまるものをすべて選んでください。**（○はいくつでも）**

図表５　住み続けたい理由【全体、経年比較】



○全体の傾向

本市に住み続けたいと回答した人に対して、その理由をうかがったところ、「自然環境が良い（緑や用水・農地など）」が 77.1％で最も多く、「道路やまちなみなど生活環境が整っている」（40.1％）、「買い物など生活が便利」（37.5％）、「通勤や通学が便利」（34.2％）が続きます。

○経年比較

上位４項目については、今回調査・令和元年度調査とも同様の組み合わせとなっています。令和元年度調査から今回調査にかけて、「買い物など生活が便利」が８ポイント、「通勤や通学が便利」が６ポイント減少しているほか、「道路やまちなみなど生活環境が整っている」「地域の人間関係が良い」がそれぞれ５ポイント減少しています。

図表 6　住み続けたい理由【全体、男女別】

	自然環境が良い（緑や用水・農地など）	道路やまちなみなど生活環境が整っている	通勤や通学に便利	働く場所がある	教育・文化環境が良い	買い物など生活が便利	医療・福祉が充実している	地域の人間関係が良い	まちに魅力やにぎわいがある	その他	特に理由はない	無回答
全体（n=571）	77.1	40.1	34.2	6.5	11.4	37.5	15.8	20.7	5.3	6.5	5.1	0.7
女性（n=297）	76.4	37.0	32.3	9.1	9.4	32.0	12.5	22.9	2.4	6.1	5.7	1.0
男性（n=262）	77.9	43.1	36.3	3.8	14.1	43.9	19.1	18.7	8.8	6.9	3.8	0.4

○男女別の傾向

男女とも「自然環境が良い（緑や用水・農地など)」が最も多く、女性は「道路やまちなみなど生活環境が整っている」が、男性は「買い物など生活が便利」が続きます。男性の「買い物など生活が便利」は 43.9%であり、女性を 11 ポイント上回っています。

図表 7　住み続けたい理由【全体、年代別】

	自然環境が良い（緑や用水・農地など）	道路やまちなみなど生活環境が整っている	通勤や通学に便利	働く場所がある	教育・文化環境が良い	買い物など生活が便利	医療・福祉が充実している	地域の人間関係が良い	まちに魅力やにぎわいがある	その他	特に理由はない	無回答
全　　体（n=571）	77.1	40.1	34.2	6.5	11.4	37.5	15.8	20.7	5.3	6.5	5.1	0.7
16～29 歳（n=47）	63.8	46.8	38.3	4.3	12.8	31.9	8.5	17.0	6.4	10.6	8.5	－
30～39 歳（n=63）	76.2	41.3	36.5	6.3	6.3	19.0	4.8	19.0	7.9	11.1	1.6	－
40～49 歳（n=102）	82.4	43.1	38.2	3.9	21.6	37.3	6.9	19.6	2.0	3.9	3.9	－
50～59 歳（n=115）	83.5	39.1	41.7	12.2	11.3	40.0	19.1	17.4	6.1	5.2	3.5	－
60～69 歳（n=81）	72.8	42.0	39.5	8.6	8.6	40.7	12.3	19.8	6.2	8.6	6.2	1.2
70 歳以上（n=156）	75.6	34.6	21.2	3.8	8.3	43.6	26.3	26.3	5.1	5.1	6.4	1.9

○年代別の傾向

各年代とも「自然環境が良い（緑や用水・農地など)」が最も多く、50 歳代と 70 歳以上を除く各年代は「道路やまちなみなど生活環境が整っている」が、50 歳代は「通勤や通学に便利」が、70 歳以上は「買い物など生活が便利」が続きます。このほか、40 歳代では「教育・文化環境が良い」が 21.6%であり、他の年代を８ポイント以上上回っています。

図表８　住み続けたい理由【全体、地区別】

	自然環境が良い（緑や用水・農地など）	道路やまちなみなど生活環境が整っている	通勤や通学に便利	働く場所がある	教育・文化環境が良い	買い物など生活が便利	医療・福祉が充実している	地域の人間関係が良い	まちに魅力やにぎわいがある	その他	特に理由はない	無回答
全　体（n=571）	77.1	40.1	34.2	6.5	11.4	37.5	15.8	20.7	5.3	6.5	5.1	0.7
矢野口（n=122）	66.4	31.1	44.3	7.4	9.8	46.7	12.3	22.1	4.1	7.4	4.1	0.8
東長沼（n=80）	80.0	30.0	31.3	6.3	12.5	26.3	12.5	18.8	1.3	7.5	7.5	－
大　丸（n=65）	69.2	27.7	44.6	4.6	6.2	27.7	13.8	16.9	4.6	7.7	7.7	－
百　村（n=36）	72.2	36.1	38.9	11.1	11.1	27.8	19.4	30.6	8.3	8.3	5.6	2.8
坂　浜（n=18）	72.2	33.3	5.6	11.1	5.6	27.8	38.9	33.3	11.1	－	16.7	－
平　尾（n=61）	77.0	24.6	39.3	8.2	6.6	27.9	18.0	21.3	3.3	9.8	6.6	－
押　立（n=26）	88.5	38.5	42.3	－	7.7	38.5	11.5	46.2	－	11.5	3.8	－
向陽台（n=55）	89.1	54.5	23.6	9.1	20.0	21.8	14.5	12.7	3.6	5.5	－	3.6
長　峰（n=23）	95.7	65.2	4.3	4.3	4.3	34.8	8.7	13.0	4.3	4.3	－	－
若葉台（n=77）	84.4	71.4	27.3	3.9	20.8	68.8	19.5	15.6	14.3	1.3	2.6	－

○地区別の傾向

各地区とも「自然環境が良い（緑や用水・農地など）」が最も多く、東長沼・大丸・百村・平尾では「通勤や通学に便利」が、向陽台・長峰・若葉台では「道路やまちなみなど生活環境が整っている」が、矢野口では「買い物など生活が便利」が、押立では「地域の人間関係が良い」が続きます。このほか、若葉台では「買い物など生活が便利」が 68.8%であり、他の地区を 22 ポイント以上上回っています。

【選択肢「その他」の自由記載内容】

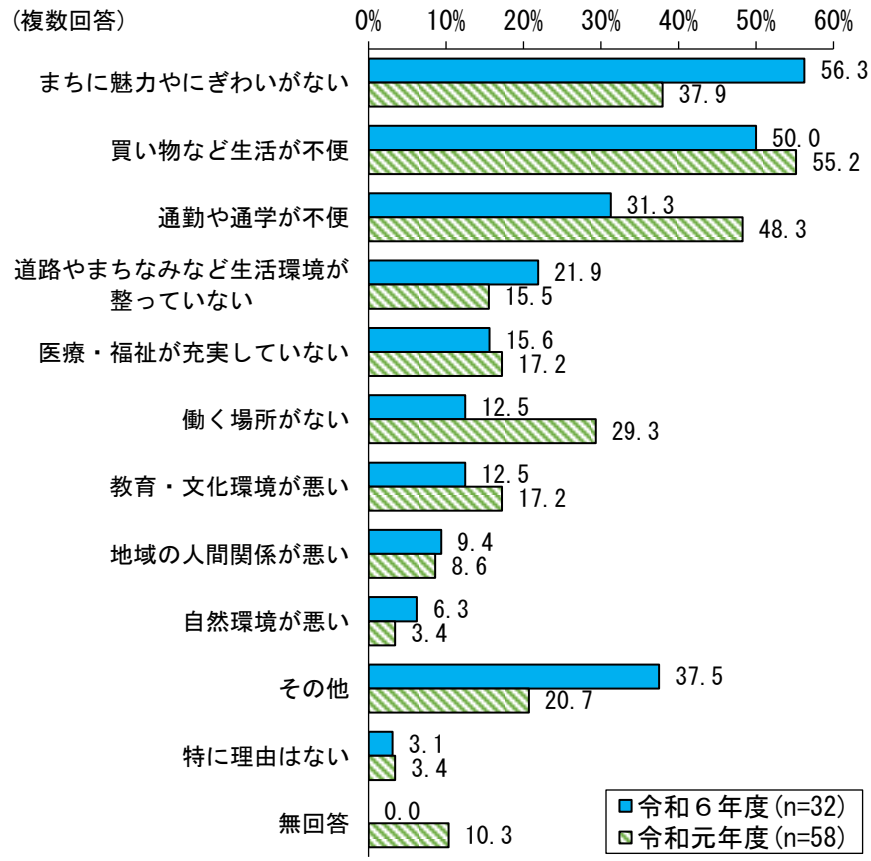
- 程よく人が少ない。治安が良い。（女性・30 歳代）
- 生活圏にパチンコ屋、風俗店がない。（女性・30 歳代）
- ガヤガヤしてない（女性・29 歳以下）
- のんびりとして穏やか、治安がいい。（女性・50 歳代）
- 治安が良い。（女性・29 歳以下）　※ほか２件
- 通勤や通学が便利の割に物価が安い。（女性・30 歳代）
- 平尾住宅の家賃が安いから（40 歳代）
- 行政との活動が心地よい。（男性・70 歳以上）
- 生まれた時から住んでいるから。（女性・50 歳代）
- 長い間住んでいるので。（女性・70 歳以上）　※ほか１件
- 特に長年住んでて困ってない。（男性・29 歳以下）
- 家を建てたから。（女性・50 歳代）
- 戸建てを購入したので（男性・60 歳代）
- 自己所有地がある。（男性・70 歳以上）
- 親族が居住している。（女性・70 歳以上）
- 親の介護。（男性・50 歳代）
- 引越しが面倒。ペットが居るので環境を変えたく無い。（女性・60 歳代）
- 地域猫の世話をしたいので。（女性・60 歳代）
- 新百合ヶ丘駅に近く、交通の便が良い。（男性・40 歳代）
- 都心へのアクセスが良い。（男性・70 歳以上）
- 稲城自体の魅力は薄いものの、府中や川崎などに行きやすい（男性・30 歳代）
- 静か。（女性・70 歳以上）
- 昭和レトロみたい。（女性・60 歳代）
- 今まで災害がない。（男性・60 歳代）
- 立地的に災害に強そう（男性・40 歳代）
- 自分の区域は道路が平坦で行動しやすい（男性・60 歳代）
- 図書館の蔵書数や利便性が優れている（男性・29 歳以下）
- 年齢が若い（男性・70 歳以上）
- 稲城という品種の梨が美味しい（男性・40 歳代）
- 車に乗らないので買い物が不便。バスも少ない。（女性・50 歳代）

問 2-2　転出したい理由

問２で「近いうちに転出する予定」「転出したい」を選択した回答者に対する設問

転出したい理由について、当てはまるものをすべて選んでください。**（○はいくつでも）**

図表 9　転出したい理由【全体、経年比較】



○全体の傾向

本市から転出したいと回答した人に対して、その理由をうかがったところ、「まちに魅力やにぎわいがない」が 56.3%で最も多く、「買い物など生活が不便」（50.0%）、「通勤や通学が不便」（31.3%）、「道路やまちなみなど生活環境が整っていない」（21.9%）が続きます。

○経年比較

令和元年度調査では「買い物など生活が不便」（55.2%）が最も多くなっていましたが、今回調査では２番目に多い回答となっています。令和元年度調査から今回調査にかけて、「まちに魅力やにぎわいがない」が 18 ポイント増加しているのに対し、「通勤や通学が不便」「働く場所がない」が 16 ポイント以上減少しています。

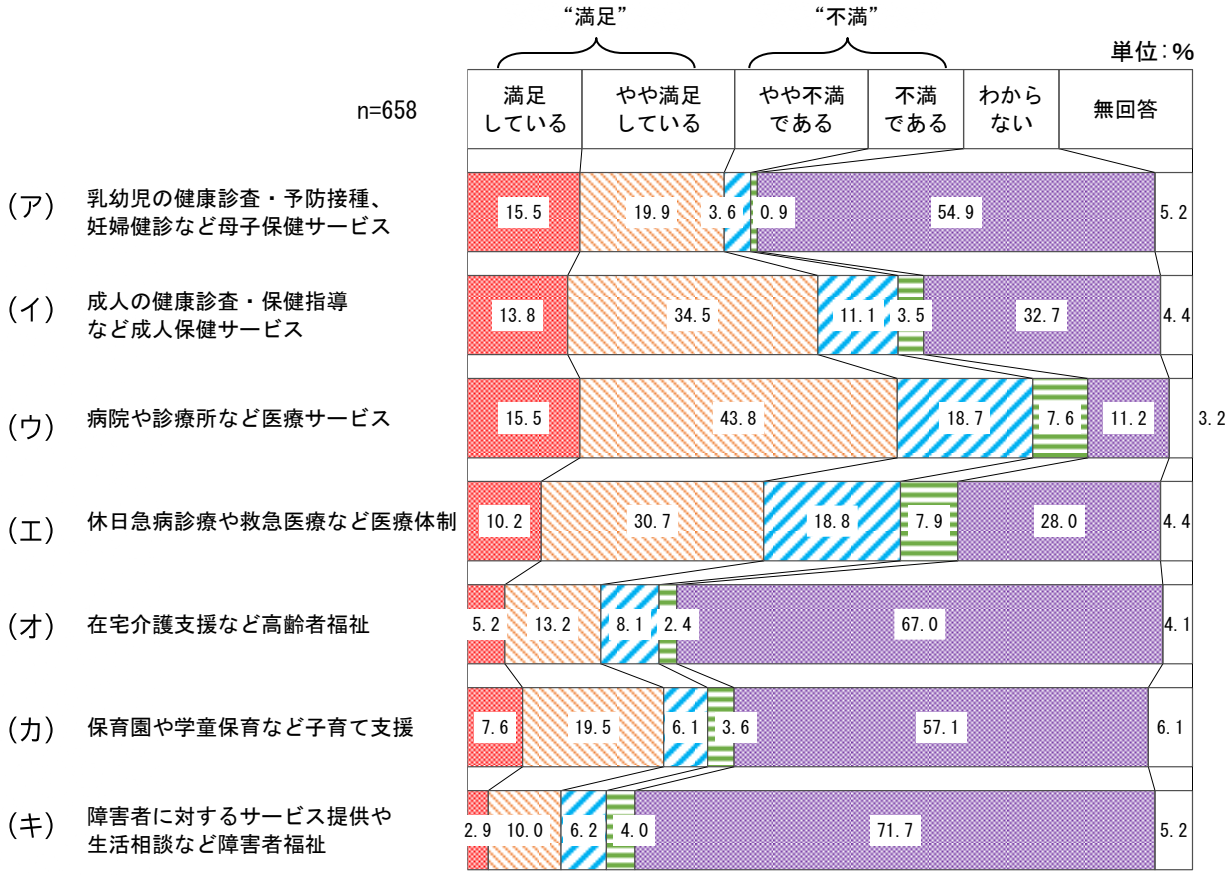
【選択肢「その他」の自由記載内容】

- 中国人の移住先のように近年なって来ており、漠然とした不安を常に感じている。（女性・40 歳代）
- 車道が狭い、狭すぎ。住宅街の私道が狭い、狭すぎ。（女性・50 歳代）
- 自転車の街を名乗る割に整備が行き届いておらず有名無実（男性・40 歳代）
- 電車が不便（男性・29 歳以下）
- 近隣の障碍者施設からの奇声が耳障り（男性・50 歳代）
- 田舎に行きたい。（女性・50 歳代）
- 地元に戻りたい（男性・60 歳代）
- 同居のため（女性・29 歳以下）
- 配偶者の転勤のため（女性・30 歳代）
- 学区域が納得いかない、保育園の給食費が高い（女性・30 歳代）
- 飲食店が少ない（女性・30 歳代）

問3　保健･医療･福祉の満足度

保健・医療・福祉の施策やサービスに関する下のア～キの項目について、あなたは満足していますか。**（ア～キの各行ごとに、当てはまるものに○を１つずつ）**

図表 10　保健・医療・福祉の満足度



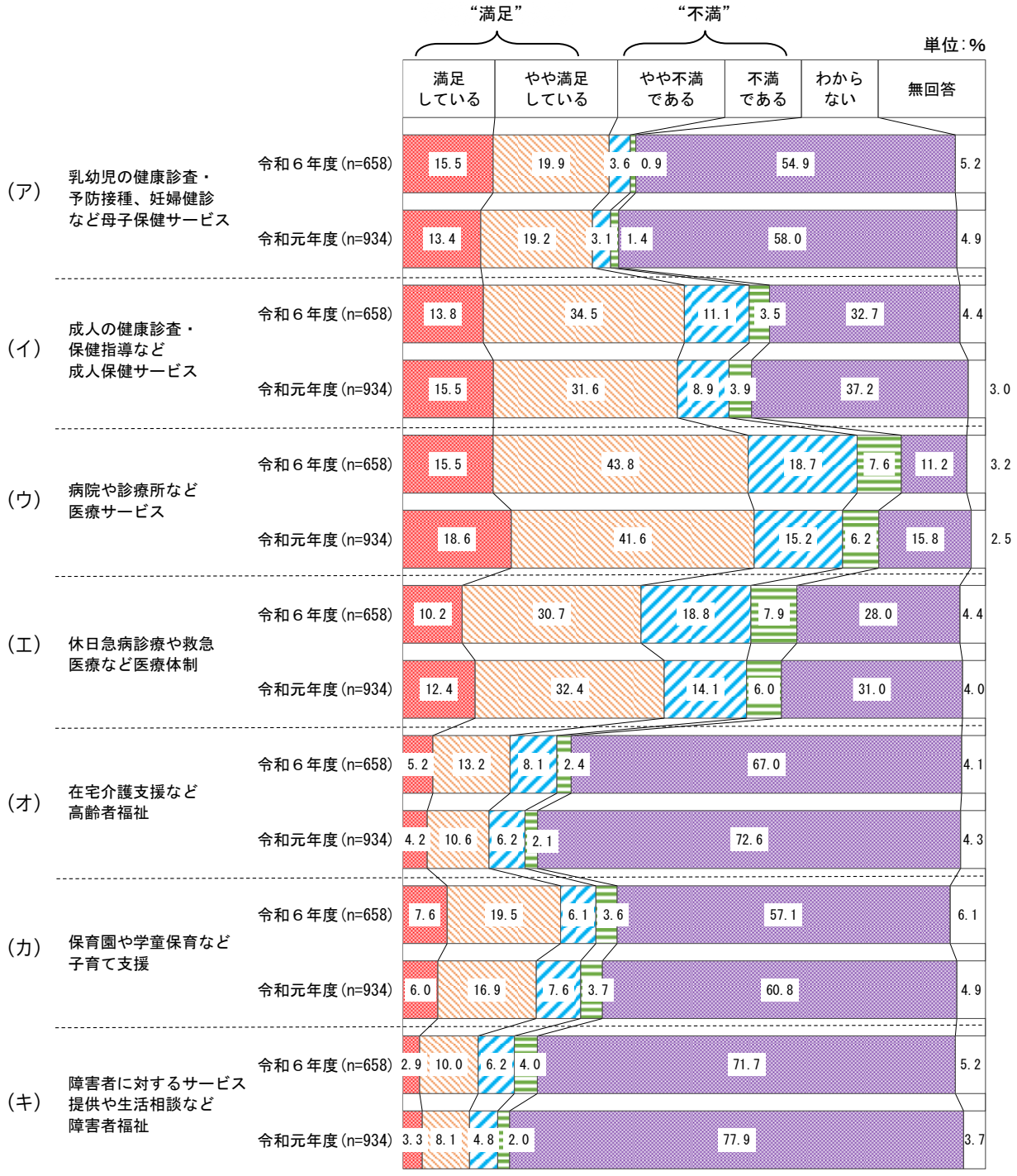
○全体の傾向

（ウ）《病院や診療所など医療サービス》では、“満足”（「満足している」「やや満足している」の合計）が 59.3%、（イ）《成人の健康診査・保健指導など成人保健サービス》では“満足”が 48.3%、（エ）《休日急病診療や救急医療など医療体制》では“満足”が 40.9%となっています。

（ア）～（キ）の各項目とも、“満足”が“不満”（「やや不満である」「不満である」の合計）を上回っており、（ア）《乳幼児の健康診査・予防接種、妊婦健診など母子保健サービス》、（イ）《成人の健康診査・保健指導など成人保健サービス》、（ウ）《病院や診療所など医療サービス》では“満足”と“不満”の差が 30 ポイントを超えています。

（ア）《乳幼児の健康診査・予防接種、妊婦健診など母子保健サービス》、（オ）《在宅介護支援など高齢者福祉》、（カ）《保育園や学童保育など子育て支援》、（キ）《障害者に対するサービス提供や生活相談など障害者福祉》では、「わからない」が半数以上を占めています。

図表 11　保健・医療・福祉の満足度【経年比較】



○経年比較

令和元年度調査から今回調査にかけて、（エ）《休日急病診療や救急医療など医療体制》の“不満”が６ポイント増加しています。

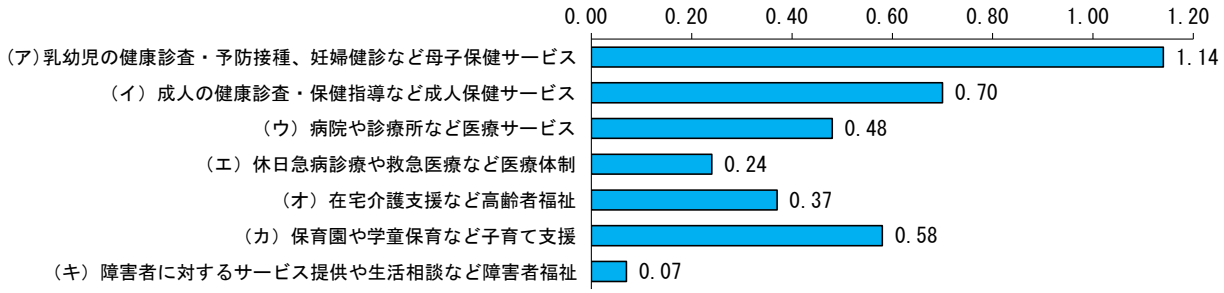
○満足度の加重平均値（得点）の状況

《加重平均値(得点)の算出方法》

（ア）～（キ）の各項目の回答について、「満足している」を＋２点、「やや満足している」を＋１点、「やや不満である」を－１点、「不満である」を－２点として、それぞれの回答を点数に換算します。項目ごとに回答者の点数合計を算出して、その値を「わからない」「無回答」を除いた回答者数で割ることにより、加重平均値（得点）を算出します。

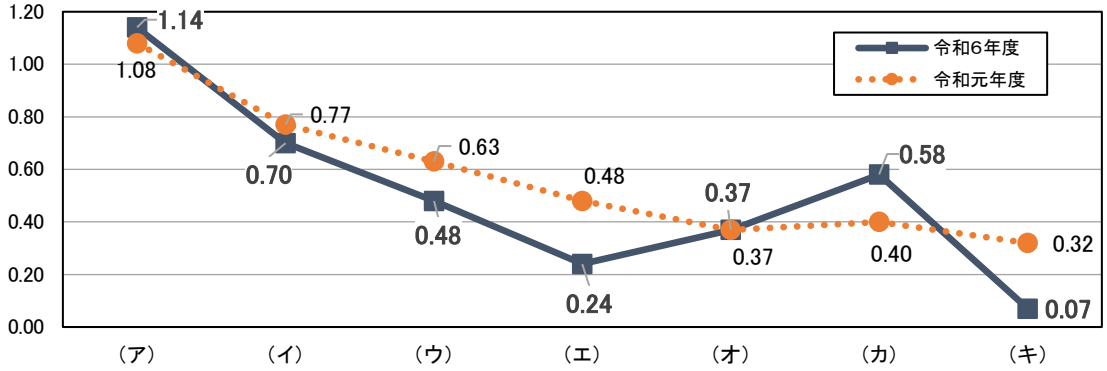
※　各項目の加重平均値（得点）は、＋２点から－２点の間に分布します。満足度が高いものは＋側に、満足度が低いものは－側に分布されます。

図表 12　保健・医療・福祉の満足度の加重平均値（得点）



各項目とも得点がプラスの値となっており、（ア）《乳幼児の健康診査・予防接種、妊婦健診など母子保健サービス》では 1.14 となっています。

図表 13　保健・医療・福祉の満足度の加重平均値（得点）【経年比較】

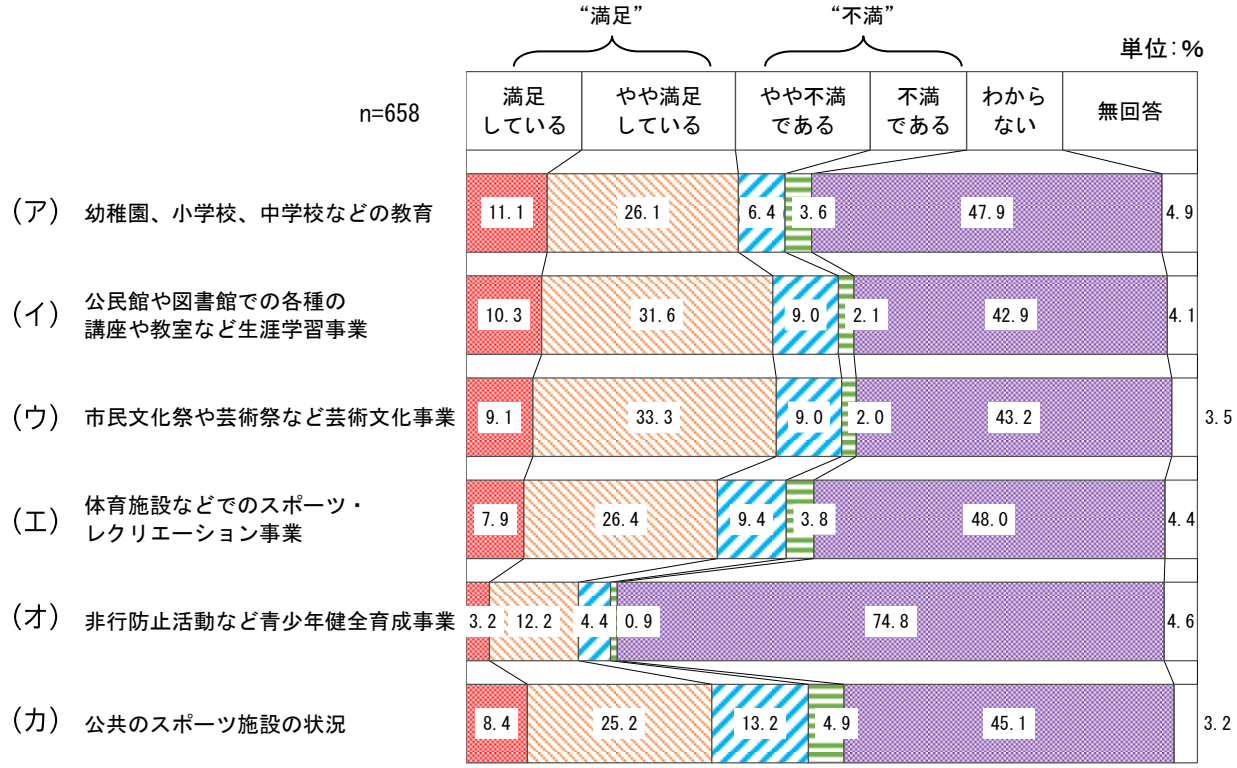


（ア）《乳幼児の健康診査・予防接種、妊婦健診など母子保健サービス》、（カ）《保育園や学童保育など子育て支援》では今回調査の得点が令和元年度調査の値を上回っています。一方、（イ）《成人の健康診査・保健指導など成人保健サービス》、（ウ）《病院や診療所など医療サービス》、（エ）《休日急病診療や救急医療など医療体制》、（キ）《障害者に対するサービス提供や生活相談など障害者福祉》では、今回調査の得点が令和元年度調査の値を下回っています。

問4　教育･文化の満足度

教育・文化の施策やサービスに関する下のア～カの項目について、あなたは満足していますか。**（ア～カの各行ごとに、当てはまるものに○を１つずつ）**

図表 14　教育・文化の満足度



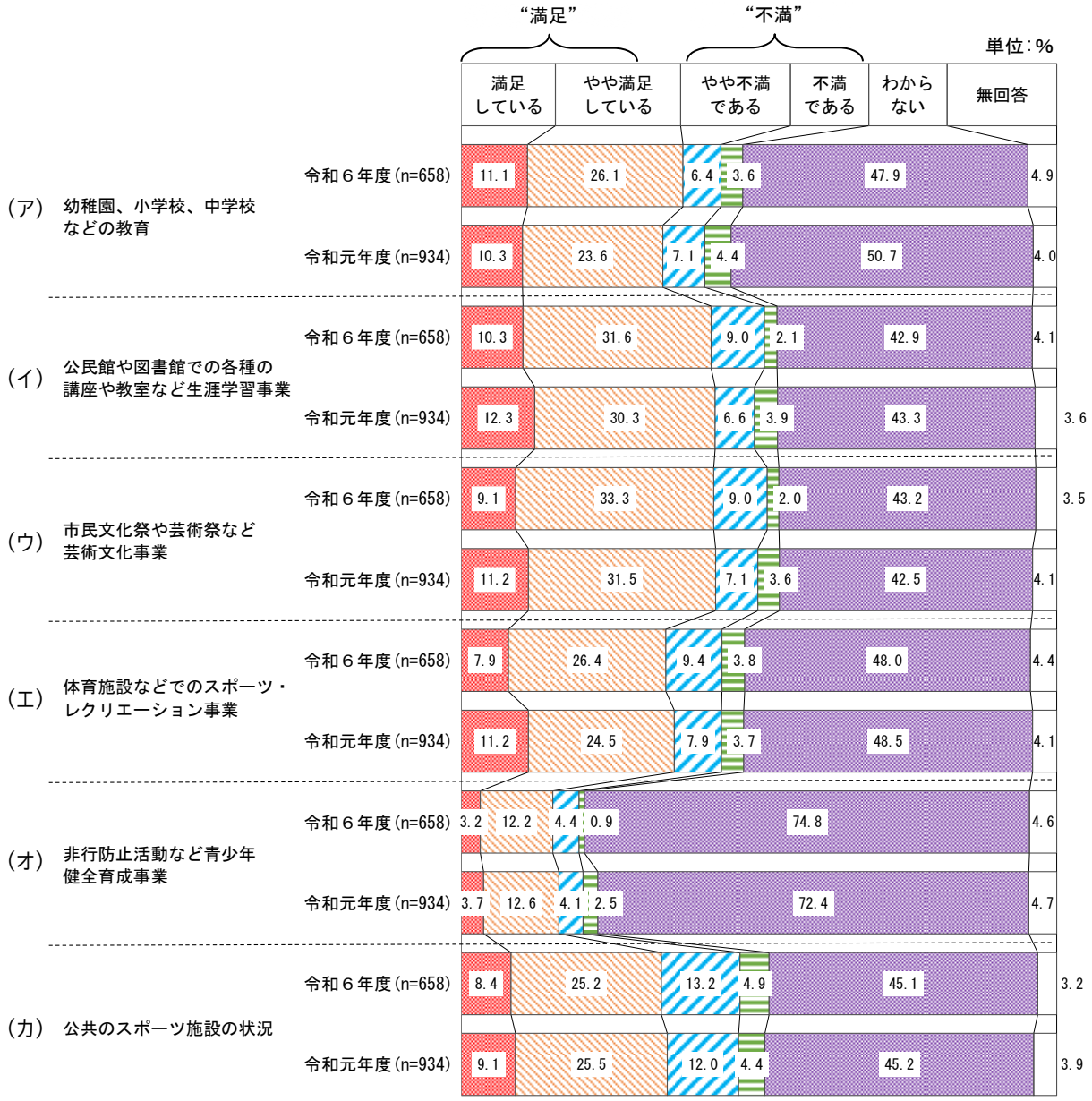
○全体の傾向

（ウ）《市民文化祭や芸術祭など芸術文化事業》では、“満足”（「満足している」「やや満足している」の合計）が 42.4%、（イ）《公民館や図書館での各種の講座や教室など生涯学習事業》では“満足”が 41.9%となっています。

（ア）～（カ）の各項目とも、“満足”が“不満”（「やや不満である」「不満である」の合計）を上回っており、（イ）《公民館や図書館での各種の講座や教室など生涯学習事業》、（ウ）《市民文化祭や芸術祭など芸術文化事業》では“満足”と“不満”の差が 30 ポイントを超えています。

（オ）《非行防止活動など青少年健全育成事業》は、「わからない」が 74.8%を占めています。

図表 15　教育・文化の満足度【経年比較】



○経年比較

令和元年度調査結果と比較して、傾向に大きな違いはありません。

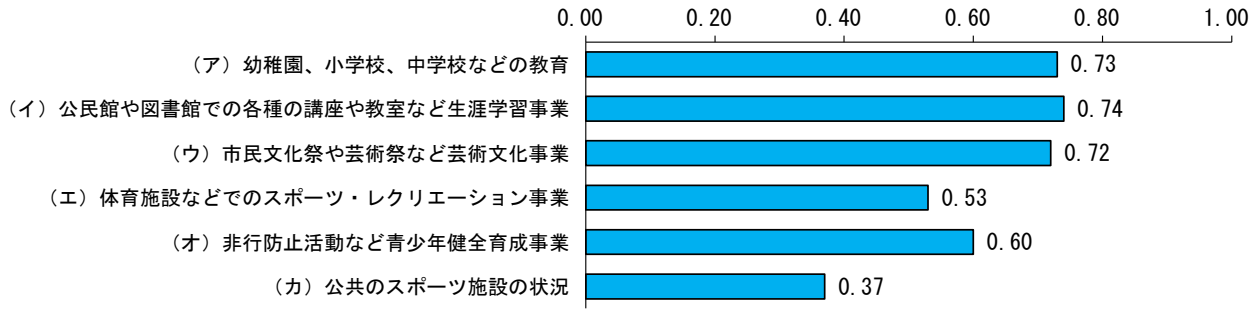
○満足度の加重平均値（得点）の状況

《加重平均値(得点)の算出方法》

（ア）～（カ）の各項目の回答について、「満足している」を＋２点、「やや満足している」を＋１点、「やや不満である」を－１点、「不満である」を－２点として、それぞれの回答を点数に換算します。項目ごとに回答者の点数合計を算出して、その値を「わからない」「無回答」を除いた回答者数で割ることにより、加重平均値（得点）を算出します。

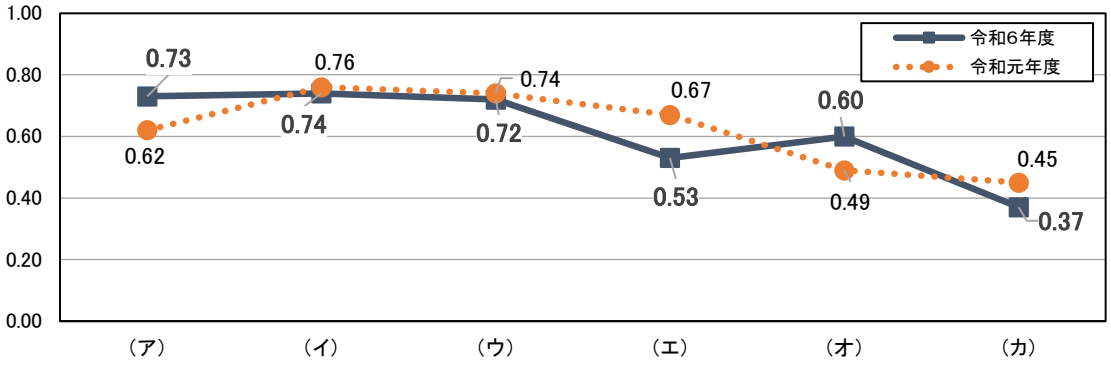
※　各項目の加重平均値（得点）は、＋２点から－２点の間に分布します。満足度が高いものは＋側に、満足度が低いものは－側に分布されます。

図表 16　教育・文化の満足度の加重平均値（得点）



各項目とも得点がプラスの値となっており、（イ）《公民館や図書館での各種の講座や教室など生涯学習事業》では 0.74、（ア）《幼稚園、小学校、中学校などの教育》では 0.73、（ウ）《市民文化祭や芸術祭など芸術文化事業》では 0.72 となっています。

図表 17　教育・文化の満足度の加重平均値（得点）【経年比較】

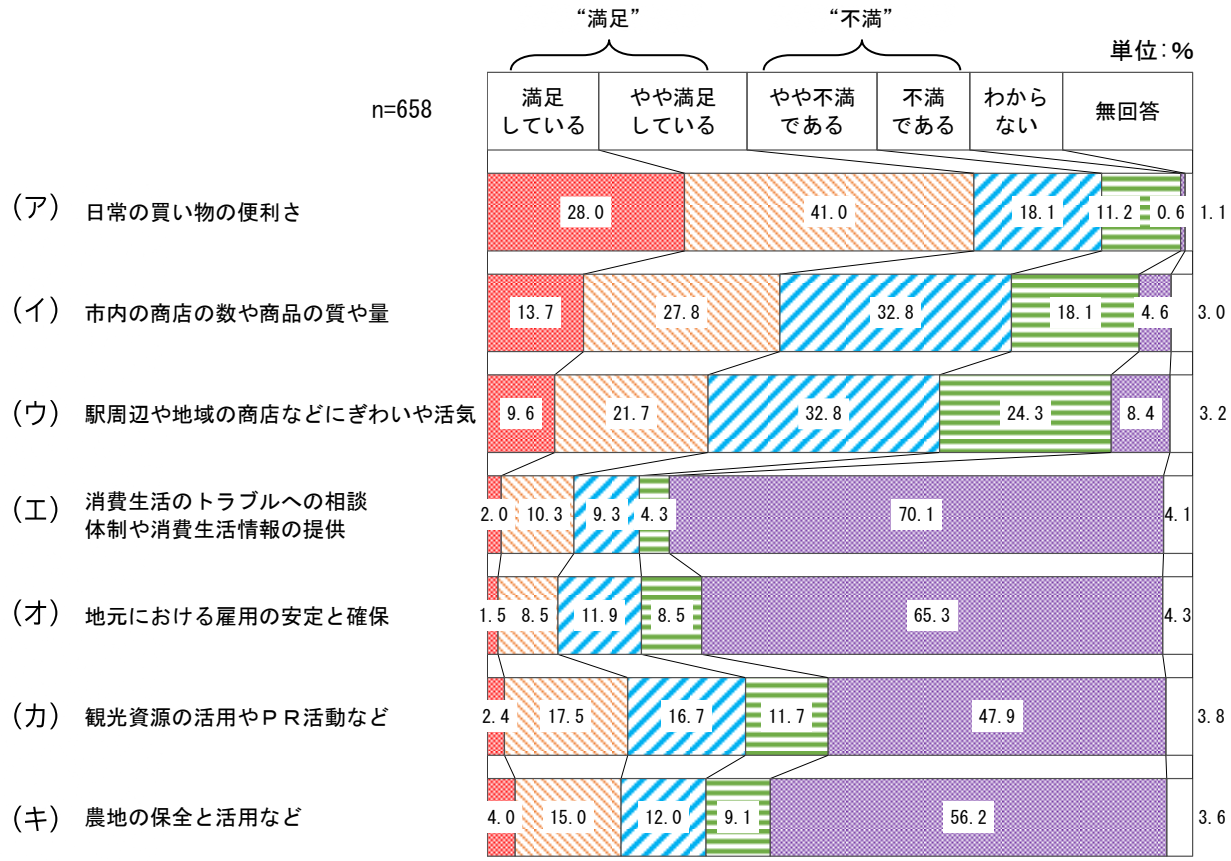


（ア）《幼稚園、小学校、中学校などの教育》、（オ）《非行防止活動など青少年健全育成事業》では今回調査の得点が令和元年度調査の値を上回っています。一方、（イ）《公民館や図書館での各種の講座や教室など生涯学習事業》、（ウ）《市民文化祭や芸術祭など芸術文化事業》、（エ）《消費生活のトラブルへの相談体制や消費生活情報の提供》、（カ）《公共のスポーツ施設の状況》では、今回調査の得点が令和元年度調査の値を下回っています。

問5　商工業･観光･農林業の満足度

商工業・観光・農林業の施策に関する下のア～キの項目について、あなたは満足していますか。**（ア～キの各行ごとに、当てはまるものに○を１つずつ）**

図表 18　商工業・観光・農林業の満足度



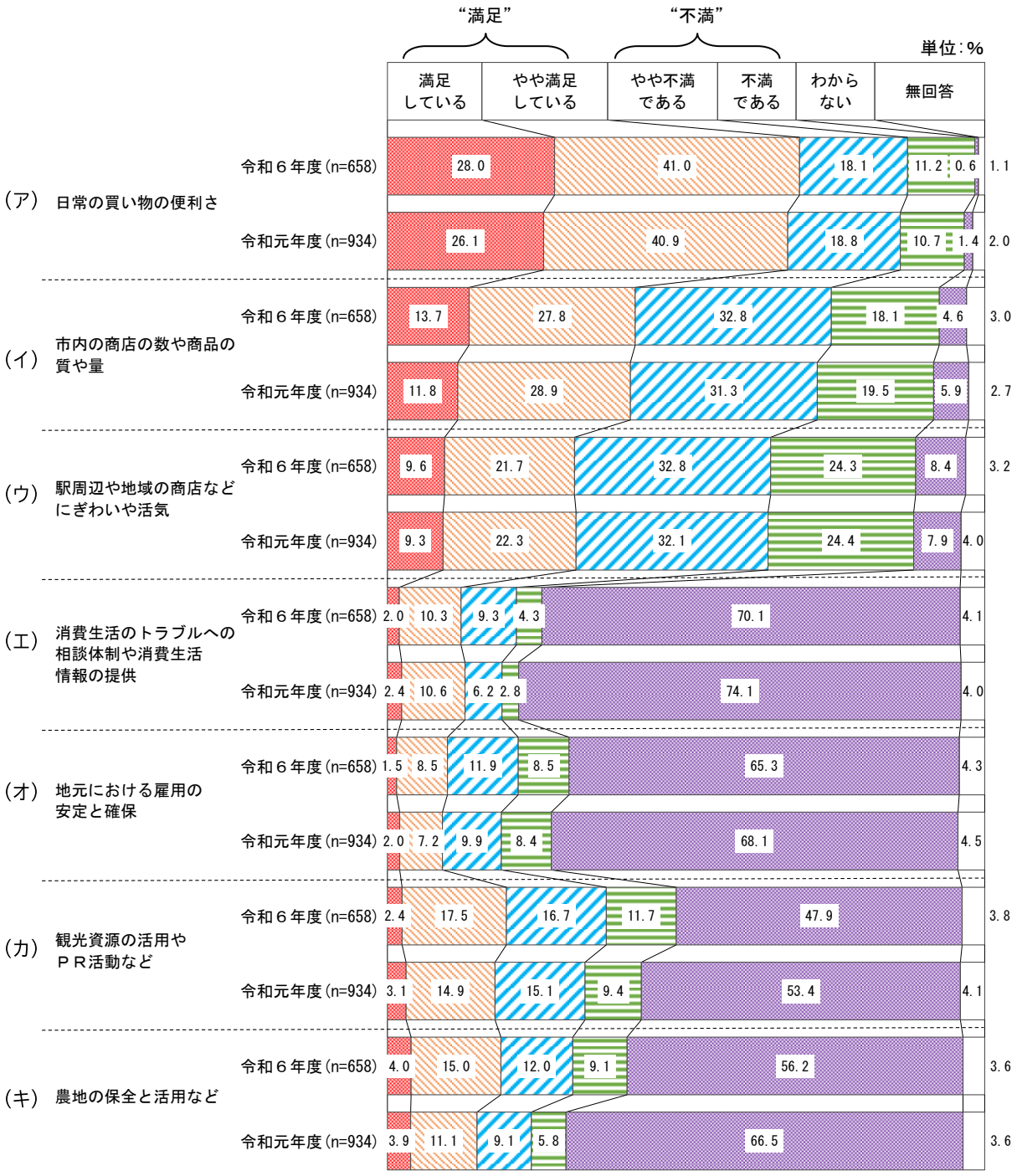
○全体の傾向

（ア）《日常の買い物の便利さ》では、“満足”（「満足している」「やや満足している」の合計）が 69.0%、（イ）《市内の商店の数や商品の質や量》では“満足”が 41.5%となっています。（ア）《日常の買い物の便利さ》では「満足している」が 28.0%であり、他の項目の割合を 14 ポイント以上上回っています。一方、（イ）《市内の商店の数や商品の質や量》、（ウ）《駅周辺や地域の商店などにぎわいや活気》では“不満”（「やや不満である」「不満である」の合計）が５割台となっています。

（ア）《日常の買い物の便利さ》を除く各項目とも、“不満”が“満足”を上回っており、（ウ）《駅周辺や地域の商店などにぎわいや活気》では“不満”と“満足”の差が 25 ポイントとなっています。

（エ）《消費生活のトラブルへの相談体制や消費生活情報の提供》、（オ）《地元における雇用の安定と確保》では、「わからない」が６割台半ばから７割を占めています。

図表 19　商工業・観光・農林業の満足度【経年比較】



○経年比較

令和元年度調査から今回調査にかけて、(キ)《農地の保全と活用など》の“不満”が６ポイント増加しています。

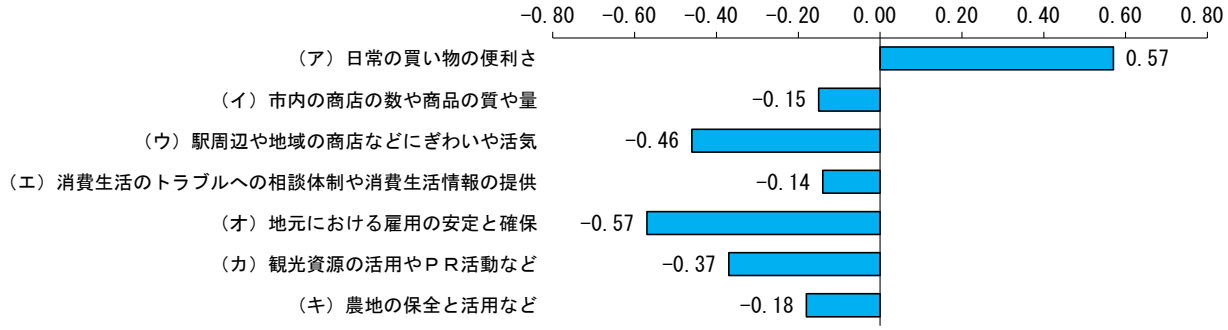
○満足度の加重平均値（得点）の状況

《加重平均値(得点)の算出方法》

（ア）～（キ）の各項目の回答について、「満足している」を＋２点、「やや満足している」を＋１点、「やや不満である」を－１点、「不満である」を－２点として、それぞれの回答を点数に換算します。項目ごとに回答者の点数合計を算出して、その値を「わからない」「無回答」を除いた回答者数で割ることにより、加重平均値（得点）を算出します。

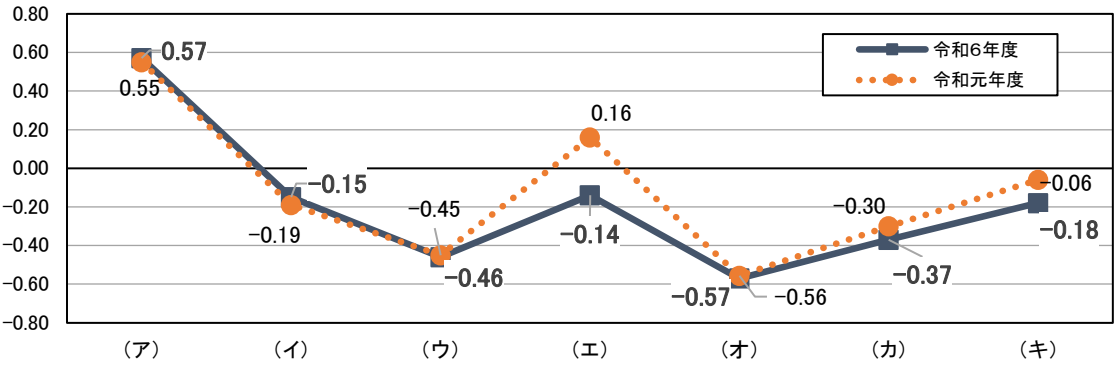
※　各項目の加重平均値（得点）は、＋２点から－２点の間に分布します。満足度が高いものは＋側に、満足度が低いものは－側に分布されます。

図表 20　商工業・観光・農林業の満足度の加重平均値（得点）



（ア）《日常の買い物の便利さ》を除く各項目とも得点がマイナスの値となっており、（オ）《地元における雇用の安定と確保》では-0.57、（ウ）《駅周辺や地域の商店などにぎわいや活気》では-0.46、（カ）《観光資源の活用や PR 活動など》では-0.37 となっています。

図表 21　商工業・観光・農林業の満足度の加重平均値（得点）【経年比較】

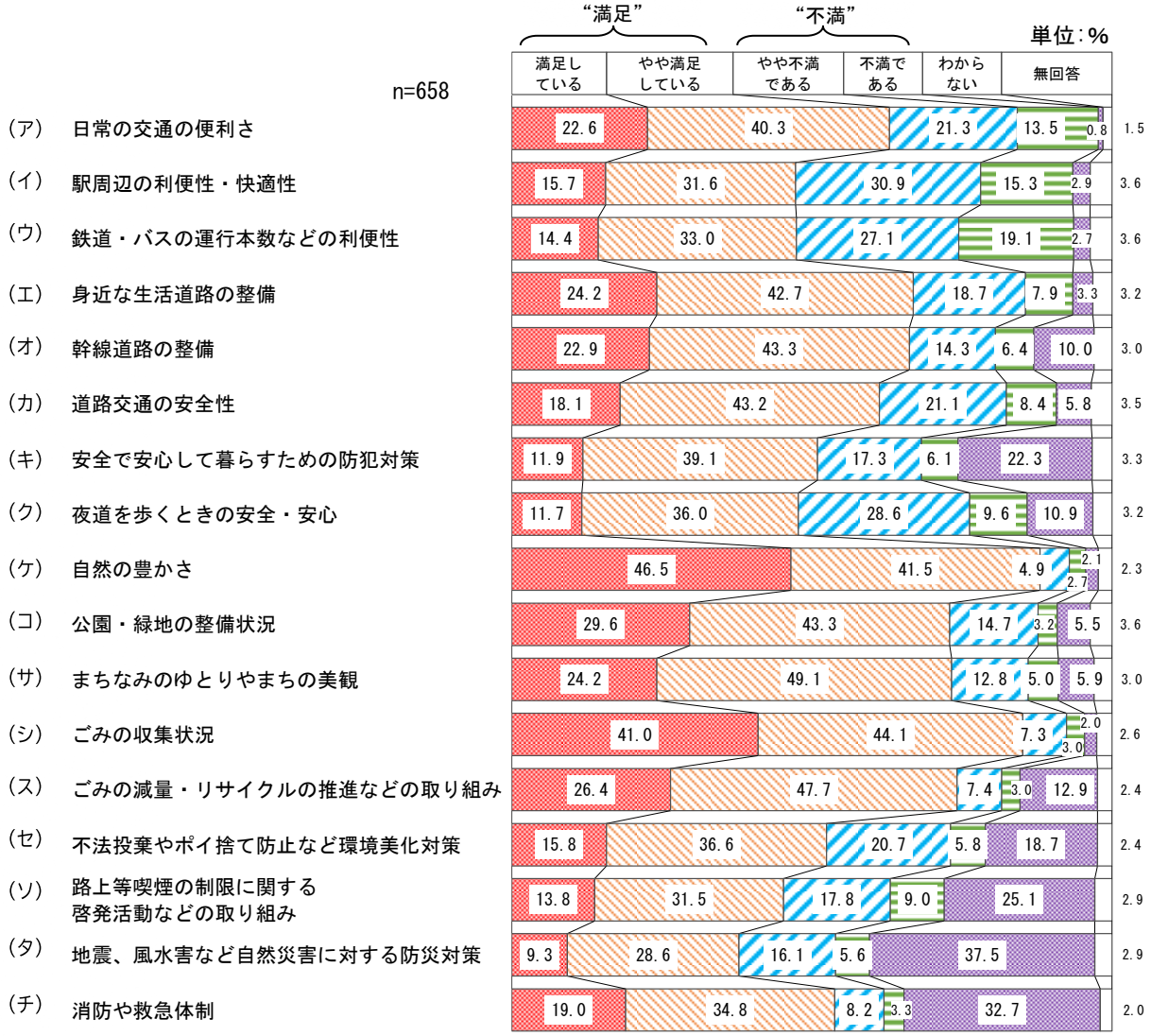


（ア）《日常の買い物の便利さ》、（イ）《市内の商店の数や商品の質や量》では今回調査の得点が令和元年度調査の値を上回っています。一方、（ウ）～（キ）では、今回調査の得点が令和元年度調査の値を下回っています。

問6　都市基盤･生活環境･防災防犯の満足度

都市基盤・生活環境・防災や防犯の施策に関する下のア～チの項目について、あなたは満足していますか。**（ア～チの各行ごとに、当てはまるものに○を１つずつ）**

図表 22　都市基盤・生活環境・防災防犯の満足度

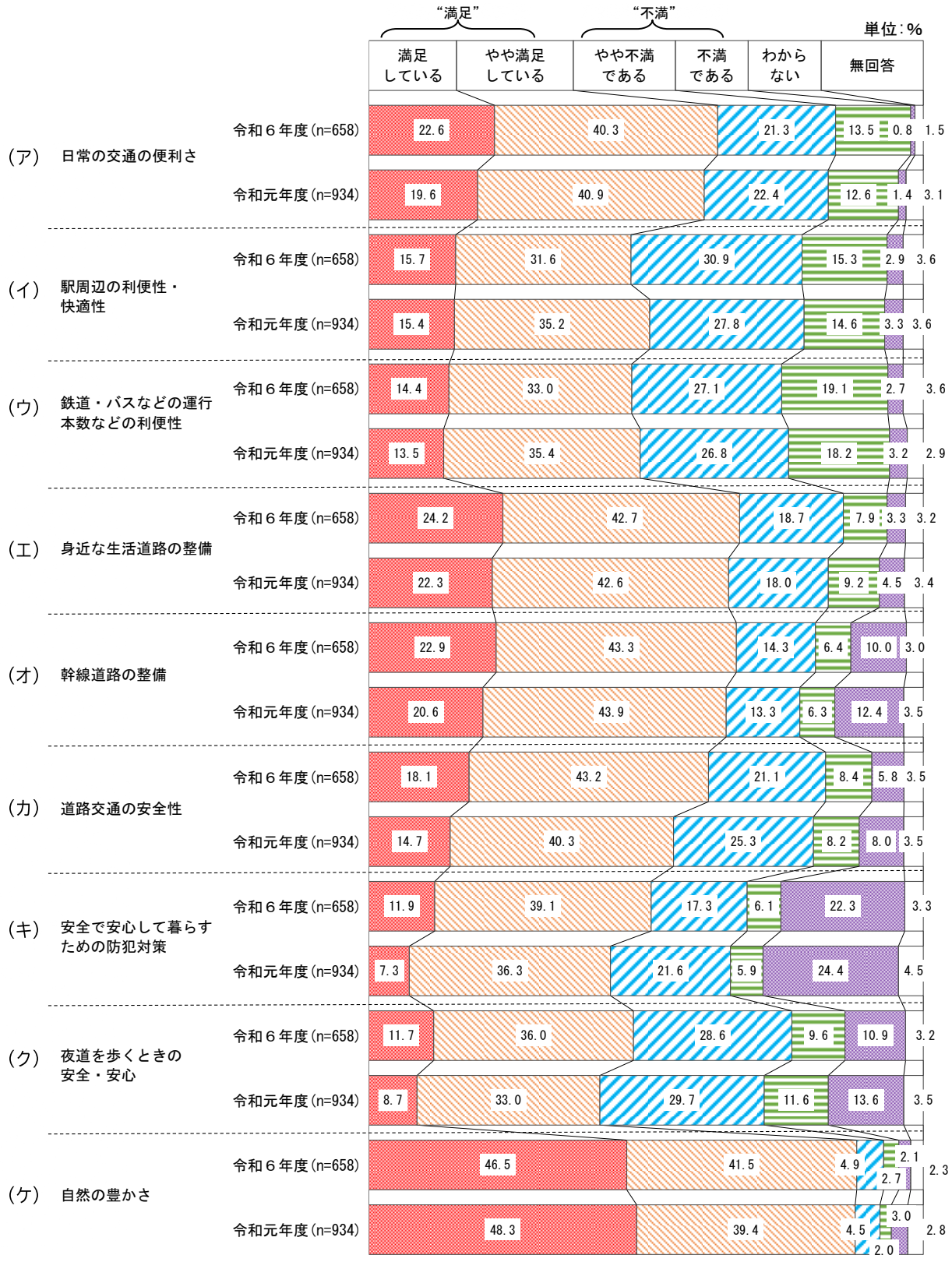


○全体の傾向

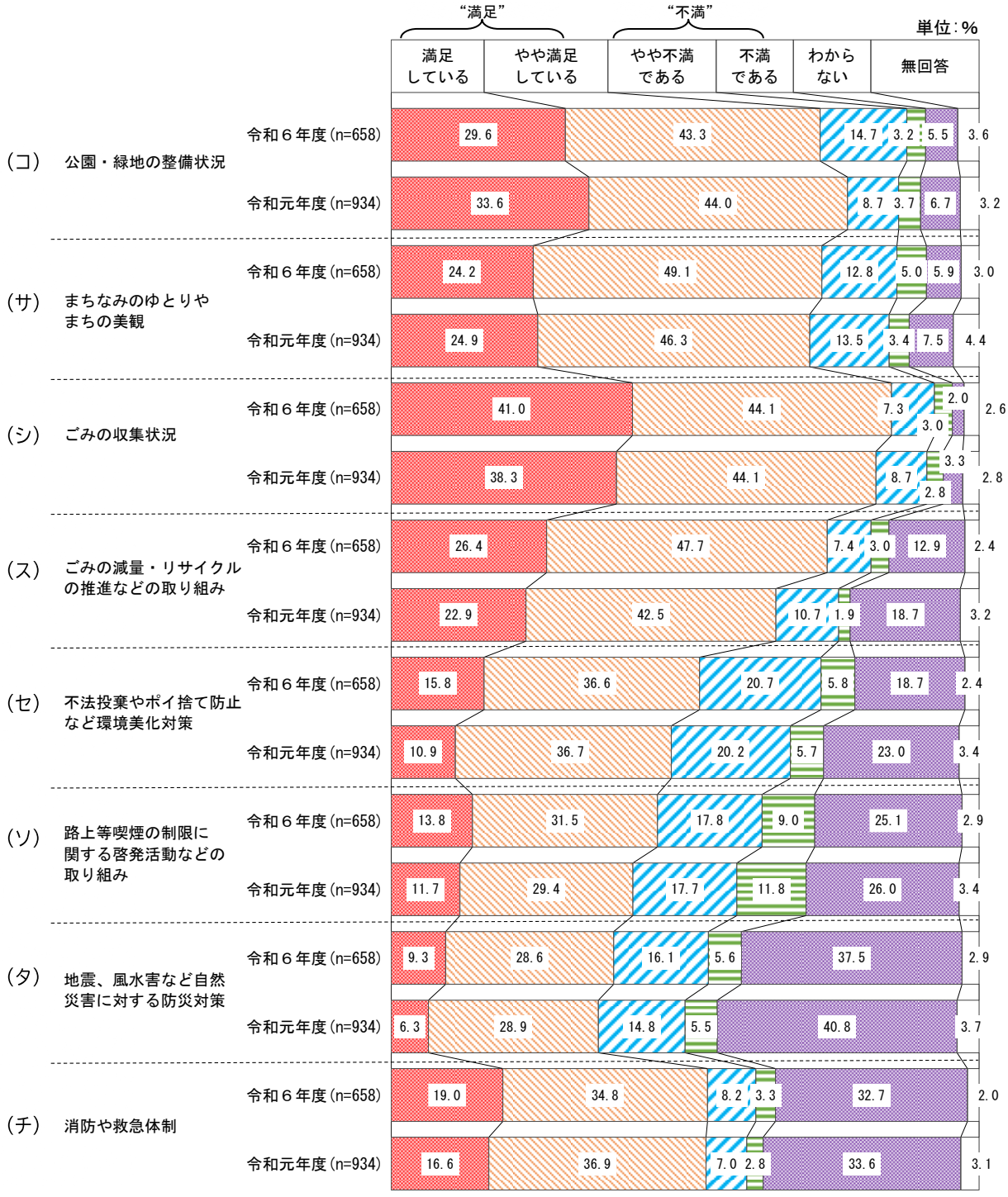
（ケ）《自然の豊かさ》では、“満足”（「満足している」「やや満足している」の合計）が 88.0%、（シ）《ごみの収集状況》では“満足”が 85.1%となっています。（ケ）《自然の豊かさ》、（シ）《ごみの収集状況》では「満足している」が４割台であり、他の項目の割合を 11 ポイント以上上回っています。

（ア）～（チ）の各項目とも、“満足”が“不満”（「やや不満である」「不満である」の合計）を上回っており、（ケ）《自然の豊かさ》、（シ）《ごみの収集状況》、（ス）《ごみの減量・リサイクルの推進などの取り組み》では“満足”と“不満”の差が 60 ポイントを超えています。一方、（イ）《駅周辺の利便性・快適性》、（ウ）《鉄道・バスの運行本数などの利便性》では“満足”と“不満”がいずれも５割弱であり、差が小さくなっていいます。

図表 23　都市基盤・生活環境・防災防犯の満足度①【経年比較】



図表 23　都市基盤・生活環境・防災防犯の満足度②【経年比較】



○経年比較

令和元年度調査から今回調査にかけて、（カ）《道路交通の安全性》、（キ）《安全で安心して暮らすための防犯対策》、（ク）《夜道を歩く時の安全・安心》、（ス）《ごみの減量・リサイクルの推進などの取り組み》の“満足”が６ポイント以上増加しています。一方、（コ）《公園・緑地の整備状況》の“不満”は５ポイント増加しています。

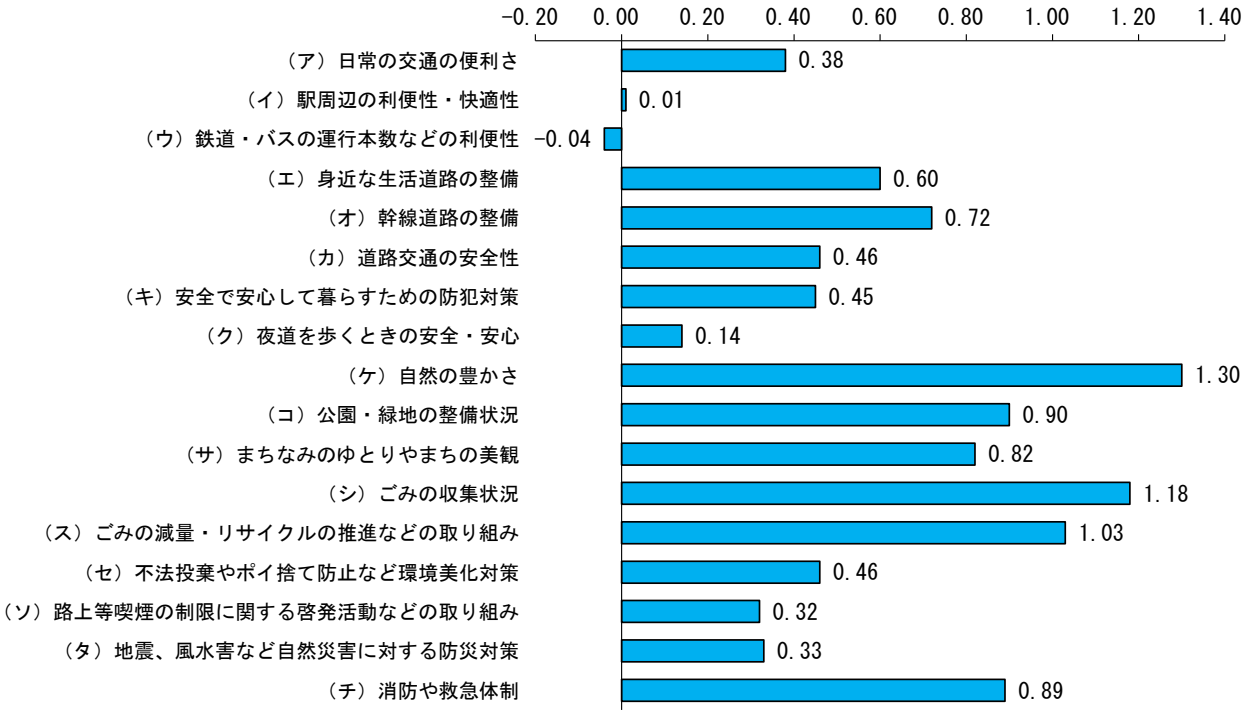
○満足度の加重平均値（得点）の状況

《加重平均値(得点)の算出方法》

（ア）～（チ）の各項目の回答について、「満足している」を＋２点、「やや満足している」を＋１点、「やや不満である」を－１点、「不満である」を－２点として、それぞれの回答を点数に換算します。項目ごとに回答者の点数合計を算出して、その値を「わからない」「無回答」を除いた回答者数で割ることにより、加重平均値（得点）を算出します。

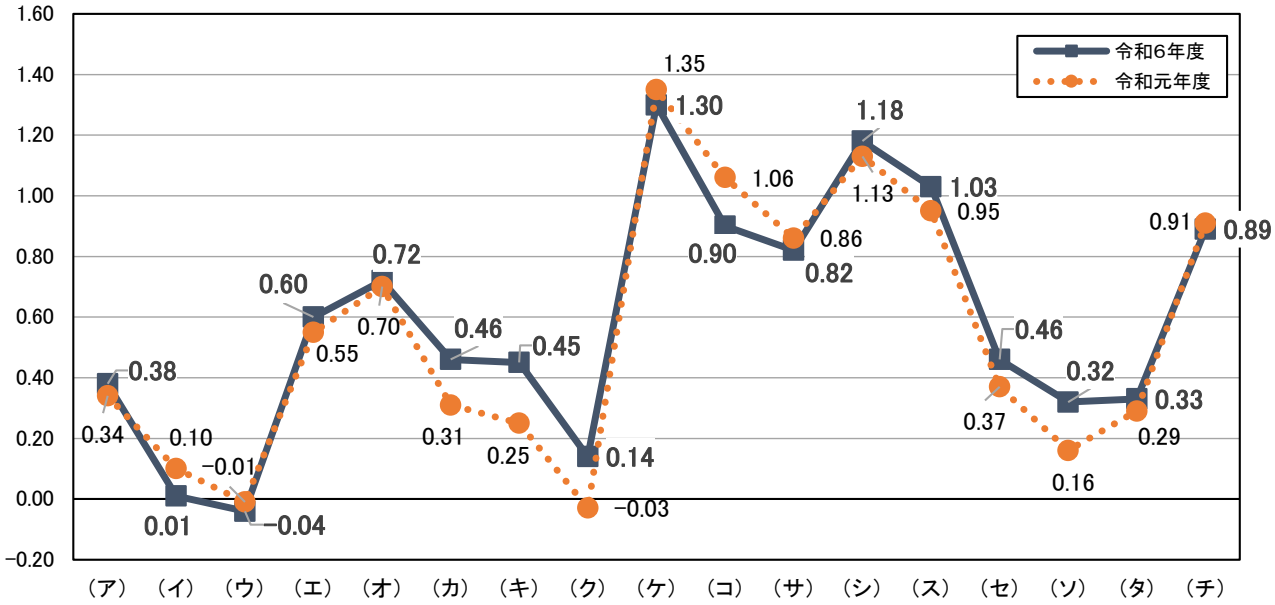
※　各項目の加重平均値（得点）は、＋２点から－２点の間に分布します。満足度が高いものは＋側に、満足度が低いものは－側に分布されます。

図表 24　都市基盤・生活環境・防災防犯の満足度の加重平均値（得点）



（ウ）《鉄道・バスの運行本数などの利便性》を除く各項目とも得点がプラスの値となっており、（ケ）《自然の豊かさ》では 1.30、（シ）《ごみの収集状況》では 1.18、（ス）《ごみの減量・リサイクルの推進などの取り組み》では 1.03 となっています。

図表 25　都市基盤・生活環境・防災防犯の満足度の加重平均値（得点）【経年比較】

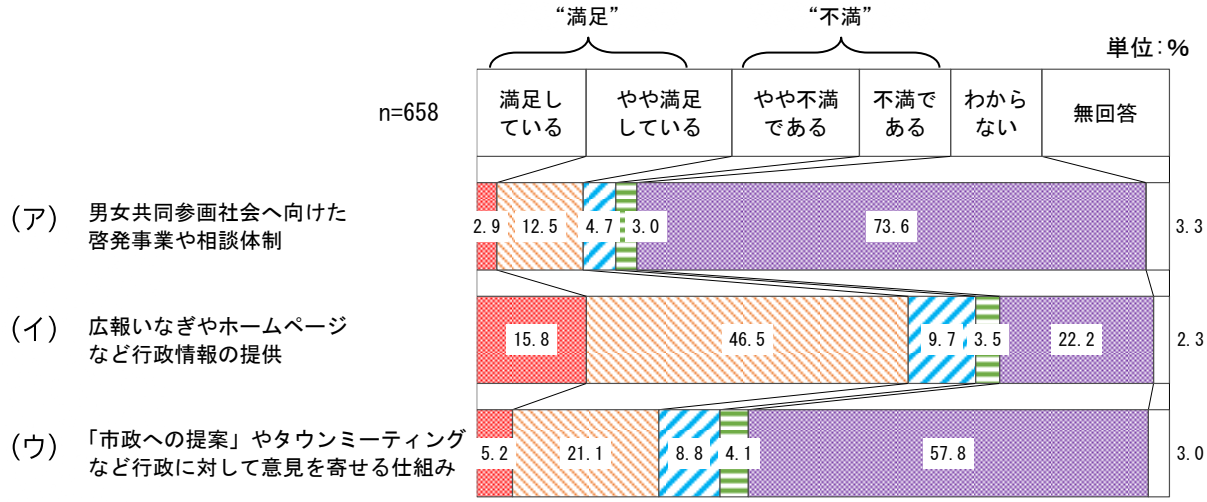


多くの項目で今回調査の得点が令和元年度調査の値を上回っており、（ク）《夜道を歩く時の安全・安心》では、令和元年度調査時のマイナスの値が今回調査でプラスの値に転じています。

問7　市政運営の満足度

市民参加や市政運営の施策に関する下のア～ウの項目について、あなたは満足していますか。**（ア～ウの各行ごとに、当てはまるものに○を１つずつ）**

図表 26　市政運営の満足度



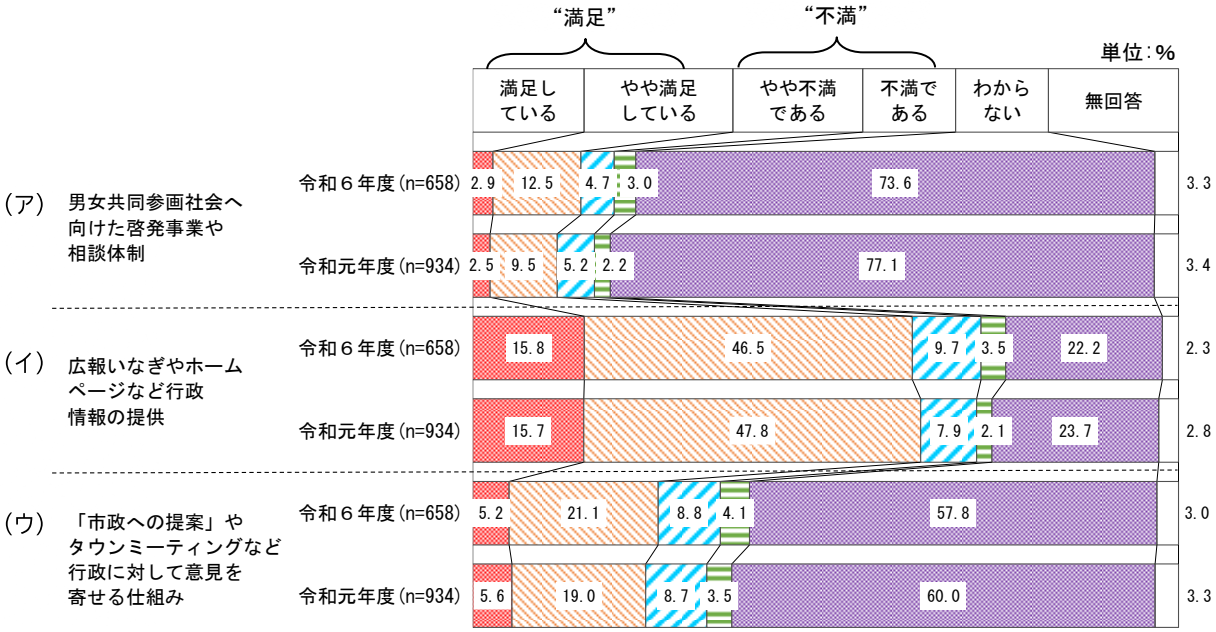
○全体の傾向

（イ）《広報いなぎやホームページなど行政情報の提供》では、“満足”（「満足している」「やや満足している」の合計）が 62.3%となっています。

（ア）～（ウ）の各項目とも、“満足”が“不満”（「やや不満である」「不満である」の合計）を上回っており、（イ）《広報いなぎやホームページなど行政情報の提供》では“満足”と“不満”の差が 49 ポイントとなっています。

（ア）《男女共同参画社会へ向けた啓発事業や相談体制》では「わからない」が 73.6%、（ウ）《「市政への提案」やタウンミーティングなど行政に対して意見を寄せる仕組み》では「わからない」が 57.8%となっています。

図表 27　市政運営の満足度【経年比較】



○経年比較

令和元年度調査結果と比較して、傾向に大きな違いはありません。

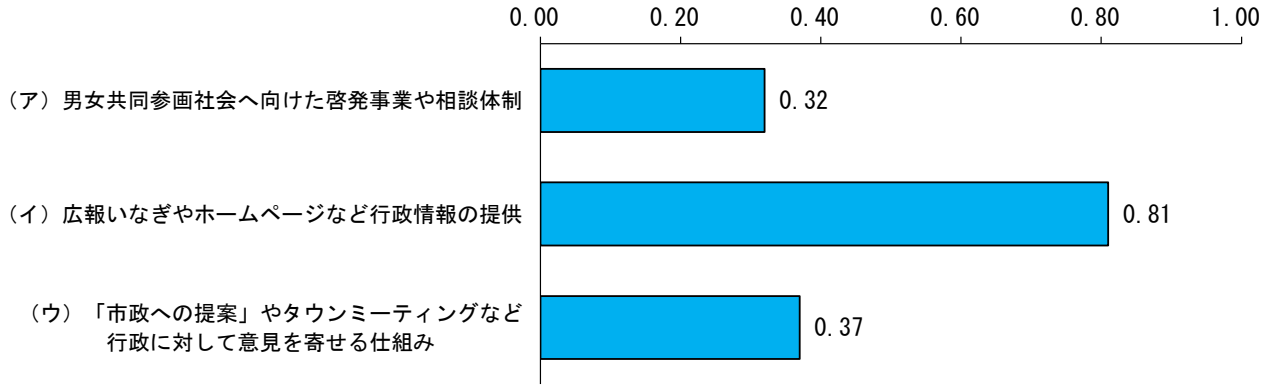
○満足度の加重平均値（得点）の状況

《加重平均値(得点)の算出方法》

（ア）～（ウ）の各項目の回答について、「満足している」を＋２点、「やや満足している」を＋１点、「やや不満である」を－１点、「不満である」を－２点として、それぞれの回答を点数に換算します。項目ごとに回答者の点数合計を算出して、その値を「わからない」「無回答」を除いた回答者数で割ることにより、加重平均値（得点）を算出します。

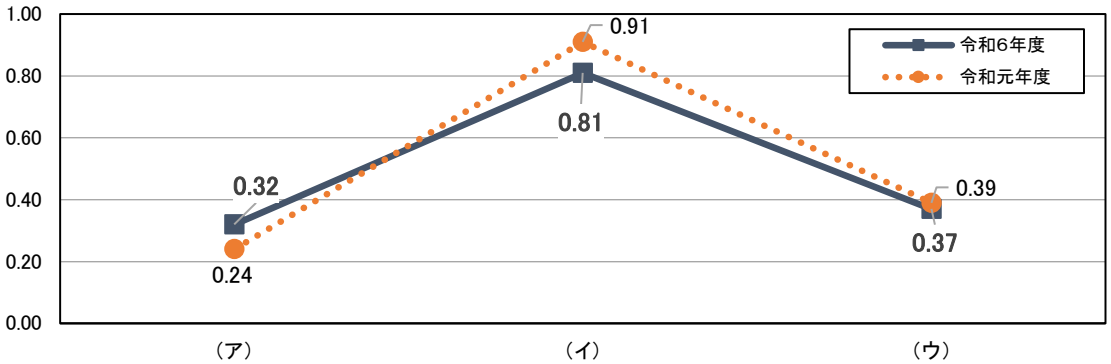
※　各項目の加重平均値（得点）は、＋２点から－２点の間に分布します。満足度が高いものは＋側に、満足度が低いものは－側に分布されます。

図表 28　市政運営の満足度の加重平均値（得点）



各項目とも得点がプラスの値となっており、（イ）《広報いなぎやホームページなど行政情報の提供》では 0.81 となっています。

図表 29　市政運営の満足度の加重平均値（得点）【経年比較】



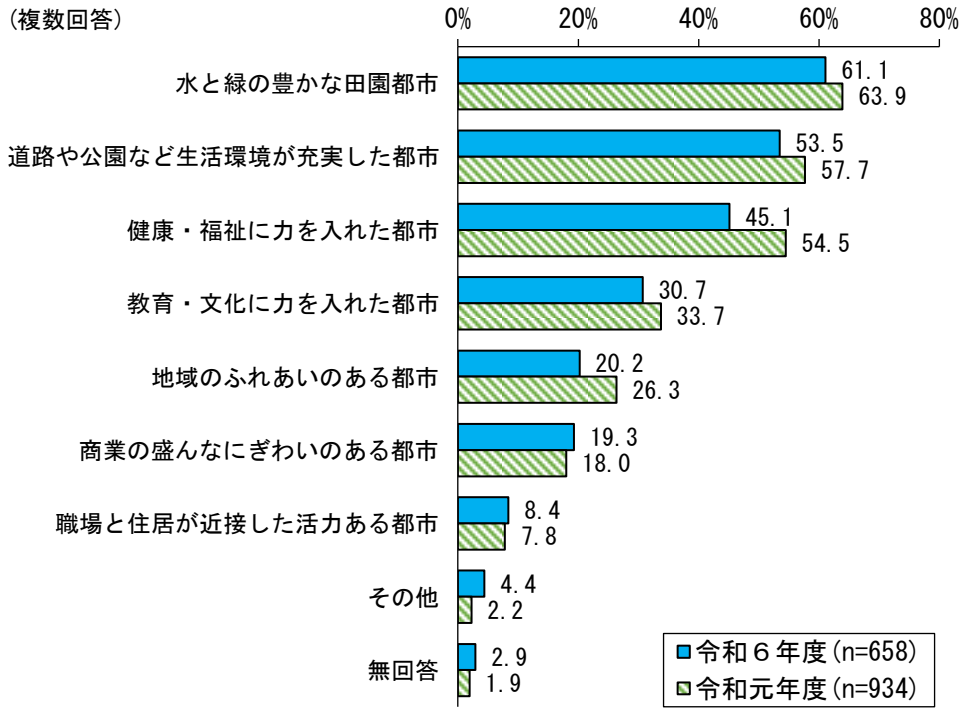
（ア）《男女共同参画社会へ向けた啓発事業や相談体制》では今回調査の得点が令和元年度調査の値を上回っています。一方、（イ）《広報いなぎやホームページなど行政情報の提供》、（ウ）《「市政への提案」やタウンミーティングなど行政に対して意見を寄せる仕組み》では、今回調査の得点が令和元年度調査の値を下回っています。

２　稲城市のまちづくりの方向について

問8　市の将来像のイメージ

市の将来像として、あなたのイメージに最も近いものはどれですか。（○は３つまで）

図表 30　市の将来像のイメージ【全体、経年比較】



○全体の傾向

「水と緑の豊かな田園都市」が 61.1％で最も多く、「道路や公園など生活環境が充実した都市」（53.5％）、「健康・福祉に力を入れた都市」（45.1％）、「教育・文化に力を入れた都市」（30.7％）が続きます。

○経年比較

上位４項目については、今回調査・令和元年度調査とも同様の順位となっています。令和元年度調査から今回調査にかけて、「健康・福祉に力を入れた都市」が９ポイント、「地域のふれあいのある都市」が６ポイント減少しています。

図表 31　市の将来像のイメージ【全体、男女別】

	水と緑の豊かな田園都市	教育・文化に力を入れた都市	健康・福祉に力を入れた都市	職場と住居が近接した活力ある都市	道路や公園など生活環境が充実した都市	商業のさかんなにぎわいのある都市	地域のふれあいのある都市	その他	無回答
全体（n=658）	61.1	30.7	45.1	8.4	53.5	19.3	20.2	4.4	2.9
女性（n=350）	61.7	30.3	45.1	8.3	52.3	21.1	19.7	3.4	2.6
男性（n=294）	61.2	31.6	45.2	8.5	56.1	17.3	21.4	5.4	2.4

○男女別の傾向

男女とも「水と緑の豊かな田園都市」が最も多く、「道路や公園など生活環境が充実した都市」が続きます。

図表 32　市の将来像のイメージ【全体、年代別】

	水と緑の豊かな田園都市	教育・文化に力を入れた都市	健康・福祉に力を入れた都市	職場と住居が近接した活力ある都市	道路や公園など生活環境が充実した都市	商業のさかんなにぎわいのある都市	地域のふれあいのある都市	その他	無回答
全　　体（n=658）	61.1	30.7	45.1	8.4	53.5	19.3	20.2	4.4	2.9
16～29 歳（n=59）	54.2	37.3	25.4	11.9	52.5	33.9	22.0	3.4	－
30～39 歳（n=78）	67.9	42.3	28.2	11.5	61.5	17.9	15.4	2.6	2.6
40～49 歳（n=111）	67.6	32.4	30.6	10.8	55.9	17.1	16.2	4.5	0.9
50～59 歳（n=136）	64.0	29.4	52.9	13.2	53.7	17.6	15.4	4.4	1.5
60～69 歳（n=95）	64.2	28.4	40.0	5.3	48.4	20.0	15.8	9.5	3.2
70 歳以上（n=171）	53.8	24.6	66.7	1.8	52.6	17.0	31.0	2.9	4.7

○年代別の傾向

70 歳以上を除く各年代とも「水と緑の豊かな田園都市」が最も多く、「道路や公園など生活環境が充実した都市」が続きます。70 歳以上では「健康・福祉に力を入れた都市」が最も多く、「水と緑の豊かな田園都市」が続きます。このほか、30 歳代では「教育・文化に力を入れた都市」が 42.3%であり、他の年代を５ポイント以上上回っています。また、29 歳以下では「商業のさかんなにぎわいのある都市」が 33.9%、70 歳以上では「地域のふれあいのある都市」が 31.0%であり、いずれも他の年代を９ポイント以上上回っています。

図表 33　市の将来像のイメージ【全体、地区別】

	水と緑の豊かな田園都市	教育・文化に力を入れた都市	健康・福祉に力を入れた都市	職場と住居が近接した活力ある都市	道路や公園など生活環境が充実した都市	商業のさかんなにぎわいのある都市	地域のふれあいのある都市	その他	無回答
全体（n=658）	61.1	30.7	45.1	8.4	53.5	19.3	20.2	4.4	2.9
矢野口（n=140）	55.0	31.4	47.1	8.6	51.4	24.3	21.4	6.4	1.4
東長沼（n=95）	62.1	33.7	38.9	8.4	57.9	23.2	11.6	3.2	4.2
大丸（n=73）	63.0	24.7	38.4	11.0	46.6	20.5	21.9	5.5	－
百村（n=41）	61.0	29.3	39.0	14.6	43.9	22.0	14.6	7.3	2.4
坂浜（n=21）	52.4	38.1	47.6	9.5	52.4	19.0	19.0	4.8	9.5
平尾（n=74）	70.3	27.0	50.0	9.5	43.2	13.5	29.7	2.7	1.4
押立（n=30）	70.0	23.3	43.3	10.0	46.7	20.0	16.7	3.3	6.7
向陽台（n=67）	62.7	31.3	47.8	4.5	59.7	11.9	28.4	7.5	3.0
長峰（n=23）	60.9	26.1	65.2	8.7	47.8	13.0	17.4	－	－
若葉台（n=85）	61.2	37.6	48.2	3.5	72.9	16.5	17.6	1.2	2.4

○地区別の傾向

矢野口・東長沼・大丸・百村・平尾・押立・向陽台の各地区では「水と緑の豊かな田園都市」が最も多く、平尾を除く各地区では「道路や公園など生活環境が充実した都市」が、平尾では「健康・福祉に力を入れた都市」が続きます。坂浜では「水と緑の豊かな田園都市」「道路や公園など生活環境が充実した都市」がそれぞれ 52.4%でともに多くなっています。長峰では「健康・福祉に力を入れた都市」が最も多く、「水と緑の豊かな田園都市」が続きます。若葉台では「道路や公園など生活環境が充実した都市」が最も多く、「水と緑の豊かな田園都市」が続きます。

このほか、平尾と向陽台では「地域のふれあいのある都市」が３割弱からほぼ３割であり、他の地区を６ポイント以上上回っています。

【選択肢「その他」の自由記載内容】

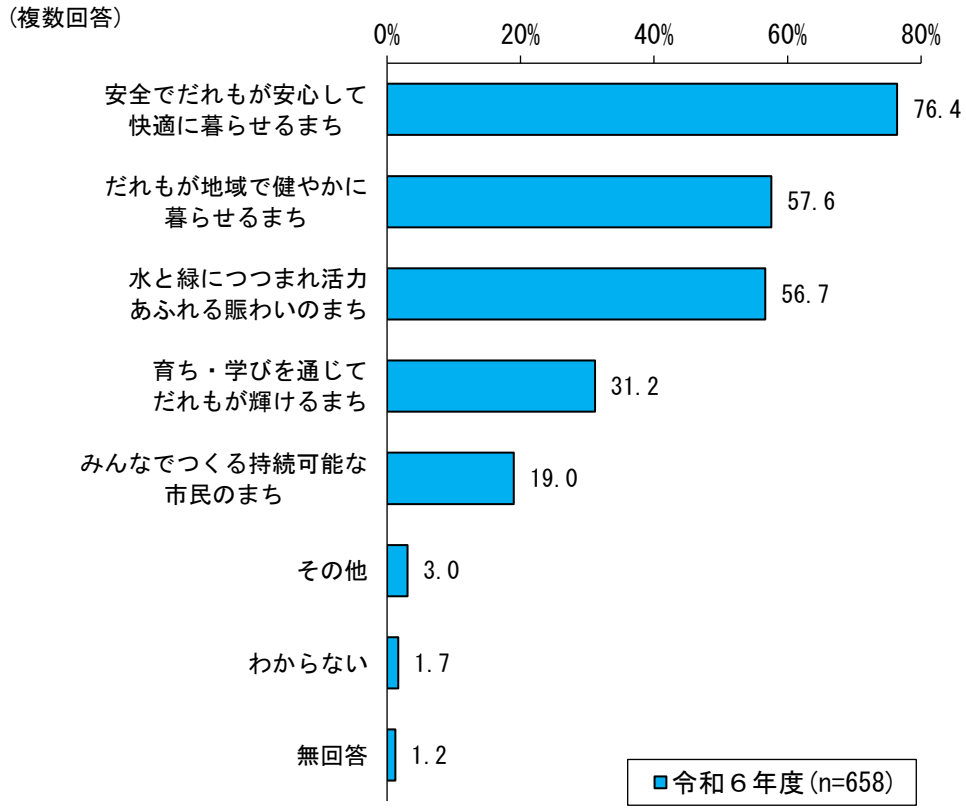
- 交通の利便性。（女性・60 歳代）
- 「坂浜駅」京王線を開設。人が集まる便利、健康文化のシンボルとなる。坂浜に駅を造る。米軍用地の開放。稲城は変わる。（男性・70 歳以上）
- 道路を広くした都市。（女性・50 歳代）
- 駅周辺が栄えた都市（女性・29 歳以下）
- 高齢者対応をしっかりやる。（男性・60 歳代）
- 駅周辺の商業施設開発。（女性・50 歳代）
- 農業、農地を大切にする都市。（男性・70 歳以上）
- 食料自給率を上げるための、気候に左右されない野菜プラント工場のある都市。（男性・30 歳代）
- 動物も過ごしやすいまちづくり（女性・29 歳以下）
- 学生がアクティブに社会参加できる都市（男性・60 歳代）
- 稲城の歴史や地形を生かした美しい都市（男性・50 歳代）
- 全体的にバランスのとれた都市。（女性・60 歳代）
- 特色のない市。（女性・60 歳代）
- 緑がどんどん消えていく残念な市。（女性・60 歳代）
- どちらかというと衰退していくイメージが強い（男性・50 歳代）
- 高齢者ばかりのさびれた村（男性・40 歳代）
- 税金を安く。（男性・40 歳代）
- 平尾住宅にて特定の場所のゴミ捨て場が荒れている。何かしらの形で注意喚起して欲しい。（40 歳代）
- 基本はベッドタウンかと存じます。が、ベッドタウンにしてもこの 10 年の商店の衰退は激しく、様々なものの購入に市内では支障を来すレベルでネット通販がなければ成り立たない状況かと存じます。また娯楽に至っては皆無に近いかと存じます。（男性・30 歳代）
- 分からない。（男性・40 歳代）　※ほか３件
- なって欲しい将来像なのか、このままだとこうなるだろうの将来像なのか質問の意図が明確でなく答えられません（女性・50 歳代）
- 方向性が見えない。財政主体にしか考えていないような感じがしている。（男性・40 歳代）

問9　進めるべきまちづくり

稲城市はどのような都市をめざして、まちづくりを進めるべきだと思いますか。

（○は３つまで）

図表 34　進めるべきまちづくり



○全体の傾向

「安全でだれもが安心して快適に暮らせるまち」が 76.4%で最も多く、「だれもが地域で健やかに暮らせるまち」（57.6%）、「水と緑につつまれ活力あふれる賑わいのまち」（56.7%）、「育ち・学びを通じてだれもが輝けるまち」（31.2%）が続きます。

図表 35　進めるべきまちづくり【全体、男女別】

	育ち・学びを通じてだれもが輝けるまち	だれもが地域で健やかに暮らせるまち	水と緑につつまれ活力あふれる賑わいのまち	安全でだれもが安心して快適に暮らせるまち	みんなでつくる持続可能な市民のまち	その他	わからない	無回答
全体（n=658）	31.2	57.6	56.7	76.4	19.0	3.0	1.7	1.2
女性（n=350）	31.4	61.7	50.3	80.0	16.6	3.1	1.7	0.6
男性（n=294）	31.3	53.1	63.9	72.1	21.8	3.1	1.7	1.7

○男女別の傾向

男女とも「安全でだれもが安心して快適に暮らせるまち」が最も多く、女性は「だれもが地域で健やかに暮らせるまち」が、男性は「水と緑につつまれ活力あふれる賑わいのまち」が続きます。女性の「だれもが地域で健やかに暮らせるまち」「安全でだれもが安心して快適に暮らせるまち」は男性を７ポイント以上上回っているのに対し、男性の「水と緑につつまれ活力あふれる賑わいのまち」は女性を 13 ポイント上回っています。

図表 36　進めるべきまちづくり【全体、年代別】

	育ち・学びを通じてだれもが輝けるまち	だれもが地域で健やかに暮らせるまち	水と緑につつまれ活力あふれる賑わいのまち	安全でだれもが安心して快適に暮らせるまち	みんなでつくる持続可能な市民のまち	その他	わからない	無回答
全　　体（n=658）	31.2	57.6	56.7	76.4	19.0	3.0	1.7	1.2
16～29 歳（n=59）	45.8	49.2	44.1	69.5	16.9	3.4	3.4	－
30～39 歳（n=78）	46.2	48.7	62.8	80.8	16.7	1.3	－	－
40～49 歳（n=111）	32.4	52.3	58.6	73.0	20.7	4.5	0.9	0.9
50～59 歳（n=136）	23.5	58.1	58.1	81.6	17.6	2.9	1.5	1.5
60～69 歳（n=95）	26.3	66.3	60.0	69.5	15.8	2.1	2.1	1.1
70 歳以上（n=171）	27.5	63.7	53.2	78.9	22.8	3.5	2.3	1.8

○年代別の傾向

各年代とも「安全でだれもが安心して快適に暮らせるまち」が最も多く、29 歳以下と 60 歳代、70 歳以上では「だれもが地域で健やかに暮らせるまち」が、30 歳代と 40 歳代は「水と

緑につつまれ活力あふれる賑わいのまち」が続きます。50 歳代では「だれもが地域で健やかに暮らせるまち」「水と緑につつまれ活力あふれる賑わいのまち」がそれぞれ 58.1％で続きます。

このほか、29 歳以下と 30 歳代では「育ち・学びを通じてだれもが輝けるまち」が４割台半ばから５割弱で、他の年代を 13 ポイント以上上回っています。

図表 37　進めるべきまちづくり【全体、地区別】

	育ち・学びを通じてだれもが輝けるまち	だれもが地域で健やかに暮らせるまち	水と緑につつまれ活力あふれる賑わいのまち	安全でだれもが安心して快適に暮らせるまち	みんなでつくる持続可能な市民のまち	その他	わからない	無回答
全　体（n=658）	31.2	57.6	56.7	76.4	19.0	3.0	1.7	1.2
矢野口（n=140）	33.6	59.3	55.0	75.7	17.1	4.3	1.4	－
東長沼（n=95）	38.9	52.6	58.9	69.5	13.7	6.3	2.1	1.1
大　丸（n=73）	24.7	49.3	58.9	78.1	15.1	1.4	1.4	1.4
百　村（n=41）	24.4	61.0	43.9	80.5	24.4	4.9	2.4	2.4
坂　浜（n=21）	47.6	42.9	47.6	81.0	9.5	－	9.5	－
平　尾（n=74）	28.4	60.8	56.8	78.4	20.3	－	2.7	1.4
押　立（n=30）	30.0	53.3	73.3	73.3	30.0	3.3	－	3.3
向陽台（n=67）	31.3	61.2	52.2	77.6	25.4	3.0	－	1.5
長　峰（n=23）	21.7	65.2	69.6	65.2	21.7	4.3	－	4.3
若葉台（n=85）	29.4	65.9	55.3	82.4	20.0	1.2	1.2	－

○地区別の傾向

長峰と押立を除く各地区では「安全でだれもが安心して快適に暮らせるまち」が最も多く、矢野口・百村・平尾・向陽台・若葉台では「だれもが地域で健やかに暮らせるまち」が、東長沼と大丸では「水と緑につつまれ活力あふれる賑わいのまち」が続きます。坂浜では「育ち・学びを通じてだれもが輝けるまち」「水と緑につつまれ活力あふれる賑わいのまち」がそれぞれ 47.6％で続きます。長峰では「水と緑につつまれ活力あふれる賑わいのまち」が最も多く、「だれもが地域で健やかに暮らせるまち」「安全でだれもが安心して快適に暮らせるまち」がそれぞれ 65.2％で続きます。押立では「水と緑につつまれ活力あふれる賑わいのまち」「安全でだれもが安心して快適に暮らせるまち」がそれぞれ 73.3％でともに多くなっています。

このほか、押立では「みんなでつくる持続可能な市民のまち」が３割に達しています。

【選択肢「その他」の自由記載内容】

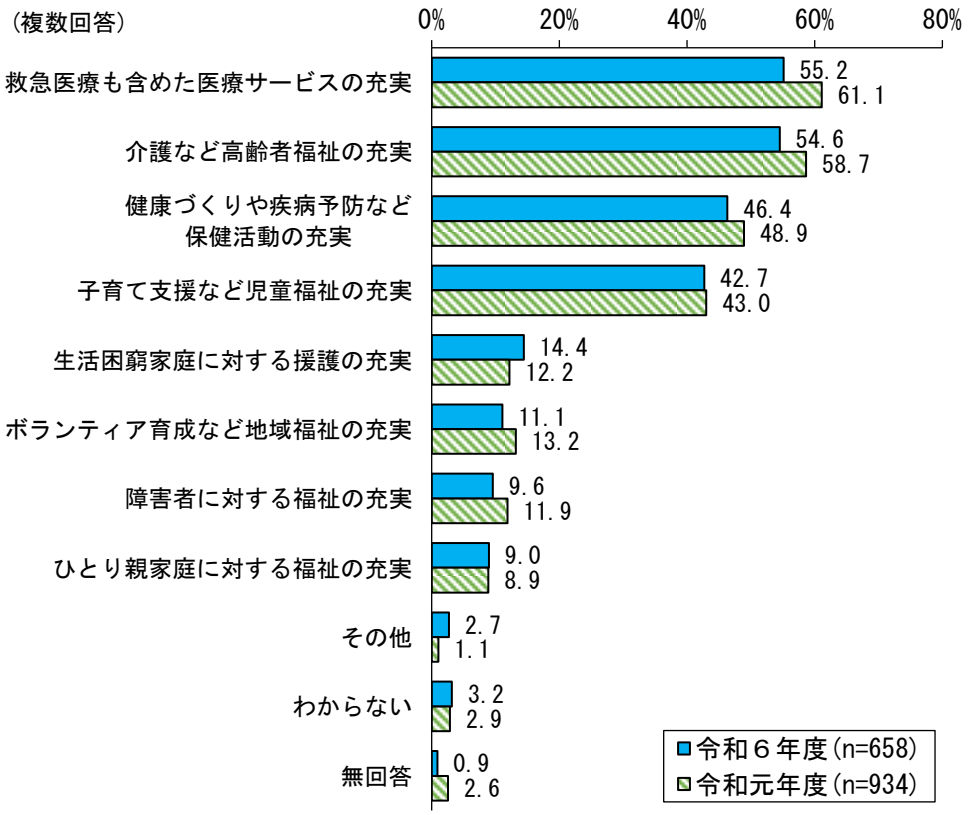
- 人々が集まれるまち。（女性・50 歳代）
- 幼児、学童を守る街。（男性・70 歳以上）
- 中高生が地元で触れ合いながら過ごせる快適なまち。（女性・70 歳以上）
- 成人した若者が留まりたくなるまち（女性・50 歳代）
- 教育（女性・50 歳代）
- 高齢者社会をしっかり考え対応をしていく。（男性・60 歳代）
- 高齢化で困らないような子育て世帯が住みたくなる街。（女性・60 歳代）
- 性別、出身、障害の有無等に違いがあっても、同等に生活できる町。（女性・70 歳以上）
- 地域経済の活性化。（女性・70 歳以上）
- 商業的ににぎわいのある街（女性・40 歳代）
- 山を削らないまち（女性・29 歳以下）
- 郷土の森公園みたいなのが欲しい。有料の公園など。（男性・40 歳代）
- 環境が良いこと。町中が綺麗。（男性・70 歳以上）
- アップダウンのない道路、広い道路。（女性・50 歳代）
- 犬も人も安全に散歩ができる街（女性・29 歳以下）
- フルーツランドというフレーズを過去に見たことがあってこれを強みにすべき。（男性・40 歳代）
- ネットサービスが充実した町。（男性・40 歳代）
- 目先の利益に囚われず、理路整然とした秩序のあるまち（男性・40 歳代）
- 厚労省の言いなりになり、コロナワクチンを推奨しない市。レプリコンワクチン反対。（男性・30 歳代）

３　今後の施策等について

問 10　健康･医療･福祉について力を入れるべき施策

健康・医療・福祉の分野について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。**（○は３つまで）**

図表 38　健康・医療・福祉について力を入れるべき施策【全体、経年比較】



○全体の傾向

「救急医療も含めた医療サービスの充実」（55.2%）、「介護など高齢者福祉の充実」（54.6%）がともに多く、「健康づくりや疾病予防など保健活動の充実」（46.4%）、「子育て支援など児童福祉の充実」（42.7%）が続きます。

○経年比較

上位４項目については、今回調査・令和元年度調査とも同様の順位となっています。令和元年度調査から今回調査にかけて、「救急医療も含めた医療サービスの充実」が５ポイント減少しています。

図表 39　健康・医療・福祉について力を入れるべき施策【全体、男女別】

	健康づくりや疾病予防など保健活動の充実	介護など高齢者福祉の充実	子育て支援など児童福祉の充実	ボランティア育成など地域福祉の充実	救急医療も含めた医療サービスの充実	障害者に対する福祉の充実	ひとり親家庭に対する福祉の充実	生活困窮家庭に対する援護の充実	その他	わからない	無回答
全体（n=658）	46.4	54.6	42.7	11.1	55.2	9.6	9.0	14.4	2.7	3.2	0.9
女性（n=350）	44.6	54.9	42.6	11.4	59.7	10.3	8.9	13.1	1.7	3.4	0.6
男性（n=294）	48.0	54.4	43.9	11.2	49.7	8.8	9.5	16.3	3.7	2.7	1.4

○男女別の傾向

女性は「救急医療も含めた医療サービスの充実」が最も多く、「介護など高齢者福祉の充実」が続きます。男性は「介護など高齢者福祉の充実」が最も多く、「救急医療も含めた医療サービスの充実」が続きます。女性の「救急医療も含めた医療サービスの充実」は男性を 10 ポイント上回っています。

図表 40　健康・医療・福祉について力を入れるべき施策【全体、年代別】

	健康づくりや疾病予防など保健活動の充実	介護など高齢者福祉の充実	子育て支援など児童福祉の充実	ボランティア育成など地域福祉の充実	救急医療も含めた医療サービスの充実	障害者に対する福祉の充実	ひとり親家庭に対する福祉の充実	生活困窮家庭に対する援護の充実	その他	わからない	無回答
全　　体（n=658）	46.4	54.6	42.7	11.1	55.2	9.6	9.0	14.4	2.7	3.2	0.9
16～29 歳（n=59）	32.2	20.3	62.7	5.1	47.5	8.5	23.7	10.2	－	10.2	－
30～39 歳（n=78）	38.5	30.8	62.8	11.5	46.2	12.8	7.7	12.8	7.7	5.1	－
40～49 歳（n=111）	50.5	42.3	56.8	7.2	58.6	9.0	4.5	9.9	3.6	0.9	1.8
50～59 歳（n=136）	56.6	63.2	35.3	13.2	56.6	9.6	6.6	13.2	1.5	1.5	0.7
60～69 歳（n=95）	40.0	64.2	34.7	16.8	46.3	11.6	6.3	15.8	6.3	3.2	2.1
70 歳以上（n=171）	48.0	73.7	28.7	11.1	62.6	7.6	11.1	20.5	－	2.3	0.6

○年代別の傾向

29 歳以下と 30 歳代では「子育て支援など児童福祉の充実」が最も多く、「救急医療も含めた医療サービスの充実」が続きます。40 歳代では「救急医療も含めた医療サービスの充実」

が最も多く、「子育て支援など児童福祉の充実」が続きます。50 歳代から 70 歳以上にかけては「介護など高齢者福祉の充実」が最も多く、60 歳代と 70 歳以上では「救急医療も含めた医療サービスの充実」が、50 歳代では「健康づくりや疾病予防など保健活動の充実」「救急医療も含めた医療サービスの充実」がそれぞれ 56.6%で続きます。

このほか、29 歳以下では「ひとり親家庭に対する福祉の充実」が 23.7%であり、他の年代を 12 ポイント以上上回っています。

幅広い世代で医療サービスの充実が重視されるとともに、比較的年代の低い世代では児童福祉の充実が、比較的年代の高い世代では高齢者福祉の充実が重視されていることがわかります。

図表 41　健康・医療・福祉について力を入れるべき施策【全体、地区別】

	健康づくりや疾病予防など保健活動の充実	介護など高齢者福祉の充実	子育て支援など児童福祉の充実	ボランティア育成など地域福祉の充実	救急医療も含めた医療サービスの充実	障害者に対する福祉の充実	ひとり親家庭に対する福祉の充実	生活困窮家庭に対する援護の充実	その他	わからない	無回答
全　体（n=658）	46.4	54.6	42.7	11.1	55.2	9.6	9.0	14.4	2.7	3.2	0.9
矢野口（n=140）	42.1	52.9	47.1	8.6	57.1	10.7	12.9	11.4	3.6	3.6	1.4
東長沼（n=95）	43.2	48.4	50.5	10.5	45.3	10.5	6.3	17.9	3.2	2.1	1.1
大　丸（n=73）	37.0	52.1	34.2	6.8	57.5	9.6	8.2	20.5	4.1	2.7	1.4
百　村（n=41）	51.2	39.0	39.0	22.0	48.8	9.8	12.2	22.0	－	7.3	－
坂　浜（n=21）	52.4	61.9	38.1	4.8	33.3	28.6	4.8	14.3	－	9.5	－
平　尾（n=74）	50.0	56.8	37.8	14.9	48.6	13.5	8.1	14.9	5.4	4.1	－
押　立（n=30）	43.3	60.0	46.7	10.0	63.3	6.7	10.0	10.0	－	6.7	3.3
向陽台（n=67）	53.7	58.2	41.8	9.0	58.2	9.0	11.9	14.9	3.0	1.5	1.5
長　峰（n=23）	52.2	65.2	47.8	8.7	52.2	8.7	－	13.0	－	－	－
若葉台（n=85）	52.9	64.7	40.0	16.5	68.2	－	7.1	9.4	1.2	－	－

○地区別の傾向

矢野口・大丸・押立・若葉台では「救急医療も含めた医療サービスの充実」が最も多く、「介護など高齢者福祉の充実」が続きます。坂浜・平尾・長峰では「介護など高齢者福祉の充実」が最も多く、坂浜と平尾では「健康づくりや疾病予防など保健活動の充実」が、長峰では「健康づくりや疾病予防など保健活動の充実」「救急医療も含めた医療サービスの充実」がそれぞれ 52.2%で続きます。東長沼では「子育て支援など児童福祉の充実」が最も多く、「介護など高齢者福祉の充実」が続きます。百村では「健康づくりや疾病予防など保健活動の充実」が最も多く、「救急医療も含めた医療サービスの充実」が続きます。向陽台では、「介護など高齢者福祉の充実」「救急医療も含めた医療サービスの充実」がそれぞれ 58.2%でともに多く

なっています。

このほか、百村では「ボランティア育成など地域福祉の充実」が 22.0%、坂浜では「障害者に対する福祉の充実」が 28.6%であり、他の地区の割合を５ポイント以上上回っています。

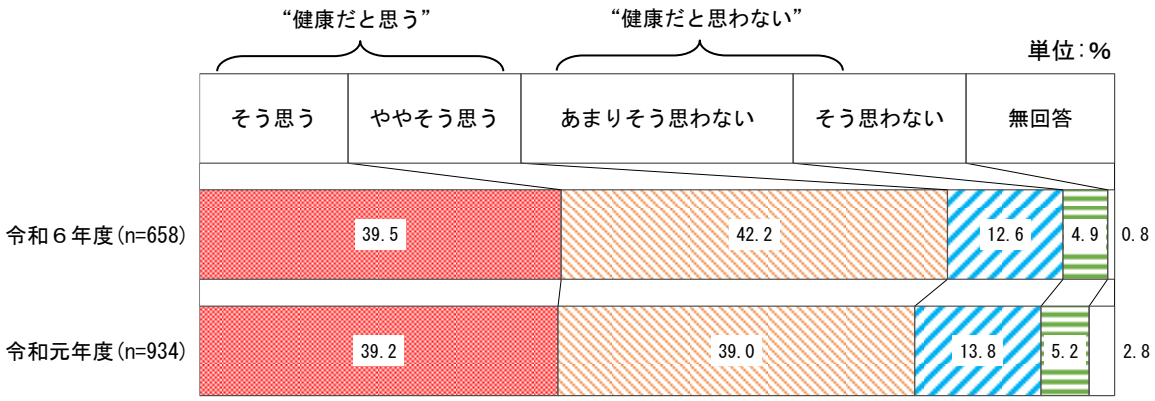
【選択肢「その他」の自由記載内容】

- 市民病院への交通が不便、バスの便は考慮してほしい。（男性・60 歳代）
- 稲城市立病院の初診料金が 2860 円から 7700 円と大幅にアップ。紹介状がないと待ち時間が長くなるなど、市民のための病院ではなくなってしまって大変残念。このようなことはやめてほしい。（男性・40 歳代）
- いつも病院が混んでいるので数を増やしてほしい。（40 歳代）
- 病院をもっと増やしてほしい。健診施設の増設。予約の簡便化。（女性・60 歳代）
- 中程度以上の病院（診療所でなく）を増やすべき。（男性・30 歳代）
- 産婦人科やクリニックの充実（男性・30 歳代）
- 稲城市立病院を使える病院にしてほしいです。特に緊急。（男性・40 歳代）
- 休日夜間の医療体制。（男性・30 歳代）
- 子育て支援と高齢者福祉の相互的なサービス。（女性・60 歳代）
- 生活保護受給者の精査が必要、介護より子育てを重視、新規開拓道路工事より既存の道路整備が先（女性・30 歳代）
- 高齢者の住まいを安くしてほしい。（男性・60 歳代）
- 1 人暮らし高齢者（身寄りがない人）の生活援助の充実。（男性・60 歳代）
- 1 人暮らしの女性の守り方。（女性・50 歳代）
- ヤングケアラーの負担軽減（女性・50 歳代）
- 共働き世帯にも暮らしやすい街づくり（女性・30 歳代）
- 不妊治療への支援充実（男性・30 歳代）
- 税金の使い方を見直してこれに力を入れたほうが良い。（男性・60 歳代）
- 全て重要だと思います。（男性・40 歳代）

問 11　心身ともに健康であるかの評価

あなたは心身ともに健康だと思いますか。（○は１つ）

図表 42　心身ともに健康であるかの評価【全体、経年比較】



○全体の傾向

「そう思う」が 39.5%、「ややそう思う」が 42.2%となっており、両者を合わせた“健康だと思う”は 81.7%です。

「あまりそう思わない」は 12.6%、「そう思わない」は 4.9%となっており、両者を合わせた“健康だと思わない”は 17.5%です。

○経年比較

令和元年度調査結果と比較して、傾向に大きな違いはありません。

○男女別の傾向

男女とも“健康だと思う”が８割強となっています。

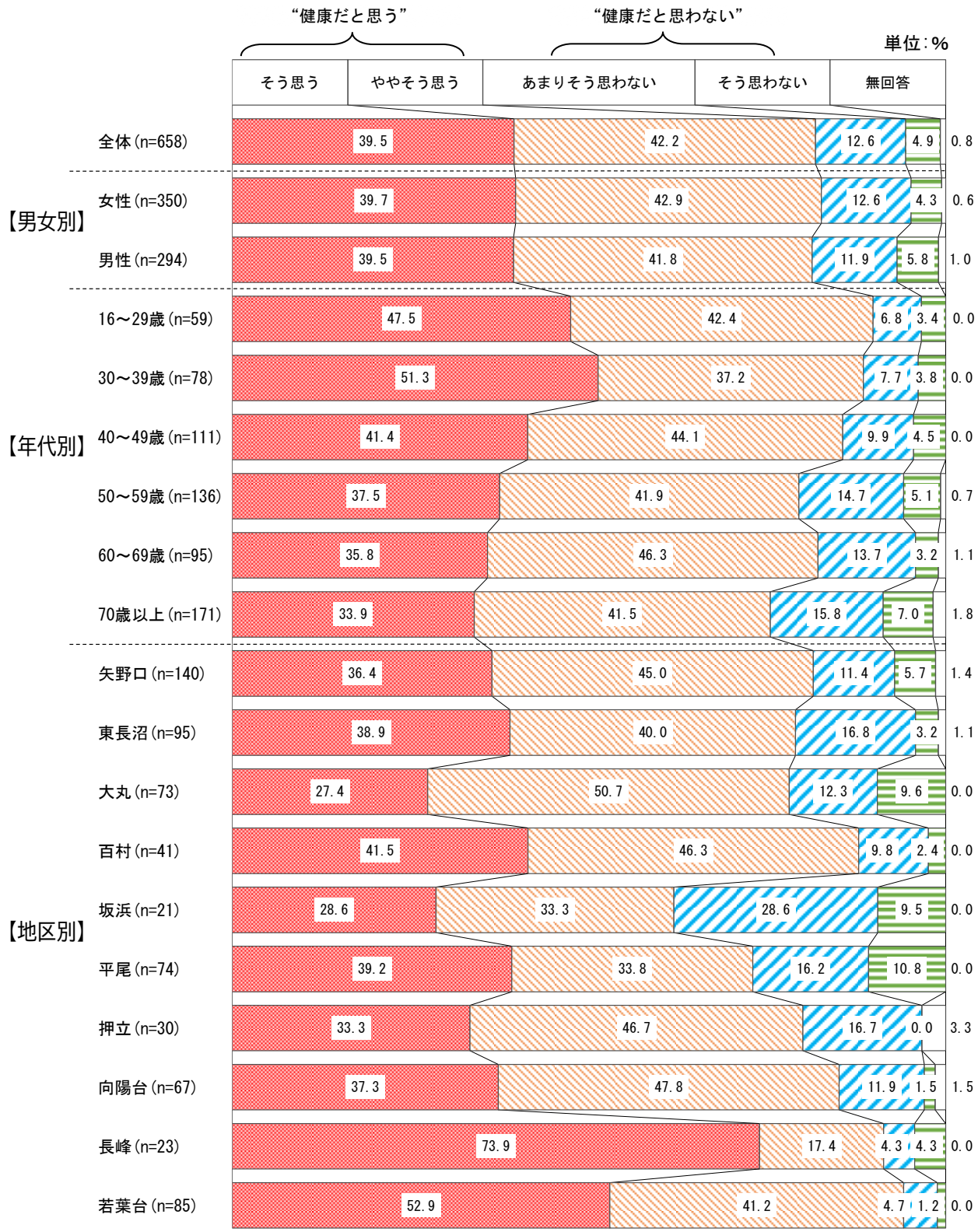
○年代別の傾向

50 歳代と 70 歳以上を除く各年代では、“健康だと思う”が８割台となっていますが、50 歳代と 70 歳以上では７割台半ばから８割弱にとどまっており、“健康だと思わない”が２割前後となっています。

○地区別の傾向

長峰と若葉台では“健康だと思う”が９割強となっているのに対し、坂浜では“健康だと思う”が 61.9%にとどまっており、“健康だと思わない”が 38.1%となっています。

図表 43　心身ともに健康であるかの評価【全体、男女別、年代別、地区別】



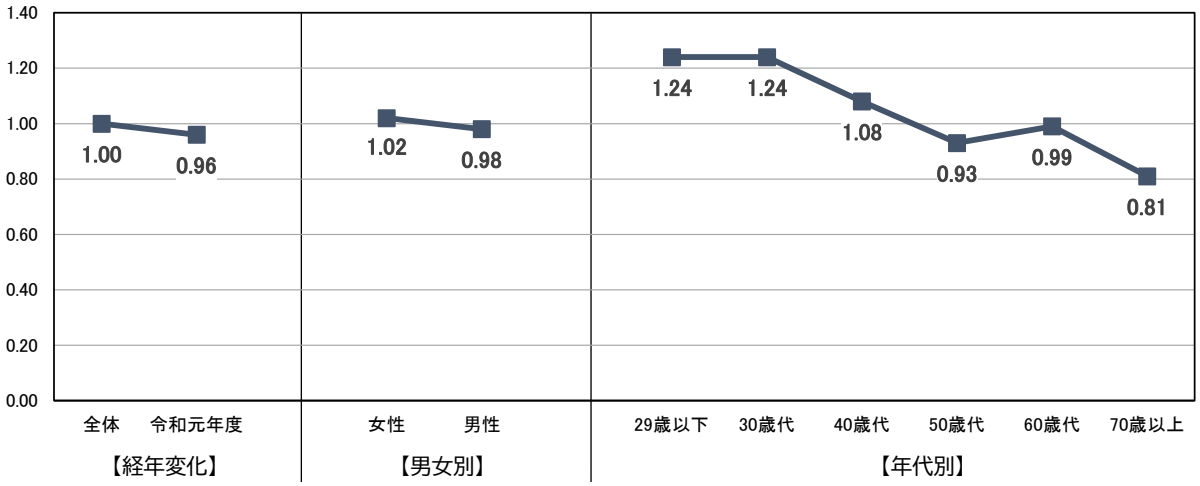
○健康感の加重平均値（得点）の状況

《加重平均値(得点)の算出方法》

「そう思う」を＋２点、「ややそう思う」を＋１点、「あまりそう思わない」を－１点、「そう思わない」を－２点として、それぞれの回答を点数に換算します。項目ごとに回答者の点数合計を算出して、その値を「無回答」を除いた回答者数で割ることにより、加重平均値（得点）を算出します。

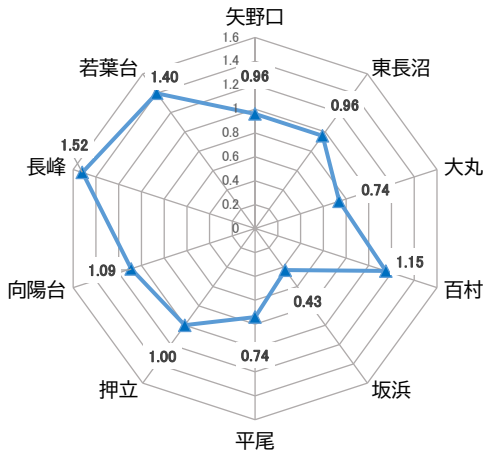
※　加重平均値（得点）は、＋２点から－２点の間に分布します。健康と感じる意識が強い場合は＋側に、健康と感じる意識が弱い場合は－側に分布されます。

図表 44　健康感の加重平均値（得点）【経年変化、男女別、年代別】



全体の値は 1.00 で、令和元年度調査の値（0.96）を上回っています。年代別に見ると、29 歳以下から 40 歳代にかけて１点台となっていますが、50 歳代から 70 歳以上にかけては１点に達していません。

図表 45　健康感の加重平均値（得点）【地区別】

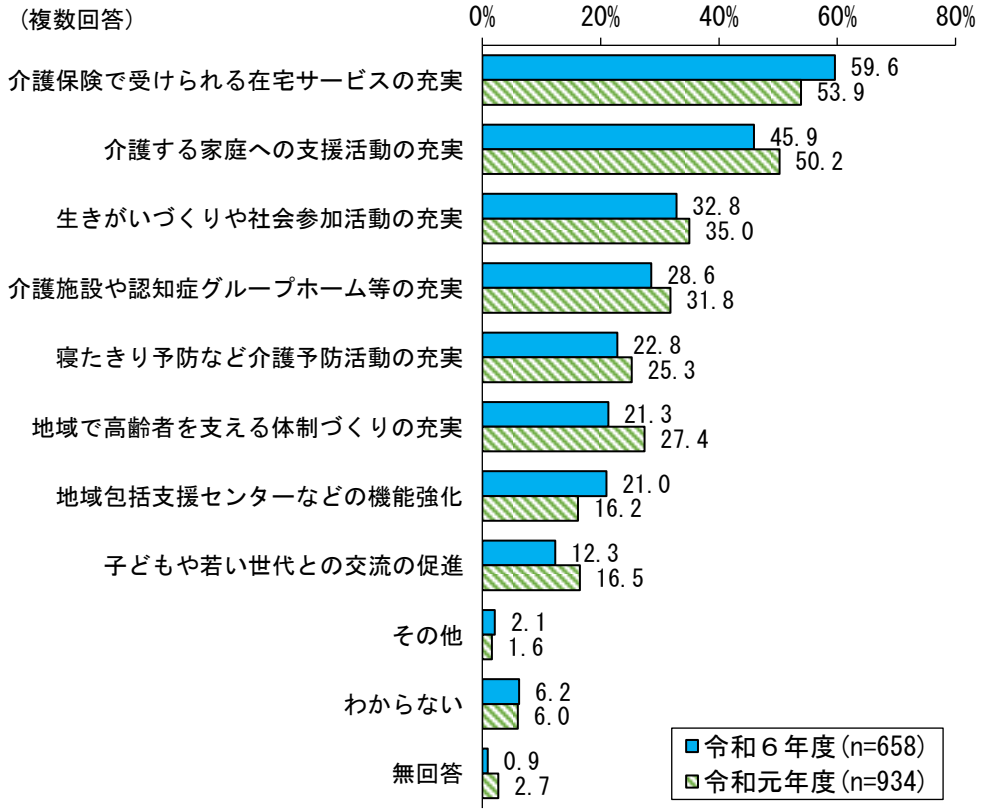


地区別に見ると、長峰（1.52）、若葉台（1.40）で 1.5 前後となっているのに対し、坂浜では 0.43 にとどまっています。

問 12　高齢者福祉について力を入れるべき施策やサービス

高齢者福祉について、今後、どのような施策やサービスに力を入れたほうがよいと思いますか。（○は３つまで）

図表 46　高齢者福祉について力を入れるべき施策やサービス【全体、経年比較】



○全体の傾向

「介護保険で受けられる在宅サービスの充実」が 59.6%で最も多く、「介護する家族への支援活動の充実」（45.9%）、「生きがいづくりや社会参加活動の充実」（32.8%）、「介護施設や認知症グループホーム等の充実」（28.6%）が続きます。

○経年比較

上位４項目については、今回調査・令和元年度調査とも同様の順位となっています。令和元年度調査から今回調査にかけて「介護保険で受けられる在宅サービスの充実」が５ポイント増加しているのに対し、「地域で高齢者を支える体制づくりの充実」が６ポイント減少しています。

図表 47　高齢者福祉について力を入れるべき施策やサービス【全体、男女別】

	介護保険で受けられる在宅サービスの充実	寝たきり予防など介護予防活動の充実	生きがいづくりや社会参加活動の充実	地域包括支援センターなどの機能強化	介護施設や認知症グループホーム等の充実	介護する家庭への支援活動の充実	地域で高齢者を支える体制づくりの充実	子どもや若い世代との交流の促進	その他	わからない	無回答
全体（n=658）	59.6	22.8	32.8	21.0	28.6	45.9	21.3	12.3	2.1	6.2	0.9
女性（n=350）	60.3	22.9	33.4	20.9	28.9	50.9	19.4	11.7	2.3	5.1	0.6
男性（n=294）	58.8	22.8	32.7	21.4	26.9	39.1	23.8	12.6	1.7	7.8	1.4

○男女別の傾向

男女とも「介護保険で受けられる在宅サービスの充実」が最も多く、「介護する家庭への支援活動の充実」が続きます。女性の「介護する家庭への支援活動の充実」は男性を 11 ポイント上回っています。

図表 48　高齢者福祉について力を入れるべき施策やサービス【全体、年代別】

	介護保険で受けられる在宅サービスの充実	寝たきり予防など介護予防活動の充実	生きがいづくりや社会参加活動の充実	地域包括支援センターなどの機能強化	介護施設や認知症グループホーム等の充実	介護する家庭への支援活動の充実	地域で高齢者を支える体制づくりの充実	子どもや若い世代との交流の促進	その他	わからない	無回答
全　　体（n=658）	59.6	22.8	32.8	21.0	28.6	45.9	21.3	12.3	2.1	6.2	0.9
16～29 歳（n=59）	32.2	22.0	42.4	15.3	28.8	45.8	6.8	20.3	1.7	13.6	－
30～39 歳（n=78）	50.0	24.4	32.1	5.1	23.1	52.6	9.0	20.5	3.8	15.4	－
40～49 歳（n=111）	55.9	23.4	30.6	18.0	28.8	49.5	16.2	16.2	1.8	9.0	－
50～59 歳（n=136）	64.7	20.6	34.6	24.3	23.5	57.4	20.6	9.6	2.2	2.9	1.5
60～69 歳（n=95）	60.0	31.6	35.8	24.2	27.4	31.6	29.5	5.3	4.2	2.1	2.1
70 歳以上（n=171）	72.5	18.7	28.7	28.1	34.5	38.0	31.0	8.8	0.6	2.9	1.2

○年代別の傾向

29 歳以下と 30 歳代では「介護する家庭への支援活動の充実」が最も多く、29 歳以下は「生きがいづくりや社会参加活動の充実」が、30 歳代は「介護保険で受けられる在宅サービスの充実」が続きます。40 歳代から 70 歳以上にかけては「介護保険で受けられる在宅サービスの充実」が最も多く、40 歳代と 50 歳代、70 歳以上では「介護する家庭への支援活動の充実」が、60 歳代では「生きがいづくりや社会参加活動の充実」が続きます。

このほか、60 歳代では「寝たきり予防など介護予防活動の充実」が 31.6%で他の年代を 7 ポイント以上上回っています。また、「地域で高齢者を支える体制づくりの充実」は年代とともに割合が増加しており、70 歳以上では 31.0%となっています。

介護保険の被保険者である 40 歳以上では、在宅サービスの充実が特に重視されている一方で、29 歳以下・30 歳代といった若年層では、高齢者を介護する家族への支援の充実が特に重視されていることがわかります。

図表 49　高齢者福祉について力を入れるべき施策やサービス【全体、地区別】

	介護保険で受けられる在宅サービスの充実	寝たきり予防など介護予防活動の充実	生きがいづくりや社会参加活動の充実	地域包括支援センターなどの機能強化	介護施設や認知症グループホーム等の充実	介護する家庭への支援活動の充実	地域で高齢者を支える体制づくりの充実	子どもや若い世代との交流の促進	その他	わからない	無回答
全　体（n=658）	59.6	22.8	32.8	21.0	28.6	45.9	21.3	12.3	2.1	6.2	0.9
矢野口（n=140）	60.0	18.6	27.9	25.0	32.1	50.7	17.9	12.9	0.7	7.1	0.7
東長沼（n=95）	63.2	21.1	29.5	27.4	18.9	49.5	13.7	13.7	2.1	6.3	1.1
大　丸（n=73）	56.2	20.5	37.0	21.9	23.3	39.7	21.9	11.0	4.1	8.2	－
百　村（n=41）	53.7	24.4	29.3	17.1	19.5	51.2	17.1	19.5	4.9	12.2	－
坂　浜（n=21）	71.4	19.0	28.6	9.5	14.3	38.1	23.8	9.5	－	14.3	－
平　尾（n=74）	47.3	17.6	36.5	20.3	31.1	37.8	31.1	13.5	2.7	9.5	1.4
押　立（n=30）	73.3	23.3	30.0	16.7	43.3	53.3	16.7	10.0	－	－	3.3
向陽台（n=67）	62.7	25.4	26.9	17.9	29.9	47.8	26.9	13.4	3.0	1.5	1.5
長　峰（n=23）	73.9	26.1	30.4	26.1	47.8	21.7	34.8	－	－	－	－
若葉台（n=85）	60.0	35.3	47.1	14.1	30.6	44.7	21.2	9.4	2.4	3.5	1.2

○地区別の傾向

各地区とも「介護保険で受けられる在宅サービスの充実」が最も多く、長峰と若葉台以外の地区では「介護する家庭への支援活動の充実」が続きます。長峰では「介護施設や認知症グループホーム等の充実」が、若葉台では「生きがいづくりや社会参加活動の充実」が続き

ます。

このほか、若葉台では「寝たきり予防など介護予防活動の充実」が 35.3％で他の地区を９ポイント以上上回っており、百村では「子どもや若い世代との交流の促進」が 19.5％で他の地区を５ポイント以上上回っています。

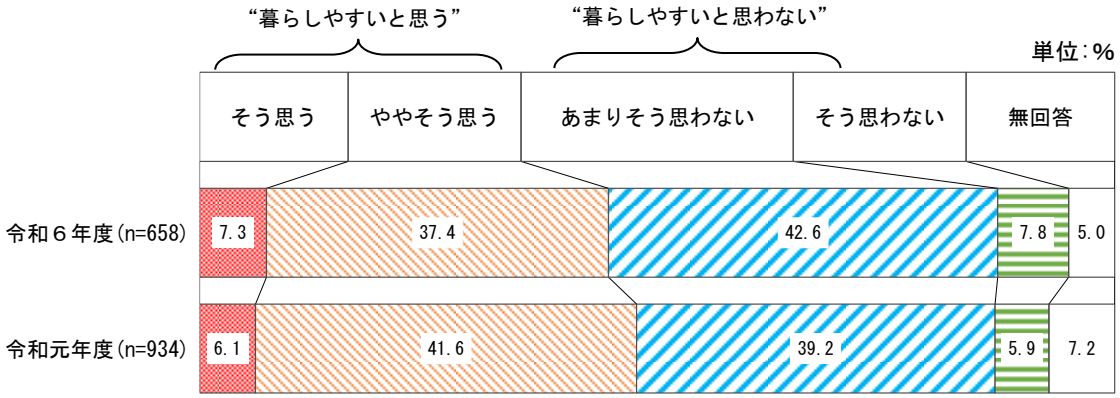
【選択肢「その他」の自由記載内容】

- 減税、住民税、介護保険料などの減税、子育て支援はあっても高齢者支援がない。税金の使い方を見直して力を入れてもらいたい。（男性・60 歳代）
- 年金で入れる介護施設の拡大、介護タクシーの充実。（女性・50 歳代）
- 2024 年介護保険制度改正。通所、訪問介護を崩壊させないための対策を。（男性・30 歳代）
- 入所希望者が多く施設数は足りてないと感じる。全国的に働いてくれる人の給与を上げないと変わらない（女性・30 歳代）
- 高齢者でも能力のある人は働ける職場がある街づくり。（女性・70 歳以上）
- 安い住宅が欲しい。（男性・60 歳代）
- できる限り自宅で暮らす為の支援の充実（女性・60 歳代）
- 高齢者が免許証がなくても住みよいまち。（女性・50 歳代）
- 徘徊高齢者対策。（男性・40 歳代）
- 平日は高齢者、夏休み、春休みなどの期間中は学生を優先させる公共施設の貸し出しやイベントの実施を常態化する。（女性・60 歳代）
- 治安の安定。介護のふりで悪さをしない信頼。（女性・50 歳代）
- その前に財政大丈夫でしょうか？（40 歳代）
- 予算が限られている以上高齢者福祉は削れるだけ削って現役世代に回していかないとじり貧になるかと存じます。高齢者福祉に回した結果現役世代に魅力がない街になってしまったら、その高齢者がいなくなったあとどうなるかご想像ください。「あなたもいつか高齢者になる」という詭弁は「別にこの市で高齢者になる必要はない」です。（男性・30 歳代）
- これ以上行う必要はない。（女性・29 歳以下）

問 13　障害者に暮らしやすいまちであるかの評価

あなたは稲城市が障害者にとって暮らしやすいまちだと思いますか。（○は１つ）

図表 50　障害者に暮らしやすいまちであるかの評価【全体、経年比較】



○全体の傾向

「そう思う」が 7.3%、「ややそう思う」が 37.4%となっており、両者を合わせた“暮らしやすいと思う”は 44.7%です。

一方、「あまりそう思わない」は 42.6%、「そう思わない」は 7.8%であり、両者を合わせた“暮らしやすいと思わない”が過半数となっています。

○経年比較

令和元年度調査では、“暮らしやすいと思う”が 47.7%、“暮らしやすいと思わない”が 45.1%となっていました。令和元年度調査から今回調査にかけて、“暮らしやすいと思わない”が５ポイント増加しています。

○男女別の傾向

男女とも“暮らしやすいと思う”が４割台、“暮らしやすいと思わない”が５割前後となっています。

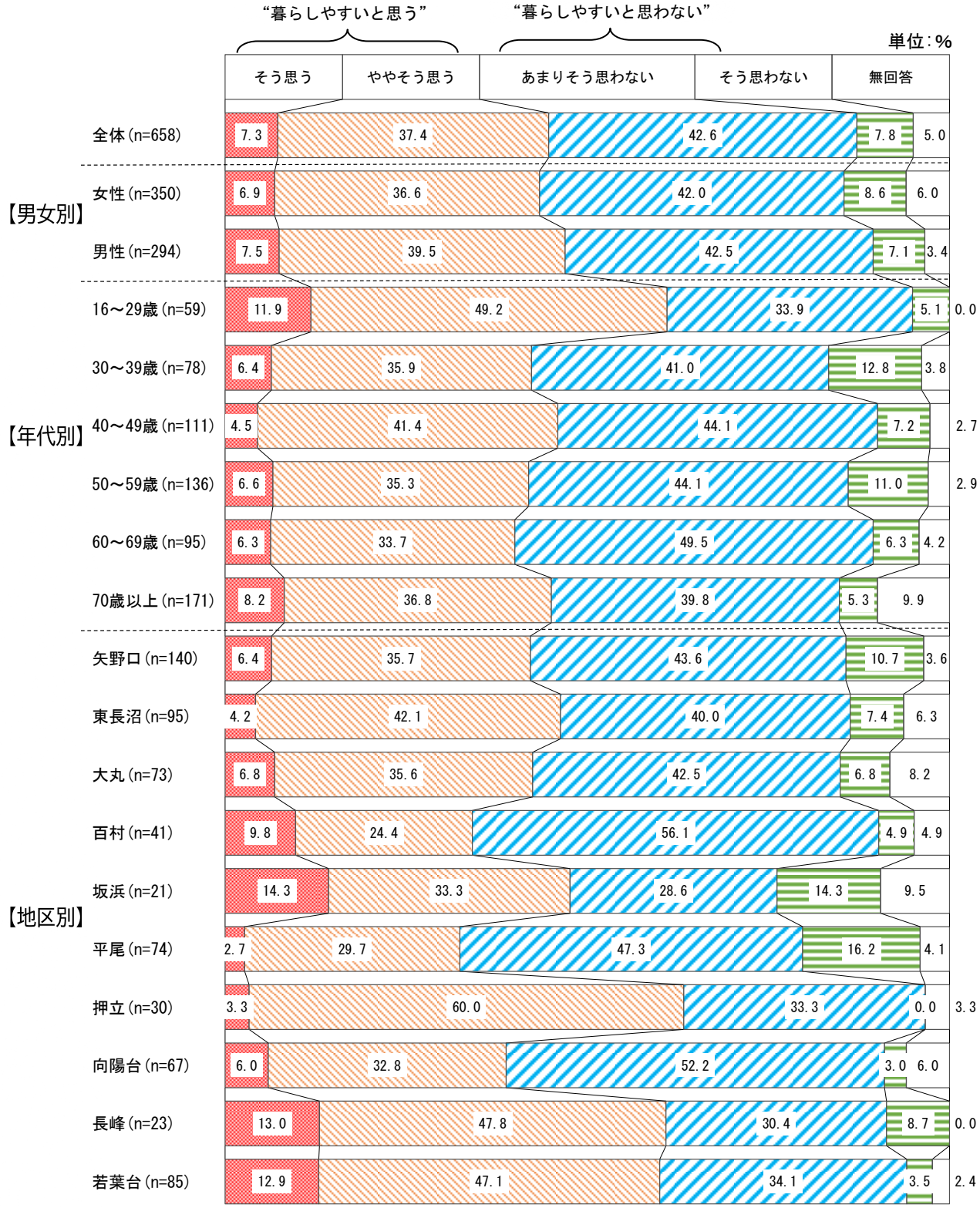
○年代別の傾向

29 歳以下では“暮らしやすいと思う”が 61.1%で“暮らしやすいと思わない”を上回っていますが、30 歳代から 60 歳代にかけては“暮らしやすいと思わない”が“暮らしやすいと思う”を上回っています。70 歳以上では、“暮らしやすいと思う”と“暮らしやすいと思わない”がそれぞれ４割台半ばとなっています。

○地区別の傾向

押立・長峰・若葉台では“暮らしやすいと思う”が６割から６割強であり、坂浜とともに“暮らしやすいと思わない”を上回っています。一方、これ以外の地区では“暮らしやすいと思わない”が“暮らしやすいと思う”を上回っており、特に百村と平尾では“暮らしやすいと思わない”が６割強となっています。

図表 51　障害者に暮らしやすいまちであるかの評価【全体、男女別、年代別、地区別】



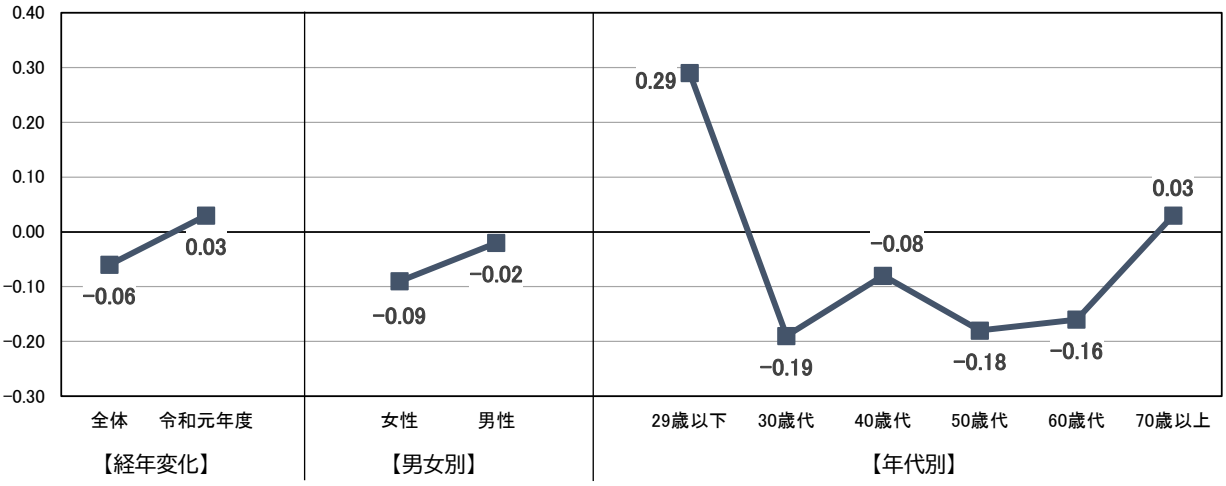
○評価の加重平均値（得点）の状況

《加重平均値(得点)の算出方法》

「そう思う」を＋２点、「ややそう思う」を＋１点、「あまりそう思わない」を－１点、「そう思わない」を－２点として、それぞれの回答を点数に換算します。項目ごとに回答者の点数合計を算出して、その値を「無回答」を除いた回答者数で割ることにより、加重平均値（得点）を算出します。

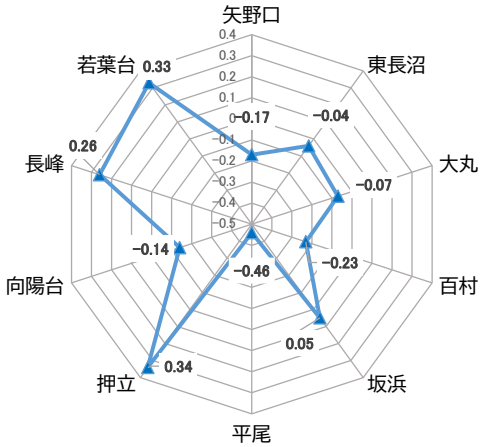
※　加重平均値（得点）は、＋２点から－２点の間に分布します。障害者に暮らしやすいまちであると感じる意識が強い場合は＋側に、意識が弱い場合は－側に分布されます。

図表 52　障害者に暮らしやすいまちであるかの評価の加重平均値（得点）【経年変化、男女別、年代別】



全体の値は-0.06 で、令和元年度調査の値（0.03）を下回りマイナスの値に転じています。年代別に見ると、29 歳以下と 70 歳以上でプラスの値となっていますが、30 歳代から 60 歳代にかけてマイナスの値となっています。

図表 53　障害者に暮らしやすいまちであるかの評価の加重平均値（得点）【地区別】

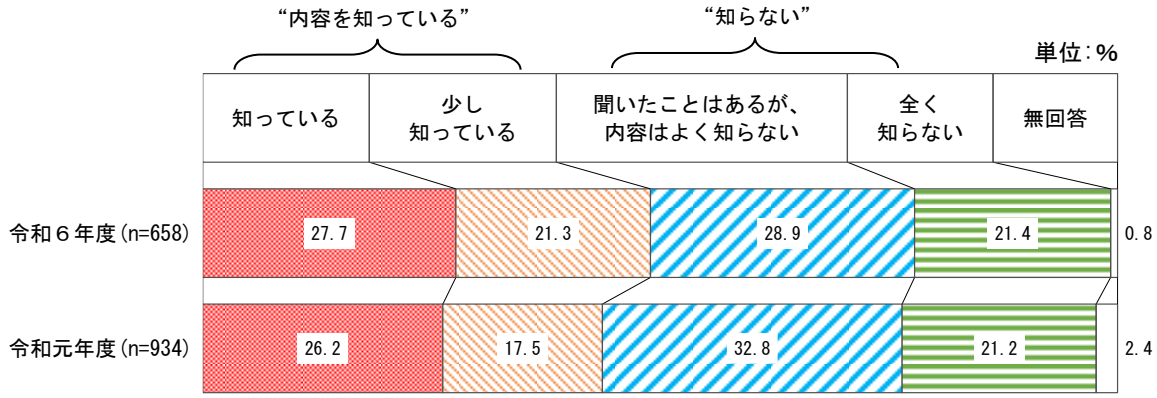


地区別に見ると、押立、若葉台、長峰、坂浜でプラスの値となっていますが、他の地区はマイナスの値となっています。

問 14　成年後見制度の認知度

あなたは「成年後見制度」を知っていますか。（○は１つ）

図表 54　成年後見制度の認知度【全体、経年比較】



○全体の傾向

「知っている」が 27.7%、「少し知っている」が 21.3%となっており、両者を合わせた“内容を知っている”は 49.0%です。

一方、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」が 28.9%、「全く知らない」が 21.4%となっており、両者を合わせた“知らない”は 50.3%です。

○経年比較

令和元年度調査では、“内容を知っている”が 43.7%、“知らない”が 54.0%となっていました。令和元年度調査から今回調査にかけて、“内容を知っている”の割合が５ポイント増加しています。

○男女別の傾向

女性は“内容を知っている”が“知らない”を上回っているのに対し、男性は“知らない”が“内容を知っている”を上回っています。

○年代別の傾向

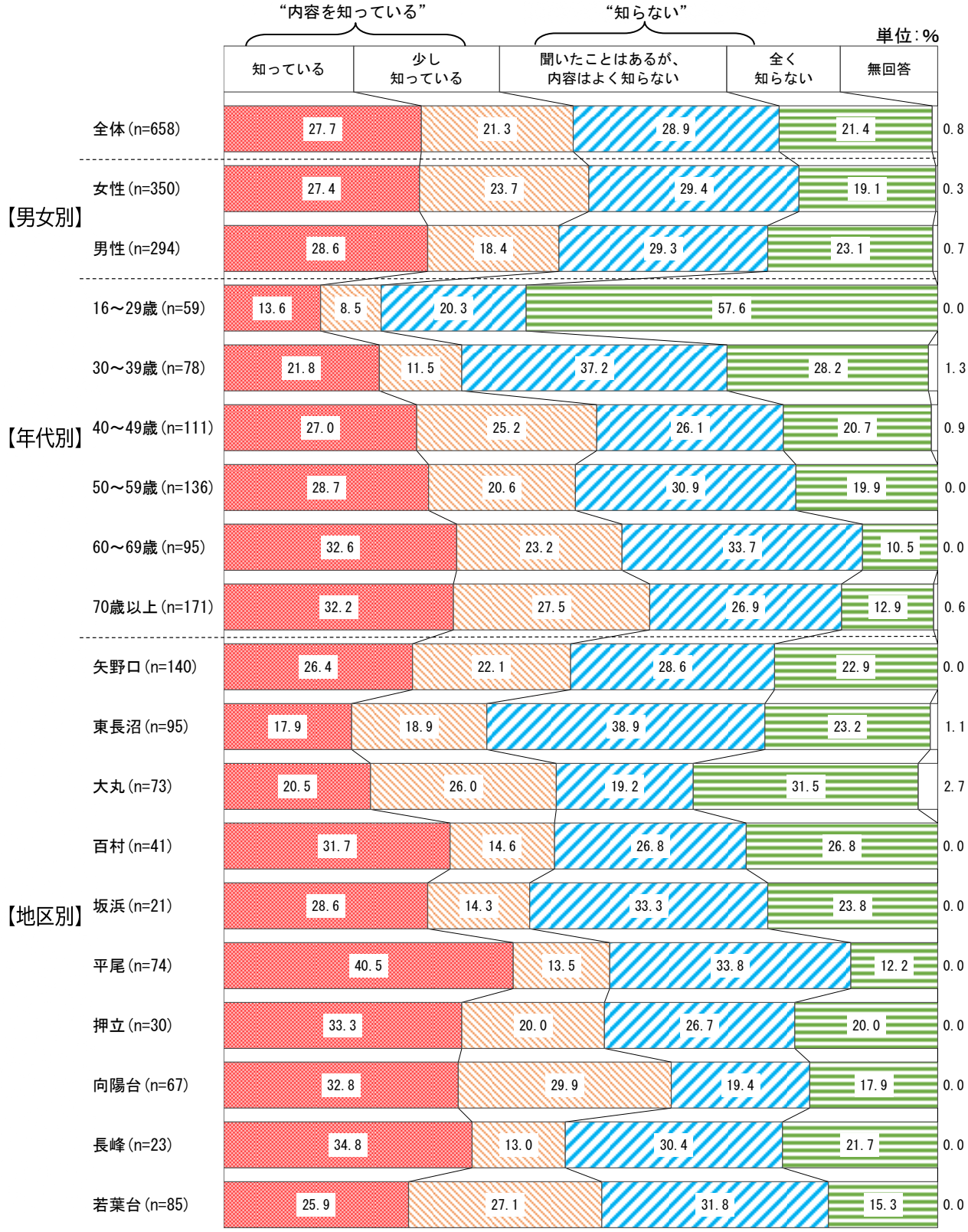
29 歳以下と 30 歳代では“知らない”が６割台半ばから８割弱であり、“内容を知っている”を大幅に上回っています。29 歳以下では「全く知らない」が 57.6%を占めています。

40 歳代と 60 歳代、70 歳以上では“内容を知っている”が５割台で“知らない”を上回っています。

○地区別の傾向

平尾・押立・向陽台・若葉台では“内容を知っている”が５割以上で“知らない”を上回っています。特に、向陽台では“内容を知っている”が 62.7%となっています。一方、これ以外の地区では“知らない”が“内容を知っている”を上回っており、特に東長沼では“知らない”が 62.1%となっています。

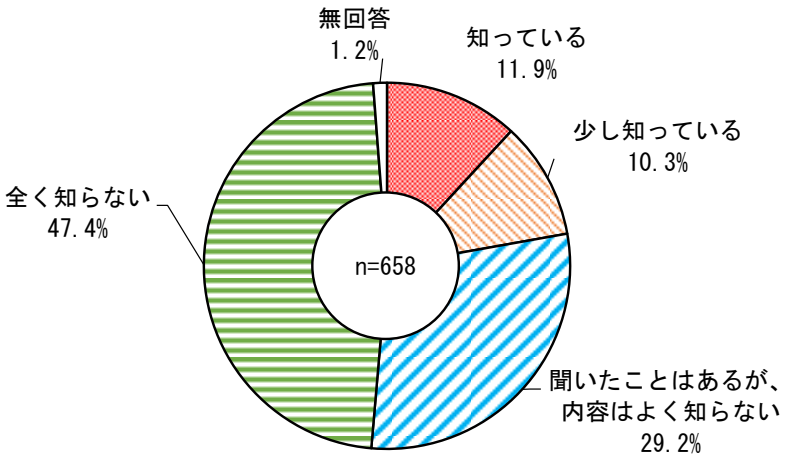
図表 55　成年後見制度の認知度【全体、男女別、年代別、地区別】



問 15　福祉くらしの総合窓口の認知度

あなたは、市役所に「福祉くらしの総合窓口」があることを知っていますか。（○は１つ）

図表 56　福祉くらしの総合窓口の認知度



○全体の傾向

「知っている」が 11.9%、「少し知っている」が 10.3%となっており、両者を合わせた“内容を知っている”は 22.2%です。

一方、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」が 29.2%、「全く知らない」が 47.4%となっており、両者を合わせた“知らない”は 76.6%です。

○男女別の傾向

男女とも“知らない”が“内容を知っている”を大幅に上回っています。

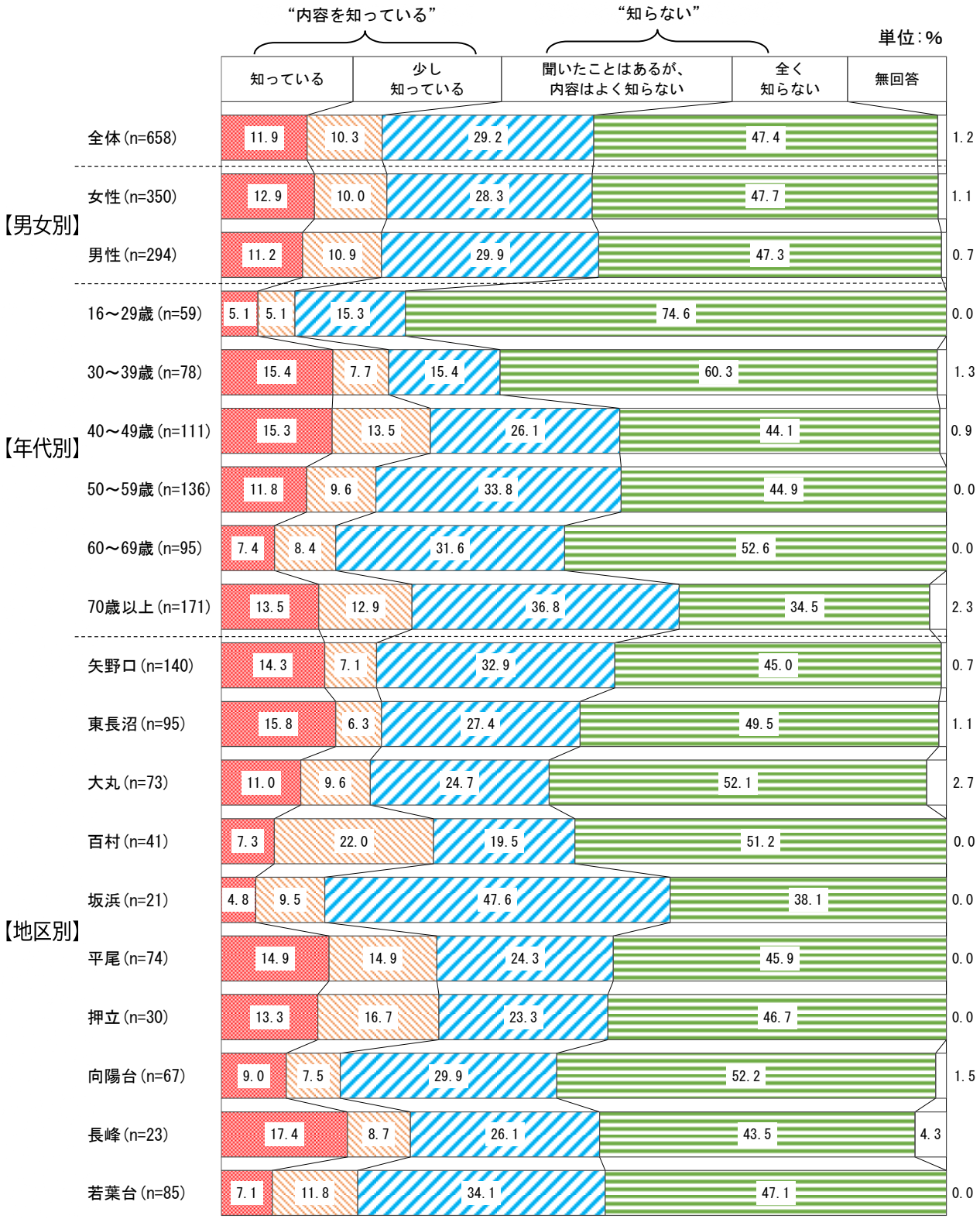
○年代別の傾向

各年代とも“知らない”が７割以上であり、29 歳以下と 70 歳以上では８割以上となっています。特に、29 歳以下では「全く知らない」が 74.6%、30 歳代では 60.3%となっています。

○地区別の傾向

各地区とも“知らない”が“内容を知っている”を上回っており、坂浜・向陽台・若葉台では“知らない”が８割台となっています。

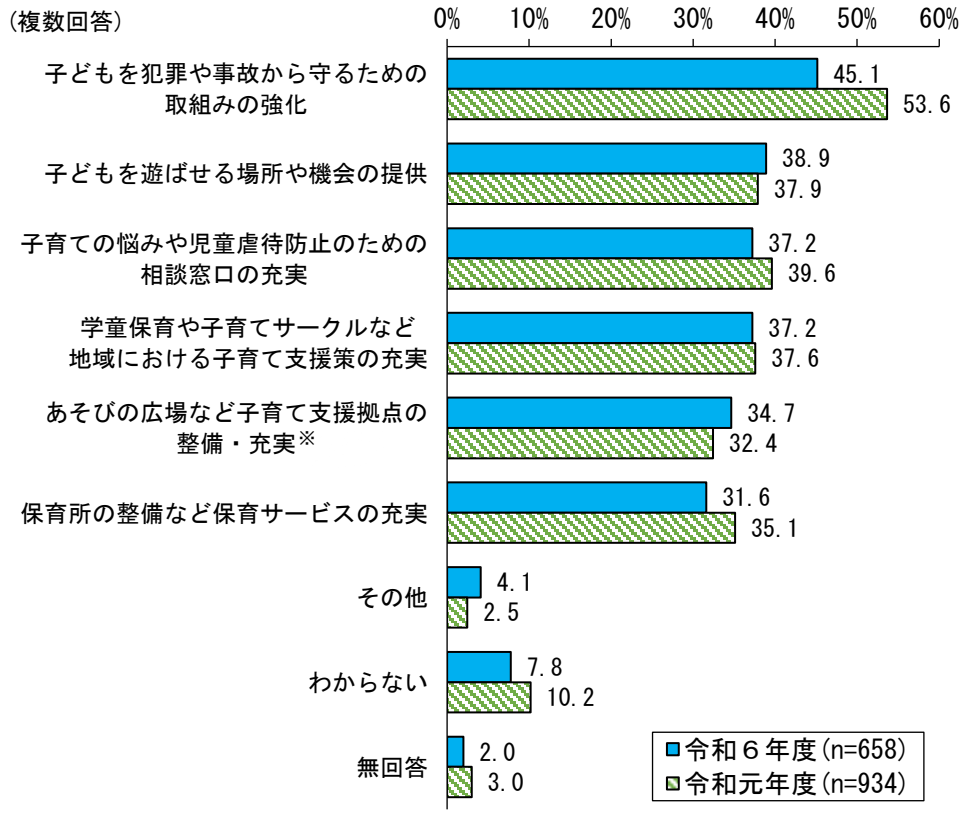
図表 57　福祉くらしの総合窓口の認知度【全体、男女別、年代別、地区別】



問 16　子育て支援について力を入れるべき施策やサービス

子育て支援について、今後、どのような施策やサービスに力を入れたほうがよいと思いますか。（○は３つまで）

図表 58　子育て支援について力を入れるべき施策やサービス【全体、経年比較】



※令和元年度調査では「子育て支援センターなど子育て支援拠点の整備・充実」

○全体の傾向

「子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化」が 45.1%で最も多く、「子どもを遊ばせる場所や機会の提供」（38.9%）、「子育ての悩みや児童虐待防止のための相談窓口の充実」「学童保育や子育てサークルなど地域における子育て支援策の充実」（それぞれ 37.2%）が続きます。

○経年比較

今回調査・前回調査とも上位４項目の組み合わせは同じです。前回調査では「子育ての悩みや児童虐待防止のための相談窓口の充実」が２番目に多い回答となっていましたが、今回調査では３番目に多い回答となっています。また、令和元年度調査から今回調査にかけて「子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化」が８ポイント減少しています。

図表 59　子育て支援について力を入れるべき施策やサービス【全体、男女別】

	あそびの広場など子育て支援拠点の整備・充実	子育ての悩みや児童虐待防止のための相談窓口の充実	子どもを遊ばせる場所や機会の提供	学童保育や子育てサークルなど地域における子育て支援策の充実	保育所の整備など保育サービスの充実	子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化	その他	わからない	無回答
全体（n=658）	34.7	37.2	38.9	37.2	31.6	**45.1**	4.1	7.8	2.0
女性（n=350）	31.7	37.7	41.1	37.7	29.4	**45.1**	4.3	8.0	2.0
男性（n=294）	39.5	36.7	37.4	37.4	34.4	**44.9**	3.4	7.5	1.4

○男女別の傾向

男女とも「子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化」が最も多く、女性は「子どもを遊ばせる場所や機会の提供」が、男性は「あそびの広場など子育て支援拠点の整備・充実」が続きます。男性の「あそびの広場など子育て支援拠点の整備・充実」は女性を７ポイント上回っています。

図表 60　子育て支援について力を入れるべき施策やサービス【全体、年代別】

	あそびの広場など子育て支援拠点の整備・充実	子育ての悩みや児童虐待防止のための相談窓口の充実	子どもを遊ばせる場所や機会の提供	学童保育や子育てサークルなど地域における子育て支援策の充実	保育所の整備など保育サービスの充実	子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化	その他	わからない	無回答
全　　体（n=658）	34.7	37.2	38.9	37.2	31.6	**45.1**	4.1	7.8	2.0
16～29 歳（n=59）	37.3	40.7	**59.3**	33.9	44.1	44.1	1.7	5.1	－
30～39 歳（n=78）	46.2	23.1	**53.8**	34.6	33.3	52.6	3.8	3.8	1.3
40～49 歳（n=111）	36.9	30.6	45.0	36.9	27.0	**47.7**	7.2	5.4	0.9
50～59 歳（n=136）	33.1	44.9	30.1	30.1	36.0	**55.1**	4.4	6.6	－
60～69 歳（n=95）	29.5	42.1	36.8	**43.2**	33.7	33.7	7.4	8.4	－
70 歳以上（n=171）	32.2	38.0	29.8	**42.1**	24.6	39.8	1.2	12.3	5.3

○年代別の傾向

29 歳以下と 30 歳代では「子どもを遊ばせる場所や機会の提供」が最も多く、29 歳以下は「保育所の整備など保育サービスの充実」「子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化」がそれぞれ 44.1%で続き、30 歳代は「子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化」が続きます。40 歳代と 50 歳代では「子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化」が最も多く、40 歳代では「子どもを遊ばせる場所や機会の提供」が、50 歳代では「子育ての悩みや児童虐待防止のための相談窓口の充実」が続きます。60 歳代と 70 歳以上では「学童保育や子育てサークルなど地域における子育て支援策の充実」が最も多く、60 歳代では「子育ての悩みや児童虐待防止のための相談窓口の充実」が、70 歳以上では「子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化」が続きます。

このほか、30 歳代では「あそびの広場など子育て支援拠点の整備・充実」が 46.2%で他の年代を８ポイント以上上回っています。

実際に子育てに携わる機会が多いと考えられる 29 歳以下・30 歳代では、子どもを遊ばせる場所や機会の充実が特に重視されているのに対し、それより上の年代では犯罪や事故から守るための取組、地域における子育て支援の充実等を特に重視しており、年代によって傾向の違いがあることがわかります。

図表 61　子育て支援について力を入れるべき施策やサービス【全体、地区別】

	あそびの広場など子育て支援拠点の整備・充実	子育ての悩みや児童虐待防止のための相談窓口の充実	子どもを遊ばせる場所や機会の提供	学童保育や子育てサークルなど地域における子育て支援策の充実	保育所の整備など保育サービスの充実	子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化	その他	わからない	無回答
全　体（n=658）	34.7	37.2	38.9	37.2	31.6	**45.1**	4.1	7.8	2.0
矢野口（n=140）	37.1	32.9	**43.6**	31.4	37.9	**43.6**	4.3	9.3	－
東長沼（n=95）	**44.2**	37.9	43.2	31.6	31.6	**44.2**	5.3	4.2	4.2
大　丸（n=73）	**41.1**	31.5	**41.1**	31.5	24.7	39.7	2.7	11.0	2.7
百　村（n=41）	22.0	43.9	31.7	31.7	29.3	**48.8**	7.3	4.9	7.3
坂　浜（n=21）	33.3	33.3	23.8	28.6	19.0	**61.9**	－	19.0	－
平　尾（n=74）	23.0	36.5	32.4	44.6	36.5	**51.4**	5.4	8.1	1.4
押　立（n=30）	33.3	30.0	40.0	**43.3**	**43.3**	40.0	3.3	6.7	3.3
向陽台（n=67）	32.8	44.8	35.8	43.3	19.4	**49.3**	3.0	9.0	－
長　峰（n=23）	43.5	43.5	39.1	**52.2**	34.8	34.8	4.3	8.7	－
若葉台（n=85）	32.9	42.4	40.0	44.7	31.8	**45.9**	2.4	3.5	－

○地区別の傾向

百村・坂浜・平尾・向陽台・若葉台の各地区では「子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化」が最も多くなっています。長峰では「学童保育や子育てサークルなど地域における子育て支援策の充実」が最も多くなっています。

矢野口では「子どもを遊ばせる場所や機会の提供」「子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化」がともに多く、東長沼では「あそびの広場など子育て支援拠点の整備・充実」「子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化」がともに多く、大丸では「あそびの広場など子育て支援拠点の整備・充実」「子どもを遊ばせる場所や機会の提供」がともに多く、押立では「学童保育や子育てサークルなど地域における子育て支援策の充実」「保育所の整備など保育サービスの充実」がともに多くなっています。

【選択肢「その他」の自由記載内容】

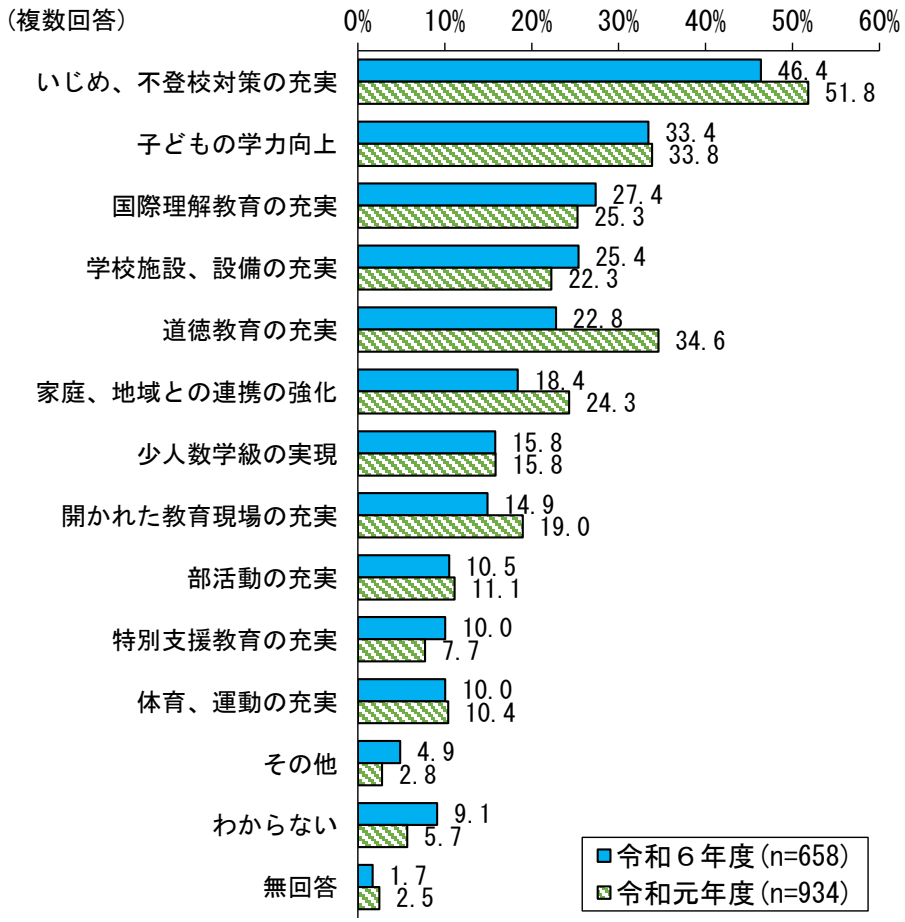
- 23 区と同レベルの補助金整備。（女性・30 歳代）
- 医療費と給食費と私立高校、私立大学の学費補助（女性・40 歳代）
- 給食費無料（女性・60 歳代）　※ほか２件
- スポーツ振興（男性・50 歳代）　※ほか１件
- 多子世帯への支援の拡大（少子化対策）。（40 歳代）
- 子育て世帯の経済的な援助（男性・40 歳代）
- ヤングケアラー、フードバンク。（男性・30 歳代）
- 道徳教育を学校と連携して考える。（男性・60 歳代）
- 教員への教育（様々な生徒への対応、配慮、保護者との接し方）。（女性・50 歳代）
- 「子育て」の中心が母ではない町づくりの強化。母父とかではなく、周りの大人、みんなで「子育て」をする町づくり。（女性・70 歳以上）
- 母親が子どもが小さいうちはゆっくりと寄り添える社会（女性・50 歳代）
- 食育に関するサービスや無農薬野菜への理解を親も含め、伝える取り組み。（女性・40 歳代）
- 保育施設などへの保しょう強化、公立小中高への資金投入。（男性・30 歳代）
- 保育園ごとに特色があると思う。外散歩なし（GW あたりから）。プールなしの保育園があると聞くとそれはあまりにもかわいそう。もう少し格差をなくしたほうが良い。（女性・50 歳代）
- 夏休み学校のプールで水泳教室など学童に行っていても参加できるイベントを増やしてほしい。学童降所してからでないと何もできないので。（女性・40 歳代）
- 中高生の放課後や休日等に過ごせる施設の充実。（女性・70 歳以上）
- 保育士等の給与アップ。（男性・50 歳代）　※ほか１件
- 防犯カメラの充実。（女性・50 歳代）
- IOT による子どもの安全を守る取り組みの強化。（男性・40 歳代）
- 自然をなくさない。（女性・60 歳代）
- 施策やサービスは時間がかかるために少しずつ良い方向へ、時代と共に変化する。（男性・60 歳代）
- 問題のある項目を知りたい（40 歳代）
- 今が、分からないから答えられない（女性・60 歳代）

問 17　学校教育について力を入れるべき施策

学校教育について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。

（○は３つまで）

図表 62　学校教育について力を入れるべき施策やサービス【全体、経年比較】



○全体の傾向

「いじめ、不登校対策の充実」が 46.4%で最も多く、「子どもの学力向上」（33.4%）、「国際理解教育の充実」（27.4%）、「学校施設、設備の充実」（25.4%）が続きます。

○経年比較

令和元年度調査では「道徳教育の充実」（34.6%）が「いじめ・不登校対策の充実」に次いで多い回答となっていましたが、令和元年度調査から今回調査にかけて 11 ポイント減少し、今回調査では５番目に多い回答となっています。このほか、令和元年度調査から今回調査にかけて「家庭、地域との連携の強化」「いじめ、不登校対策の充実」がそれぞれ５ポイント減少しています。

図表 63　学校教育について力を入れるべき施策やサービス【全体、男女別】

	子どもの学力向上	国際理解教育の充実	いじめ、不登校対策の充実	部活動の充実	家庭、地域との連携の強化	特別支援教育の充実	少人数学級の実現	道徳教育の充実	体育、運動の充実	開かれた教育現場の充実	学校施設、設備の充実	その他	わからない	無回答
全体（n=658）	33.4	27.4	46.4	10.5	18.4	10.0	15.8	22.8	10.0	14.9	25.4	4.9	9.1	1.7
女性（n=350）	33.7	24.9	45.4	11.1	19.4	11.4	19.4	18.9	8.9	11.4	27.4	5.1	9.4	1.7
男性（n=294）	33.0	30.3	47.6	9.5	17.7	7.5	11.9	28.2	11.2	18.4	23.5	4.4	9.2	1.0

○男女別の傾向

男女とも「いじめ、不登校対策の充実」が最も多く、「子どもの学力向上」が続きます。女性の「少人数学級の実現」は男性を７ポイント上回っているのに対し、男性の「道徳教育の充実」「開かれた教育現場の充実」「国際理解教育の充実」は女性を５ポイント以上上回っています。

図表 64　学校教育について力を入れるべき施策やサービス【全体、年代別】

	子どもの学力向上	国際理解教育の充実	いじめ、不登校対策の充実	部活動の充実	家庭、地域との連携の強化	特別支援教育の充実	少人数学級の実現	道徳教育の充実	体育、運動の充実	開かれた教育現場の充実	学校施設、設備の充実	その他	わからない	無回答
全　　体（n=658）	33.4	27.4	46.4	10.5	18.4	10.0	15.8	22.8	10.0	14.9	25.4	4.9	9.1	1.7
16～29 歳（n=59）	33.9	25.4	57.6	11.9	18.6	10.2	13.6	18.6	15.3	16.9	35.6	5.1	3.4	－
30～39 歳（n=78）	47.4	35.9	39.7	12.8	10.3	5.1	15.4	17.9	15.4	14.1	30.8	5.1	6.4	1.3
40～49 歳（n=111）	36.0	28.8	36.0	17.1	16.2	13.5	18.9	21.6	12.6	13.5	36.0	5.4	5.4	0.9
50～59 歳（n=136）	35.3	26.5	47.8	9.6	18.4	10.3	13.2	23.5	2.2	12.5	23.5	6.6	12.5	0.7
60～69 歳（n=95）	33.7	31.6	49.5	5.3	14.7	4.2	18.9	30.5	9.5	14.7	16.8	8.4	8.4	－
70 歳以上（n=171）	23.4	22.2	49.7	8.8	25.7	12.3	15.2	22.8	9.9	16.4	19.3	1.2	12.9	3.5

○年代別の傾向

29 歳以下・50 歳代から 70 歳以上にかけて「いじめ、不登校対策の充実」が最も多く、29 歳以下は「学校施設、設備の充実」が、50 歳代と 60 歳代は「子どもの学力向上」が、70 歳以上は「家庭、地域との連携の強化」が続きます。30 歳代では「子どもの学力向上」が最も多く、「いじめ、不登校対策の充実」が続きます。40 歳代では「子どもの学力向上」「いじめ、

不登校対策の充実」「学校施設、設備の充実」がそれぞれ 36.0％で並んでいます。

このほか、60 歳代では「道徳教育の充実」が 30.5％で他の年代を７ポイント以上上回っています。

年代を問わずいじめ・不登校対策の充実が重視されており、加えて実際に回答者の子どもが学齢期にある人が多いと思われる 30 歳代と 40 歳代では、子どもの学力向上が重視されていることがわかります。

図表 65　学校教育について力を入れるべき施策やサービス【全体、地区別】

	子どもの学力向上	国際理解教育の充実	いじめ、不登校対策の充実	部活動の充実	家庭、地域との連携の強化	特別支援教育の充実	少人数学級の実現	道徳教育の充実	体育、運動の充実	開かれた教育現場の充実	学校施設、設備の充実	その他	わからない	無回答
全　体（n=658）	33.4	27.4	46.4	10.5	18.4	10.0	15.8	22.8	10.0	14.9	25.4	4.9	9.1	1.7
矢野口（n=140）	31.4	21.4	48.6	13.6	19.3	10.0	15.7	22.9	16.4	16.4	27.9	6.4	7.9	1.4
東長沼（n=95）	28.4	35.8	38.9	11.6	14.7	15.8	17.9	27.4	7.4	14.7	25.3	6.3	5.3	2.1
大　丸（n=73）	35.6	24.7	43.8	8.2	21.9	6.8	9.6	21.9	5.5	11.0	23.3	2.7	15.1	2.7
百　村（n=41）	26.8	14.6	61.0	7.3	14.6	12.2	12.2	19.5	9.8	12.2	22.0	12.2	4.9	2.4
坂　浜（n=21）	38.1	23.8	47.6	9.5	14.3	9.5	14.3	9.5	－	9.5	33.3	－	23.8	－
平　尾（n=74）	36.5	24.3	41.9	10.8	21.6	9.5	18.9	23.0	6.8	9.5	29.7	4.1	10.8	1.4
押　立（n=30）	43.3	16.7	50.0	10.0	26.7	13.3	20.0	6.7	6.7	20.0	23.3	3.3	13.3	－
向陽台（n=67）	26.9	29.9	50.7	9.0	19.4	7.5	17.9	19.4	13.4	23.9	25.4	4.5	9.0	1.5
長　峰（n=23）	34.8	52.2	56.5	13.0	13.0	13.0	13.0	26.1	13.0	8.7	4.3	－	8.7	－
若葉台（n=85）	41.2	36.5	43.5	9.4	16.5	4.7	15.3	30.6	8.2	12.9	27.1	3.5	7.1	－

○地区別の傾向

各地区とも「いじめ、不登校対策の充実」が最も多く、東長沼・向陽台・長峰を除く各地区では「子どもの学力向上」が続きます。東長沼・向陽台・長峰では「国際理解教育の充実」が続きます。

このほか、坂浜では「学校施設、設備の充実」が、若葉台では「道徳教育の充実」が３割に達しています。

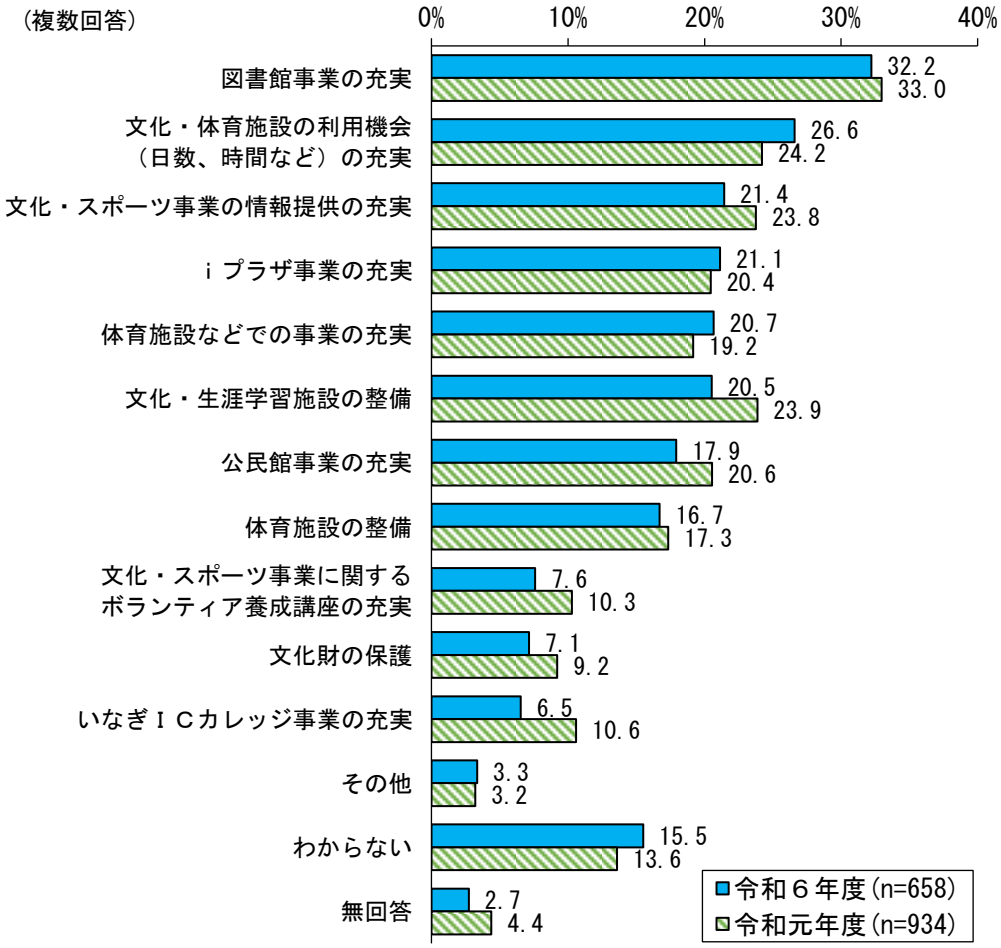
【選択肢「その他」の自由記載内容】

- 人を育てるのであるから環境を整える。公共教育では給食の無償化をするべきです。（女性・60歳代）　※ほか１件
- 給食の改善（女性・40 歳代）
- 政治教育の強化、給食の充実。（女性・30 歳代）
- 主権者教育の充実。（男性・60 歳代）　※ほか１件
- 教員の職場環境の改善（男性・40 歳代）
- 教員の負担軽減（女性・29 歳以下）　※ほか１件
- 先生に全般的な余裕を。そうすれば子どもたちに余裕を持った対応が可能になるのでは。（女性・60 歳代）
- 教職員の増加。（女性・60 歳代）
- 学校の先生の教育、指導。（女性・50 歳代）
- 教員の負担削減、教員の質向上。（女性・30 歳代）
- 教師や指導員の質の向上（男性・29 歳以下）　※ほか１件
- 個性や学力差を受容する教育内容。（女性・70 歳以上）
- 個性の受け入れ、差別化しない教育。（女性・50 歳代）
- 日本のマスコミは偏った伝え方をする。自力で情報を取り、正しく判断できる力を育ててほしい。日本の伝統文化を守る教育。（女性・60 歳代）
- 正しい日本史の教育、職業等の社会を知る（男性・50 歳代）
- 学びが好きになること。（女性・29 歳以下）
- なぜ学ぶのか、その理由を考えさせて子ども自らが主体的に取り組めるような環境の実現（女性・50 歳代）
- 従来の暗記を基準とした勉学脱却し、応用性を養える教育（男性・30 歳代）
- 子供の理解力の向上（学力とは別）（女性・50 歳代）
- ネット社会の取り組みの充実。（男性・40 歳代）
- 美術など文化的な教育の充実（男性・40 歳代）
- 資産運用などの金融系の教育を外部委託で進めるべき。（40 歳代）
- 既存教育方法にとらわれないより良い教育の模索（男性・60 歳代）
- 親の経済的な平等教育と資本主義。（男性・60 歳代）
- 学童のあらゆる悩みによる避難所的な場所を設けた方がいい。学校内でも外でもいい。（女性・30 歳代）
- 越境制度。（男性・50 歳代）

問 18　生涯学習について力を入れるべき施策やサービス

生涯学習（文化・スポーツ事業）について、今後、どのような施策やサービスに力を入れたほうがよいと思いますか。**（○は３つまで）**

図表 66　生涯学習について力を入れるべき施策やサービス【全体、経年比較】



○全体の傾向

「図書館事業の充実」が 32.2%で最も多く、「文化・体育施設での利用機会（日数、時間など）の充実」（26.6%）、「文化・スポーツ事業の情報提供の充実」（21.4%）、「ｉプラザ事業の充実」（21.1%）が続きます。

○経年比較

上位２項目については、今回調査・令和元年度調査とも同様の順位となっています。令和元年度調査では「文化・生涯学習施設の整備」（23.9%）が３番目に多い回答となっていましたが、今回調査では６番目に多い回答となっています。

図表 67　生涯学習について力を入れるべき施策やサービス【全体、男女別】

	公民館事業の充実	ｉプラザ事業の充実	体育施設などでの事業の充実	文化・体育施設の利用機会（日数、時間など）の充実	文化財の保護	体育施設の整備	いなぎＩＣカレッジ事業の充実	図書館事業の充実	文化・スポーツ事業の情報提供の充実	文化・スポーツ事業に関するボランティア養成講座の充実	文化・生涯学習施設の整備	その他	わからない	無回答
全体（n=658）	17.9	21.1	20.7	26.6	7.1	16.7	6.5	32.2	21.4	7.6	20.5	3.3	15.5	2.7
女性（n=350）	20.3	19.1	19.1	24.9	6.6	14.0	6.9	31.4	19.1	5.7	20.3	2.6	18.0	2.6
男性（n=294）	16.0	23.5	22.8	28.6	8.2	20.4	5.8	33.7	23.8	10.2	19.7	4.1	12.9	2.0

○男女別の傾向

男女とも「図書館事業の充実」が最も多く、「文化・体育施設での利用機会（日数、時間など）の充実」が続きます。男性の「体育施設の整備」は女性を６ポイント上回っています。

図表 68　生涯学習について力を入れるべき施策やサービス【全体、年代別】

	公民館事業の充実	ｉプラザ事業の充実	体育施設などでの事業の充実	文化・体育施設の利用機会（日数、時間など）の充実	文化財の保護	体育施設の整備	いなぎＩＣカレッジ事業の充実	図書館事業の充実	文化・スポーツ事業の情報提供の充実	文化・スポーツ事業に関するボランティア養成講座の充実	文化・生涯学習施設の整備	その他	わからない	無回答
全　　体（n=658）	17.9	21.1	20.7	26.6	7.1	16.7	6.5	32.2	21.4	7.6	20.5	3.3	15.5	2.7
16～29 歳（n=59）	20.3	13.6	28.8	30.5	13.6	16.9	－	35.6	23.7	3.4	16.9	1.7	16.9	－
30～39 歳（n=78）	12.8	21.8	23.1	25.6	7.7	24.4	1.3	48.7	15.4	3.8	21.8	6.4	10.3	2.6
40～49 歳（n=111）	18.9	26.1	18.0	27.9	9.0	22.5	5.4	34.2	24.3	2.7	17.1	1.8	10.8	3.6
50～59 歳（n=136）	13.2	23.5	22.8	22.8	5.1	16.9	11.8	33.8	14.0	10.3	19.9	5.1	16.9	0.7
60～69 歳（n=95）	24.2	26.3	16.8	27.4	5.3	12.6	7.4	31.6	29.5	8.4	17.9	4.2	14.7	－
70 歳以上（n=171）	19.9	15.8	19.3	26.9	6.4	12.3	7.0	22.2	23.4	11.7	24.0	1.8	19.9	4.7

○年代別の傾向

70 歳以上を除く各年代とも「図書館事業の充実」が最も多く、29 歳以下から 40 歳代では「文化・体育施設での利用機会（日数、時間など）の充実」が、50 歳代では「ｉプラザ事業の充実」が、60 歳代では「文化・スポーツ事業の情報提供の充実」が続きます。70 歳以上では「文化・体育施設での利用機会（日数、時間など）の充実」が最も多く、「文化・生涯学習

施設の整備」が続きます。

このほか、29 歳以下では「体育施設などでの事業の充実」が 28.8%で他の年代を５ポイント以上上回っています。

図表 69　生涯学習について力を入れるべき施策やサービス【全体、地区別】

	公民館事業の充実	iプラザ事業の充実	体育施設などでの事業の充実	文化・体育施設の利用機会（日数、時間など）の充実	文化財の保護	体育施設の整備	いなぎICカレッジ事業の充実	図書館事業の充実	文化・スポーツ事業の情報提供の充実	文化・スポーツ事業に関するボランティア養成講座の充実	文化・生涯学習施設の整備	その他	わからない	無回答
全　体（n=658）	17.9	21.1	20.7	26.6	7.1	16.7	6.5	32.2	21.4	7.6	20.5	3.3	15.5	2.7
矢野口（n=140）	20.0	10.7	27.9	27.1	5.7	21.4	3.6	29.3	25.0	7.1	20.0	2.9	18.6	1.4
東長沼（n=95）	21.1	15.8	15.8	17.9	12.6	23.2	8.4	42.1	22.1	5.3	25.3	1.1	12.6	2.1
大　丸（n=73）	15.1	9.6	17.8	21.9	15.1	12.3	4.1	23.3	16.4	9.6	15.1	4.1	24.7	4.1
百　村（n=41）	29.3	17.1	17.1	34.1	7.3	17.1	－	34.1	17.1	9.8	7.3	7.3	17.1	4.9
坂　浜（n=21）	14.3	19.0	33.3	28.6	－	19.0	4.8	33.3	19.0	4.8	23.8	－	19.0	－
平　尾（n=74）	14.9	27.0	14.9	23.0	4.1	13.5	6.8	31.1	17.6	8.1	20.3	5.4	18.9	4.1
押　立（n=30）	16.7	10.0	30.0	26.7	3.3	23.3	3.3	30.0	30.0	13.3	30.0	－	13.3	－
向陽台（n=67）	17.9	14.9	17.9	43.3	6.0	7.5	9.0	38.8	23.9	7.5	22.4	4.5	10.4	1.5
長　峰（n=23）	21.7	47.8	30.4	34.8	4.3	13.0	4.3	43.5	17.4	8.7	13.0	4.3	4.3	4.3
若葉台（n=85）	12.9	54.1	17.6	21.2	4.7	14.1	12.9	28.2	22.4	7.1	21.2	3.5	9.4	1.2

○地区別の傾向

矢野口・東長沼・平尾の各地区では「図書館事業の充実」が最も多く、矢野口では「体育施設などでの事業の充実」が、東長沼では「文化・生涯学習施設の整備」が、平尾では「ｉプラザ事業の充実」が続きます。長峰と若葉台では「ｉプラザ事業の充実」が最も多く、「図書館事業の充実」が続きます。大丸では「わからない」が最も多く、「図書館事業の充実」が続きます。向陽台では「文化・体育施設の利用機会（日数、時間など）の充実」が最も多く、「図書館事業の充実」が続きます。

百村では「文化・体育施設の利用機会（日数、時間など）の充実」「図書館事業の充実」がともに多く、坂浜では「体育施設などでの事業の充実」「図書館事業の充実」がともに多く、押立では「体育施設などでの事業の充実」「図書館事業の充実」「文化・スポーツ事業の情報提供の充実」「文化・生涯学習施設の整備」がともに多くなっています。

このほか、百村では「公民館事業の充実」が 29.3%であり、他の地区を７ポイント以上上回っています。

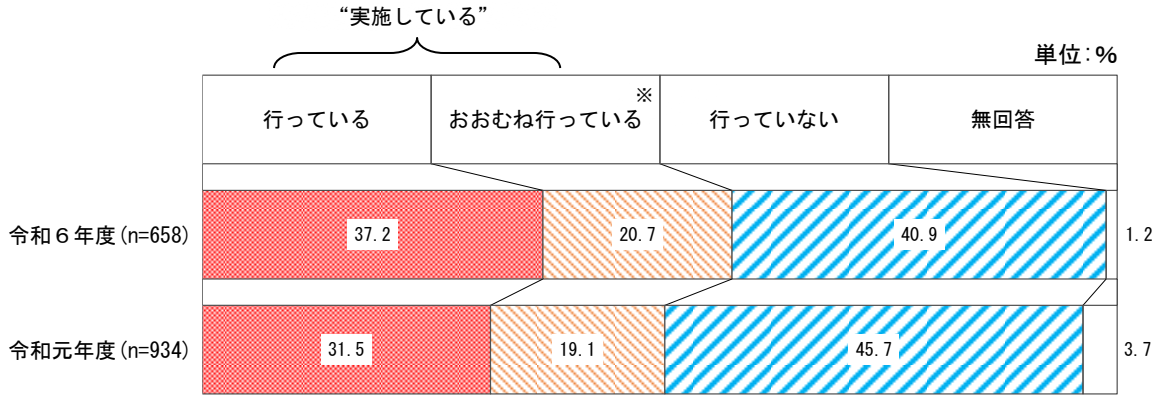
【選択肢「その他」の自由記載内容】

- 農家の方との触れ合い、支援事業。（女性・50 歳代）
- ネット配信の拡充。（男性・40 歳代）
- 公立学校の保育施設を利用しての中高年者向けのスポーツ促進。テニス、バドミントン、卓球などのイベント。（女性・60 歳代）
- 図書館内での無料塾。（男性・30 歳代）
- 文化財をボロボロのままただ保護するのではなく、今生きている私たちが活用することで文化財自体が輝けるような方法を実現する（女性・50 歳代）
- 東京ヴェルディとの連携強化（男性・29 歳以下）
- プロスポーツ選手や著名人との交流（男性・50 歳代）
- プロによるパフォーマンス招聘（女性・50 歳代）
- 将棋の街にしたいという話は聞いたことがあります。佐藤康光先生をお呼びするのはとても素晴らしいことですが、永世称号持ちの先生は派遣にかかる費用が高いです。４～５段にも abema などで活躍し、界隈では有名な先生がたくさんいらっしゃるので、詳しい人間に聞いてもっとプロ棋士の指導対局会などを増やしてみてはいかがでしょうか？そういった段位の低いプロであれば二桁いかない額で依頼が可能です。（男性・30 歳代）
- スポーツ麻雀　施設増やしてほしい（男性・50 歳代）
- オーエンス健康プラザの駐車場は市民の無料利用時間を延ばしてほしい。（男性・30 歳代）
- 施設利用料の低減（男性・70 歳以上）
- お部屋代（500 円～1000 円程度）徴収してもいいので代表者会議、大掃除なし、備品充実したほうが良い。（女性・50 歳代）
- 性別、国籍、LGBT 等で差別されない、させない生涯学習に力を入れてほしい。（女性・70 歳以上）
- ソフト面の充実。（女性・60 歳代）
- 建物はこれ以上必要ない。（男性・50 歳代）
- 地域が片寄っていて不便。（女性・70 歳以上）
- 市民なのに自由に使える様に！（男性・60 歳代）
- 財政に問題なければ色々やればいいと思います。（40 歳代）
- 利用していないので分からない。（男性・60 歳代）

問 19　週に1回以上の運動(スポーツ)の実施について

あなたは週に１回以上運動（スポーツ）を行っていますか。**（○は１つ）**

図表 70　週に１回以上の運動（スポーツ）の実施について【全体、経年比較】



※令和元年度調査では「ほぼ行っている」

○全体の傾向

「行っている」が 37.2%、「おおむね行っている」が 20.7%となっており、両者を合わせた“実施している”は 57.9%です。一方、「行っていない」は 40.9%となっています。

○経年比較

令和元年度調査から今回調査にかけて、「行っている」の割合が５ポイント増加しています。

○男女別の傾向

男女とも“実施している”が６割弱となっています。

○年代別の傾向

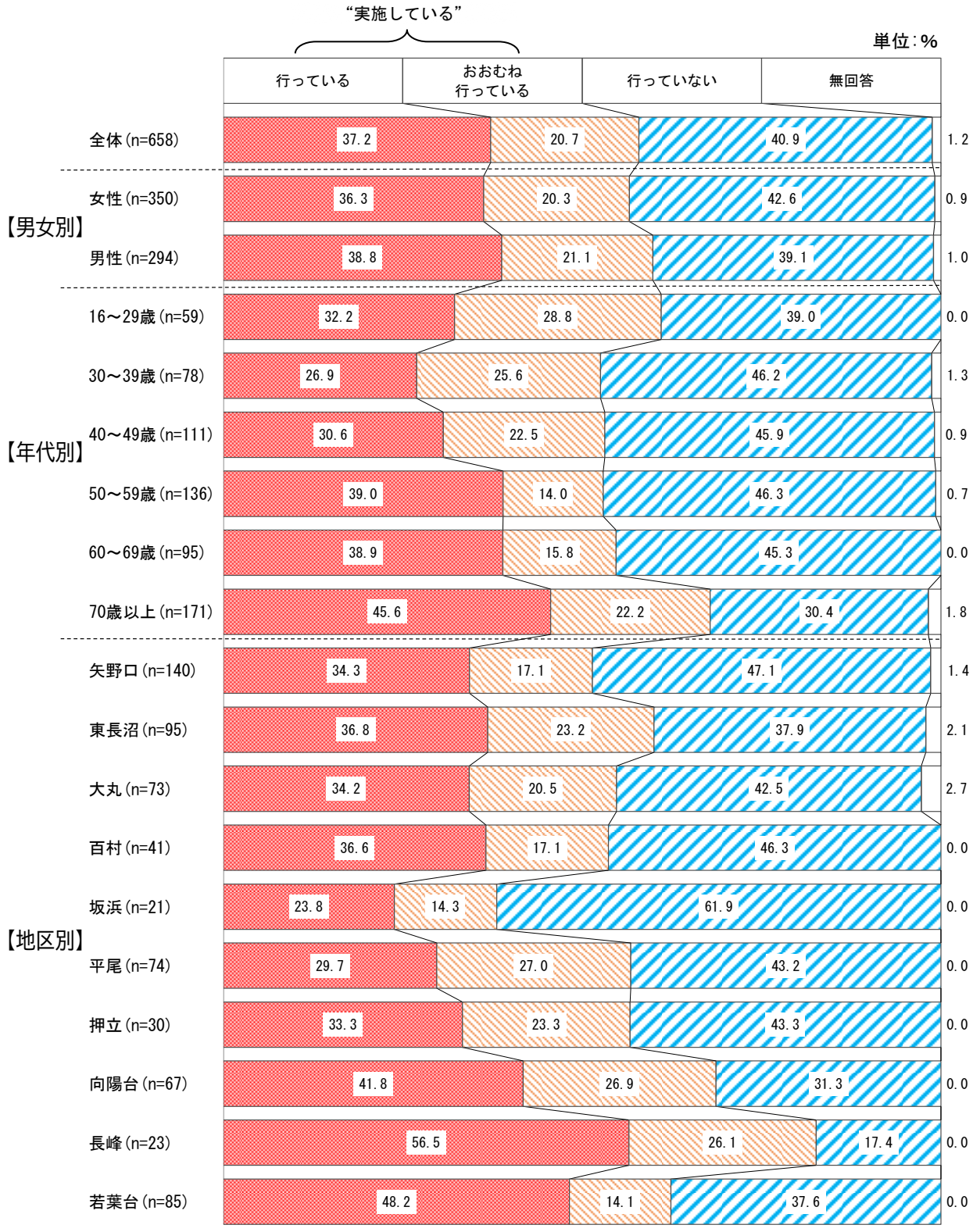
各年代とも“実施している”が５割以上であり、29 歳以下と 70 歳以上では６割台となっています。特に、70 歳以上では「行っている」が 45.6%であり、他の年代を６ポイント以上上回っています。

○地区別の傾向

坂浜を除く各地区とも“実施している”が５割以上となっており、「行っていない」を上回っています。特に、長峰では“実施している”が 82.6%を占めています。

一方、坂浜では“実施している”が 38.1%にとどまっており、「行っていない」が 61.9%となっています。

図表 71　週に１回以上の運動（スポーツ）の実施について【全体、男女別、年代別、地区別】

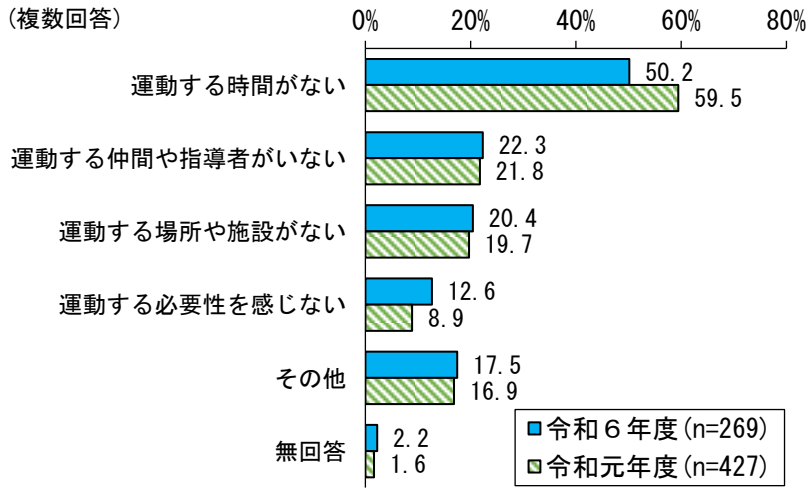


問 19-1　運動(スポーツ)を行っていない理由

問 19 で「行っていない」を選択した回答者に対する設問

行っていない理由は何ですか。当てはまるものをすべて選んでください。**(○はいくつでも)**

図表 72　運動（スポーツ）を行っていない理由【全体、経年比較】



○全体の傾向

週に１回以上の運動（スポーツ）を行っていないと回答した人に対して、その理由をうかがったところ、「運動する時間がない」が 50.2%で最も多く、「運動する仲間や指導者がいない」(22.3%)、「運動する場所や施設がない」(20.4%)、「運動する必要性を感じない」(12.6%)が続きます。

○経年比較

今回調査・令和元年度調査とも同様の順位となっています。令和元年度調査から今回調査にかけて、「運動する時間がない」が９ポイント減少しています。

図表 73　運動（スポーツ）を行っていない理由【全体、男女別】

	運動する場所や施設がない	運動する時間がない	運動する仲間や指導者がいない	運動する必要性を感じない	その他	無回答
全体（n=269）	20.4	**50.2**	22.3	12.6	17.5	2.2
女性（n=149）	16.8	**54.4**	17.4	12.1	16.8	2.7
男性（n=115）	26.1	**46.1**	29.6	13.0	17.4	0.9

○男女別の傾向

男女とも「運動する時間がない」が最も多く、「運動する仲間や指導者がいない」が続きます。女性の「運動する時間がない」は男性を８ポイント上回っているのに対し、男性の「運動する仲間や指導者がいない」「運動する場所や施設がない」は女性を９ポイント以上上回っています。

図表 74　運動（スポーツ）を行っていない理由【全体、年代別】

	運動する場所や施設がない	運動する時間がない	運動する仲間や指導者がいない	運動する必要性を感じない	その他	無回答
全　　体（n=269）	20.4	**50.2**	22.3	12.6	17.5	2.2
16～29 歳（n=23）	34.8	**65.2**	17.4	21.7	8.7	－
30～39 歳（n=36）	19.4	**80.6**	25.0	5.6	8.3	－
40～49 歳（n=51）	17.6	**66.7**	15.7	7.8	11.8	－
50～59 歳（n=63）	19.0	**50.8**	20.6	15.9	17.5	－
60～69 歳（n=43）	20.9	**39.5**	25.6	14.0	16.3	2.3
70 歳以上（n=52）	19.2	15.4	28.8	13.5	**34.6**	7.7

○年代別の傾向

29 歳以下から 60 歳代までの各年代とも「運動する時間がない」が最も多く、29 歳以下と 40 歳代では「運動する場所や施設がない」が、30 歳代と 50 歳代・60 歳代では「運動する仲

間や指導者がいない」が続きます。

このほか、29 歳以下では「運動する必要性を感じない」が 21.7%であり、他の年代を５ポイント以上上回っています。

図表 75　運動（スポーツ）を行っていない理由【全体、地区別】

	運動する場所や施設がない	運動する時間がない	運動する仲間や指導者がいない	運動する必要性を感じない	その他	無回答
全　体（n=269）	20.4	**50.2**	22.3	12.6	17.5	2.2
矢野口（n=66）	25.8	**50.0**	19.7	13.6	19.7	－
東長沼（n=36）	16.7	**47.2**	27.8	13.9	19.4	－
大　丸（n=31）	19.4	**58.1**	22.6	9.7	3.2	3.2
百　村（n=19）	5.3	57.9	15.8	5.3	26.3	－
坂　浜（n=13）	30.8	46.2	23.1	7.7	23.1	7.7
平　尾（n=32）	15.6	**46.9**	21.9	12.5	15.6	6.3
押　立（n=13）	30.8	53.8	30.8	23.1	7.7	－
向陽台（n=21）	23.8	**52.4**	33.3	9.5	9.5	4.8
長　峰（n=4）	25.0	50.0	25.0	－	25.0	－
若葉台（n=32）	18.8	**43.8**	15.6	18.8	28.1	－

○地区別の傾向

各地区とも「運動する時間がない」が最も多く、東長沼・大丸・平尾・向陽台では「運動する仲間や指導者がいない」が、矢野口では「運動する場所や施設がない」が続きます。

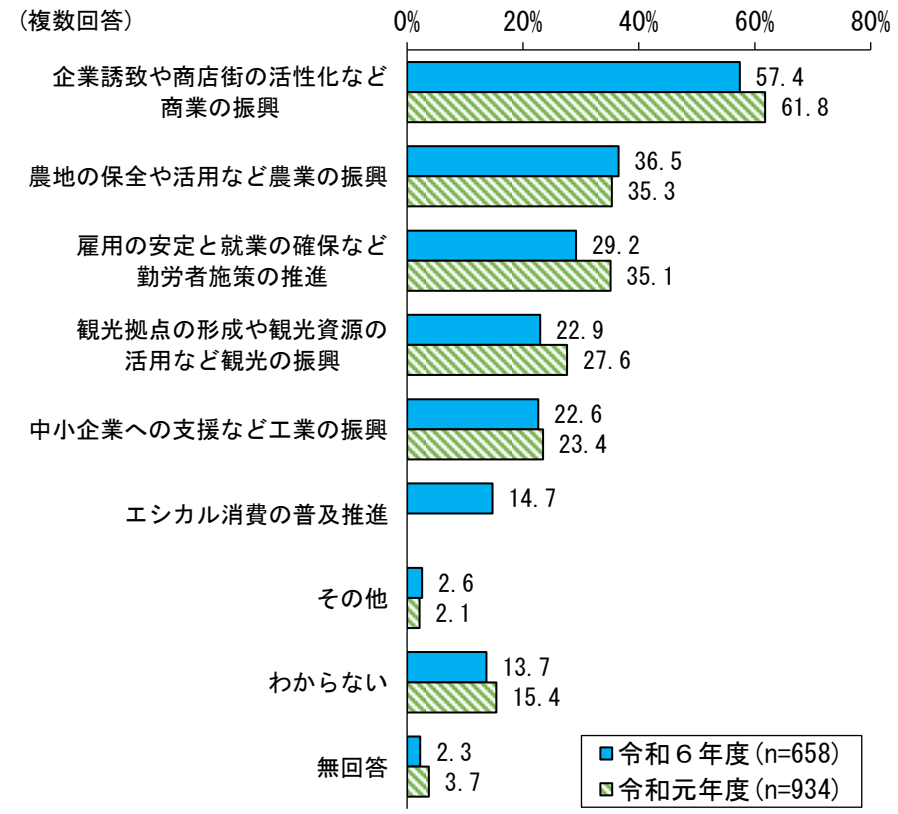
【選択肢「その他」の自由記載内容】

- 仕事で体動かしている。（男性・70 歳以上）　※ほか２件
- 通年で一駅間歩いている。（女性・60 歳代）
- 今後考えていきたい。（男性・70 歳以上）
- あまり運動が好きではない。（女性・60 歳代）　※ほか１件
- 気が進まない。（女性・50 歳代）
- やる気が出ないため。（女性・29 歳以下）　※ほか２件
- ズボラ（男性・70 歳以上）
- 怠慢（男性・50 歳代）
- 行くのが面倒。（女性・60 歳代）　※ほか２件
- 気力がない。（男性・70 歳以上）
- 必要性は感じているがサボっている。（女性・50 歳代）
- 休日は身体を休めたい。（男性・50 歳代）
- 仕事の疲れで運動する元気がない。（女性・40 歳代）
- 疾患の為、控えている（女性・40 歳代）　※ほか１件
- 身体的理由。（女性・70 歳以上）
- 体調不良。（男性・50 歳代）
- 足が不自由。（男性・70 歳以上）
- 障害者の為（男性・60 歳代）
- 歩くのが苦痛なので。（女性・70 歳以上）
- 身体が動かない。（男性・70 歳以上）
- 元気がない。（女性・50 歳代）
- 療養中につき運動する体力がない。（女性・30 歳代）
- 気力体力がない。（50 歳代）
- 運動する体調でない。（男性・70 歳以上）
- 行って運動する体力がない。（女性・70 歳以上）
- 近くに施設がない。（男性・40 歳代）
- 行きたいところがない。（女性・50 歳代）
- 有料のジムに入会しているが気軽に球技が出来る場所が少ない。あっても抽選倍率が高かったり車がないといけない場所ばかり。（女性・60 歳代）
- 94 歳であまり動けない。（女性・70 歳以上）
- もう老人ですから分からない。（女性・70 歳以上）
- 何ができるかが分からない。（男性・70 歳以上）
- 運動以外に趣味がある（男性・30 歳代）
- コロナなど親子の世話。（女性・50 歳代）
- 夫は何もしないし出来ないもんと言うから家事育児のほとんどを 1 人でこなす妻に運動する時間なんてあるわけがない。（女性・30 歳代）
- 自宅に筋トレ用具を備えている。（40 歳代）

問 20　商工業･観光･農業について力を入れるべき施策

商工業・観光・農業の分野について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。**（○は３つまで）**

図表 76　商工業・観光・農業について力を入れるべき施策【全体、経年比較】



※令和元年度調査では「エシカル消費の普及促進」なし。

○全体の傾向

「企業誘致や商店街の活性化など商業の振興」が 57.4％で最も多く、「農地の保全や活用など農業の振興」（36.5％）、「雇用の安定と就業の確保など勤労者施策の推進」（29.2％）、「観光拠点の形成や観光資源の活用など観光の振興」（22.9％）が続きます。

○経年比較

今回調査で選択肢の追加があったため、経年比較の実施に当たっては留意が必要ですが、上位４項目については今回調査・令和元年度調査とも同様の順位となっています。令和元年度調査から今回調査にかけて、「雇用の安定と就業の確保など勤労者施策の推進」が５ポイント減少しています。

図表 77　商工業・観光・農業について力を入れるべき施策【全体、男女別】

	企業誘致や商店街の活性化など商業の振興	雇用の安定と就業の確保など勤労者施策の推進	農地の保全や活用など農業の振興	中小企業への支援など工業の振興	観光拠点の形成や観光資源の活用など観光の振興	エシカル消費の普及推進	その他	わからない	無回答
全体（n=658）	57.4	29.2	36.5	22.6	22.9	14.7	2.6	13.7	2.3
女性（n=350）	59.1	29.1	35.7	21.4	18.9	14.0	2.6	16.0	1.7
男性（n=294）	57.5	29.9	37.8	24.5	28.6	15.3	2.7	10.2	2.0

○男女別の傾向

男女とも「企業誘致や商店街の活性化など商業の振興」が最も多く、「農地の保全や活用など農業の振興」が続きます。男性の「観光拠点の形成や観光資源の活用など観光の振興」は女性を９ポイント上回っています。

図表 78　商工業・観光・農業について力を入れるべき施策【全体、年代別】

	企業誘致や商店街の活性化など商業の振興	雇用の安定と就業の確保など勤労者施策の推進	農地の保全や活用など農業の振興	中小企業への支援など工業の振興	観光拠点の形成や観光資源の活用など観光の振興	エシカル消費の普及推進	その他	わからない	無回答
全　　体（n=658）	57.4	29.2	36.5	22.6	22.9	14.7	2.6	13.7	2.3
16～29 歳（n=59）	55.9	18.6	30.5	25.4	25.4	11.9	1.7	20.3	－
30～39 歳（n=78）	48.7	25.6	38.5	26.9	20.5	12.8	3.8	15.4	2.6
40～49 歳（n=111）	66.7	33.3	34.2	23.4	22.5	16.2	4.5	13.5	0.9
50～59 歳（n=136）	61.0	27.9	41.9	23.5	25.0	17.6	2.2	9.6	0.7
60～69 歳（n=95）	61.1	34.7	41.1	18.9	23.2	14.7	4.2	6.3	2.1
70 歳以上（n=171）	53.8	30.4	32.7	20.5	22.8	13.5	0.6	17.5	3.5

○年代別の傾向

各年代とも「企業誘致や商店街の活性化など商業の振興」が最も多く、「農地の保全や活用など農業の振興」が続きます。29 歳以下では「わからない」が２割に達しています。

図表 79　商工業・観光・農業について力を入れるべき施策【全体、地区別】

	企業誘致や商店街の活性化など商業の振興	雇用の安定と就業の確保など勤労者施策の推進	農地の保全や活用など農業の振興	中小企業への支援など工業の振興	観光拠点の形成や観光資源の活用など観光の振興	エシカル消費の普及推進	その他	わからない	無回答
全　体（n=658）	57.4	29.2	36.5	22.6	22.9	14.7	2.6	13.7	2.3
矢野口（n=140）	56.4	28.6	33.6	23.6	34.3	10.7	2.1	12.9	1.4
東長沼（n=95）	56.8	26.3	40.0	22.1	15.8	13.7	3.2	18.9	2.1
大　丸（n=73）	60.3	30.1	42.5	20.5	20.5	12.3	1.4	13.7	4.1
百　村（n=41）	51.2	34.1	39.0	24.4	24.4	12.2	7.3	14.6	2.4
坂　浜（n=21）	42.9	28.6	42.9	33.3	19.0	4.8	－	23.8	－
平　尾（n=74）	58.1	24.3	29.7	23.0	17.6	18.9	4.1	16.2	2.7
押　立（n=30）	56.7	53.3	43.3	30.0	23.3	10.0	－	6.7	－
向陽台（n=67）	67.2	26.9	40.3	25.4	16.4	14.9	－	9.0	3.0
長　峰（n=23）	52.2	39.1	21.7	30.4	39.1	26.1	－	8.7	－
若葉台（n=85）	63.5	27.1	34.1	12.9	22.4	22.4	3.5	10.6	－

○地区別の傾向

坂浜を除く各地区とも「企業誘致や商店街の活性化など商業の振興」が最も多く、東長沼・大丸・百村・平尾・向陽台・若葉台では「農地の保全や活用など農業の振興」が、矢野口では「観光拠点の形成や観光資源の活用など観光の振興」が、押立では「雇用の安定と就業の確保など勤労者施策の推進」が続きます。長峰では「雇用の安定と就業の確保など勤労者施策の推進」「観光拠点の形成や観光資源の活用など観光の振興」がそれぞれ 39.1％で続きます。

坂浜では、「企業誘致や商店街の活性化など商業の振興」「農地の保全や活用など農業の振興」が 42.9％でともに多くなっています。

このほか、坂浜・長峰・押立では「中小企業への支援など工業の振興」が３割台、長峰と若葉台では「エシカル消費の普及推進」が２割台となっています。

【選択肢「その他」の自由記載内容】

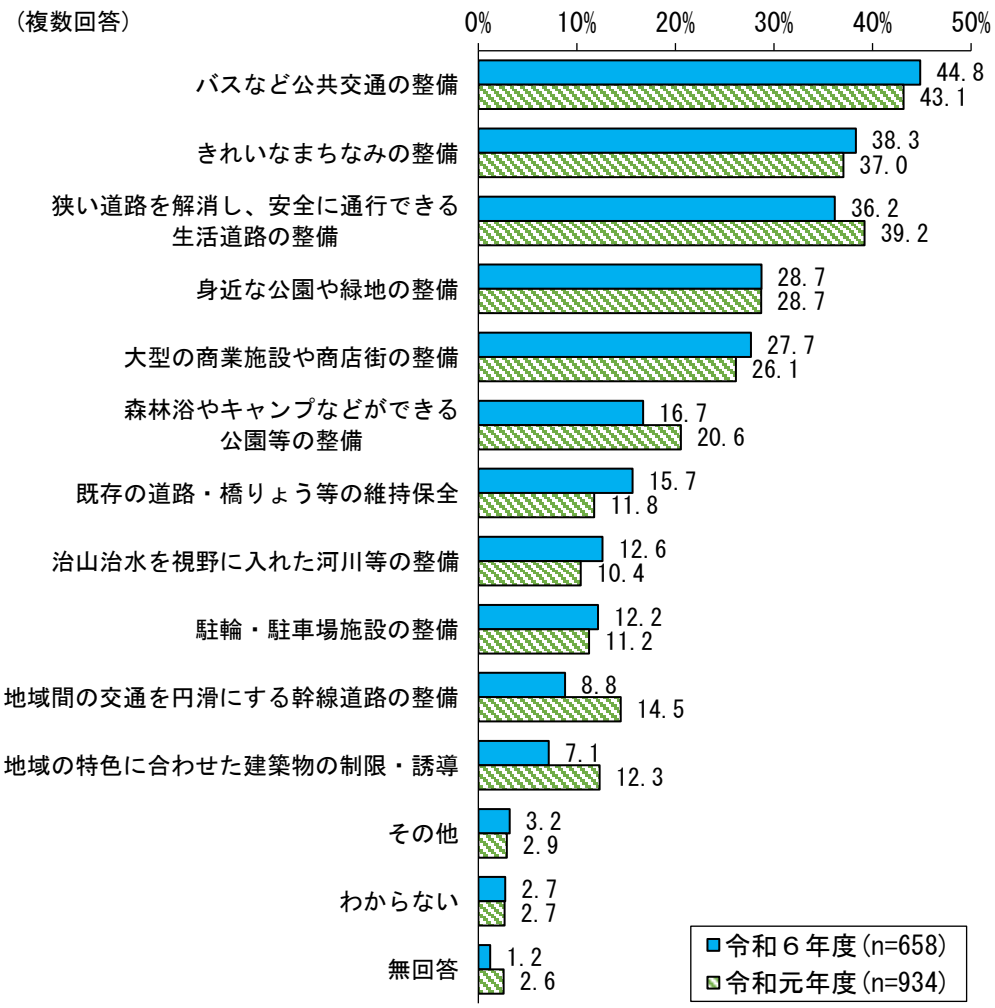
- 地元企業の紹介やイベント。（女性・60 歳代）
- 野菜プラント工場企業誘致。（男性・30 歳代）
- 仕事帰りに食事したい店がない。（女性・40 歳代）
- 大型商業施設誘致。（男性・30 歳代）
- 稲城のイメージが地味すぎるので、おしゃれな飲食の店舗を駅周辺に誘導してほしい。調布や多摩センターで外食をすることが多い。（女性・60 歳代）
- 薬局やコンビニばかりが増えてしまうのを　市の方でバランスを考えた誘致をお願いしたい。（女性・50 歳代）
- とにかく今は市内で完結するのが困難なほど商店が減っています。そこをどうにかすることは急務。また稲城は昔から娯楽が少なく、その点で住みにくいとも言えるでしょう。娯楽とか稲城駅前のカラオケと南多摩の温泉くらいじゃないでしょうか。（男性・30 歳代）
- 他の街からも訪れるようなモールなど（女性・29 歳以下）
- 梨などの果実農家の継承を支援してほしい（男性・40 歳代）　　※ほか１件
- 稲城梨園が減って来ている気がして残念（男性・50 歳代）
- 循環型農業への転換。（男性・50 歳代）
- 稲城の自然を生かした農業振興。（女性・40 歳代）
- 地産地消の取り組み推進。（男性・60 歳代）
- 路線バス、ｉバスの路線、本数の充実。免許返納したシェアが足（移動手段）に困らないような支援、サービス（坂道が多いので、路線・Ｉバスが増えると便利）。（女性・40 歳代）
- 歩行者、自転車、自動車の分離促進（男性・40 歳代）
- この３つの分野はそれぞれ配慮が別であり、このような形式での質問には答えられない。（女性・60 歳代）

問 21　都市基盤について力を入れるべき施策

都市基盤について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。

（○は３つまで）

図表 80　都市基盤について力を入れるべき施策【全体、経年比較】



○全体の傾向

「バスなど公共交通の整備」が 44.8%で最も多く、「きれいなまちなみの整備」（38.3%）、「狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備」（36.2%）、「身近な公園や緑地の整備」（28.7%）が続きます。

○経年比較

今回調査・令和元年度調査とも上位４項目の組み合わせは同じですが、令和元年度調査から今回調査にかけて、「狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備」と「きれいなまちなみの整備」の順位が入れ替わっています。このほか、令和元年度調査から今回調査にかけて、「地域間の交通を円滑にする幹線道路の整備」「地域の特色に合わせた建築物の制限・

誘導」がいずれも５ポイント減少しています。

図表 81　都市基盤について力を入れるべき施策【全体、男女別】

	きれいなまちなみの整備	狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備	既存の道路・橋りょう等の維持保全	身近な公園や緑地の整備	バスなど公共交通の整備	駐輪・駐車場施設の整備	地域の特色に合わせた建築物の制限・誘導	地域間の交通を円滑にする幹線道路の整備	治山治水を視野に入れた河川等の整備	森林浴やキャンプなどができる公園等の整備	大型の商業施設や商店街の整備	その他	わからない	無回答
全体（n=658）	38.3	36.2	15.7	28.7	44.8	12.2	7.1	8.8	12.6	16.7	27.7	3.2	2.7	1.2
女性（n=350）	35.1	36.9	11.7	28.0	50.3	12.9	5.7	8.9	11.4	16.9	28.3	3.7	3.1	0.9
男性（n=294）	42.2	36.7	20.7	29.6	38.1	10.9	8.5	8.8	14.6	17.0	27.2	2.7	2.0	1.4

○男女別の傾向

女性は「バスなど公共交通の整備」が最も多く、「狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備」が続きます。男性は「きれいなまちなみの整備」が最も多く、「バスなど公共交通の整備」が続きます。女性の「バスなど公共交通の整備」は男性を 12 ポイント上回っているのに対し、男性の「既存の道路・橋りょう等の維持保全」「きれいなまちなみの整備」は女性を７ポイント以上上回っています。

図表 82　都市基盤について力を入れるべき施策【全体、年代別】

	きれいなまちなみの整備	狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備	既存の道路・橋りょう等の維持保全	身近な公園や緑地の整備	バスなど公共交通の整備	駐輪・駐車場施設の整備	地域の特色に合わせた建築物の制限・誘導	地域間の交通を円滑にする幹線道路の整備	治山治水を視野に入れた河川等の整備	森林浴やキャンプなどができる公園等の整備	大型の商業施設や商店街の整備	その他	わからない	無回答
全　　体（n=934）	38.3	36.2	15.7	28.7	44.8	12.2	7.1	8.8	12.6	16.7	27.7	3.2	2.7	1.2
16～29 歳（n=108）	33.9	32.2	11.9	33.9	33.9	10.2	5.1	－	13.6	28.8	30.5	8.5	6.8	－
30～39 歳（n=120）	33.3	48.7	10.3	26.9	30.8	14.1	5.1	9.0	10.3	25.6	34.6	5.1	2.6	1.3
40～49 歳（n=176）	42.3	34.2	14.4	30.6	45.0	10.8	9.0	9.0	9.0	23.4	37.8	2.7	－	－
50～59 歳（n=172）	43.4	30.9	17.6	30.1	44.1	14.7	9.6	11.8	12.5	11.0	31.6	2.9	1.5	0.7
60～69 歳（n=134）	43.2	33.7	14.7	23.2	47.4	13.7	7.4	8.4	15.8	14.7	16.8	4.2	2.1	2.1
70 歳以上（n=222）	32.7	40.4	19.3	28.7	53.8	9.4	5.3	9.4	14.6	10.5	20.5	0.6	4.1	1.8

○年代別の傾向

40 歳代から 70 歳以上の各年代で「バスなど公共交通の整備」が最も多く、40 歳代・50 歳

代・60 歳代では「きれいなまちなみの整備」が、70 歳以上では「狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備」が続きます。30 歳代では「狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備」が最も多く、「大型の商業施設や商店街の整備」が続きます。

29 歳以下では、「きれいなまちなみの整備」「身近な公園や緑地の整備」「バスなど公共交通の整備」がそれぞれ 33.9%でともに多くなっています。

このほか、29 歳以下から 40 歳代では「森林浴やキャンプなどができる公園等の整備」が２割台となっており、40 歳代から 70 歳以上にかけての割合を８ポイント以上上回っています。また、29 歳以下から 50 歳代にかけては「大型の商業施設や商店街の整備」が３割台であり、60 歳代と 70 歳以上の割合を 10 ポイント以上上回っています。

図表 83　都市基盤について力を入れるべき施策【全体、地区別】

	きれいなまちなみの整備	狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備	既存の道路・橋りょう等の維持保全	身近な公園や緑地の整備	バスなど公共交通の整備	駐輪・駐車場施設の整備	地域の特色に合わせた建築物の制限・誘導	地域間の交通を円滑にする幹線道路の整備	治山治水を視野に入れた河川等の整備	森林浴やキャンプなどができる公園等の整備	大型の商業施設や商店街の整備	その他	わからない	無回答
全　体（n=658）	38.3	36.2	15.7	28.7	44.8	12.2	7.1	8.8	12.6	16.7	27.7	3.2	2.7	1.2
矢野口（n=140）	35.7	40.0	12.9	31.4	35.0	11.4	6.4	10.7	15.7	20.0	32.1	2.9	1.4	1.4
東長沼（n=95）	32.6	42.1	13.7	38.9	47.4	12.6	7.4	6.3	14.7	16.8	26.3	3.2	2.1	－
大　丸（n=73）	24.7	38.4	8.2	19.2	41.1	17.8	4.1	5.5	16.4	21.9	35.6	5.5	5.5	－
百　村（n=41）	41.5	31.7	17.1	14.6	34.1	19.5	9.8	9.8	9.8	22.0	26.8	4.9	2.4	2.4
坂　浜（n=21）	38.1	61.9	9.5	－	33.3	14.3	14.3	4.8	9.5	19.0	38.1	9.5	4.8	－
平　尾（n=74）	37.8	47.3	20.3	24.3	47.3	6.8	2.7	14.9	6.8	10.8	23.0	5.4	4.1	－
押　立（n=30）	46.7	43.3	23.3	20.0	46.7	10.0	3.3	6.7	20.0	13.3	33.3	－	3.3	－
向陽台（n=67）	37.3	29.9	19.4	29.9	65.7	9.0	7.5	－	10.4	11.9	16.4	1.5	3.0	4.5
長　峰（n=23）	39.1	21.7	21.7	30.4	73.9	13.0	4.3	17.4	4.3	8.7	39.1	－	－	－
若葉台（n=85）	57.6	17.6	18.8	40.0	42.4	10.6	11.8	11.8	11.8	16.5	22.4	1.2	1.2	1.2

○地区別の傾向

東長沼・大丸・向陽台・長峰の各地区では「バスなど公共交通の整備」が最も多く、東長沼と大丸では「狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備」が、向陽台では「きれいなまちなみの整備」が続きます。長峰では「きれいなまちなみの整備」「大型の商業施設や商店街の整備」がそれぞれ 39.1%で続きます。矢野口と坂浜では「狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備」が最も多く、矢野口では「きれいなまちなみの整備」が、坂浜では「きれいなまちなみの整備」「大型の商業施設や商店街の整備」がそれぞれ 38.1%で続きます。百村と若葉台では「きれいなまちなみの整備」が最も多く、「バスなど公共交通の整備」が続きます。

平尾では「狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備」「バスなど公共交通の整

備」がそれぞれ 47.3%でともに多くなっており、押立では「きれいなまちなみの整備」「バスなど公共交通の整備」がそれぞれ 46.7%でともに多くなっています。

このほか、東長沼と若葉台では「身近な公園や緑地の整備」が４割弱から４割となっており、他の地区を７ポイント以上上回っています。

【選択肢「その他」の自由記載内容】

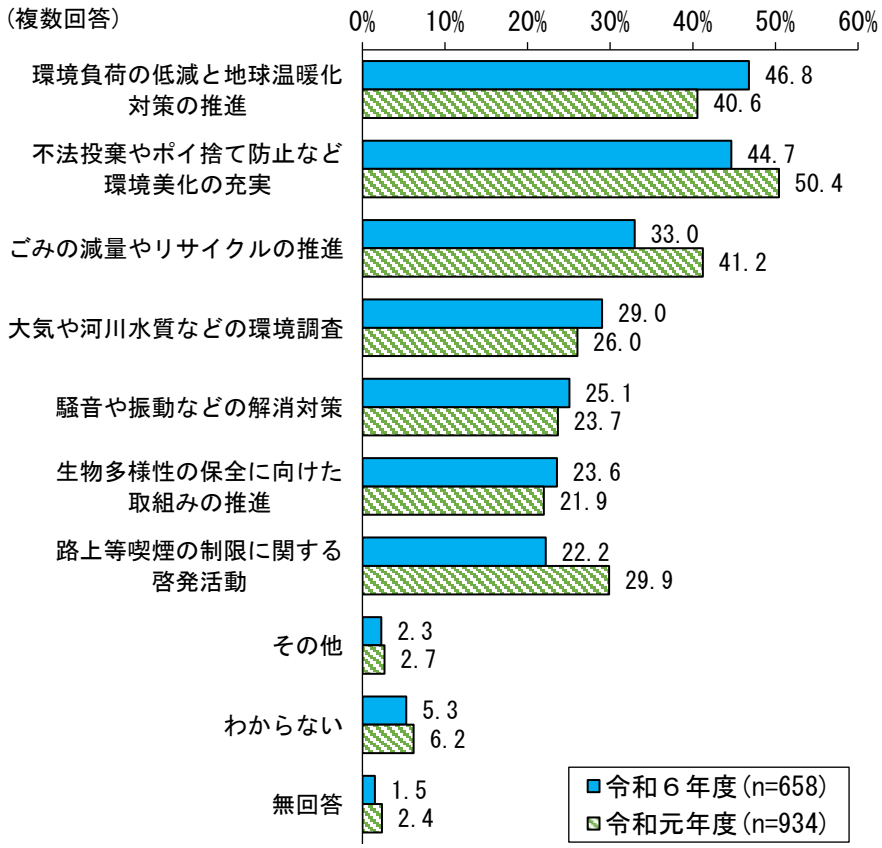
- 南多摩駅・稲城長沼駅の駅前整備（男性・50 歳代）
- 歩行者、自転車、車専用道路の整備、自転車の街を PR する割に道路整備が良くないので、危険を感じることが多く、現状として市民としては外部の自転車に対して迷惑を感じてしまう。（女性・30 歳代）
- 自転車走行場所の整備（歩行者安全のため）。（男性・60 歳代）
- 「バスなど公共交通の整備」と「地域間の交通を円滑にする幹線道路の整備」を MIX、平尾地区は他の稲木地域と交流しづらい。（女性・60 歳代）
- 向陽台・百村エリアから南多摩駅・稲城長沼駅のバス路線整備（男性・50 歳代）
- マンションの多い駅若葉台に京王線の特急が止まるようになれば若い人が通勤しやすい街になる。（女性・60 歳代）
- 稲城駅に特急が止まるようにしてほしい。（男性・30 歳代）
- 自動運転車両（バス、タクシー）の導入（男性・30 歳代）
- 車がないと移動が大変すぎる。（女性・40 歳代）
- コンビニ、スーパーの充実。老人のバス移動が大変そうな為。（女性・29 歳以下）
- 大型商業施設に飲み込まれるのではなく、市民が経営、開店しやすい環境の整備（女性・50 歳代）
- 駅周辺の商業施設の拡充（女性・29 歳以下）
- 商店街にお店が少なく主婦は困っています。（女性・40 歳代）
- 整備ではなく現在ある森林、山里の保全。（男性・40 歳代）
- 今が一番緑もありつつ整備もされていてちょうど良いと思う。（女性・29 歳以下）
- 暑さ対策（男性・29 歳以下）
- 既に日照の問題で失敗していると思います。（女性・60 歳代）
- ドッグラン（女性・29 歳以下）
- 防犯のための街灯の整備（女性・30 歳代）
- 防災キャンプ事業の推進（男性・50 歳代）

問 22　生活環境について力を入れるべき施策

生活環境について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。

（○は３つまで）

図表 84　生活環境について力を入れるべき施策【全体、経年比較】



○全体の傾向

「環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進」が 46.8%で最も多く、「不法投棄やポイ捨て防止など環境美化の充実」（44.7%）、「ごみの減量やリサイクルの推進」（33.0%）、「大気や河川水質などの環境検査」（29.0%）が続きます。

○経年比較

今回調査・令和元年度調査とも上位３項目の組み合わせは同じですが、令和元年度調査で最も多かった「不法投棄やポイ捨て防止など環境美化の充実」が今回調査では２番目に多い回答となっているなど、順位が入れ替わっています。このほか、令和元年度調査から今回調査にかけて「環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進」が６ポイント増加しているのに対し、「ごみの減量やリサイクルの推進」「路上等喫煙の制限に関する啓発活動」は７ポイント以上減少しています。

図表 85　生活環境について力を入れるべき施策【全体、男女別】

	環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進	騒音や振動などの解消対策	不法投棄やポイ捨て防止など環境美化の充実	生物多様性の保全に向けた取組みの推進	ごみの減量やリサイクルの推進	大気や河川水質などの環境調査	路上等喫煙の制限に関する啓発活動	その他	わからない	無回答
全体（n=658）	**46.8**	25.1	44.7	23.6	33.0	29.0	22.2	2.3	5.3	1.5
女性（n=350）	**52.0**	18.9	42.0	22.9	31.1	32.6	21.7	2.0	6.6	2.0
男性（n=294）	41.5	33.0	**48.3**	24.8	33.7	25.5	22.8	2.7	3.7	0.7

○男女別の傾向

女性は「環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進」が最も多く、「不法投棄やポイ捨て防止など環境美化の充実」が続きます。男性は「不法投棄やポイ捨て防止など環境美化の充実」が最も多く、「環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進」が続きます。

女性の「環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進」「大気や河川水質などの環境調査」は男性を７ポイント以上上回っているのに対し、男性の「騒音や振動などの解消対策」「不法投棄やポイ捨て防止など環境美化の充実」は女性を６ポイント以上上回っています。

図表 86　生活環境について力を入れるべき施策【全体、年代別】

	環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進	騒音や振動などの解消対策	不法投棄やポイ捨て防止など環境美化の充実	生物多様性の保全に向けた取組みの推進	ごみの減量やリサイクルの推進	大気や河川水質などの環境調査	路上等喫煙の制限に関する啓発活動	その他	わからない	無回答
全　　体（n=658）	**46.8**	25.1	44.7	23.6	33.0	29.0	22.2	2.3	5.3	1.5
16～29 歳（n=59）	**47.5**	25.4	42.4	27.1	33.9	28.8	25.4	1.7	8.5	－
30～39 歳（n=78）	37.2	32.1	**51.3**	24.4	28.2	26.9	24.4	1.3	7.7	1.3
40～49 歳（n=111）	**48.6**	23.4	42.3	27.0	29.7	28.8	21.6	1.8	6.3	－
50～59 歳（n=136）	41.9	31.6	**45.6**	27.2	27.9	27.9	28.7	5.9	2.9	－
60～69 歳（n=95）	**49.5**	25.3	38.9	27.4	32.6	25.3	23.2	2.1	5.3	－
70 歳以上（n=171）	**53.2**	18.1	47.4	15.8	39.8	33.9	14.6	0.6	4.1	4.7

○年代別の傾向

29 歳以下と 40 歳代、60 歳代と 70 歳以上の各年代では「環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進」が最も多く、「不法投棄やポイ捨て防止など環境美化の充実」が続きます。30 歳代と 50 歳代では「不法投棄やポイ捨て防止など環境美化の充実」が最も多く、「環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進」が続きます。

このほか、30 歳代と 50 歳代では「騒音や振動などの解消対策」が３割強であり、他の年代を６ポイント以上上回っています。70 歳以上では「ごみの減量やリサイクルの推進」が 39.8%であり、他の年代を５ポイント以上上回っています。

図表 87　生活環境について力を入れるべき施策【全体、地区別】

	環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進	騒音や振動などの解消対策	不法投棄やポイ捨て防止など環境美化の充実	生物多様性の保全に向けた取組みの推進	ごみの減量やリサイクルの推進	大気や河川水質などの環境調査	路上等喫煙の制限に関する啓発活動	その他	わからない	無回答
全　体（n=658）	46.8	25.1	44.7	23.6	33.0	29.0	22.2	2.3	5.3	1.5
矢野口（n=140）	45.0	25.7	46.4	22.9	35.0	32.1	19.3	1.4	4.3	1.4
東長沼（n=95）	37.9	24.2	48.4	25.3	28.4	30.5	29.5	4.2	4.2	2.1
大　丸（n=73）	42.5	23.3	42.5	19.2	28.8	30.1	31.5	1.4	6.8	－
百　村（n=41）	31.7	24.4	31.7	19.5	26.8	39.0	29.3	7.3	4.9	4.9
坂　浜（n=21）	38.1	28.6	52.4	23.8	33.3	38.1	14.3	－	4.8	－
平　尾（n=74）	56.8	25.7	36.5	27.0	32.4	24.3	13.5	1.4	9.5	－
押　立（n=30）	46.7	16.7	56.7	10.0	50.0	36.7	33.3	－	－	3.3
向陽台（n=67）	55.2	22.4	44.8	23.9	34.3	22.4	17.9	3.0	6.0	3.0
長　峰（n=23）	56.5	30.4	56.5	21.7	43.5	21.7	13.0	－	4.3	－
若葉台（n=85）	56.5	30.6	45.9	31.8	29.4	23.5	18.8	2.4	4.7	－

○地区別の傾向

矢野口・東長沼・坂浜・押立の各地区では「不法投棄やポイ捨て防止など環境美化の充実」が最も多く、矢野口と東長沼では「環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進」が、押立では「ごみの減量やリサイクルの推進」が、坂浜では「環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進」「大気や河川水質などの環境調査」がそれぞれ 38.1%で続きます。平尾・向陽台・若葉台では「環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進」が最も多く、「不法投棄やポイ捨て防止など環境美化の充実」が続きます。百村では「大気や河川水質などの環境調査」が最も多く、「環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進」「不法投棄やポイ捨て防止など環境美化の充実」がそれぞれ 31.7%で続きます。

長峰・大丸では「環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進」「不法投棄やポイ捨て防止など

環境美化の充実」がともに多くなっています。

　このほか、長峰では「ごみの減量やリサイクルの推進」が 43.5%であり、押立とともに他の地区を８ポイント以上上回っています。

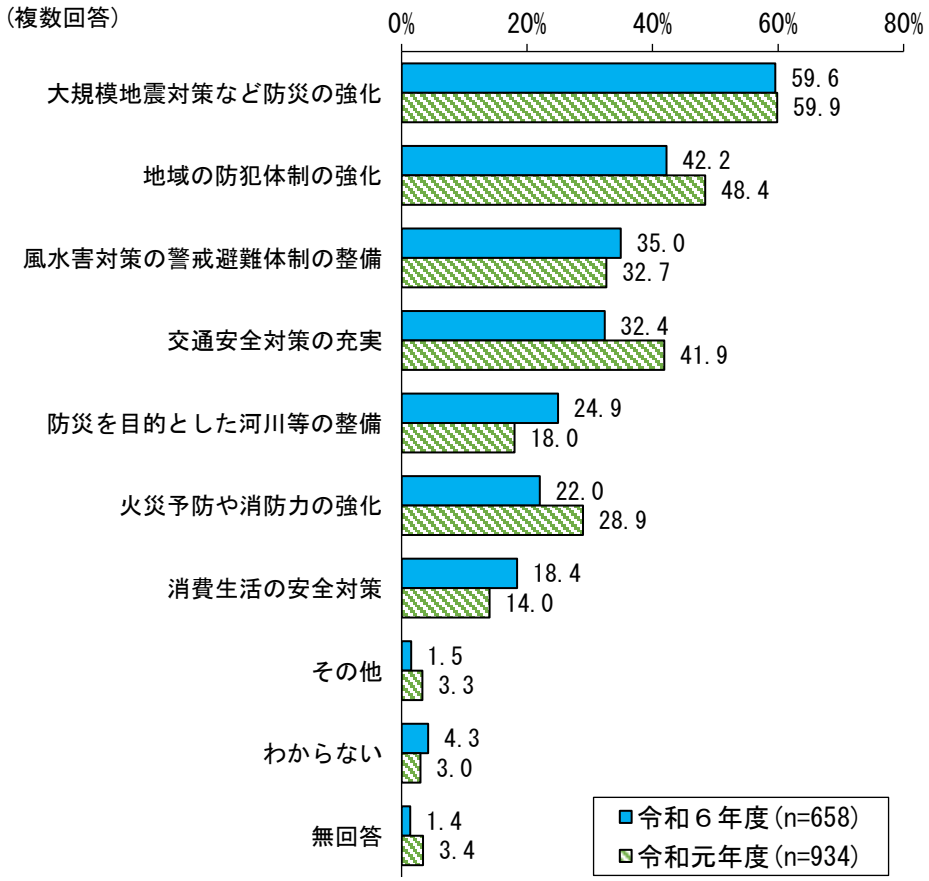
【選択肢「その他」の自由記載内容】

- ハクビシンなど害獣対策。（女性・60 歳代）
- 動物のフン等を放置しないよう指導してほしい。（女性・50 歳代）
- 犬の糞が道路にたくさんある。老人の散歩中の立ちしょん、痰吐き等マナーが悪すぎる。（女性・50 歳代）
- 河川の掃除。（女性・50 歳代）
- PFAS 水質調査。（女性・50 歳代）
- 米軍基地による PFAS 汚染対策。（男性・30 歳代）
- 雑草の駆除。通学路、稲城駅～南山への雑草が伸び切って歩道を侵害しています。（女性・40 歳代）　※ほか１件
- 中心的な街づくりと思える街並み。国立を参考にしたい。長沼→稲城を活かしたり、緑。（男性・70 歳以上）
- ゴミ袋が他の市町村と比較して明らかに高い。是非改善を求めたい。（男性・50 歳代）
- 禁煙エリアの拡大（男性・40 歳代）
- 暑さ対策（男性・29 歳以下）
- 自転車等の軽車両の指導。（男性・60 歳代）
- 個々の課題に別々に取り組むのではなく、すべての調和と美しさを考えて推進して欲しい（女性・50 歳代）

問 23　防災や防犯について力を入れるべき施策

防災や防犯などの分野について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。（○は３つまで）

図表 88　防災や防犯について力を入れるべき施策【全体、経年比較】



○全体の傾向

「大規模地震対策など防災の強化」が 59.6％で最も多く、「地域の防犯体制の強化」(42.2％)、「風水害対策の警戒避難体制の整備」（35.0％）、「交通安全対策の充実」（32.4％）が続きます。

○経年比較

今回調査・令和元年度調査とも上位４項目の組み合わせは同じですが、令和元年度調査から今回調査にかけて、「交通安全対策の充実」と「風水害対策の警戒避難体制の整備」の順位が入れ替わっています。このほか、令和元年度調査から今回調査にかけて「防災を目的とした河川等の整備」が６ポイント増加している一方で、「交通安全対策の充実」「火災予防や消防力の強化」「地域の防犯体制の強化」が６ポイント以上減少しています。

図表 89　防災や防犯について力を入れるべき施策【全体、男女別】

	火災予防や消防力の強化	風水害対策の警戒避難体制の整備	交通安全対策の充実	消費生活の安全対策	防災を目的とした河川等の整備	大規模地震対策など防災の強化	地域の防犯体制の強化	その他	わからない	無回答
全体（n=658）	22.0	35.0	32.4	18.4	24.9	**59.6**	42.2	1.5	4.3	1.4
女性（n=350）	18.6	34.9	28.6	15.4	24.3	**64.0**	45.1	2.0	4.3	1.7
男性（n=294）	26.5	35.4	38.1	21.4	25.2	**54.1**	38.8	0.7	4.1	0.7

○男女別の傾向

男女とも「大規模地震対策など防災の強化」が最も多く、「地域の防犯体制の強化」が続きます。女性の「大規模地震対策など防災の強化」「地域の防犯体制の強化」は男性を６ポイント以上上回っているのに対し、男性の「交通安全対策の充実」「火災予防や消防力の強化」「消費生活の安全対策」は女性を６ポイント以上上回っています。

図表 90　防災や防犯について力を入れるべき施策【全体、年代別】

	火災予防や消防力の強化	風水害対策の警戒避難体制の整備	交通安全対策の充実	消費生活の安全対策	防災を目的とした河川等の整備	大規模地震対策など防災の強化	地域の防犯体制の強化	その他	わからない	無回答
全　　体（n=658）	22.0	35.0	32.4	18.4	24.9	**59.6**	42.2	1.5	4.3	1.4
16～29 歳（n=59）	16.9	35.6	33.9	15.3	27.1	**54.2**	39.0	－	8.5	－
30～39 歳（n=78）	14.1	26.9	42.3	10.3	32.1	**62.8**	35.9	－	9.0	2.6
40～49 歳（n=111）	22.5	30.6	44.1	18.9	23.4	**67.6**	36.9	2.7	2.7	－
50～59 歳（n=136）	21.3	40.4	29.4	20.6	22.1	**62.5**	50.0	2.9	2.2	1.5
60～69 歳（n=95）	25.3	34.7	25.3	20.0	22.1	**57.9**	43.2	2.1	2.1	－
70 歳以上（n=171）	25.7	36.8	26.9	19.9	25.1	**53.8**	43.3	0.6	4.1	2.3

○年代別の傾向

各年代とも「大規模地震対策など防災の強化」が最も多く、29 歳以下と 50 歳代から 70 歳

以上にかけては「地域の防犯体制の強化」が、30 歳代と 40 歳代では「交通安全対策の充実」が続きます。

このほか、30 歳代では「防災を目的とした河川等の整備」が 32.1%であり、他の年代を５ポイント以上上回っています。

図表 91　防災や防犯について力を入れるべき施策【全体、地区別】

	火災予防や消防力の強化	風水害対策の警戒避難体制の整備	交通安全対策の充実	消費生活の安全対策	防災を目的とした河川等の整備	大規模地震対策など防災の強化	地域の防犯体制の強化	その他	わからない	無回答
全　体（n=658）	22.0	35.0	32.4	18.4	24.9	**59.6**	42.2	1.5	4.3	1.4
矢野口（n=140）	25.7	40.7	30.7	10.7	35.0	**57.9**	35.7	1.4	5.0	1.4
東長沼（n=95）	14.7	45.3	33.7	14.7	33.7	**56.8**	34.7	2.1	4.2	2.1
大　丸（n=73）	17.8	43.8	27.4	26.0	24.7	**67.1**	41.1	－	1.4	－
百　村（n=41）	17.1	36.6	26.8	17.1	14.6	41.5	**51.2**	－	7.3	2.4
坂　浜（n=21）	23.8	33.3	33.3	19.0	19.0	**61.9**	52.4	－	9.5	－
平　尾（n=74）	13.5	27.0	33.8	24.3	18.9	**63.5**	48.6	4.1	4.1	－
押　立（n=30）	10.0	53.3	40.0	16.7	**56.7**	50.0	26.7	－	3.3	－
向陽台（n=67）	29.9	23.9	29.9	19.4	11.9	**59.7**	41.8	4.5	6.0	4.5
長　峰（n=23）	52.2	26.1	39.1	17.4	4.3	56.5	**60.9**	－	－	－
若葉台（n=85）	27.1	17.6	38.8	23.5	12.9	**68.2**	50.6	－	2.4	－

○地区別の傾向

百村・押立・長峰を除く各地区では「大規模地震対策など防災の強化」が最も多く、矢野口・東長沼・大丸では「風水害対策の警戒避難体制の整備」が、坂浜・平尾・向陽台・若葉台では「地域の防犯体制の強化」が続きます。百村と長峰では「地域の防犯体制の強化」が最も多く、「大規模地震対策など防災の強化」が続きます。押立では「防災を目的とした河川等の整備」が最も多く、「風水害対策の警戒避難体制の整備」が続きます。

このほか、長峰では「火災予防や消防力の強化」が 52.2%であり、他の地区を大幅に上回っています。

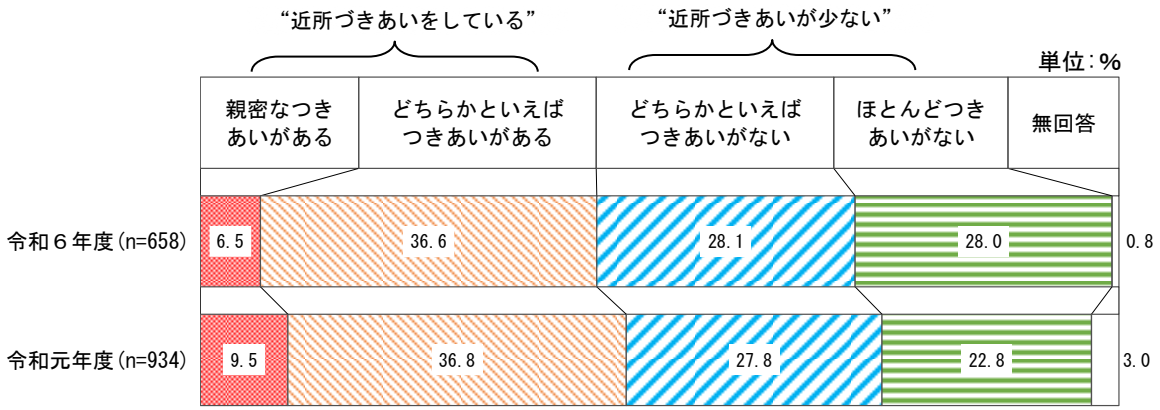
【選択肢「その他」の自由記載内容】

- 電柱を（地下に）なくしてほしい。大地震が来たら家屋に倒れ、被害が大きくなるため。（女性・50 歳代）
- 地下ケーブル整備。（男性・60 歳代）
- 富士山噴火に伴う火山灰対策。（女性・40 歳代）
- 山崩れ、傾斜地の危険評価。（男性・70 歳以上）
- 南海トラフ想定の防災に関する備えを知りたい。全世帯に紙媒体にて報告して欲しい。（40 歳代）
- 高齢者に向けての防犯対策。（女性・50 歳代）
- LINE を利用した目で見やすい情報づくり。犯罪、事故、事件、災害。（女性・60 歳代）
- 夏休み中の学童児などの見守り、パトロール、街灯の充実。（女性・40 歳代）
- 動物にも人間にも理想的な美しい街を作ることによって　人々が外を出歩き　顔を合わせることで、自ずと安全安心が生まれるようになって欲しい（女性・50 歳代）
- 在留外国人との交流（女性・50 歳代）

問 24　近所づきあいの程度

あなたのご家族では、ご近所とどの程度のおつきあいをされていますか。（○は１つ）

図表 92　近所づきあいの程度【全体、経年比較】



○全体の傾向

「親密なつきあいがある」が 6.5%、「どちらかといえばつきあいがある」が 36.6%となっており、両者を合わせた“近所づきあいをしている”という回答は 43.1%です。

一方、「どちらかといえばつきあいがない」は 28.1%、「ほとんどつきあいがない」は 28.0%であり、両者を合わせた“近所づきあいが少ない”という回答は 56.1%で、“近所づきあいをしている”を上回っています。

○経年比較

令和元年度調査では“近所づきあいが少ない”が 50.6%となっており、令和元年度調査から今回調査にかけて５ポイント増加しています。

○男女別の傾向

男女とも“近所づきあいが少ない”が５割台であり、“近所づきあいをしている”を上回っています。女性の“近所づきあいをしている”は 46.0%であり、男性の割合を６ポイント上回っています。

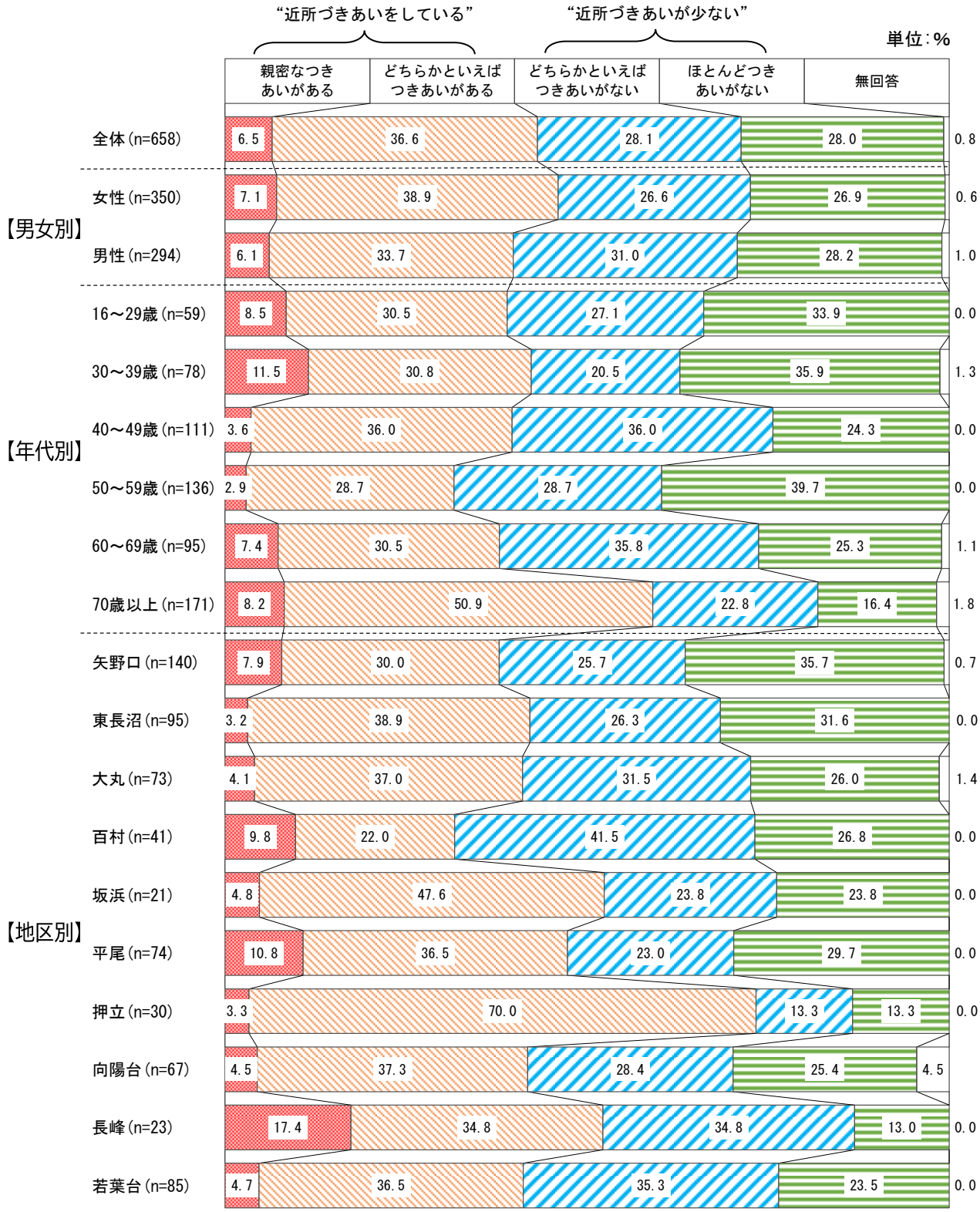
○年代別の傾向

70 歳以上を除く各年代とも“近所づきあいが少ない”が“近所づきあいをしている”を上回っており、特に 50 歳代では“近所づきあいが少ない”が 68.4%となっています。70 歳以上では“近所づきあいをしている”が 59.1%となっています。

○地区別の傾向

坂浜・押立・長峰では“近所づきあいをしている”が“近所づきあいが少ない”を上回っており、押立では“近所づきあいをしている”が 73.3%を占めています。これ以外の地区では“近所づきあいが少ない”が“近所づきあいをしている”を上回っています。

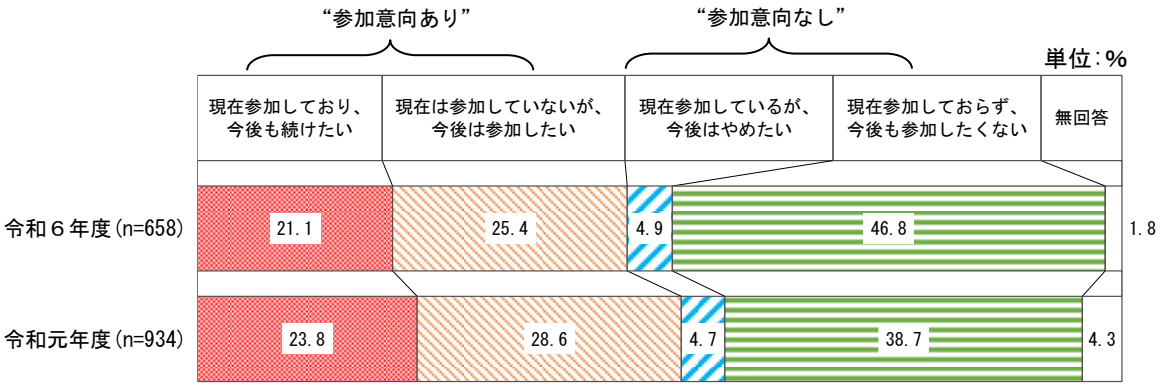
図表 93　近所づきあいの程度【全体、男女別、年代別、地区別】



問 25　地域の団体や組織への参加意向

あなたは、地域の団体や組織（自治会、婦人会、老人クラブ、ＰＴＡ、スポーツクラブ、同好会など）に参加したいと考えていますか。（○は１つ）

図表 94　地域の団体や組織への参加意向【全体、経年比較】



○全体の傾向

「現在参加しており、今後も続けたい」が 21.1%、「現在は参加していないが、今後は参加したい」が 25.4%となっており、両者を合わせた“参加意向あり”は 46.5%です。

一方、「現在参加しているが、今後はやめたい」は 4.9%、「現在参加しておらず、今後も参加したくない」は 46.8%となっており、両者を合わせた“参加意向なし”は 51.7%です。

○経年比較

令和元年度調査では“参加意向あり”が 52.4%、“参加意向なし”が 47.4%となっていました。令和元年度調査から今回調査にかけて、「現在参加しておらず、今後も参加したくない」が８ポイント増加しています。

○男女別の傾向

男女とも“参加意向あり”が５割弱、“参加意向なし”が５割強となっています。

女性の「現在参加しており、今後も続けたい」は男性を７ポイント上回っているのに対し、男性の「現在は参加していないが、今後は参加したい」は女性を７ポイント上回っています。

○年代別の傾向

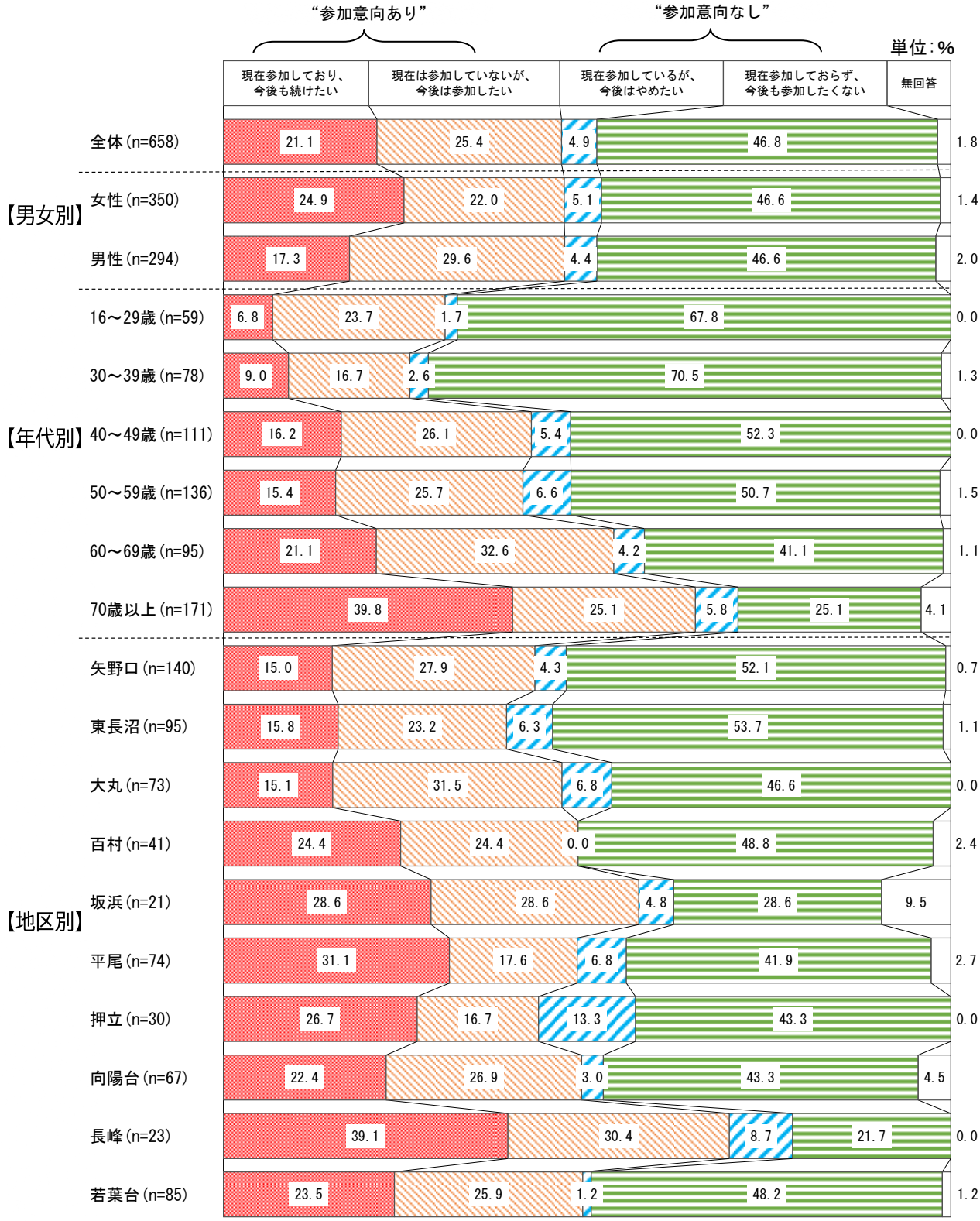
「現在参加しており、今後も続けたい」はおおむね年代とともに割合が増加し、「現在参加しておらず、今後も参加したくない」はおおむね年代とともに割合が減少しています。

29 歳以下から 50 歳代では“参加意向なし”が“参加意向あり”を上回っているのに対し、60 歳代と 70 歳以上では“参加意向あり”が“参加意向なし”を上回っています。

○地区別の傾向

坂浜・向陽台・長峰では“参加意向あり”が“参加意向なし”を上回っており、矢野口・東長沼・大丸・押立では“参加意向なし”が“参加意向あり”を上回っています。百村・平尾・若葉台では“参加意向あり”と“参加意向なし”の割合が並んでいます。

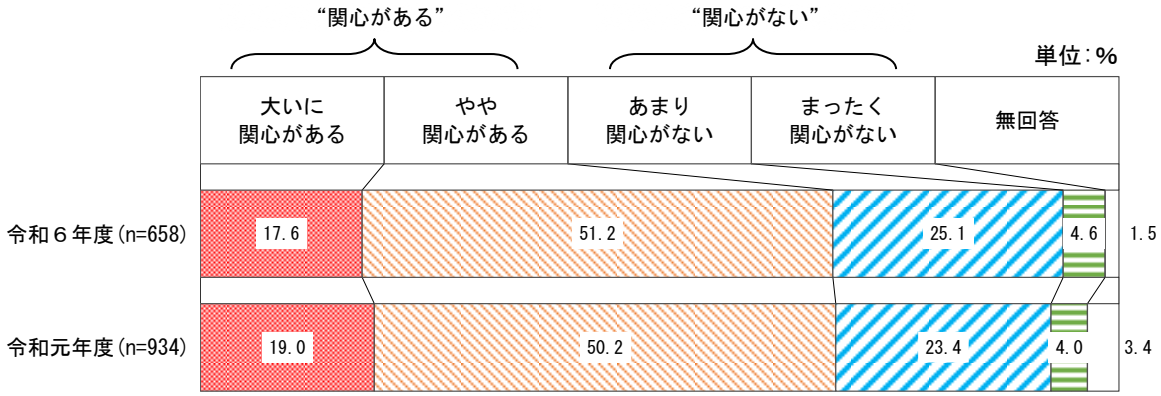
図表 95　地域の団体や組織への参加意向【全体、男女別、年代別、地区別】



問 26　行政施策への関心度

あなたは稲城市の行政施策にどの程度関心がありますか。（○は１つ）

図表 96　行政施策への関心度【全体、経年比較】



○全体の傾向

「大いに関心がある」が 17.6%、「やや関心がある」が 51.2%となっており、両者を合わせた“関心がある”は 68.8%です。

「あまり関心がない」は 25.1%、「まったく関心がない」は 4.6%となっており、両者を合わせた“関心がない”は 29.7%です。

○経年比較

令和元年度調査結果と比較して、傾向に大きな違いはありません。

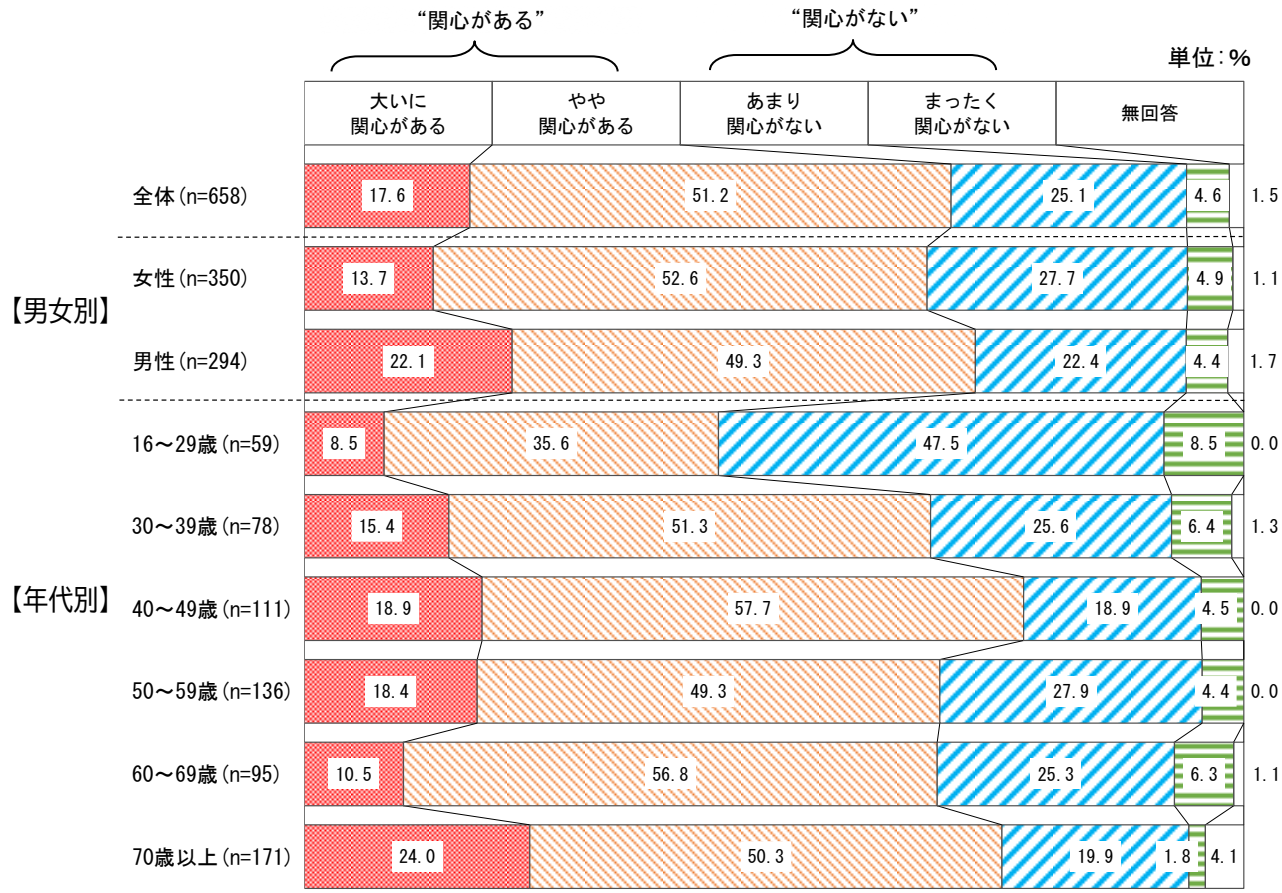
○男女別の傾向

男女とも“関心がある”が“関心がない”を大幅に上回っています。女性の“関心がない”は男性の割合を５ポイント上回っているのに対し、男性の“関心がある”は女性の割合を５ポイント上回っています。

○年代別の傾向

29 歳以下を除く各年代とも“関心がある”が“関心がない”を上回っています。29 歳以下では“関心がない”が 56.0%で“関心がある”を上回っています。

図表 97　行政施策への関心度【全体、男女別、年代別】



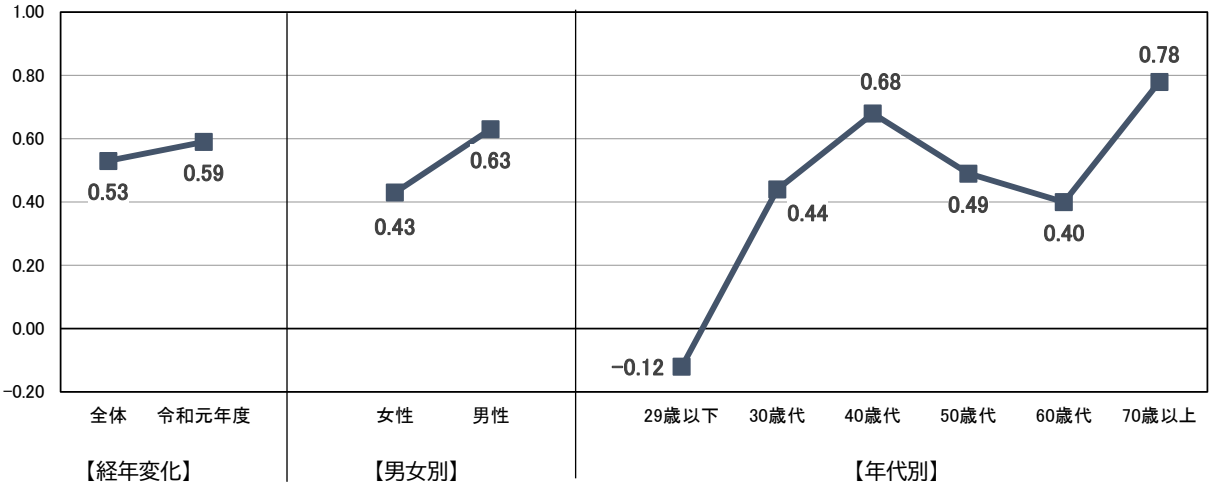
○関心度の加重平均値（得点）の状況

《加重平均値(得点)の算出方法》

「大いに関心がある」を＋２点、「やや関心がある」を＋１点、「あまり関心がない」を－１点、「まったく関心がない」を－２点として、それぞれの回答を点数に換算します。項目ごとに回答者の点数合計を算出して、その値を「無回答」を除いた回答者数で割ることにより、加重平均値（得点）を算出します。

※　加重平均値（得点）は、＋２点から－２点の間に分布します。行政施策への関心が高い場合は＋側に、関心が低い場合は－側に分布されます。

図表 98　行政施策への関心度の加重平均値（得点）【経年変化、男女別、年代別】



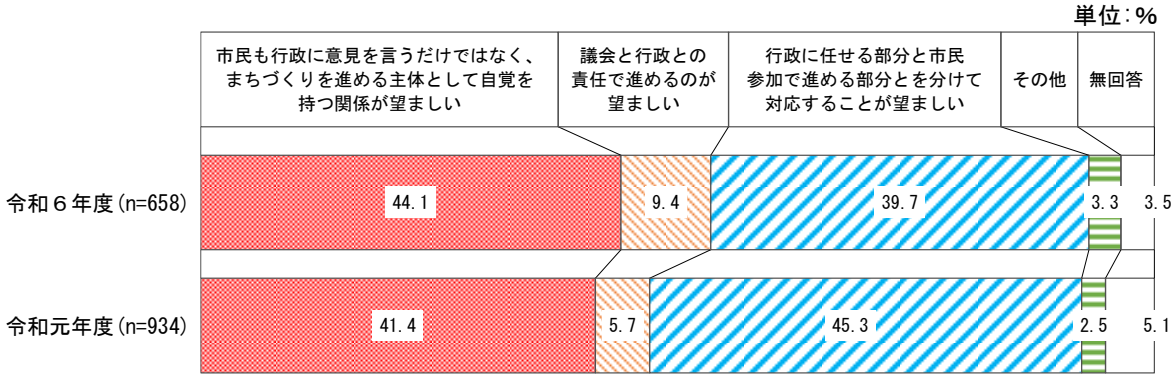
全体の値は 0.53 で、令和元年度調査の値（0.59）を下回っています。男女別に見ると、男性（0.63）が女性（0.43）を上回っています。

年代別に見ると、30 歳代から 70 歳以上にかけてプラスの値となっており、70 歳代では 0.78 となっています。一方、29 歳以下では-0.12 とマイナスの値となっています。

問 27　市民と行政との協働によるまちづくり

あなたは、市民と行政との協働（パートナーシップ）により、まちづくりを進めることについて、どのようにお考えですか。（○は１つ）

図表 99　市民と行政との協働によるまちづくり【全体、経年比較】



○全体の傾向

「市民も行政に意見を言うだけではなく、まちづくりを進める主体として自覚を持つ関係が望ましい」が 44.1%で最も多く、「行政に任せる部分と市民参加で進める部分とを分けて対応することが望ましい」が 39.7%で続きます。「議会と行政の責任で進めるのが望ましい」は 9.4%です。

○経年比較

令和元年度調査から今回調査にかけて、「行政に任せる部分と市民参加で進める部分とを分けて対応することが望ましい」が５ポイント減少しています。

○男女別の傾向

男女とも「市民も行政に意見を言うだけではなく、まちづくりを進める主体として自覚を持つ関係が望ましい」が最も多く、「行政に任せる部分と市民参加で進める部分とを分けて対応することが望ましい」が続きます。女性の「行政に任せる部分と市民参加で進める部分とを分けて対応することが望ましい」は男性の割合を５ポイント上回っているのに対し、男性の「議会と行政の責任で進めるのが望ましい」は女性の割合を５ポイント上回っています。

○年代別の傾向

30 歳代と 40 歳代を除く各年代とも「市民も行政に意見を言うだけではなく、まちづくりを進める主体として自覚を持つ関係が望ましい」が最も多く、「行政に任せる部分と市民参加で進める部分とを分けて対応することが望ましい」が続きます。30 歳代と 40 歳代では「行政に任せる部分と市民参加で進める部分とを分けて対応することが望ましい」が最も多く、「市民も行政に意見を言うだけではなく、まちづくりを進める主体として自覚を持つ関係が望ましい」が続きます。

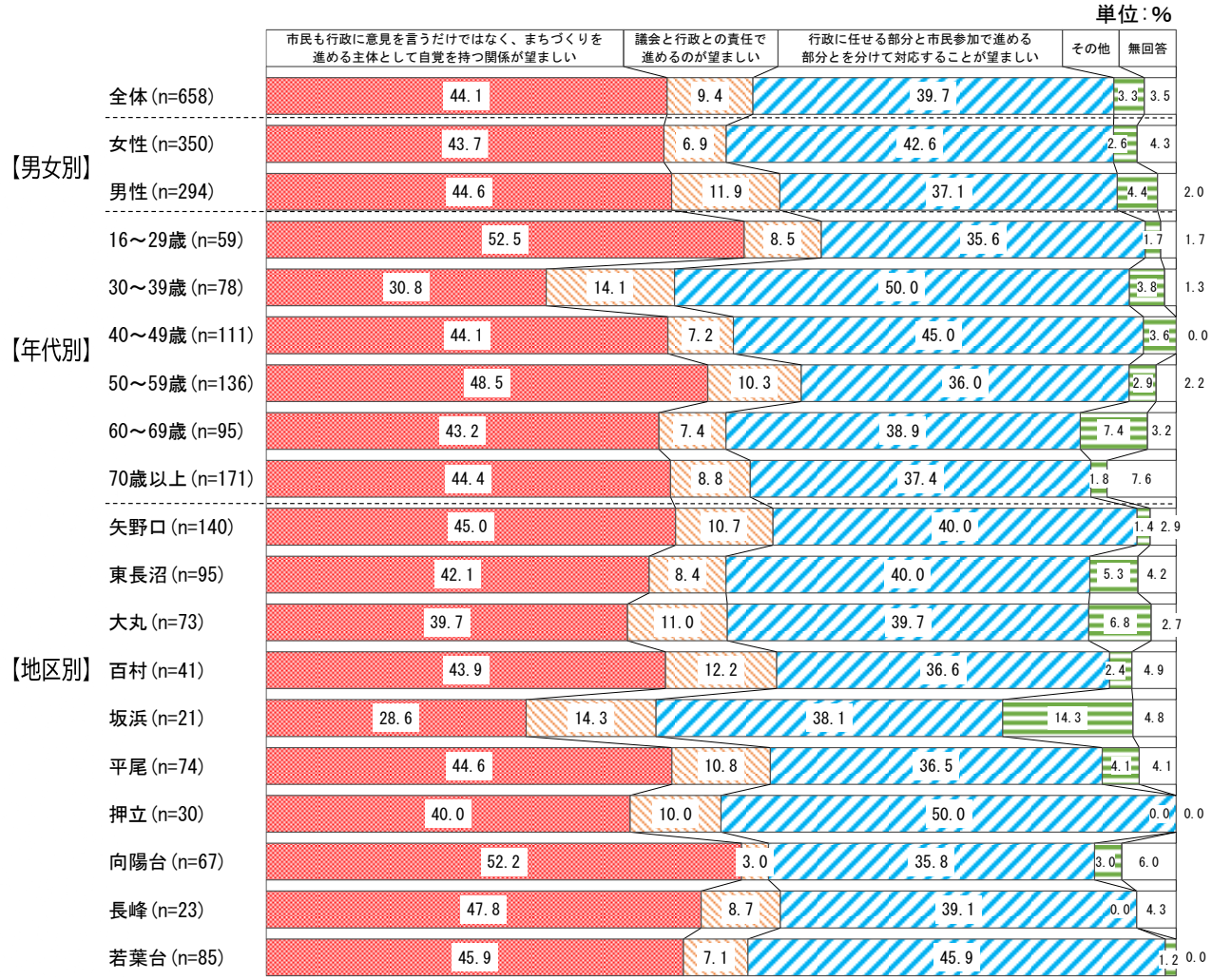
40 歳代では「行政に任せる部分と市民参加で進める部分とを分けて対応することが望ましい」「市民も行政に意見を言うだけではなく、まちづくりを進める主体として自覚を持つ関係が望ましい」の差が１ポイント以内となっています。

○地区別の傾向

矢野口・東長沼・百村・平尾・向陽台・長峰では「市民も行政に意見を言うだけではなく、まちづくりを進める主体として自覚を持つ関係が望ましい」が最も多く、「行政に任せる部分と市民参加で進める部分とを分けて対応することが望ましい」が続きます。坂浜と押立では「行政に任せる部分と市民参加で進める部分とを分けて対応することが望ましい」が最も多く、「市民も行政に意見を言うだけではなく、まちづくりを進める主体として自覚を持つ関係が望ましい」が続きます。

大丸と若葉台では「市民も行政に意見を言うだけではなく、まちづくりを進める主体として自覚を持つ関係が望ましい」「行政に任せる部分と市民参加で進める部分とを分けて対応することが望ましい」の割合が並んでいます。

図表 100　市民と行政との協働によるまちづくり【全体、男女別、年代別、地区別】



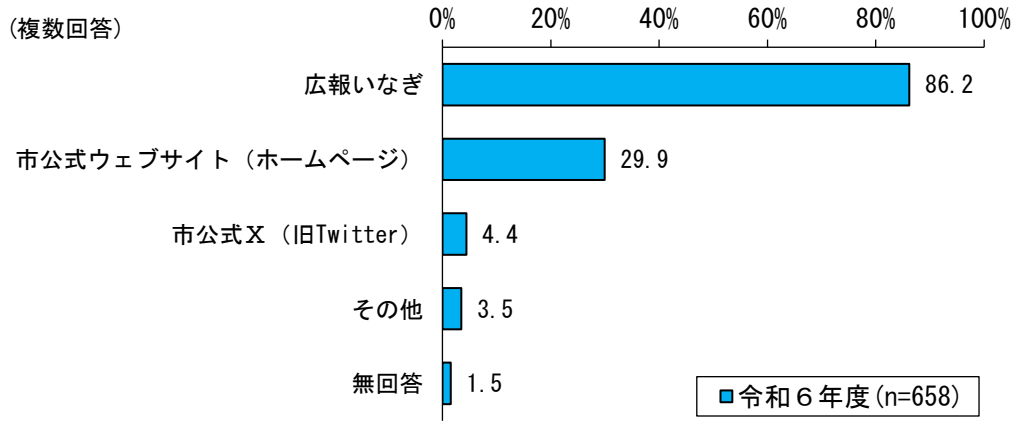
【選択肢「その他」の自由記載内容】

- まちづくりは本来は市民が主で、行政はそれを支援するのが望ましい。（女性・60 歳代）
- 行政と市民が協力し合って対話しながら進めるのが望ましい（男性・40 歳代）
- 行政側が柔軟に対応できるようにしてほしい。（男性・40 歳代）
- 参加する人は決まった人になると思うので偏らないかが問題。（男性・60 歳代）
- 市民や行政職員の意見が反映できる体制が必要です。（女性・50 歳代）
- 内容による。行政は事業の周知。議会は市民とのつながりを意識する。（男性・70 歳以上）
- 市長、議員が公約を掲げ、当選したのならばそれをまっとうする事に全力をつくすのが民主主義である（男性・40 歳代）
- 今市のやっていることに興味が持てない。（女性・60 歳代）
- 声が反映されていない。南山開発、ジャイアンツ、ヴェルディ→税金でしょ。（男性・60 歳代）
- 無駄なガンダム、南多摩駅前のオブジェ不要。（男性・50 歳代）
- 自治会を廃止（自治会入会者だけの金銭負担は不公平）。（男性・30 歳代）
- 協働と言いつつ無給で参加する市民にも責任を負わせるのはどうかと思う（女性・30 歳代）
- 分からない。（女性・29 歳以下）　　※ほか６件

問 28　市の行政情報を伝える広報メディアの利用状況

市の行政情報を伝える広報メディア（媒体）のうち、あなたが普段利用しているのはどれですか。**（○は３つまで）**

図表 101　市の行政情報を伝える広報メディアの利用状況



○全体の傾向

「広報いなぎ」が 86.2%を占めて最も多くなっており、「市公式ウェブサイト（ホームページ）」が 29.9%で続きます。「市公式Ｘ（旧 Twitter）」は 4.4%です。

図表 102　市の行政情報を伝える広報メディアの利用状況【全体、男女別】

	広報いなぎ	市公式ウェブサイト（ホームページ）	市公式Ｘ（旧 Twitter）	その他	無回答
全体（n=658）	86.2	29.9	4.4	3.5	1.5
女性（n=350）	88.3	30.0	4.3	3.1	0.9
男性（n=294）	83.3	29.9	4.8	3.7	2.4

○男女別の傾向

男女とも「広報いなぎ」が最も多く、「市公式ウェブサイト（ホームページ）」が続きます。女性の「広報いなぎ」は男性の割合を５ポイント上回っています。

図表 103　市の行政情報を伝える広報メディアの利用状況【全体、年代別】

	広報いなぎ	市公式ウェブサイト（ホームページ）	市公式X（旧 Twitter）	その他	無回答
全　　体（n=658）	86.2	29.9	4.4	3.5	1.5
16～29 歳（n=59）	61.0	33.9	15.3	8.5	－
30～39 歳（n=78）	73.1	41.0	5.1	5.1	3.8
40～49 歳（n=111）	89.2	34.2	4.5	4.5	－
50～59 歳（n=136）	87.5	35.3	5.1	2.9	1.5
60～69 歳（n=95）	88.4	35.8	3.2	3.2	－
70 歳以上（n=171）	96.5	14.6	0.6	0.6	2.9

○年代別の傾向

各年代とも「広報いなぎ」が最も多く、「市公式ウェブサイト（ホームページ）」が続きます。29 歳以下と 30 歳代では「広報いなぎ」が６割強から７割強にとどまっています。また、70 歳以上では「市公式ウェブサイト（ホームページ）」が 14.6%にとどまっています。

図表 104　市の行政情報を伝える広報メディアの利用状況【全体、地区別】

	広報いなぎ	市公式ウェブサイト（ホームページ）	市公式X（旧 Twitter）	その他	無回答
全　体（n=658）	86.2	29.9	4.4	3.5	1.5
矢野口（n=140）	85.7	22.9	2.9	2.1	2.9
東長沼（n=95）	90.5	31.6	7.4	3.2	－
大　丸（n=73）	89.0	37.0	9.6	5.5	1.4
百　村（n=41）	78.0	36.6	4.9	2.4	－
坂　浜（n=21）	85.7	28.6	－	－	4.8
平　尾（n=74）	85.1	29.7	4.1	2.7	2.7
押　立（n=30）	90.0	23.3	－	3.3	－
向陽台（n=67）	82.1	44.8	－	4.5	1.5
長　峰（n=23）	82.6	21.7	13.0	－	－
若葉台（n=85）	87.1	27.1	3.5	5.9	1.2

○地区別の傾向

各地区とも「広報いなぎ」が最も多く、「市公式ウェブサイト（ホームページ）」が続きます。このほか、長峰では「市公式X（旧 Twitter）」が１割に達しています。

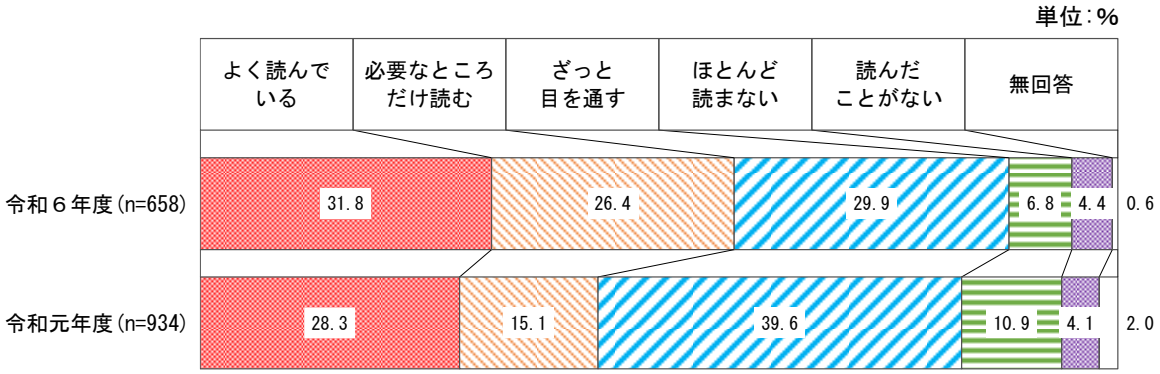
【選択肢「その他」の自由記載内容】

- メールマガジン（女性・30 歳代）　※ほか１件
- 稲城市役所からのメール（女性・30 歳代）
- メール（女性・40 歳代）　※ほか１件
- 電話して聞く。（女性・70 歳以上）
- 他地域との比較は YouTube。（女性・60 歳代）
- 伝聞情報（男性・29 歳以下）
- 使用していない。（女性・29 歳以下）　※ほか 13 件

問 29「広報いなぎ」の精読度

市では、「広報いなぎ」を毎月１日と 15 日に発行し、ポスティングにより全戸配布をしていますが、あなたはどの程度読んでいますか。（○は１つ）

図表 105　「広報いなぎ」の精読度【全体、経年比較】



○全体の傾向

「よく読んでいる」が 31.8%、「必要なところだけ読む」が 26.4%、「ざっと目を通す」が 29.9%となっています。

「ほとんど読まない」は 6.8%、「読んだことがない」は 4.4%です。

○経年比較

令和元年度調査から今回調査にかけて、「必要なところだけ読む」が 11 ポイント増加しているのに対して、「ざっと目を通す」が９ポイント減少しています。

○男女別の傾向

女性は「よく読んでいる」が最も多く、「ざっと目を通す」が続きます。男性は「ざっと目を通す」が最も多く、「よく読んでいる」が続きます。女性の「よく読んでいる」は 34.9%であり、男性の割合を７ポイント上回っています。

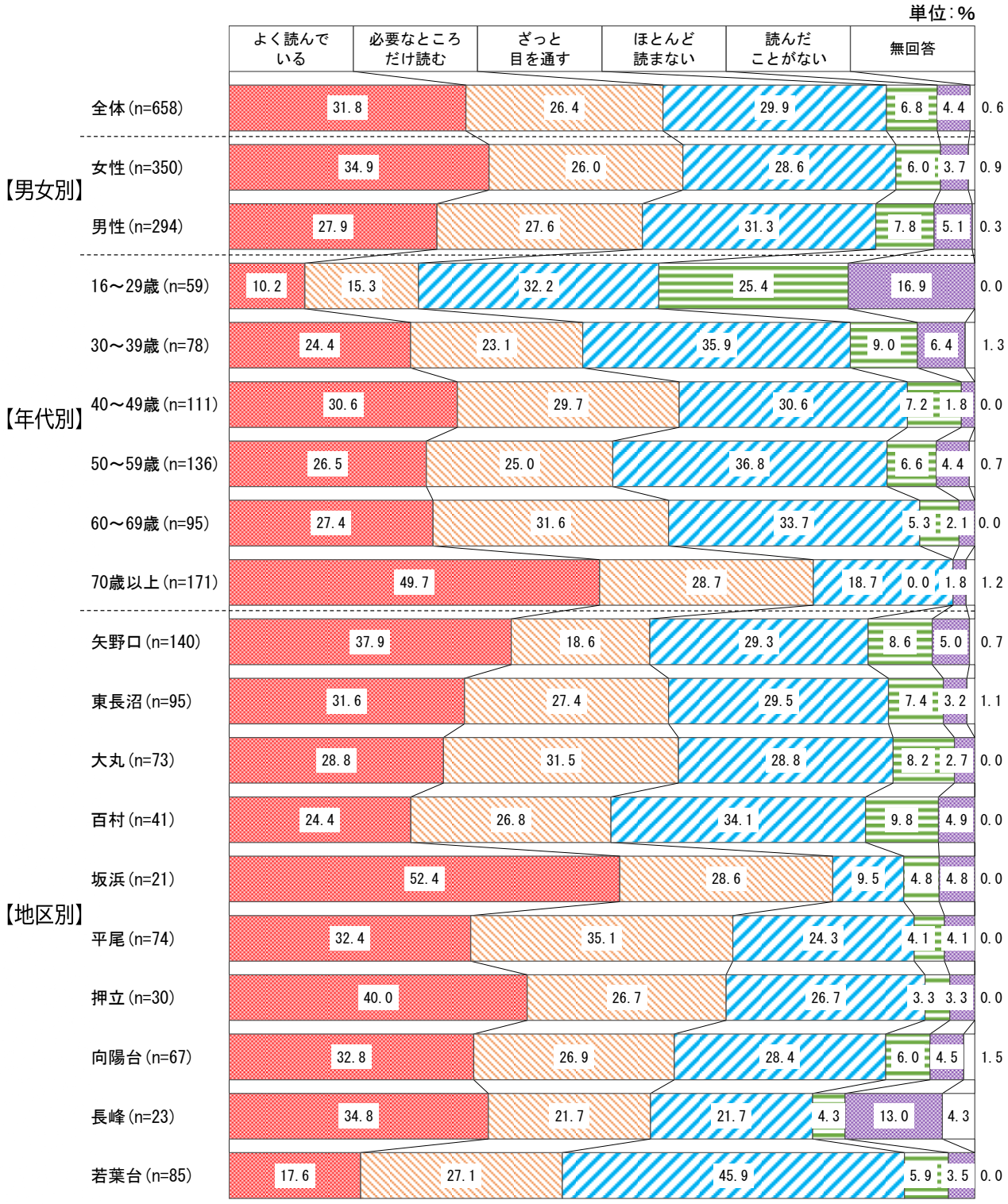
○年代別の傾向

40 歳代と 70 歳以上を除く各年代とも「ざっと目を通す」が最も多くなっています。70 歳以上では「よく読んでいる」が 49.7%で最も多く、40 歳代では「よく読んでいる」「ざっと目を通す」が並んでいます。29 歳以下では「ほとんど読まない」が 25.4%、「読んだことがない」が 16.9%であり、いずれも他の年代を 10 ポイント以上上回っています。

○地区別の傾向

矢野口・東長沼・坂浜・押立・向陽台・長峰では「よく読んでいる」が最も多く、特に坂浜では「よく読んでいる」が 52.4%となっています。大丸と平尾では「必要なところだけ読む」が最も多く、百村と若葉台では「ざっと目を通す」が最も多くなっています。

図表 106　「広報いなぎ」の精読度【全体、男女別、年代別、地区別】

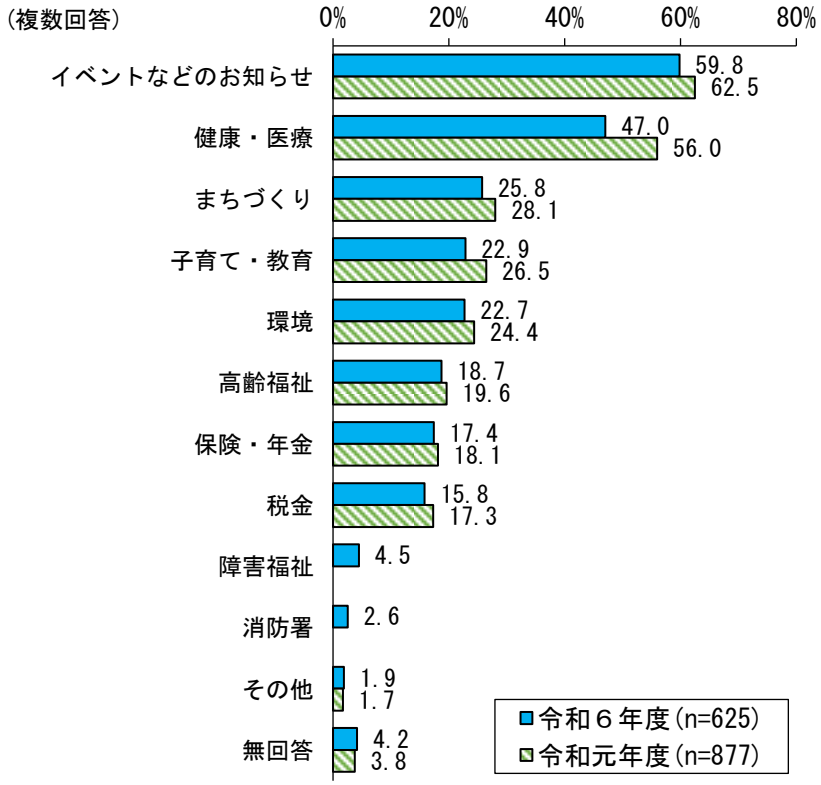


問 29-1「広報いなぎ」の関心のある記事

問 29 で「よく読んでいる」「必要なところだけ読む」「ざっと目を通す」「ほとんど読まない」を選択した回答者に対する設問

「広報いなぎ」のどのような記事に関心を持って読まれますか。（○は３つまで）

図表 107　「広報いなぎ」の関心のある記事【全体、経年比較】



※令和元年度調査では「障害福祉」「消防署」なし。

○全体の傾向

広報いなぎを読んだことがあると回答した人に対して、関心を持った記事についてうかがったところ、「イベントなどのお知らせ」が 59.8%で最も多く、「健康・医療」（47.0%）、「まちづくり」（25.8%）、「子育て・教育」（22.9%）が続きます。

○経年比較

上位４項目については、今回調査・令和元年度調査とも同様の順位となっています。

図表 108　「広報いなぎ」の関心のある記事【全体、男女別】

	環境	保険・年金	まちづくり	子育て・教育	高齢福祉	イベントなどのお知らせ	税金	健康・医療	障害福祉	消防署	その他	無回答
全体（n=625）	22.7	17.4	25.8	22.9	18.7	59.8	15.8	47.0	4.5	2.6	1.9	4.2
女性（n=334）	20.7	17.4	18.6	24.0	19.2	61.7	13.5	52.1	4.5	2.1	1.8	3.9
男性（n=278）	24.5	17.6	34.5	21.6	18.0	59.0	18.7	40.6	4.3	3.2	2.2	4.0

○男女別の傾向

男女とも「イベントなどのお知らせ」が最も多く、「健康・医療」が続きます。女性の「健康・医療」は男性を 11 ポイント上回っているのに対し、男性の「まちづくり」は女性を 15 ポイント上回っています。

図表 109　「広報いなぎ」の関心のある記事【全体、年代別】

	環境	保険・年金	まちづくり	子育て・教育	高齢福祉	イベントなどのお知らせ	税金	健康・医療	障害福祉	消防署	その他	無回答
全　　体（n=625）	22.7	17.4	25.8	22.9	18.7	59.8	15.8	47.0	4.5	2.6	1.9	4.2
16～29 歳（n=49）	18.4	4.1	26.5	30.6	－	63.3	14.3	10.2	4.1	8.2	8.2	2.0
30～39 歳（n=72）	16.7	5.6	30.6	55.6	－	70.8	16.7	19.4	6.9	－	－	8.3
40～49 歳（n=109）	22.9	3.7	31.2	52.3	3.7	64.2	19.3	36.7	2.8	0.9	0.9	5.5
50～59 歳（n=129）	24.0	12.4	27.9	14.0	11.6	68.2	10.1	55.0	4.7	3.1	1.6	3.9
60～69 歳（n=93）	25.8	28.0	30.1	5.4	15.1	54.8	16.1	55.9	4.3	4.3	4.3	3.2
70 歳以上（n=166）	22.9	33.1	16.3	4.2	50.0	49.4	18.1	65.7	4.2	1.8	0.6	1.8

○年代別の傾向

29 歳以下から 50 歳代にかけて「イベントなどのお知らせ」が最も多く、29 歳以下から 40 歳代では「子育て・教育」が、50 歳代では「健康・医療」が続きます。60 歳代と 70 歳以上では「健康・医療」が最も多く、60 歳代では「イベントなどのお知らせ」が、70 歳以上では「高齢福祉」が続きます。

このほか、「保険・年金」はおおむね年代とともに割合が増加しており、70 歳以上では 33.1%

となっています。

図表 110　「広報いなぎ」の関心のある記事【全体、地区別】

	環境	保険・年金	まちづくり	子育て・教育	高齢福祉	イベントなどのお知らせ	税金	健康・医療	障害福祉	消防署	その他	無回答
全　体（n=625）	22.7	17.4	25.8	22.9	18.7	59.8	15.8	47.0	4.5	2.6	1.9	4.2
矢野口（n=132）	15.9	19.7	31.8	25.8	10.6	56.1	23.5	44.7	3.0	3.8	3.8	3.8
東長沼（n=91）	26.4	14.3	27.5	30.8	17.6	60.4	22.0	38.5	4.4	2.2	1.1	5.5
大　丸（n=71）	19.7	15.5	25.4	16.9	23.9	57.7	11.3	42.3	1.4	2.8	－	2.8
百　村（n=39）	17.9	17.9	23.1	12.8	23.1	53.8	23.1	35.9	2.6	2.6	5.1	15.4
坂　浜（n=20）	15.0	10.0	30.0	30.0	20.0	75.0	15.0	45.0	10.0	5.0	5.0	－
平　尾（n=71）	21.1	21.1	19.7	31.0	22.5	56.3	9.9	49.3	9.9	2.8	1.4	2.8
押　立（n=29）	34.5	17.2	17.2	27.6	24.1	69.0	13.8	55.2	－	3.4	－	3.4
向陽台（n=63）	25.4	17.5	12.7	17.5	20.6	60.3	14.3	65.1	4.8	3.2	3.2	1.6
長　峰（n=19）	26.3	26.3	26.3	5.3	31.6	63.2	10.5	63.2	15.8	－	－	－
若葉台（n=82）	28.0	14.6	34.1	17.1	17.1	69.5	6.1	47.6	2.4	－	－	2.4

○地区別の傾向

向陽台を除く各地区とも「イベントなどのお知らせ」が最も多く、「健康・医療」が続きます。向陽台では「健康・医療」が最も多く、「イベントなどのお知らせ」が続きます。

このほか、押立では「環境」が 34.5%であり、他の地区を６ポイント以上上回っています。

【選択肢「その他」の自由記載内容】

- サークル活動、図書。（男性・70 歳以上）
- 図書館新資料（女性・29 歳以下）
- マンガ（女性・29 歳以下）
- 市議の活動報告。（女性・50 歳代）
- 講習会（男性・50 歳代）
- その時期のお知らせは特に注意している。（女性・60 歳代）
- 文化、コラム（女性・60 歳代）
- 人口の増減表（女性・29 歳以下）
- ほとんど読まない（男性・40 歳代）
- 全部見てる。（男性・60 歳代）

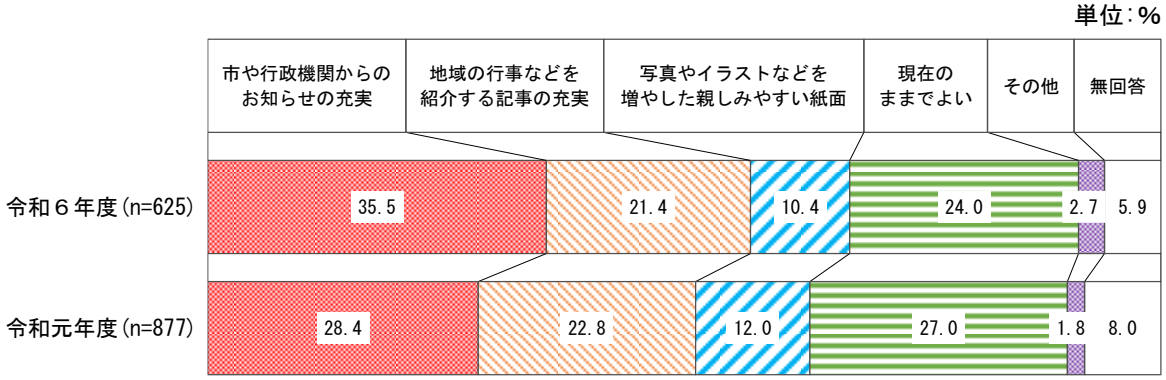
問 29-2 「広報いなぎ」の紙面に期待すること

問 29 で「よく読んでいる」「必要なところだけ読む」「ざっと目を通す」「ほとんど読まない」を選択した回答者に対する設問

「広報いなぎ」の紙面内容に最も期待することは何ですか。（○は１つ）

図表 111　「広報いなぎ」の紙面に期待すること【全体、経年比較】

単位：%



○全体の傾向

広報いなぎを読んだことがあると回答した人に対して、紙面内容に最も期待することについてうかがったところ、「市や行政機関からのお知らせの充実」が 35.5%で最も多く、「現在のままでよい」（24.0%）、「地域の行事などを紹介する記事の充実」（21.4%）、「写真やイラストなどを増やした親しみやすい紙面」（10.4%）が続きます。

○経年比較

令和元年度調査から今回調査にかけて、「市や行政機関からのお知らせの充実」が７ポイント増加しています。

○男女別の傾向

男女とも「市や行政機関からのお知らせの充実」が最も多く、「現在のままでよい」が続きます。男性の「市や行政機関からのお知らせの充実」は 42.1%であり、女性の割合を 12 ポイント上回っています。

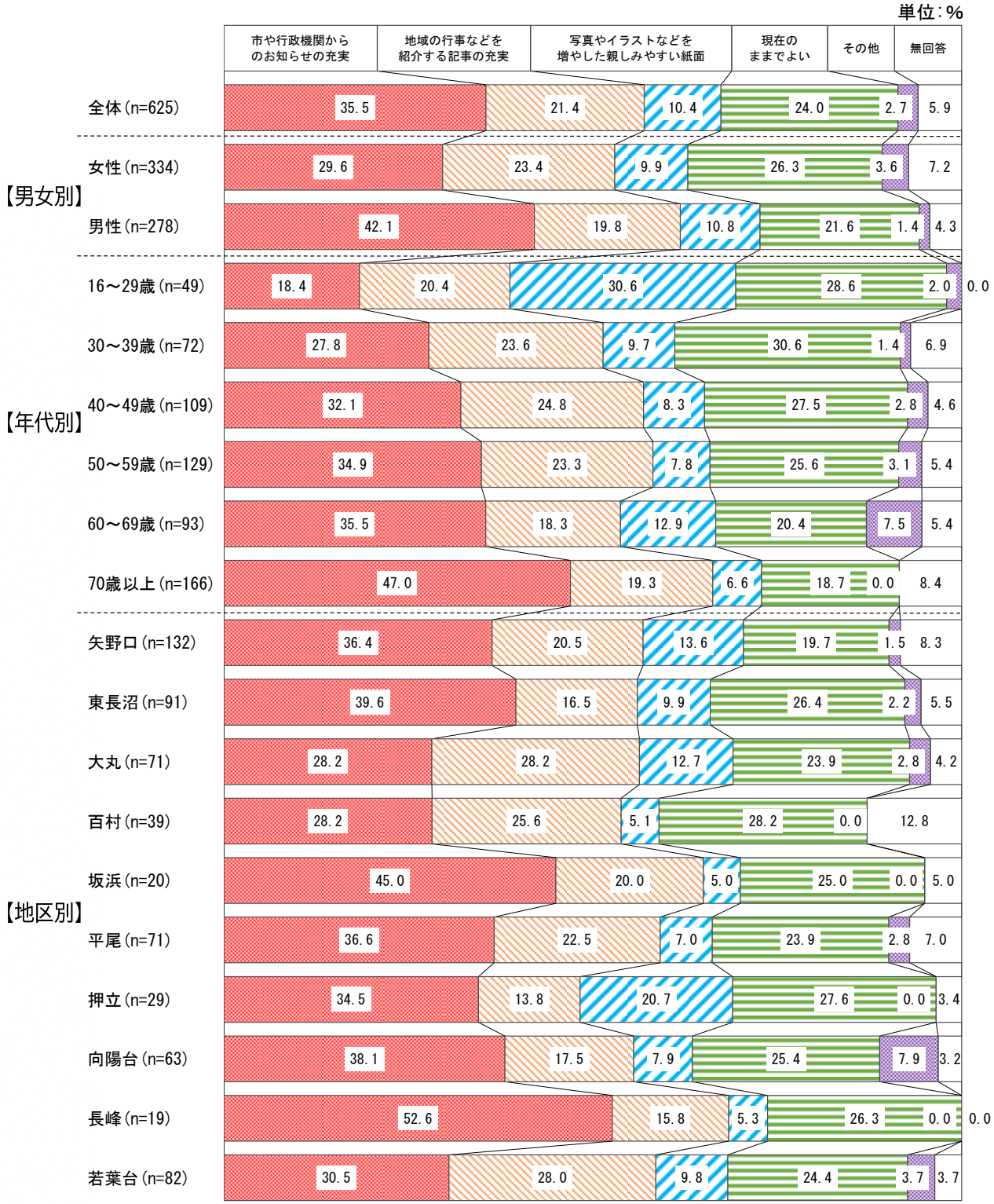
○年代別の傾向

40 歳代から 70 歳以上にかけて「市や行政機関からのお知らせの充実」が最も多くなっています。「市や行政機関からのお知らせの充実」は年代とともに割合が増加しており、70 歳以上では 47.0%となっています。29 歳以下では「写真やイラストなどを増やした親しみやすい紙面」が最も多く、30 歳代では「現在のままでよい」が最も多くなっています。

○地区別の傾向

大丸と百村を除く各地区とも「市や行政機関からのお知らせの充実」が最も多くなっています。大丸では「市や行政機関からのお知らせの充実」「地域の行事などを紹介する記事の充実」がそれぞれ 28.2%で並んでおり、百村では「市や行政機関からのお知らせの充実」「現在のままでよい」がそれぞれ 28.2%で並んでいます。

図表 112　「広報いなぎ」の紙面に期待すること【全体、男女別、年代別、地区別】



【選択肢「その他」の自由記載内容】

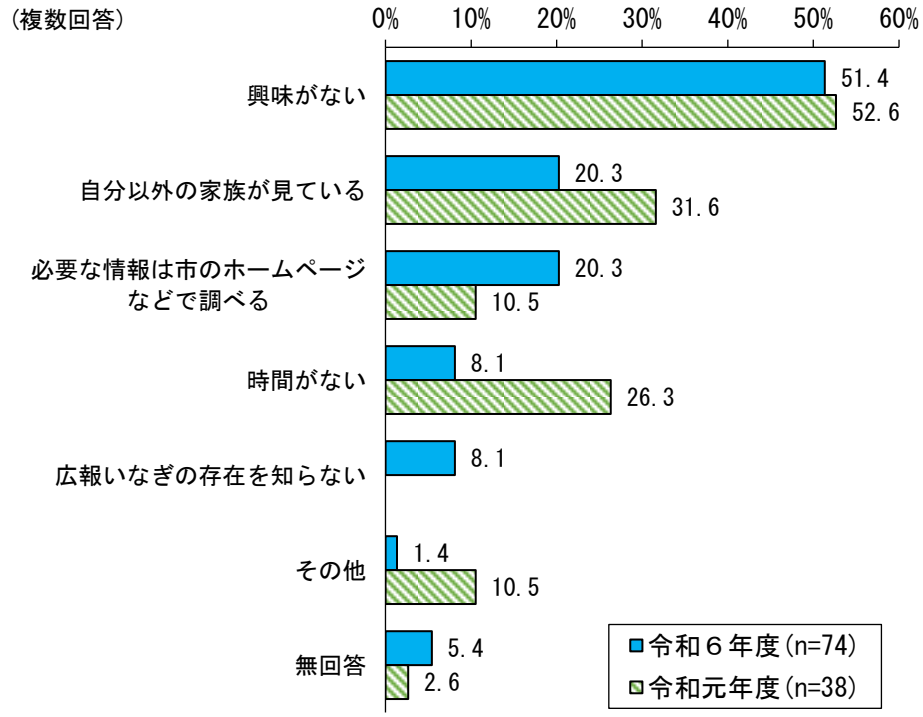
- 市民の声欄を作っては、厳しい意見も出ると思うが。（男性・60 歳代）
- HP の内容。（女性・50 歳代）
- 市内の各地域の特色などの紹介（他地域を知らないので）。（女性・60 歳代）
- 新しい取り組みへの告知とその意義をわかりやすく紙面に入れてほしい。あいさつ文など形式ばった記事は読んでいない。（女性・60 歳代）
- 分かりやすい行政の内容（女性・40 歳代）
- 市内であった素敵なことを掲載する（女性・50 歳代）
- 人口の増減表の復活（女性・29 歳以下）
- ウェブで定期的に発信。（女性・60 歳代）
- 月１回発行でも良い。（女性・50 歳代）
- 字の大きさ。（男性・30 歳代）
- 紙面サイズを小さく（A4 くらい）（男性・60 歳代）
- 紙の質をよくしてほしい。特に保存した方がいい内容の時は（年に４回くらいでいいので）。（女性・60 歳代）
- 伝えなければならない事ではなく、伝えたいことを書いてほしい。決算の数字より生活がどうなるのかを書いてほしい。（男性・50 歳代）
- 広報にそこまで税金を使わなくてもいいと思っている。（性別無回答・年齢無回答）
- 私は必要性を感じないので、経費削減。（女性・40 歳代）
- 必要がないと思う（女性・40 歳代）

問 29-3「広報いなぎ」を見ない理由

問 29 で「ほとんど読まない」「読んだことがない」を選択した回答者に対する設問

「広報いなぎ」を見ない理由は何ですか。（○はいくつでも）

図表 113　「広報いなぎ」を見ない理由【全体、経年比較】



※令和元年度調査では「広報いなぎの存在を知らない」なし。

○全体の傾向

広報いなぎを読まない人に対して、その理由をうかがったところ、「興味がない」が 51.4%で最も多く、「自分以外の家族が見ている」「必要な情報は市のホームページなどで調べる」（それぞれ 20.3%）、「時間がない」「広報いなぎの存在を知らない」（8.1%）が続きます。

○経年比較

令和元年度調査から今回調査にかけて「必要な情報は市のホームページなどで調べる」が９ポイント増加している一方で、「時間がない」が 18 ポイント、「自分以外の家族が見ている」が 11 ポイント減少しています。

図表 114　「広報いなぎ」を見ない理由【全体、男女別】

	時間がない	自分以外の家族が見ている	興味がない	必要な情報は市のホームページなどで調べる	広報いなぎの存在を知らない	その他	無回答
全体（n=74）	8.1	20.3	**51.4**	20.3	8.1	1.4	5.4
女性（n=34）	8.8	26.5	**44.1**	17.6	8.8	2.9	5.9
男性（n=38）	7.9	15.8	**55.3**	23.7	7.9	－	5.3

○男女別の傾向

男女とも「興味がない」が最も多く、女性は「自分以外の家族が見ている」が、男性は「必要な情報は市のホームページなどで調べる」が続きます。女性の「自分以外の家族が見ている」は男性を 10 ポイント上回っているのに対し、男性の「興味がない」は女性を 11 ポイント上回っています。

図表 115　「広報いなぎ」を見ない理由【全体、年代別】

	時間がない	自分以外の家族が見ている	興味がない	必要な情報は市のホームページなどで調べる	広報いなぎの存在を知らない	その他	無回答
全　　体（n=74）	8.1	20.3	**51.4**	20.3	8.1	1.4	5.4
16～29 歳（n=25）	4.0	28.0	**64.0**	8.0	16.0	－	4.0
30～39 歳（n=12）	8.3	25.0	41.7	16.7	16.7	－	－
40～49 歳（n=10）	10.0	－	60.0	40.0	－	－	－
50～59 歳（n=15）	6.7	26.7	33.3	33.3	－	－	6.7
60～69 歳（n=7）	28.6	14.3	42.9	28.6	－	－	14.3
70 歳以上（n=3）	－	－	33.3	－	－	33.3	33.3

○年代別の傾向

29 歳以下では「興味がない」が 64.0％で最も多く、「自分以外の家族が見ている」が 28.0％で続きます。

【選択肢「その他」の自由記載内容】

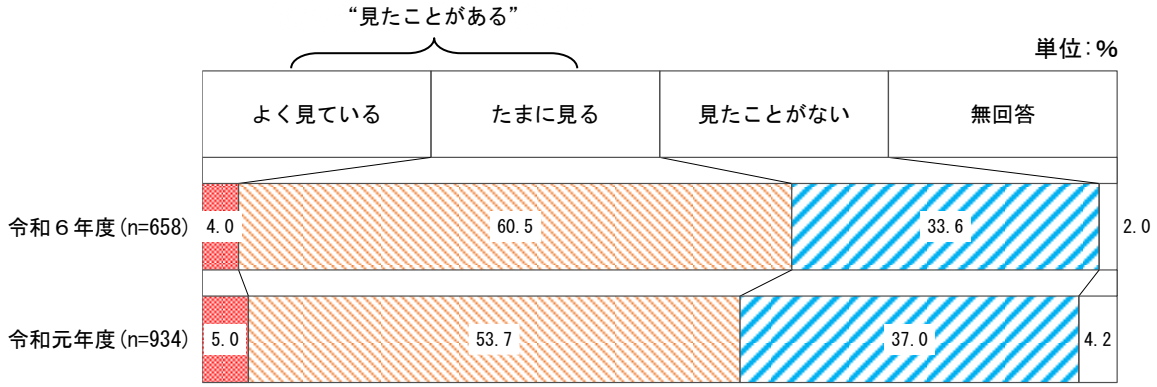
・　入ってない。（女性・70 歳以上）

問 30　市の公式ホームページの閲覧状況

あなたは、市公式ウェブサイト（ホームページ）をご覧になったことがありますか。

（○は１つ）

図表 116　市の公式ホームページの閲覧状況【全体、経年比較】



○全体の傾向

「よく見ている」が 4.0%、「たまに見る」が 60.5%となっており、両者を合わせた“見たことがある”は 64.5%です。「見たことがない」は 33.6%です。

○経年比較

令和元年度調査から今回調査にかけて、「たまに見る」が６ポイント増加しています。

○男女別の傾向

男女とも“見たことがある”が６割台となっています。

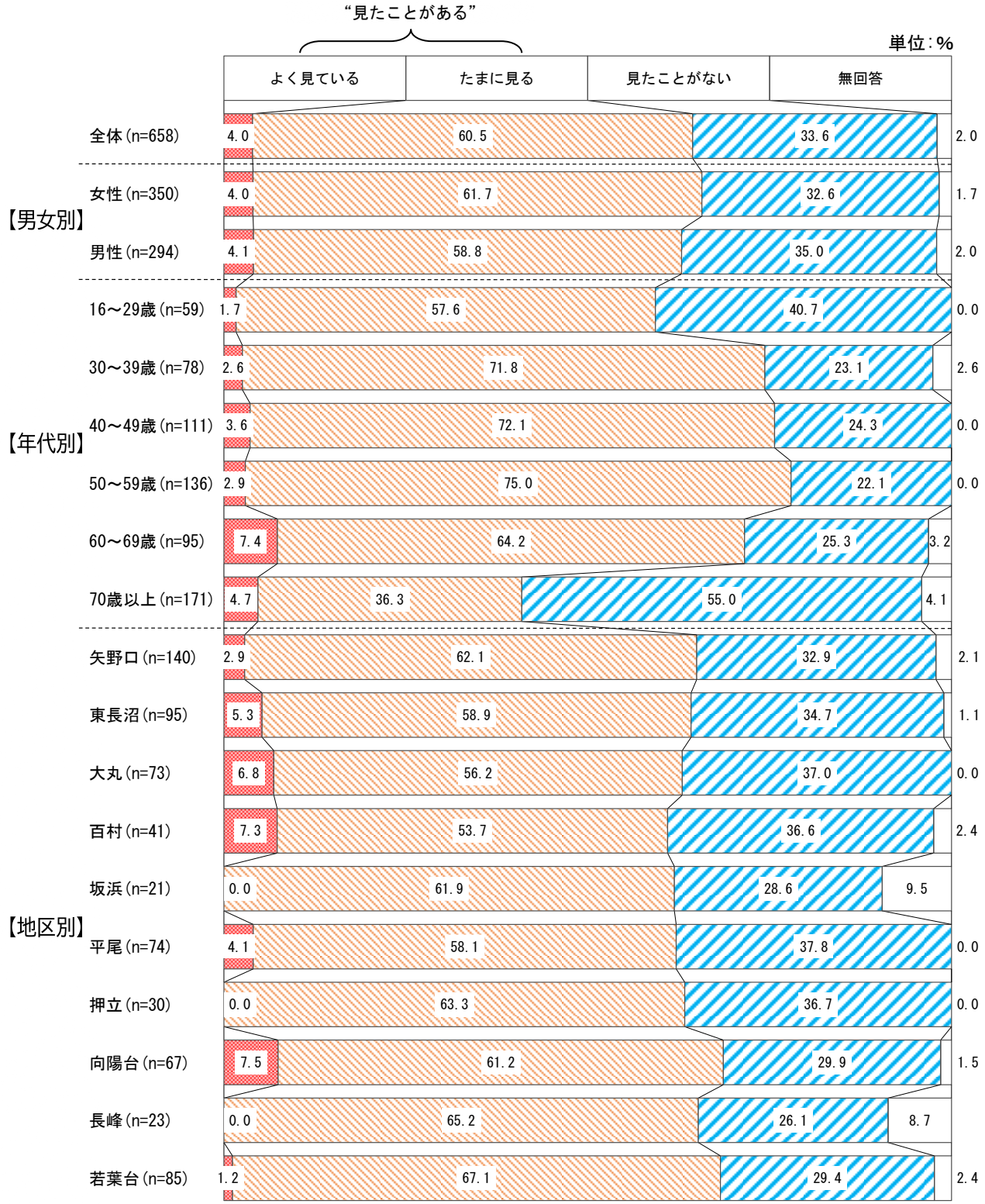
○年代別の傾向

30 歳代から 60 歳代にかけて“見たことがある”が７割台となっているのに対し、29 歳以下では 59.3%、70 歳以上では 41.0%にとどまっています。70 歳以上では「見たことがない」が 55.0%と過半数となっています。

○地区別の傾向

各地区とも“見たことがある”が６割台となっています。

図表 117　市の公式ホームページの閲覧状況【全体、男女別、年代別、地区別】

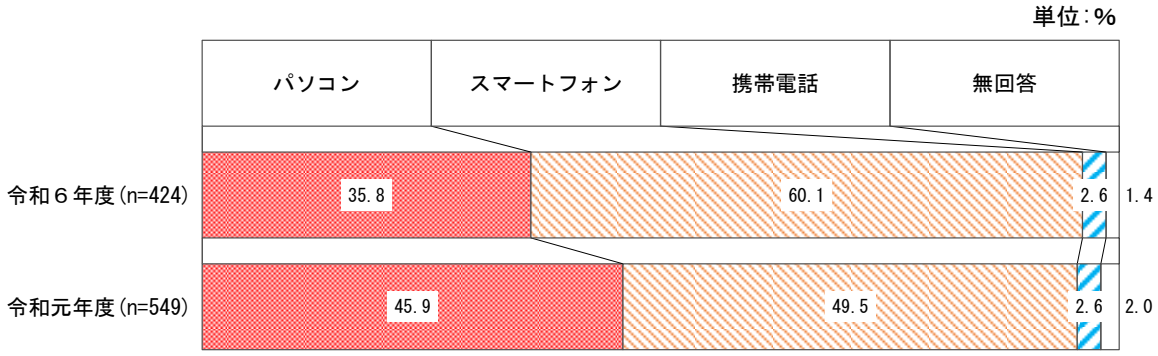


問 30-1　市の公式ホームページをみる媒体

問 30 で「よく見ている」「たまに見る」を選択した回答者に対する設問

市公式ウェブサイト（ホームページ）をご覧になる際の主な媒体は何ですか。（○は１つ）

図表 118　市の公式ホームページをみる媒体【全体、経年比較】



○全体の傾向

市の公式ウェブサイト（ホームページ）を見たことがあると回答した人に対して、閲覧する際の主な媒体についてうかがったところ、「スマートフォン」が 60.1%で最も多く、「パソコン」（35.8%）、「携帯電話」（2.6%）が続きます。

○経年比較

令和元年度調査から今回調査にかけて「スマートフォン」が 10 ポイント増加している一方で、「パソコン」が 10 ポイント減少しています。

○男女別の傾向

男女とも「スマートフォン」が最も多く、「パソコン」が続きます。女性の「スマートフォン」は男性を 18 ポイント上回っているのに対し、男性の「パソコン」は女性を 18 ポイント上回っています。

○年代別の傾向

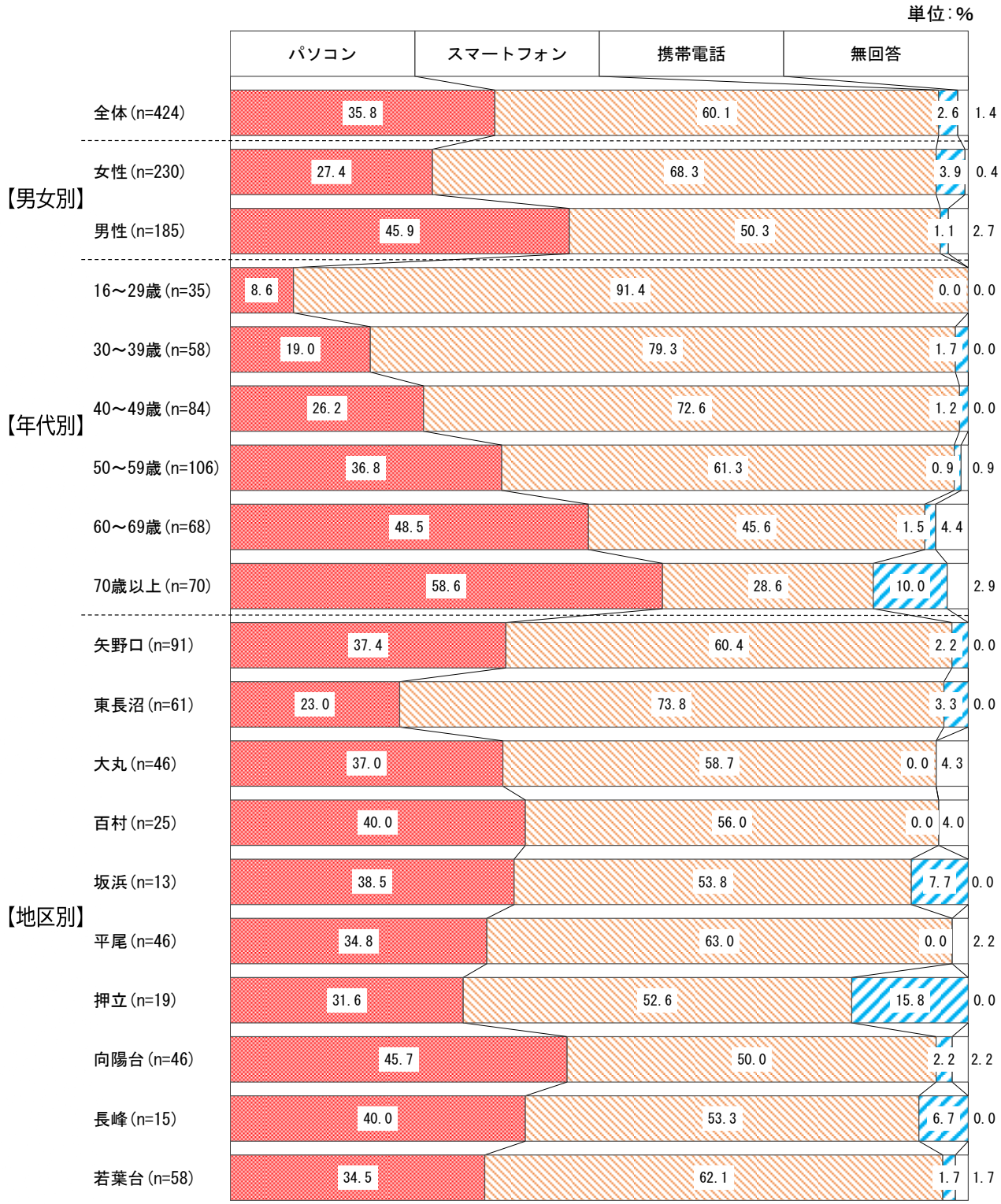
年代とともに「パソコン」の割合が増加し、「スマートフォン」の割合が減少しています。29 歳以下から 50 歳代では「スマートフォン」が「パソコン」を上回っているのに対し、60 歳代と 70 歳以上では「パソコン」が「スマートフォン」を上回っています。

○地区別の傾向

各地区とも「スマートフォン」が「パソコン」を上回っており、特に東長沼では「スマートフォン」が 73.8%となっています。

図表 119　市の公式ホームページをみる媒体【全体、男女別、年代別、地区別】

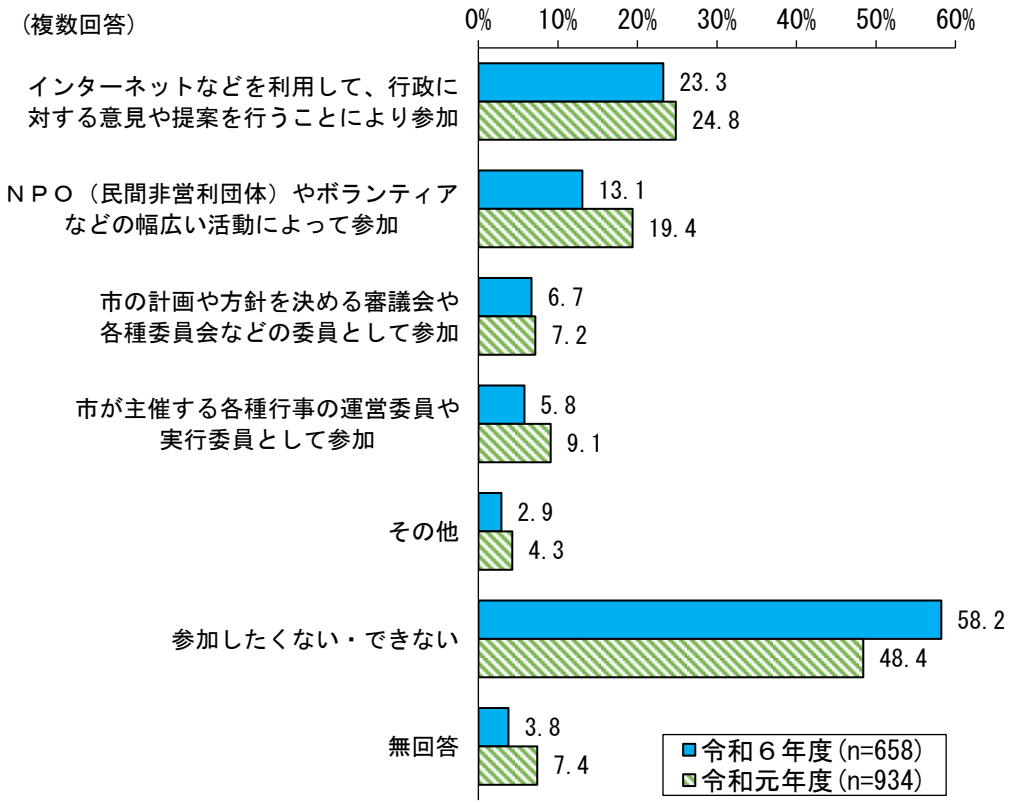
単位：%



問 31　行政活動への参加方法

あなたはどのようなことで市の行政に参加したいと思いますか。（○は３つまで）

図表 120　行政活動への参加方法【全体、経年比較】



○全体の傾向

「インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提案を行うことにより参加」が23.3%となっており、「NPO（民間非営利団体）やボランティアなどの幅広い活動によって参加」(13.1%)、「市の計画や方針を決める審議会や各種委員会などの委員として参加」(6.7%)、「市が主催する各種行事の運営委員や実行委員として参加」(5.8%) が続きます。

なお、「参加したくない・できない」が 58.2%となっています。

○経年比較

令和元年度調査から今回調査にかけて「参加したくない・できない」が９ポイント増加している一方で、「NPO（民間非営利団体）やボランティアなどの幅広い活動によって参加」が６ポイント減少しています。

図表 121　行政活動への参加方法【全体、男女別】

	市が主催する各種行事の運営委員や実行委員として参加	NPO（民間非営利団体）やボランティアなどの幅広い活動によって参加	インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提案を行うことにより参加	市の計画や方針を決める審議会や各種委員会などの委員として参加	その他	参加したくない・できない	無回答
全体（n=658）	5.8	13.1	23.3	6.7	2.9	**58.2**	3.8
女性（n=350）	3.7	12.9	17.4	4.0	2.9	**62.0**	5.7
男性（n=294）	8.5	13.6	29.9	9.5	2.0	**54.1**	1.4

○男女別の傾向

男女とも「参加したくない・できない」が最も多く、「インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提案を行うことにより参加」が続きます。女性の「参加したくない・できない」は男性を 7 ポイント上回っているのに対し、男性の「インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提案を行うことにより参加」は女性を 12 ポイント上回っています。

図表 122　行政活動への参加方法【全体、年代別】

	市が主催する各種行事の運営委員や実行委員として参加	NPO（民間非営利団体）やボランティアなどの幅広い活動によって参加	インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提案を行うことにより参加	市の計画や方針を決める審議会や各種委員会などの委員として参加	その他	参加したくない・できない	無回答
全　　体（n=658）	5.8	13.1	23.3	6.7	2.9	**58.2**	3.8
16～29 歳（n=59）	3.4	8.5	22.0	8.5	1.7	**66.1**	－
30～39 歳（n=78）	2.6	7.7	24.4	2.6	－	**67.9**	1.3
40～49 歳（n=111）	3.6	8.1	30.6	5.4	1.8	**62.2**	－
50～59 歳（n=136）	4.4	17.6	27.2	5.1	2.9	**57.4**	2.9
60～69 歳（n=95）	10.5	21.1	28.4	8.4	6.3	**45.3**	2.1
70 歳以上（n=171）	8.2	12.3	12.9	8.2	2.9	**56.7**	9.9

○年代別の傾向

各年代とも「参加したくない・できない」が最も多く、「インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提案を行うことにより参加」が続きます。

60 歳代では「NPO（民間非営利団体）やボランティアなどの幅広い活動によって参加」が２割に達しています。

図表 123　行政活動への参加方法【全体、地区別】

	市が主催する各種行事の運営委員や実行委員として参加	ＮＰＯ（民間非営利団体）やボランティアなどの幅広い活動によって参加	インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提案を行うことにより参加	市の計画や方針を決める審議会や各種委員会などの委員として参加	その他	参加したくない・できない	無回答
全　体（n=658）	5.8	13.1	23.3	6.7	2.9	58.2	3.8
矢野口（n=140）	7.9	13.6	18.6	8.6	1.4	63.6	1.4
東長沼（n=95）	1.1	10.5	28.4	7.4	4.2	60.0	3.2
大　丸（n=73）	8.2	13.7	19.2	8.2	2.7	60.3	4.1
百　村（n=41）	－	12.2	24.4	－	4.9	51.2	7.3
坂　浜（n=21）	－	4.8	19.0	4.8	4.8	57.1	9.5
平　尾（n=74）	8.1	16.2	21.6	5.4	5.4	55.4	5.4
押　立（n=30）	16.7	10.0	16.7	10.0	3.3	63.3	3.3
向陽台（n=67）	1.5	14.9	31.3	6.0	1.5	52.2	4.5
長　峰（n=23）	17.4	21.7	21.7	4.3	4.3	56.5	4.3
若葉台（n=85）	4.7	11.8	27.1	4.7	－	56.5	2.4

○地区別の傾向

各地区とも「参加したくない・できない」が最も多く、押立と長峰を除く各地区では「インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提案を行うことにより参加」が続きます。長峰では「NPO（民間非営利団体）やボランティアなどの幅広い活動によって参加」「インターネットなどを利用して､行政に対する意見や提案を行うことにより参加」がそれぞれ 21.7%、押立では「市が主催する各種行事の運営委員や実行委員として参加」「インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提案を行うことにより参加」がそれぞれ 16.7%で続きます。

このほか、長峰では「市が主催する各種行事の運営委員や実行委員として参加」が 17.4%であり、押立とともに他の地区の割合を８ポイント以上上回っています。

【選択肢「その他」の自由記載内容】

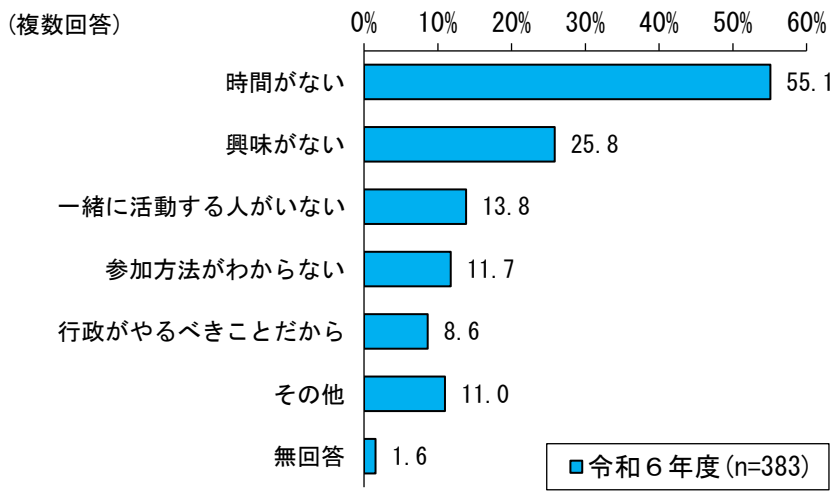
- デジタル、インターネットではなく直接での意見提案することが望ましい。（女性・60 歳代）
- 目安箱的なところへ意見、要望等を投書する。（50 歳代）
- 仕事が医療職で忙しいので、スマホで参加したい。若い世代の意見を取り入れて欲しい。（40 歳代）
- 市が主催する各種行事の運営委員・実行委員、市の計画や方針を決める審議会や各種委員会等に自由参加。公聴会形式をつくる。（男性・70 歳以上）
- 気軽に楽しく参加できそうな企画。（女性・60 歳代）
- 市議会議員選挙（女性・50 歳代）
- 納税（女性・50 歳代）
- 具体的な案件よる。（男性・40 歳代）
- 必要性を感じた時には意見を言いたい（男性・50 歳代）
- 自分のできる範囲での活動があれば市政に関わりたい。（女性・60 歳代）
- 第三次市スポーツ推進計画…委員に応募中（結果まだ来てない）→遅い。（男性・60 歳代）
- 現在は参加していないが審議会、各種委員会は参加していた。（女性・70 歳以上）
- 今は仕事しているので無理。（性別無回答・年齢無回答）　※ほか１件
- 以前はボランティア参加できたが今はなかなか高齢のためできなくなった。（女性・70 歳以上）
- 分からない。（女性・29 歳以下）

問 31-1　参加したくない･できない理由

問 31 で「参加したくない・できない」を選択した回答者に対する設問

そう思った主な理由は何ですか。**（○はいくつでも）**

図表 124　参加したくない・できない理由



○全体の傾向

市の行政に参加したくない・できないと回答した人に対して、その理由についてうかがったところ、「時間がない」が 55.1%で最も多く、「興味がない」(25.8%)、「一緒に活動する人がいない」(13.8%)、「参加方法がわからない」(11.7%) が続きます。

図表 125　参加したくない・できない理由【全体、男女別】

	興味がない	時間がない	行政がやるべきことだから	一緒に活動する人がいない	参加方法がわからない	その他	無回答
全体 (n=383)	25.8	**55.1**	8.6	13.8	11.7	11.0	1.6
女性 (n=217)	20.3	**57.6**	5.5	12.4	8.3	13.8	2.3
男性 (n=159)	32.7	**52.2**	11.9	16.4	16.4	7.5	0.6

○男女別の傾向

男女とも「時間がない」が最も多く、「興味がない」が続きます。女性の「時間がない」は

男性を５ポイント上回っているのに対し、男性の「興味がない」「参加方法がわからない」「行政がやるべきことだから」は女性を６ポイント以上上回っています。

図表 126　参加したくない・できない理由【全体、年代別】

	興味がない	時間がない	行政がやるべきことだから	一緒に活動する人がいない	参加方法がわからない	その他	無回答
全　　体（n=383）	25.8	**55.1**	8.6	13.8	11.7	11.0	1.6
16～29 歳（n=39）	33.3	**76.9**	5.1	15.4	2.6	2.6	－
30～39 歳（n=53）	28.3	**81.1**	3.8	13.2	11.3	1.9	－
40～49 歳（n=69）	14.5	**69.6**	10.1	**15.9**	10.1	4.3	－
50～59 歳（n=78）	32.1	**57.7**	6.4	14.1	6.4	11.5	1.3
60～69 歳（n=43）	32.6	**55.8**	11.6	11.6	11.6	4.7	2.3
70 歳以上（n=97）	20.6	20.6	10.3	13.4	**21.6**	**26.8**	4.1

○年代別の傾向

29 歳以下から 60 歳代にかけて「時間がない」が最も多く、40 歳代を除く各年代で「興味がない」が、40 歳代では「一緒に活動する人がいない」が続きます。

図表 127　参加したくない・できない理由【全体、地区別】

	興味がない	時間がない	行政がやるべきことだから	一緒に活動する人がいない	参加方法がわからない	その他	無回答
全　体（n=383）	25.8	**55.1**	8.6	13.8	11.7	11.0	1.6
矢野口（n=89）	20.2	**62.9**	9.0	**22.5**	10.1	7.9	2.2
東長沼（n=57）	21.1	**50.9**	8.8	7.0	10.5	14.0	5.3
大　丸（n=44）	36.4	**40.9**	11.4	9.1	15.9	11.4	－
百　村（n=21）	28.6	**66.7**	4.8	4.8	4.8	14.3	－
坂　浜（n=12）	－	50.0	16.7	16.7	16.7	16.7	－
平　尾（n=41）	24.4	**51.2**	9.8	4.9	9.8	14.6	2.4
押　立（n=19）	42.1	57.9	5.3	15.8	5.3	15.8	－
向陽台（n=35）	11.4	**57.1**	8.6	11.4	**20.0**	8.6	－
長　峰（n=13）	15.4	61.5	－	7.7	15.4	23.1	－
若葉台（n=48）	43.8	**56.3**	4.2	25.0	12.5	4.2	－

○地区別の傾向

各地区とも「時間がない」が最も多く、矢野口と向陽台を除く各地区では「興味がない」が、矢野口では「一緒に活動する人がいない」が、向陽台では「参加方法がわからない」が続きます。

このほか、若葉台では「一緒に活動する人がいない」が 25.0%であり、矢野口とともに他の地区を５ポイント以上上回っています。

【選択肢「その他」の自由記載内容】

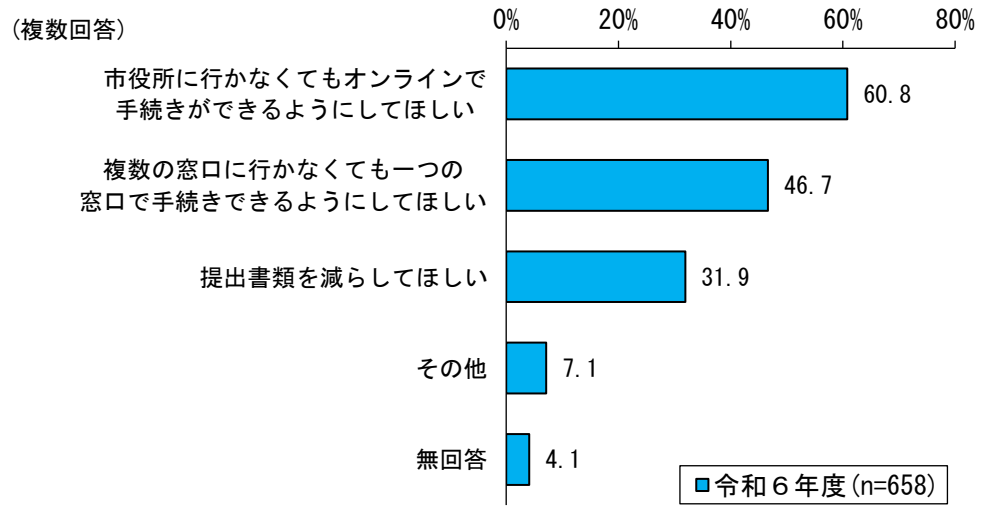
- 高齢のため。（女性・70 歳以上）　※ほか７件
- 歩行困難（女性・70 歳以上）
- １人で行動できないから。（女性・70 歳以上）　※ほか１件
- 体力がない。（男性・40 歳代）　※ほか５件
- 身体がついていかない。（女性・70 歳以上）
- 心身的に無理（女性・40 歳代）
- 現在余命数ヶ月の病だから。（女性・70 歳以上）
- 体調不良。（男性・50 歳代）　※ほか１件
- 病気（女性・70 歳以上）
- 外出が困難。（女性・70 歳以上）
- 仕事（女性・70 歳以上）　※ほか１件
- 人間関係。（男性・50 歳代）
- いじめがありそうで怖い。（女性・50 歳代）
- 定期参加は難しいから（男性・40 歳代）
- 自宅の家事が優先（男性・60 歳代）
- 実家の親（遠隔地）の介護（女性・50 歳代）
- 興味はあります（女性・50 歳代）
- インターネットによるアンケート調査など、空き時間を活用できるものであればぜひ参加したい（女性・30 歳代）
- 参加の意義が分からない（女性・29 歳以下）

問 32　市役所の手続きに期待すること

あなたは、市役所の手続きについて、どのようなことを期待していますか。

（○はいくつでも）

図表 128　市役所の手続きに期待すること



○全体の傾向

「市役所に行かなくてもオンラインで手続きができるようにしてほしい」が 60.8%で最も多く、「複数の窓口に行かなくても一つの窓口で手続きできるようにしてほしい」（46.7%）、「提出書類を減らしてほしい」（31.9%）が続きます。

図表 129　市役所の手続きに期待すること【全体、男女別】

	市役所に行かなくてもオンラインで手続きができるようにしてほしい	複数の窓口に行かなくても一つの窓口で手続きできるようにしてほしい	提出書類を減らしてほしい	その他	無回答
全体（n=658）	60.8	46.7	31.9	7.1	4.1
女性（n=350）	59.4	50.0	32.6	7.1	4.3
男性（n=294）	63.9	42.2	31.6	6.8	3.7

○男女別の傾向

男女とも「市役所に行かなくてもオンラインで手続きができるようにしてほしい」が最も多く、「複数の窓口に行かなくても一つの窓口で手続きできるようにしてほしい」が続きます。女性の「複数の窓口に行かなくても一つの窓口で手続きできるようにしてほしい」は男性を７ポイント上回っています。

図表 130　市役所の手続きに期待すること【全体、年代別】

	市役所に行かなくてもオンラインで手続きができるようにしてほしい	複数の窓口に行かなくても一つの窓口で手続きできるようにしてほしい	提出書類を減らしてほしい	その他	無回答
全　　体（n=658）	60.8	46.7	31.9	7.1	4.1
16～29 歳（n=59）	84.7	27.1	27.1	6.8	1.7
30～39 歳（n=78）	87.2	41.0	43.6	3.8	1.3
40～49 歳（n=111）	81.1	39.6	37.8	8.1	－
50～59 歳（n=136）	69.1	41.2	34.6	8.1	2.2
60～69 歳（n=95）	55.8	50.5	30.5	7.4	4.2
70 歳以上（n=171）	25.7	61.4	24.0	7.0	9.9

○年代別の傾向

70 歳以上を除く各年代とも「市役所に行かなくてもオンラインで手続きができるようにしてほしい」が最も多く、40 歳代から 60 歳代では「複数の窓口に行かなくても一つの窓口で手続きできるようにしてほしい」が、30 歳代では「提出書類を減らしてほしい」が続きます。29 歳以下では「複数の窓口に行かなくても一つの窓口で手続きできるようにしてほしい」「提出書類を減らしてほしい」がそれぞれ 27.1％で続きます。

70 歳以上では「複数の窓口に行かなくても一つの窓口で手続きできるようにしてほしい」が最も多く、「市役所に行かなくてもオンラインで手続きができるようにしてほしい」が続きます。

「市役所に行かなくてもオンラインで手続きができるようにしてほしい」はおおむね年代が低いほど割合が多く、29 歳以下から 40 歳代では８割台となっています。

図表 131　市役所の手続きに期待すること【全体、地区別】

	市役所に行かなくてもオンラインで手続きができるようにしてほしい	複数の窓口に行かなくても一つの窓口で手続きできるようにしてほしい	提出書類を減らしてほしい	その他	無回答
全　体（n=658）	60.8	46.7	31.9	7.1	4.1
矢野口（n=140）	62.1	52.9	40.7	7.1	2.1
東長沼（n=95）	57.9	40.0	30.5	10.5	4.2
大　丸（n=73）	61.6	53.4	28.8	6.8	2.7
百　村（n=41）	63.4	36.6	19.5	4.9	9.8
坂　浜（n=21）	42.9	52.4	52.4	－	14.3
平　尾（n=74）	62.2	41.9	32.4	9.5	4.1
押　立（n=30）	43.3	50.0	33.3	3.3	3.3
向陽台（n=67）	61.2	40.3	23.9	7.5	6.0
長　峰（n=23）	65.2	52.2	30.4	4.3	4.3
若葉台（n=85）	71.8	44.7	29.4	5.9	1.2

○地区別の傾向

坂浜と押立を除く各地区では「市役所に行かなくてもオンラインで手続きができるようにしてほしい」が最も多く、「複数の窓口に行かなくても一つの窓口で手続きできるようにしてほしい」が続きます。押立では「複数の窓口に行かなくても一つの窓口で手続きできるようにしてほしい」が最も多く、「市役所に行かなくてもオンラインで手続きができるようにしてほしい」が続きます。坂浜では「複数の窓口に行かなくても一つの窓口で手続きできるようにしてほしい」「提出書類を減らしてほしい」がそれぞれ 52.4%で、ともに多くなっています。

このほか、矢野口では「提出書類を減らしてほしい」が 40.7%であり、坂浜とともに他の地区の割合を７ポイント以上上回っています。

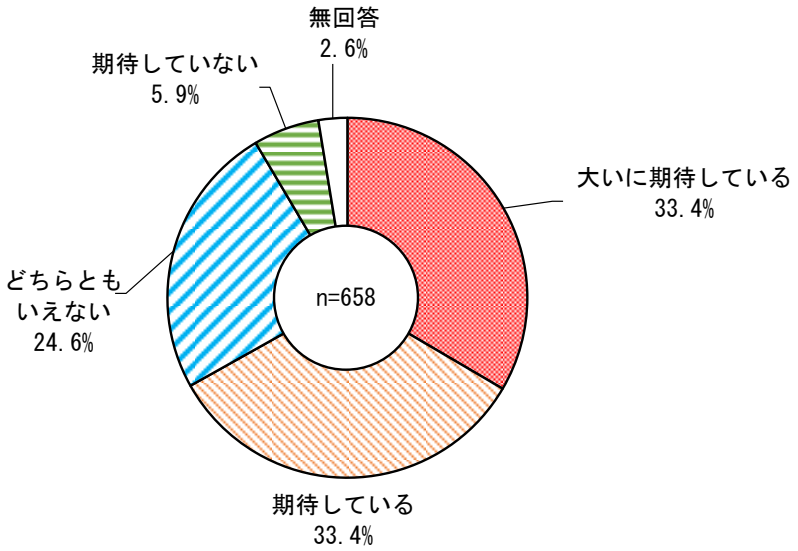
【選択肢「その他」の自由記載内容】

- 各駅の前に出張窓口を設置してほしい。（男性・40 歳代）
- 出張所の窓口で完結できる手続きの幅を広げてほしい。出張所の方のスキルを上げてほしい。（女性・60 歳代）
- 出張所で出来る事を増やしてほしい。（女性・40 歳代）
- 住民基本台帳カードを復活してほしい。（男性・70 歳以上）
- 提出書類の「フリガナ」が「カタカナ」と「ひらがな」がある。（男性・60 歳代）
- 手厚い対応。（女性・29 歳以下）
- 相談しながら記入できると良い（男性・50 歳代）
- どこで何が出来るのか判りやすくしてほしい（女性・50 歳代）
- 丁寧な分かりやすい説明が欲しい。お得な情報も提供してほしい。（女性・60 歳代）
- 分かりやすい手続きにしてほしい。（女性・60 歳代）
- 分かりやすい説明をしてほしい。（女性・50 歳代）
- 職員の知識や理解レベルを向上してほしい。障がい者への差別的な発言をやめてほしい。（女性・29 歳以下）
- 庁舎、公民館にホール（広い場所）で PC を使う。案内する。（男性・70 歳以上）
- 支払いもオンラインで済ませたい。転入出前後の書類などのやり取りもできるようにして。（男性・30 歳代）
- ネットで完結して欲しい。あまりにも時間がなさすぎる。人手不足を予測して属人的な作業は減らした方がいい。（40 歳代）
- 保育園の申し込みをオンライン化出来たらすごく良い（男性・40 歳代）
- 平日以外も可能にしてほしい。（男性・29 歳以下）　※ほか３件
- 窓口営業時間の拡長（男性・29 歳以下）
- 出張所の窓口が週１回夜まで開いているとかのサービスがあると助かる。（女性・50 歳代）
- ２週に１度でいいので、窓口を 18 時まで空ける日を作ってほしい。（女性・40 歳代）
- 障害福祉課の休日使用出来るようにして欲しい（男性・60 歳代）
- 窓口で待たないようにしてほしい。（男性・50 歳代）
- 戻りが遅い。（男性・70 歳以上）
- 税金の引き落としの手続きの際、①番から⑧番さらに②番へ回された。（男性・70 歳以上）
- たらいまわしが一番つらい。（女性・40 歳代）
- 障がいがある。（女性・50 歳代）
- 平尾出張所ではできないこともたくさんあると思います。とにかく市役所とのアクセスが悪いので。（女性・60 歳代）
- 今のままでよい。（女性・70 歳以上）　※ほか５件
- 分からない。（性別無回答・年齢無回答）　※ほか１件

問 33　行政のデジタル活用への期待度

あなたは、行政のデジタル活用に期待していますか。（○は１つ）

図表 132　行政のデジタル活用への期待度



○全体の傾向

「大いに期待している」「期待している」がそれぞれ 33.4%となっており、両者を合わせた“期待を抱いている”は 66.8%です。

「どちらともいえない」は 24.6%、「期待していない」は 5.9%となっており、両者を合わせた“期待を抱いていない”は 30.5%です。

○男女別の傾向

男女とも“期待を抱いている”が６割台で、“期待を抱いていない”を上回っています。男性の「大いに期待している」は 37.4%であり、女性の割合を６ポイント上回っています。

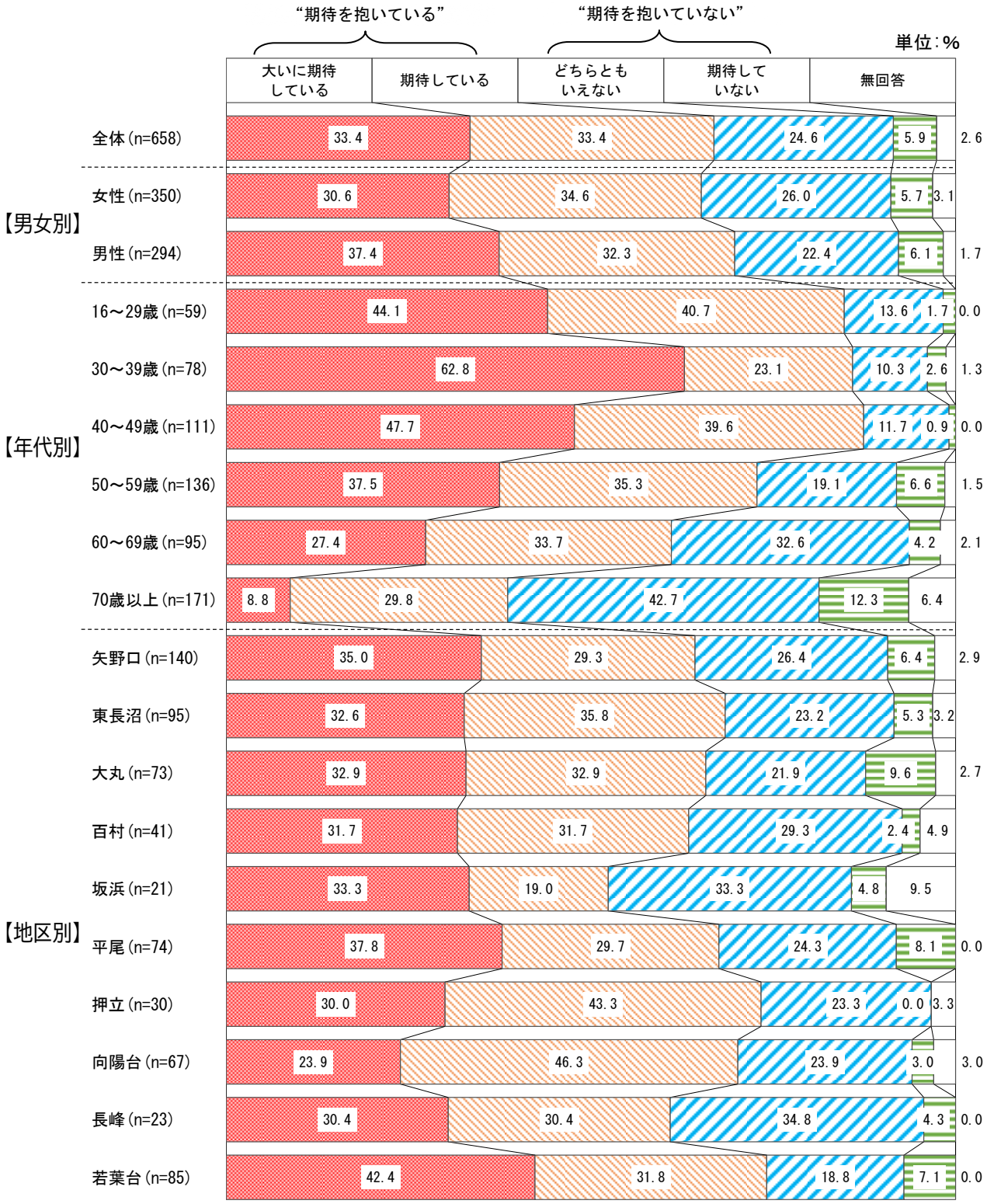
○年代別の傾向

29 歳以下から 60 歳代にかけて“期待を抱いている”が“期待を抱いていない”を上回っており、特に 30 歳代では「大いに期待している」が 62.8%となっています。一方、70 歳以上では“期待を抱いていない”が 55.0%となっています。

○地区別の傾向

各地区とも“期待を抱いている”が“期待を抱いていない”を上回っており、特に若葉台・押立・向陽台では“期待を抱いている”が７割強となっています。

図表 133　行政のデジタル活用への期待度【全体、男女別、年代別、地区別】



４　自由意見

市政に関する意見、提案、感想等について意見を求めたところ、回答者のうち 49 人から意見をいただきました。

ここでは、主な意見を紹介します。

※　原則として回答者が記入したとおりの表現のまま掲載しています。

※　一人の回答者が複数の内容にわたる意見を掲載している場合は、原文の趣旨がそこなわれないように回答をわけ、掲載しています。

主な意見

（１）保健・医療・福祉について

番号	意見の内容
1	市としては、育児・介護の施設やサービスの充実を期待したい。
2	児童手当が主人の口座にしか払えないと言われたが、主人が使ってしまうので配偶者口座でもよくしてほしい。
3	市政に向けて、働く現役世代はもちろんだが、在宅の年寄りへの問題にも取り組んでほしい。ｉバスの充実。健康体操の充実などを望む。また、デジタル化としてスマートフォンはどんどん売るがその後の操作の対応がなされていない。初期動作だけでなく「なんでも相談」の回数を増やしてもらうと嬉しい。マイナンバー登録サポートはとても助かった。対応する方も親切に教えてくださり気持ちが良かった。
4	生活福祉課のケースワーカーの家庭訪問に不満を持っている。
5	市立病院の緊急医療って使えないんですけど。

（２）教育・文化について

番号	意見の内容
1	小中学校の給食無償化に早く取り組むべき。
2	男女平等より学校の給食費、無償化にしてほしい。稲城市は他の区市より遅い。特に教育面。

（３）商工業・観光・農林業について

番号	意見の内容
1	駅周りの店舗の充実。アメリア：ほぼアメリア内の商品で生活している。
2	商業（店）は大切。様々に行政でも支援しても良い。
3	よみうりランド以外に若い人が集まれる場所がなく、もう少し集客を期待できる施設があれば街自体の若返りも計れると思う。
4	南山に有名な企業を誘致し活気を。

（４）都市基盤・生活環境・防災・防犯について

番号	意見の内容
1	バスなど交通面での市としてのサポートは考えないか？
2	小田急バスの減便（平尾地区）にともない、平尾から市役所、病院に行く交通がより不便になった。高齢者は大変だと思う。ｉバスの本数を増やす、ルートをもっと増やすなどしてほしい。

番号	意見の内容
3	バスの本数が大幅に減ってしまい不便を感じている。特に終バスが早くなってしまい、バスに乗れなかった若い女性が１人で歩いているのを見かけると怖いと感じる。バスを増やしてほしい。それ以外はおおむね良いと思っています。
4	市役所への交通の便が悪い。ｉバス、路線バスどちらも直通でない（百村、長峰方面から）。足が弱くなってきてからは乗り継ぎ、駅から歩くのが大変である。友人がそうなり、自分もいつかと思っている。
5	稲城市はとても美しく、素晴らしいところだと常々思っており、市はとてもよくやってくれていると思っています。今はバスが減ってしまったことが何より不便で、６時台に出る仕事（休日）、７時はタクシーを呼ばなくてはならないことが多く不便です。何か対策があったらいいなと思います。
6	特にないけど、車がないと本当に大変なまちであると思います。
7	道路が狭いので早く都市計画をしていただきたいです。
8	稲城市は水と緑が豊かであることが魅力ですみ続けたいと感じている。大丸では最近相続等で土地を手放し建売が建つことが急速に進んでおり、仕方がない事とはいえ残念に感じている。住みたいと感じる理由が少しずつ薄れている。坂浜の昔からの風景も好きである。昔からの風景を活かしたまちづくりをしてほしい。
9	平尾は稲城市の中心部から離れているため、役所や公民館が遠く不便を感じることが多いです。また生活道路も狭いです。新しい場所だけでなく昔からある土地にもきちんと力を入れてほしいです。
10	①南多摩駅周辺の再開発内容を具体的に示してほしい ②南多摩駅周辺の駐輪場が駅から離れすぎ。近い場所の高架下にさらに作ってほしい
11	・稲城長沼の駅前の再開発を進めていただきたい。駅周辺は住居ではなく商業施設を充実させてほしい。府中のように古い商店街は商業施設に巻き取りウィンウィンの関係にできれば理想的かなと思う。空き地の宅地造成が進んでいる点は期待が持てる。 ・坂が多いので車がない人は市内の行き来も大変であり、永住するのを考えてしまう土地柄だとは思う。
12	「住みたい街稲城」と声が上がるよう、「花と緑」福祉、特急が止まる駅を実現させよう。
13	税金の使い方を再考してほしい。開発計画など第１期～各地域平等ではないとならない。
14	街並み・景観の維持や道路網の整備等、大変よく対応いただけているものと思います。また、街路樹の整備も近隣住民の声も適宜聴きながら対応していただき、感謝しております。
15	市の草刈りの頻度も増やしてほしいです（特に夏場）。
16	子どもの交通事故について不安はあるものの、治安が良いと感じており、すみ続けたい理由の一つである。医療、防災、防犯に力を入れてほしい。
17	夕方鳴るチャイムを元の夕焼け小焼けに戻してほしい。今の曲には全く親しみがない。多数の人が同意見です。
18	ゴミ回収について、小さなことですが他市町村と比較してゴミ袋の費用が高いことには不満があります。また、他市町村と比較して燃えないゴミの回収についても頻度が少なく困ることが往々にしてあります。コストとの兼ね合いはあるかと思いますが、相場も意識した運営をお願いできれば納得感は高まると思います。

（５）市民参加・市政運営等について

番号	意見の内容
1	市政にはもっともっと色々な方の意見を聞いてほしい。古い体質が残っており、トップの考え方が市政を左右しているように見える。男女平等はもちろんだが立場を超えた思想が生かせるまちであってほしい。

番号	意見の内容
2	市役所の女子トイレの和式トイレをなくしてほしい。きれいにリフォームしてほしい。
3	稲城市役所の職員をもっと増やして、行政サービスの拡充を図る事を期待しています。
4	専門的な仕事（栄養士や司書等含む）の市が雇用している人の待遇をよくするべき。
5	行政の職員が上記の施策についてどの程度、真剣に取り組んでいるか、稲城市民にしっかり伝わる施策が大事。それが伝わらなければ市民の賛同は得られないと思う。
6	市の HP が見にくいので、他市の物なども参考にして、もっと見やすく使いやすいものにしてほしい。
7	色々とオンライン化を進めていただきたいです。
8	毎回市の人口の増減を知ることを楽しみにしていました。広報いなぎからその欄はなくなってしまわれましたか？最近見ないもので、切に人口の増減表の復活を願います。
9	市役所の休日開庁も大変とは思いますが、会社勤めの者として大変助かっております。
10	職場では考えるが、市政、市の取り組みはあまり内容まで知らなかった。
11	現在、自治会は全国で減少傾向にある。自治会入会者にのみ甘えるのではなく、必要の是非を市民にアンケートする必要があるのでは。実施してほしい。
12	20 数年前に稲城に引っ越してきた当時は若い人も多く、これからどんどん進化する市だと期待していた。しかし、現実は田舎臭さだけ残る中高年の街にどんどん向かっている。行政においてはのんびりしていてやり手の役人が現れない地域だと失望している。市は若い人をもっと活用して時代遅れのシステムをどんどん改善してほしい。

❖資料編❖

市民意識調査・男女共同参画に関する実態調査

市民の皆様には、日頃から市政にご理解・ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

市では市民の皆様の日頃の市政に対する満足度やご意見・ご要望をお聞きし、今後の市政の基礎資料とするため「市民意識調査」を実施いたします。また、「第五次男女共同参画計画」を策定してさらなる男女共同参画施策の推進を図っていくため、「男女共同参画に関する実態調査」を併せて実施いたします。

この調査の対象者は、市内にお住まいの満 16 歳以上の方々で、住民基本台帳から無作為に 2,000 人を選ばせていただきました。調査は無記名で行い、調査結果につきましては統計的な処理をいたします。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、稲城市のよりよい発展のためにご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和6年7月　　稲城市長 髙橋 勝浩

記入上のご注意

1. 宛名のご本人様がご回答ください。
2. この調査は、無記名方式で行い、個々の回答が公表されることはありませんので、率直なご意見をお聞かせください。
3. 生活状況などの回答については、令和6年7月1日現在でお答えください。
4. 設問によっては、一部の方にお答えいただく場合があります。ことわり書きに従ってご回答ください。特にことわり書きがない場合は、すべての方がお答えください。
5. あてはまるものを選ぶ設問では、選択肢の番号に○をつけてください。なお、設問によって、ひとつだけを選ぶもの、あてはまるものすべてを選ぶものなどがあります。
6. 回答が「その他」にあてはまる場合には、その番号を○で囲み、（　　）内にその内容をご記入ください。
7. ご記入いただいた調査票は、**7月31日(水)**までに

   調査票を郵送（郵便ポストへ投函）または**インターネット（回答サイト）に入力**のいずれかにより、ご回答ください。郵送の場合、切手を貼る必要はありません。

   ※インターネット回答サイトについては、次のページをご覧ください。

   ※この調査票・返信用封筒にはお名前、ご住所を記入しないでください。

この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。

1～11 ページに関して：稲城市役所 企画部　秘書広報課
電 話：042－378－2111（内線 522）
12～19 ページに関して：稲城市役所 産業文化スポーツ部　市民協働課
電 話：042－378－2111（内線 272）
（月曜日～金曜日　午前8時 30 分～午後5時）

インターネット回答のご案内

スマートフォン等で右の二次元コードを読み取るか、パソコンから以下のアドレスにアクセスしてください。

（アドレス）
https://ing67.fmq.jp/Q/auto/ja/ing67/s/

スマートフォンの機種や設定により、二次元コードが利用できない場合があります。

※インターネットで回答された方は、この調査票を返送しないでください。
※回答のためのインターネット利用にかかる通信料は、回答される方がご負担ください。
※回答に長時間かかりますとタイムアウトになることがあります。その場合、回答済みの部分についても無効となり、最初からやり直しとなりますのでご注意ください。
※回答の際には、下記のパスワードを入力してください。このパスワードは、回答の重複を避けるためのものであり、回答者個人を特定するものではありません。

《パスワード》XXX-XXX

あなたご自身のことについて

1．あなたの性別をお答えください。（○は1つ）

1．女性	2．男性	3．回答しない

2．あなたの令和6年7月1日現在の年齢をお答えください。（○は1つ）

1．19 歳以下	2．20～29 歳	3．30～39 歳	4．40～49 歳	5．50～59 歳
6．60～69 歳	7．70～79 歳	8．80～89 歳	9．90～99 歳	10．100 歳以上

3．あなたのお住まいの地区をお答えください。（○は1つ）

1．矢野口	2．東長沼	3．大丸	4．百村	5．坂浜
6．平尾	7．押立	8．向陽台	9．長峰	10．若葉台

4．あなたは稲城市内に何年間お住まいですか。（○は1つ）

1．1年未満	2．1年～5年未満	3．5年～10年未満
4．10年～20年未満	5．20年以上	6．よくわからない

5．あなたの現在の世帯の構成を選んでください。（○は1つ）

1．1人暮らし	2．夫婦のみ	3．2世代世帯
4．3世代以上世帯	5．その他（　　）	

6. あなたご自身も含めて、同居のご家族に高齢者やお子さん、障害者がいますか。
（○はいくつでも）

1．65 歳以上高齢者	2．子ども
3．障害者（年齢・障害の種別問わず）	4．高齢者・子ども・障害者はいない

7.【お子さんがいる方にお聞きします】
あなたのお子さんの年齢は、次のどれに当たりますか。現在お子さんと同居している・していないにかかわらずお答えください。また、お子さんが複数いる場合は、全員についてご回答ください。（○はいくつでも）

1．0～3歳	2．4歳～未就学児	3．小学生
4．中学生	5．義務教育終了後の18歳未満	6．18歳以上

8. あなたのご職業をお答えください。（○は1つ）

1．農・林・漁業（家族従事者を含む）	2．自営業（商店経営等）
3．自由業（開業医・弁護士・司法書士等）	4．常勤の勤め（会社員・公務員等）
5．パート・派遣・アルバイト等	6．学生
7．家事専業（主婦・主夫）	8．無職
9．その他（　　）	

8-1.【8で選択肢1～5を選んだ方にお聞きします】
あなたの仕事場についてお答えください。（○は1つ）

1．稲城市内	2．稲城市外

9. あなたは結婚していますか。（○は1つ）

1．している	2．していないが事実上の婚姻関係にある
3．していた（離婚・離別・死別など）	4．していない（未婚）

9-1.【9で「している」「していないが事実上の婚姻関係にある」を選んだ方にお聞きします】
あなたの世帯は次のどれに当たりますか。（○は1つ）

1．共働き（ともにフルタイム）	2．共働き（どちらか、またはともにパートタイム）
3．夫（男性パートナー）だけ仕事を持っている	4．妻（女性パートナー）だけ仕事を持っている
5．夫婦とも無職	6．その他（　　）

稲城市の暮らしやすさについて

（1）稲城市の暮らしやすさの満足度

問1. あなたは稲城市を住みやすいところだと思いますか。（○は1つ）

1．住みやすい	2．どちらかといえば住みやすい
3．どちらかといえば住みにくい	4．住みにくい

問2. あなたは稲城市に住み続けたいと思いますか。（○は1つ）

1．ずっと住み続けたい	2．当分は住み続けたい	3．近いうちに転出する予定
4．転出したい	5．わからない	

問2-1.【問2で「ずっと住み続けたい」「当分は住み続けたい」を選んだ方にお聞きします】
住み続けたい理由について、当てはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

1．自然環境が良い（緑や用水・農地など）	2．道路やまちなみなど生活環境が整っている
3．通勤や通学が便利	4．働く場所がある
5．教育・文化環境が良い	6．買い物など生活が便利
7．医療・福祉が充実している	8．地域の人間関係が良い
9．まちに魅力やにぎわいがある	10．その他（　　）
11．特に理由はない	

問2-2.【問2で「近いうちに転出する予定」「転出したい」を選んだ方にお聞きします】
転出したい理由について、当てはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

1．自然環境が悪い	2．道路やまちなみなど生活環境が整っていない
3．通勤や通学が不便	4．働く場所がない
5．教育・文化環境が悪い	6．買い物など生活が不便
7．医療・福祉が充実していない	8．地域の人間関係が悪い
9．まちに魅力やにぎわいがない	10．その他（　　）
11．特に理由はない	

（2）稲城市での暮らしやすさについての満足度

（満足している・やや満足している・やや不満である・不満である・わからないの5段階回答）

問3. 保健・医療・福祉の施策やサービスに関する下のア～キの項目について、あなたは満足していますか。**（ア～キの各行ごとに、当てはまるものに○を１つずつ）**

	満足している	やや満足している	やや不満である	不満である	わからない
(ア) 乳幼児の健康診査・予防接種、妊婦健診など母子保健サービス	1	2	3	4	5
(イ) 成人の健康診査・保健指導など成人保健サービス	1	2	3	4	5
(ウ) 病院や診療所など医療サービス	1	2	3	4	5
(エ) 休日急病診療や救急医療など医療体制	1	2	3	4	5
(オ) 在宅介護支援など高齢者福祉	1	2	3	4	5
(カ) 保育園や学童保育など子育て支援	1	2	3	4	5
(キ) 障害者に対するサービス提供や生活相談など障害者福祉	1	2	3	4	5

問 4. 教育・文化の施策やサービスに関する下のア～カの項目について、あなたは満足していますか。**（ア～カの各行ごとに、当てはまるものに○を１つずつ）**

	満足している	やや満足している	やや不満である	不満である	わからない
(ア) 幼稚園、小学校、中学校などの教育	1	2	3	4	5
(イ) 公民館や図書館での各種の講座や教室など生涯学習事業	1	2	3	4	5
(ウ) 市民文化祭や芸術祭など芸術文化事業	1	2	3	4	5
(エ) 体育施設などでのスポーツ・レクリエーション事業	1	2	3	4	5
(オ) 非行防止活動など青少年健全育成事業	1	2	3	4	5
(カ) 公共のスポーツ施設の状況	1	2	3	4	5

問 5. 商工業・観光・農林業の施策に関する下のア～キの項目について、あなたは満足していますか。**（ア～キの各行ごとに、当てはまるものに○を１つずつ）**

	満足している	やや満足している	やや不満である	不満である	わからない
(ア) 日常の買い物の便利さ	1	2	3	4	5
(イ) 市内の商店の数や商品の質や量	1	2	3	4	5
(ウ) 駅周辺や地域の商店などにぎわいや活気	1	2	3	4	5
(エ) 消費生活のトラブルへの相談体制や消費生活情報の提供	1	2	3	4	5
(オ) 地元における雇用の安定と確保	1	2	3	4	5
(カ) 観光資源の活用やＰＲ活動など	1	2	3	4	5
(キ) 農地の保全と活用など	1	2	3	4	5

問 6. 都市基盤・生活環境・防災や防犯の施策に関する下のア～チの項目について、あなたは満足していますか。**（ア～チの各行ごとに、当てはまるものに○を１つずつ）**

	満足している	やや満足している	やや不満である	不満である	わからない
(ア) 日常の交通の便利さ	1	2	3	4	5
(イ) 駅周辺の利便性・快適性	1	2	3	4	5
(ウ) 鉄道・バスの運行本数などの利便性	1	2	3	4	5
(エ) 身近な生活道路の整備	1	2	3	4	5
(オ) 幹線道路の整備	1	2	3	4	5
(カ) 道路交通の安全性	1	2	3	4	5
(キ) 安全で安心して暮らすための防犯対策	1	2	3	4	5
(ク) 夜道を歩くときの安全・安心	1	2	3	4	5
(ケ) 自然の豊かさ	1	2	3	4	5
(コ) 公園・緑地の整備状況	1	2	3	4	5
(サ) まちなみのゆとりやまちの美観	1	2	3	4	5
(シ) ごみの収集状況	1	2	3	4	5
(ス) ごみの減量・リサイクルの推進などの取り組み	1	2	3	4	5
(セ) 不法投棄やポイ捨て防止など環境美化対策	1	2	3	4	5
(ソ) 路上等喫煙の制限に関する啓発活動などの取り組み	1	2	3	4	5
(タ) 地震、風水害など自然災害に対する防災対策	1	2	3	4	5
(チ) 消防や救急体制	1	2	3	4	5

問 7. 市民参加や市政運営の施策に関する下のア～ウの項目について、あなたは満足していますか。**（ア～ウの各行ごとに、当てはまるものに○を１つずつ）**

	満足している	やや満足している	やや不満である	不満である	わからない
(ア) 男女共同参画社会へ向けた啓発事業や相談体制	1	2	3	4	5
(イ) 広報いなぎやホームページなど行政情報の提供	1	2	3	4	5
(ウ) 「市政への提案」やタウンミーティングなど行政に対して意見を寄せる仕組み	1	2	3	4	5

稲城市のまちづくりの方向について

問 8. 市の将来像として、あなたのイメージに最も近いものはどれですか。**（○は３つまで）**

1．水と緑の豊かな田園都市	2．教育・文化に力を入れた都市
3．健康・福祉に力を入れた都市	4．職場と住居が近接した活力ある都市
5．道路や公園など生活環境が充実した都市	6．商業の盛んなにぎわいのある都市
7．地域のふれあいのある都市	8．その他 （　　）

問 9. 稲城市はどのような都市をめざして、まちづくりを進めるべきだと思いますか。(○は３つまで)

1．育ち・学びを通じてだれもが輝けるまち	2．だれもが地域で健やかに暮らせるまち
3．水と緑につつまれ活力あふれる賑わいのまち	4．安全でだれもが安心して快適に暮らせるまち
5．みんなでつくる持続可能な市民のまち	6．その他（　　）
7．わからない	

今後の施策等について

（１）健康・医療・福祉について

問 10. 健康・医療・福祉の分野について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。(○は３つまで)

1．健康づくりや疾病予防など保健活動の充実
2．介護など高齢者福祉の充実
3．子育て支援など児童福祉の充実
4．ボランティア育成など地域福祉の充実
5．救急医療も含めた医療サービスの充実
6．障害者に対する福祉の充実
7．ひとり親家庭に対する福祉の充実
8．生活困窮家庭に対する援護の充実
9．その他（　　）
10．わからない

問 11. あなたは心身ともに健康だと思いますか。(○は１つ)

1．そう思う	2．ややそう思う
3．あまりそう思わない	4．そう思わない

問 12. 高齢者福祉について、今後、どのような施策やサービスに力を入れたほうがよいと思いますか。(○は３つまで)

1．介護保険で受けられる在宅サービスの充実
2．寝たきり予防など介護予防活動の充実
3．生きがいづくりや社会参加活動の充実
4．地域包括支援センターなどの機能強化
5．介護施設や認知症グループホーム等の充実
6．介護する家庭への支援活動の充実
7．地域で高齢者を支える体制づくりの充実
8．子どもや若い世代との交流の促進
9．その他（　　）
10．わからない

問 13. あなたは稲城市が障害者にとって暮らしやすいまちだと思いますか。(○は１つ)

1．そう思う	2．ややそう思う
3．あまりそう思わない	4．そう思わない

問 14. あなたは「成年後見制度」を知っていますか。(○は１つ)

1．知っている	2．少し知っている
3．聞いたことはあるが、内容はよく知らない	4．全く知らない

問 15. あなたは、市役所に「福祉くらしの総合窓口」があることを知っていますか。(○は１つ)

1．知っている	2．少し知っている
3．聞いたことはあるが、内容はよく知らない	4．全く知らない

問 16. 子育て支援について、今後、どのような施策やサービスに力を入れたほうがよいと思いますか。(○は３つまで)

1．あそびの広場など子育て支援拠点の整備・充実
2．子育ての悩みや児童虐待防止のための相談窓口の充実
3．子どもを遊ばせる場所や機会の提供
4．学童保育や子育てサークルなど地域における子育て支援策の充実
5．保育所の整備など保育サービスの充実
6．子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化
7．その他（　　）
8．わからない

（２）教育・文化について

問 17. 学校教育について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。
(○は３つまで)

1．子どもの学力向上	2．国際理解教育の充実
3．いじめ、不登校対策の充実	4．部活動の充実
5．家庭、地域との連携の強化	6．特別支援教育の充実
7．少人数学級の実現	8．道徳教育の充実
9．体育、運動の充実	10．開かれた教育現場の充実
11．学校施設、設備の充実	12．その他
13．わからない	（　　）

問 18. 生涯学習（文化・スポーツ事業）について、今後、どのような施策やサービスに力を入れたほうがよいと思いますか。（○は３つまで）

1．公民館事業の充実	2．ｉプラザ事業の充実
3．体育施設などでの事業の充実	4．文化・体育施設の利用機会（日数、時間など）の充実
5．文化財の保護	6．体育施設の整備
7．いなぎＩＣカレッジ事業の充実	8．図書館事業の充実
9．文化・スポーツ事業の情報提供の充実	10．文化・スポーツ事業に関するボランティア養成講座の充実
11．文化・生涯学習施設の整備	12．その他
13．わからない	（　　）

問 19. あなたは週に１回以上運動（スポーツ）を行っていますか。（○は１つ）

※スポーツとは、競技スポーツやレクリエーション活動だけでなく、健康づくりのためのウォーキング、気分転換の散歩・軽い運動等の野外活動や介護予防のためのトレーニング等目的を持って行う身体活動のすべてのことです。

1．行っている	2．おおむね行っている
3．行っていない	

問 19-1.【問 19 で「行っていない」を選んだ方にお聞きします】
行っていない理由は何ですか。当てはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

1．運動する場所や施設がない	2．運動する時間がない
3．運動する仲間や指導者がいない	4．運動する必要性を感じない
5．その他（　　）	

（３）商工業・観光・農業について

問 20. 商工業・観光・農業の分野について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。（○は３つまで）

1．企業誘致や商店街の活性化など商業の振興	2．雇用の安定と就業の確保など勤労者施策の推進
3．農地の保全や活用など農業の振興	4．中小企業への支援など工業の振興
5．観光拠点の形成や観光資源の活用など観光の振興	6．エシカル消費※の普及推進
7．その他（　　）	8．わからない

※人や社会、環境に配慮したものやサービスを選んで消費すること。

（４）都市基盤整備・生活環境・防災や防犯について

問 21. 都市基盤について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。（○は３つまで）

1．きれいなまちなみの整備	2．狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備
3．既存の道路・橋りょう等の維持保全	4．身近な公園や緑地の整備
5．バスなど公共交通の整備	6．駐輪・駐車場施設の整備
7．地域の特色に合わせた建築物の制限・誘導	8．地域間の交通を円滑にする幹線道路の整備
9．治山治水を視野に入れた河川等の整備	10．森林浴やキャンプなどができる公園等の整備
11．大型の商業施設や商店街の整備	12．その他（　　）
13．わからない	

問 22. 生活環境について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。（○は３つまで）

1．環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進	2．騒音や振動などの解消対策
3．不法投棄やポイ捨て防止など環境美化の充実	4．生物多様性の保全に向けた取組みの推進
5．ごみの減量やリサイクルの推進	6．大気や河川水質などの環境調査
7．路上等喫煙の制限に関する啓発活動	8．その他（　　）
9．わからない	

問 23. 防災や防犯などの分野について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。（○は３つまで）

1．火災予防や消防力の強化	2．風水害対策の警戒避難体制の整備
3．交通安全対策の充実	4．消費生活の安全対策
5．防災を目的とした河川等の整備	6．大規模地震対策など防災の強化
7．地域の防犯体制の強化	8．その他（　　）
9．わからない	

（５）市民参加・市政運営について

問 24. あなたのご家族では、ご近所とどの程度のおつきあいをされていますか。（○は１つ）

1．親密なつきあいがある	2．どちらかといえばつきあいがある
3．どちらかといえばつきあいがない	4．ほとんどつきあいがない

問 25. あなたは、地域の団体や組織（自治会、婦人会、老人クラブ、ＰＴＡ、スポーツクラブ、同好会など）に参加したいと考えていますか。（○は１つ）

1．現在参加しており、今後も続けたい	2．現在は参加していないが、今後は参加したい
3．現在参加しているが、今後はやめたい	4．現在参加しておらず、今後も参加したくない

問 26. あなたは稲城市の行政施策にどの程度関心がありますか。(○は１つ)

１．大いに関心がある	２．やや関心がある
３．あまり関心がない	４．まったく関心がない

問 27. あなたは、市民と行政との協働（パートナーシップ）により、まちづくりを進めることについて、どのようにお考えですか。(○は１つ)

１．市民も行政に意見を言うだけではなく、まちづくりを進める主体として自覚を持つ関係が望ましい
２．議会と行政との責任で進めるのが望ましい
３．行政に任せる部分と市民参加で進める部分とを分けて対応することが望ましい
４．その他（　　）

問 28. 市の行政情報を伝える広報メディア（媒体）のうち、あなたが普段利用しているのはどれですか。(○はいくつでも)

１．広報いなぎ	２．市公式ウェブサイト（ホームページ）
３．市公式Ｘ（旧 Twitter）	４．その他（　　）

問 29. 市では、「広報いなぎ」を毎月１日と 15 日に発行し、ポスティングにより全戸配布をしていますが、あなたはどの程度読んでいますか。(○は１つ)

１．よく読んでいる	２．必要なところだけ読む	３．ざっと目を通す
４．ほとんど読まない	５．読んだことがない	

問 29-1.【問 29 で「よく読んでいる」「必要なところだけ読む」「ざっと目を通す」「ほとんど読まない」を選んだ方にお聞きします】
「広報いなぎ」のどのような記事に関心を持って読まれますか。(○は３つまで)

１．環境	２．保険・年金	３．まちづくり
４．子育て・教育	５．高齢福祉	６．イベントなどのお知らせ
７．税金	８．健康・医療	９．障害福祉
10．消防署	11．その他（　　）	

問 29-2.【問 29 で「よく読んでいる」「必要なところだけ読む」「ざっと目を通す」「ほとんど読まない」を選んだ方にお聞きします】
「広報いなぎ」の紙面内容に最も期待することは何ですか。(○は１つ)

１．市や行政機関からのお知らせの充実	２．地域の行事などを紹介する記事の充実
３．写真やイラストなどを増やした親しみやすい紙面	４．現在のままでよい
５．その他（　　）	

問 29-3.【問 29 で「ほとんど読まない」「読んだことがない」を選んだ方にお聞きします】
「広報いなぎ」を見ない理由は何ですか。(○はいくつでも)

１．時間がない	２．自分以外の家族が見ている
３．興味がない	４．必要な情報は市のホームページなどで調べる
５．広報いなぎの存在を知らない	６．その他（　　）

問 30. あなたは、市公式ウェブサイト（ホームページ）をご覧になったことがありますか。(○は１つ)

１．よく見ている	２．たまに見る	３．見たことがない

問 30-1.【問 30 で「よく見ている」「たまに見る」を選んだ方にお聞きします】
市公式ウェブサイト（ホームページ）をご覧になる際の主な媒体は何ですか。(○は１つ)

１．パソコン	２．スマートフォン	３．携帯電話

問 31. あなたはどのようなことで市の行政に参加したいと思いますか。(○は３つまで)

１．市が主催する各種行事の運営委員や実行委員として参加
２．ＮＰＯ（民間非営利団体）やボランティアなどの幅広い活動によって参加
３．インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提案を行うことにより参加
４．市の計画や方針を決める審議会や各種委員会などの委員として参加
５．その他（　　）
６．参加したくない・できない

問 31-1.【問 31 で「参加したくない・できない」を選んだ方にお聞きします】
そう思った主な理由は何ですか。(○はいくつでも)

１．興味がない	２．時間がない	
３．行政がやるべきことだから	４．一緒に活動する人がいない	
５．参加方法がわからない	６．その他（　　）	

問 32. あなたは、市役所の手続きについて、どのようなことを期待していますか。(○はいくつでも)

１．市役所に行かなくてもオンラインで手続きができるようにしてほしい
２．複数の窓口に行かなくても一つの窓口で手続きできるようにしてほしい
３．提出書類を減らしてほしい
４．その他（　　）

問 33. あなたは、行政のデジタル活用に期待していますか。(○は１つ)

１．大いに期待している	２．期待している
３．どちらともいえない	４．期待していない

男女平等意識について

問34. あなたは現在、次のような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。

（ア～ケの各行ごとに、当てはまるものに○を１つずつ）

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない・判断できない
(ア) 家庭生活	1	2	3	4	5	6
(イ) 職場	1	2	3	4	5	6
(ウ) 教育（学校教育・教育を受ける機会も含めて）	1	2	3	4	5	6
(エ) 社会活動（地域活動・ボランティア・PTAなど）	1	2	3	4	5	6
(オ) 余暇生活（楽しむ機会や楽しみ方）	1	2	3	4	5	6
(カ) 政治（の場）	1	2	3	4	5	6
(キ) 法律や制度上	1	2	3	4	5	6
(ク) 社会通念、慣習、しきたりなど	1	2	3	4	5	6
(ケ) 全体として	1	2	3	4	5	6

問 35. あなたが学校における「男女平等」を推進する上で、特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。**（○は３つまで）**

1．出席簿や座席などを男女で分ける習慣をなくすこと
2．学校生活の中で、児童・生徒の男女による役割分担をなくすこと
3．生活指導や進路指導において、男女の別なく能力や個性を生かせるようにすること
4．男女平等・男女共同参画の研修を通じて教師自身の意識を変えていくこと
5．学習や指導の場で、男女平等・男女共同参画の意識を育てていくこと
6．校長・副校長などに女性を積極的に登用すること
7．ＰＴＡなどを通じ、男女平等・男女共同参画への理解と協力を深めること
8．その他（　　）
9．特にない
10．わからない

問36.【現在、仕事をしている方にお聞きします】

あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、男女差があると思いますか。それはどのようなことですか。**（○はいくつでも）**

1．募集、採用時に差がある
2．賃金、昇給に差がある
3．昇進、昇格に差がある
4．女性の仕事は補助的業務や雑務が多い
5．教育訓練や研修の機会に差がある
6．女性を幹部職員に登用しない
7．能力が正当に評価されない
8．女性には結婚退職や出産退職の習慣がある
9．住宅資金の貸付に差がある
10．定年に格差がある
11．時間外労働に差がある
12．その他（　　）
13．特に男女の差はない
14．わからない

問37.【現在、パート・派遣・アルバイト等で働いている方にお聞きします】

あなたが現在の働き方を選んだのは、どのような理由からですか。**（○はいくつでも）**

1．自分の都合の良い日や時間に働きたい
2．自宅の近くで働ける
3．勤務時間・勤務日数が短い
4．仕事が比較的簡単である
5．非課税限度額（年間103万円以下）で働きたかった
6．正社員としては適当な仕事が見つからなかった
7．正社員に比べ、辞めたい時に辞めやすい
8．残業がない
9．その他（　　）

問38. 男女ともに働きやすい社会をつくるためには、どのようなことが重要だと考えていますか。**（○は３つまで）**

1．労働時間の短縮やフレックス制（一定の定められた時間帯の中で、始業時刻と終業時刻の決定を個々の労働者に委ねる制度）を導入する
2．既婚や子育て中の女性が働きやすい職場環境を整備する
3．仕事内容の男女の格差をなくす
4．家事・育児・介護を配偶者（パートナー）や家族で協力して分担する
5．保育施設や保育サービスを充実する
6．ホームヘルパー制度など、介護支援サービスを充実する
7．母性保護規定、育児休業、介護休業、再雇用制度などの制度を充実する
8．パート、アルバイト、派遣などの労働条件を充実する
9．ライフスタイルや働き方に関係なく、社会保障（年金など）や税制を公平にする
10．その他（　　）

問 39. 働く男女が生活も仕事も両立できるよう支援するため「改正育児・介護休業法」が施行されています。「育児・介護休業制度」は男女ともに取得できる制度です。あなたはこの制度を知っていますか。また、利用したことがありますか。

（育児休業、介護休業のそれぞれについて、○は1つずつ）

育児休業・介護休業それぞれについてお答えください。

	はじめて聞いた	知っているが利用したことはない	知っており、利用したことがある	「2」「3」とお答えの方に利用意向はありますか。（○は1つ） 利用したいが利用できない	利用する必要性がない	利用するつもりはない	利用するつもりである	「エ」とお答えの方に利用できない主な理由は何ですか。（○は1つ） その他（　）	経済的に生活が成り立たなくなる	業務評価に影響する	職場で利用しにくい雰囲気がある	自分の仕事が多忙になる
育児休業	3	2	1	エ	ウ	イ	ア	e	d	c	b	a
介護休業	3	2	1	エ	ウ	イ	ア	e	d	c	b	a

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問 40. 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味など）」の優先度について伺います。　**（ア～イの各行ごとに、当てはまるものに○を1つずつ）**

	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域、個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
(ア) 実際の生活	1	2	3	4	5	6	7
(イ) 理想の生活	1	2	3	4	5	6	7

家庭生活について

問 41. 次のような考え方について、あなたの意見にいちばん近いものはどれですか。

（ア～キの各行ごとに、当てはまるものに○を1つずつ）

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない
(ア) 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
(イ) 女性は仕事をもつのはよいが、家事・育児・介護はきちんとすべきである	1	2	3	4	5
(ウ) 男性も家事・育児・介護に積極的に参画した方がよい	1	2	3	4	5
(エ) 女性は経済的に自立する必要はない	1	2	3	4	5
(オ) 結婚は個人の自由だから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
(カ) 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5
(キ) 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	1	2	3	4	5

問 42. あなたの家庭では、以下の家事について、女性と男性のどちらがより多くかかわっていますか。**（ア～キの各行ごとに、当てはまるものに○を1つずつ）**

	女性（妻、母親、祖母、娘など）	男性（夫、父親、祖父、息子など）	女性・男性がほぼ同じように担っている	家庭に一方の性しかいない（単身者など）	その他（ヘルパーなど）	育児や介護の対象がいない
(ア) 食事の準備	1	2	3	4	5	
(イ) 食事の後片付け	1	2	3	4	5	
(ウ) 部屋の掃除	1	2	3	4	5	
(エ) 洗濯	1	2	3	4	5	
(オ) 日常の買い物	1	2	3	4	5	
(カ) 子どもの世話や教育	1	2	3	4	5	6
(キ) 高齢者・病人の介護	1	2	3	4	5	6

問43. 現在、夫婦は同じ名字（姓）を名乗るよう、法律で義務づけられています。あなたは、夫婦の名字についてどのように考えていますか。（○は1つ）

1．夫婦は同じ名字（姓）を名乗るべきで、法律を改める必要はない
2．結婚前の名字（姓）を「通称」として使えるように、法律を改めた方がよい
3．結婚前の名字（姓）を名乗れるように法律を改めた方がよい
4．その他（　　）

男女間の暴力（ＤＶ）や人権について

問44. テレビ・映画・新聞・雑誌・インターネット（SNSなど）・オンラインゲームなどのメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのように考えていますか。（○はいくつでも）

1．社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれる
2．女性のイメージや男性のイメージについてかたよった表現をしている
3．性・暴力表現を望まない人や子どもの目にも触れてしまう
4．児童に対する暴力や性犯罪を助長する
5．女性に対する暴力や性犯罪を助長する
6．女性の性的側面を過度に強調するなど、女性の人権が侵害されている
7．その他（　　）
8．特に問題はない

問 45. あなたの職場や学校などにセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）はありますか。次のようなことを自分自身が受けていたり、見たり聞いたりしたことがありますか。
（○はいくつでも）

1．性的な話をされたり、性的な経験について尋ねられた
2．容姿や服装、年齢、身体的特徴について話題にされた
3．結婚、子どもの有無など私生活に関わることについて必要以上に質問されたり、話題にされた
4．「男のくせに」「女には仕事を任せられない」などと言われた
5．「男の子、女の子」「おじさん、おばさん」といった呼び方をされた
6．週刊誌などのヌード写真をみせられた
7．不必要に身体をさわられた
8．宴会などでお酌やデュエットを強要されたり、席を指定された
9．執拗に交際を求められた
10．立場や地位を利用して、性的な関係を迫られた
11．理不尽な誘いを断ったら、パワーハラスメント（社会的立場を利用した嫌がらせ）を受けた
12．その他（　　）
13．1～12のような行為を受けたり、見たり聞いたことはあるが、詳しく答えたくない
14．1～12のような行為は、受けたことも見たり聞いたりしたこともない

問46.【現在、配偶者やパートナーがいる方、または過去にいた方にお聞きします】
あなたは、次のような行為を配偶者やパートナーから受けたことがありますか。（○はいくつでも）

1．人前で馬鹿にされたり、人格を否定するようなことを言われた
2．行動を監視されたり、制限された
3．交友関係や電話、メールなどをチェックされた
4．大切にしているものを、わざと壊されたり捨てられた
5．生活費を渡してくれなかったり、自由になるお金を制限された
6．理由もわからず無視され続けた
7．見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せられた
8．意に反した性的な行為を強要された
9．避妊に協力してくれない
10．殴るふりをするなどして脅された
11．殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつけられるなどの暴行を受けた
12．首を絞める・刃物を持ち出すなど、命に危険を感じるくらいの暴行を受けた
13．怒鳴り声をあげたり、物（家具など）に当たったりして大きな音を立てた
14．乱暴な言葉遣いをされた
15．別れた配偶者やパートナーから、嫌がらせや、つきまとい、執拗なメールなどのストーカー行為を受けた
16．1～15のような行為を受けたことがあるが、詳しく答えたくない
17．1～15のような行為は、受けたことがない

問 46-1.【問 46 で選択肢 1～16 を選んだ方にお聞きします】
あなたは、誰かに相談しましたか。（○はいくつでも）

1．家族・親族
2．友人・知人
3．同じような経験をした人
4．家庭裁判所、弁護士
5．警察
6．市役所の相談窓口（「いなぎ女性の悩み相談」など）
7．配偶者暴力相談支援センター
8．医師、カウンセラーなど
9．その他（　　）
10．誰にも相談しなかった

問 46-2.【問 46-1 で「誰にも相談しなかった」を選んだ方にお聞きします】
誰にも相談しなかった理由は何ですか。（○はいくつでも）

1．どこ（誰）に相談してよいかわからなかった
2．相談する人がいなかった
3．恥ずかしくて誰にも言えなかった
4．相談しても無駄だと思った
5．相談したことがわかると、仕返しやもっとひどい暴力を受けると思った
6．自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った
7．他人を巻き込みたくなかった
8．子どもに危害が及ぶと思った
9．自分にも悪いところがあると思った
10．相談するほどのことではないと思った
11．その他（　　）

社会参加・地域参加について

問47. あなたは次のようなグループやサークル、団体などの活動に参加したことがありますか。
（○はいくつでも）

1．自治会や町内会、商店会などの地域活動
2．保育園・幼稚園の保護者会、学校のＰＴＡ活動
3．子ども会や青少年スポーツチームなどの活動や世話
4．趣味やスポーツなどの活動
5．地域の仲間同士集まって行う研究会や勉強会
6．環境問題・消費者問題やリサイクルなどの市民活動
7．高齢者や障害のある人の介護などのボランティア活動
8．その他（　　）
9．参加していない

問47-1.【問47で選択肢１～８を選んだ方にお聞きします】
あなたが現在活動されている団体で、次のようなことはありますか。（○はいくつでも）

1．団体の長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある
2．女性が役職に就きたがらない
3．活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある
4．女性の参加が少ない
5．男性の参加が少ない
6．女性が表に出るべきでないという雰囲気がある
7．男性が女性を対等なパートナーとして見ていない
8．女性の意見が聞き入れられない
9．その他（　　）
10．特にない

男女共同参画の推進について

問48. 以下の言葉で、あなたが見たり聞いたりしたことがあるもの、知っているものはどれですか。
（○はいくつでも）

1．男女共同参画社会
2．男女共同参画社会基本法
3．女子差別撤廃条約
4．男女雇用機会均等法
5．女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）
6．ＤＶ防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）
7．ストーカー規制法（ストーカー行為等の規制等に関する法律）
8．困難な問題を抱える女性への支援に関する法律
9．ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）
10．ポジティブ・アクション（積極的改善措置）
11．ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
12．リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）
13．アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）
14．Well being
15．デートＤＶ
16．ＬＧＢＴＱ
17．見たり聞いたりしたものはない

問49. 男女があらゆる分野でもっと平等になるために、重要と思うことは何ですか。（○はいくつでも）

1．女性が自身の経済力を向上させること
2．男性が家事・育児・介護に積極的に関わること
3．「女だから」「男だから」という偏見、固定的な社会通念や慣習・しきたりを改めること
4．子どもの時から男女平等教育を行うこと
5．男女平等・男女共同参画のための様々な法律や制度を整備すること
6．各自治体で男女平等に関する条例を制定すること
7．企業・官庁などで、女性管理職が多く登用されること
8．働きやすくなるように保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実すること
9．労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進めること
10．その他（　　）
11．わからない

男女共同参画を進める市の施策について

問50. 現在、市が行っている以下の事業のうちで、あなたが知っているものはどれですか。
（○はいくつでも）

1．男女平等推進フォーラムいなぎ（旧・女と男のフォーラムいなぎ）
2．男女平等推進セミナー
3．いなぎ女性の悩み相談
4．男女平等に関する情報誌「それいゆ」
5．稲城市男女平等推進センター（地域振興プラザ1階）

問51. 「男女共同参画社会の実現」に向けて、市に特に力を入れてほしい施策は何ですか。
（○は3つまで）

1．男女共同参画を推進するためのセミナーや講座を実施する
2．学校における男女平等・男女共同参画教育を推進する
3．女性や男性の生き方や悩みに関する相談窓口を充実する
4．仕事と家庭生活を両立できるような支援策として保育・介護などのサービスを充実する
5．ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）やセクシュアル・ハラスメントなどの暴力をなくすための取り組みをする
6．女性が政策決定の場に積極的に関わるよう取り組む（女性の管理職を増やす）
7．企業などが男女共同参画の推進に積極的に取り組むように働きかける
8．広報誌やパンフレットなどで、男女平等についてＰＲする
9．その他（　　）
10．特にない

■男女平等や男女共同参画に関して日ごろ感じていることや、稲城市の男女平等施策について望むこと、市政に対するご意見、ご提案、ご感想などありましたら、ご自由にお書きください。

市民意識調査 結果報告書

発　　行：令和７年３月
発 行 者：稲城市
〒206－8601
東京都稲城市東長沼 2111 番地
編　　集：稲城市 企画部 秘書広報課
TEL：042－378－2111（代表）
FAX：042－377－4781
URL　http://www.city.inagi.tokyo.jp/